令和７年度　文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
（専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証）

地域産業のデジタル化を担う中核的人材養成プログラム開発事業

報　告　書

令和８年２月

学校法人　宮崎総合学院　　宮崎情報ビジネス専門学校

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人宮崎総合学院　宮崎情報ビジネス専門学校が実施した令和 7 年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

＜目　次＞

第１　事業の概要 1
１　趣旨・目的 1
２　本教育プログラムが必要な背景について 1
３　計画の全体像 5

第２　実施体制及び実施概要 11
１　事業の実施・推進体制（イメージ） 11
２　構成機関・構成員等 12
３　事業を推進する上で設置する会議 13
４　本年度の実施概要 16

第３　本年度事業の総括 18
１　本年度の取組のポイント 18

第４　理想的な実証講座について 24
１　理想的な実証講座を考えた背景 24
２　理想的な実証講座について 26

第５　来年度以降に向けて 31
１　参加主体ごとの成果・負担の整理 31
２　高校・専門学校を通じたキャリア教育について 33

第６　本年度実施の実証講座 34
１　高等学校における実証講座の概要 34
２　ビジネス基礎・クリエイティブ入門に関する実証講座の実施報告・検証 35
３　システム系・クリエイティブ系に関する実証講座の実施報告・検証 63
４　専門学校における実証講座の概要 132
５　システム系・クリエイティブ系に関する実証講座の実施報告・検証 133

第７　高校教員向け研修会等について 187
１　クリエイティブ系研修会（高等学校教諭対象） 187
２　システム系研修会（高等学校教諭対象） 206

第８　視察研修 222
１　視察研修の目的 222
２　視察研修結果の概要 222

第 9　セミナーについて 274
1　実施概要 274
2　第 1 部　基調講演 275
3　第 2 部　パネルディスカッション 280
4　参加者アンケート結果 285

第 10　KPI（成果指標）について 313
1　KPI について 313

第１　事業の概要

１　趣旨・目的

本事業は、文部科学省委託事業として令和 3 年度を初年度に 6 年計画で着手した「地域産業のデジタル化を担う中核的人材養成プログラム開発事業」で、令和 7 年度は同事業の 5 年目にあたる。

６年計画の本事業では、これからのデジタル社会の進展を見据えた ICT に関する知識や技術、活用方法等について、高等学校から専門学校の各段階において習得すべき項目や内容を、関連する企業の助言も参考に整理し、高等学校から専門学校までの一貫した 5 年間の教育プログラムのモデルを開発する。

高等学校と専門学校、そして ICT 企業の連携は、単に ICT 企業の求める人材の養成にとどまらず、デジタル技術の取り込みに長けた若い世代の人材を広く地元企業に供給し、そこでのデジタルトランスフォーメーション（DX）の進展を後押しし、ひいては地域の活性化や若者定着によるコミュニティ維持にもつながることを期待する。

一方、本事業は、生徒・学生一人ひとりが、高等学校や専門学校においてプログラミングやコンテンツ作成手法等を基礎から段階的に学びながら、さらに学んだことが企業や社会における仕事にどう繋がっていくかを、一連の連携の過程で体験的に触れる機会を提供する。生徒・学生自身が、ICT とその活用に興味を持ち、自らのやりたいことや可能性について早い段階から考えることにも繋がるものと期待する。

２　本教育プログラムが必要な背景について

近年、社会全体の ICT リテラシーを高めることの重要性が広く語られている。僅か 10 年、20 年前には存在しなかったデジタルツールや、e コマース、SNS 等のインターネットを介した多くのサービスが、私たちの日常生活に欠かせないものになっており、今この瞬間にも新しいサービスが続々と生まれている。デジタル化の進展やインターネット普及等によるこうした変化は、国内においてはスマホ社会という言葉に象徴される新しい生活スタイルや行動変化を生み、スマホをゲートウェイとして様々なコミュニティを形成している。スマホは、その本来の情報通信機器としての機能にとどまらず、情報や物品、役務を売買・シェアする場となり、カメラであり翻訳機であり、更に決済支払機能や身分証明機能も具備し、現代社会のあらゆる人々に必須の生活プラットフォームとなっている。

地域経済の縮小が見込まれる中で、ICT を活用することにより、地域企業の商圏の拡大、地理的制約に囚われない働き方やサービスの享受などが可能となり、地域の活性化が図られることが期待される。例えば、ICT の普及で、時間と場所の制約を超えて全国、全世界へと市場が拡大し、マッチングコストの低下により規模の制約を超えて少量多品種生産でも市場が成立するようになり、地方の小規模な企業であっても、あらゆる地域の消費者に対し、その様々なニーズに即した商品・サービスの提供が可能となる。

また ICT の普及により、テレワークなどの場所に囚われない新しい働き方が可能となるとともに、インターネットショッピングや遠隔医療、遠隔教育など地方に居ながら都会と同様のサービスを享受することも可能となる。こうした新しい働き方や新しい暮らし方は、若者が地方に住み続けながら大都市圏の企業に就職したり、大都市圏の人々が現在の仕事を維持しつつ地方に居住したりすることを可能とし、また、地方で様々なサービスを利用する

ことを可能にするなど、地方の定住人口の拡大に貢献することが期待される。(注 1)

デジタル化の進展著しい社会環境下に生まれたデジタルネイティブとも呼ばれる若い世代は、それ以前の世代に比べてデジタル社会への抵抗感が小さく、デジタル社会における様々な技術や新しいサービスを受け入れ、使いこなす順応性の高さを見せている。政府が推進する GIGA スクール構想、小学校からのプログラミング教育、新学習指導要領の導入等の複合的で重層的な取り組みが、若い世代および将来世代のデジタルリテラシーを総体的に高め、ひいては DX 等の技術面、活用面での発展の大きな原動力となり、永続的な社会変革を牽引していくものと期待するものである。(注 2)(注 3)

このような先行き予測のもと、足元では、ICT 即戦力人材の不足が社会全体に顕著であり、また AI やデータサイエンスなど新分野の技術を担う新タイプの ICT 人材・情報処理技術者の不足も、今後ますます深刻化するものと懸念されている。(注 4)

さて、令和 6 年度「宮崎県の学校の現状」によると、令和 6 年 3 月の県内高等学校卒業生は 8,786 人で、このうち半数近い約 48%の 4,229 人が大学・短大等に進学し、約 20%の 1,756 人が専修学校(専門課程及び一般課程)に進学した。

また、就職した生徒は約 25%の 2,234 人で、47 都道府県中では 5 位と、進学せずに就職を選択する生徒の比率は全国的に見て高い。

なお、就職率が高い一方で、県内での就職率は 63.1%で、全国平均の 81.6%と比べて約 19 ポイント低く、全国順位は 45 位である。こうした若い人材の県外流出をくい止めることは、宮崎県にとって大きな課題であり、本事業においても大きく意識するところである。(注 5)

宮崎県では、令和 4 年度から県立高等学校商業の学科改編が実施され、情報系の学習内容を拡充し、AI やデータサイエンスの教育にも力を入れることとした。

初等中等教育段階から体系的に ICT を学ぶ彼ら、彼女らのデジタルネイティブ世代が、宮崎県の産業、地域社会や家庭における ICT 普及と DX 進展の原動力となり、いずれ地域の活性化に大きな役割を果たすようになるであろう。

ICT に関連する職業人材の養成という観点からは、ICT 全般に関する基礎的知識の土台の上に、その時代に即して企業が重要視する先進的知識や応用技能を学べる教育プログラムの開発が鍵となる。そしてそれは、専門教育に要する相応の教育期間を念頭においた、中長期的視野での計画的な人材養成プログラムであることが重要である。

換言すると、初等中等教育における基礎的素養の土台つくりと、企業・社会において必要な専門性や技術応用基盤の明確化、そしてこの二つの間を繋ぎ、基礎から応用へと至る橋渡しと専門性発展を含めた職業実践教育を担う専門学校、これらの連携を支援、助言する役割を担う行政を加え、四者がシームレスに結合した教育プログラム構築コンソーシアムが、ICT 人材の養成においては特に有効と考える。

（注 1）（出典：「令和 4 年版情報通信白書」（総務省）
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/pdf/n2100000.pdf）

（注 2） 新学習指導要領（小学校及び中学校：平成 29 年 3 月告示）総則において、情報活用能力を、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、児童生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとすることが明記された。小学校においては、各教科等の特質に応じて、児童がコンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得するための学習活動や、プログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動を計画的に実施することが明記された。

中学校学習指導要領では、急速な発達を遂げている情報の技術に関しては、小学校におけるプログラミング教育の成果を生かし、発展させるという視点から、従前からの計測・制御に加えて、双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングや、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングも題材として扱うことが考えられるとしている。また、その際，情報セキュリティ等についても充実するとしている。

（出典：「経済産業省委託事業　平成 30 年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT 人材等育成支援のための調査分析事業）―IT 人材需給に関する調査―調査報告書」（みずほ情報総研株式会社）https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf ）

（注 3） IT 人材供給数を増やす方策として、新卒人材の供給力を強化することが挙げられる。 近年、新卒 IT 人材数が増加する傾向にあるが、このトレンドを維持・上昇させていくことも一つの方策である。少子化により新卒者の総数が減少傾向にあることや IT に関する高度な専門教育を行う学部や大学院のキャパシティの限界もあることを踏まえると、新卒 IT 人材数を増加させるトレンドを維持・上昇させることは容易ではないが、学生の時期に IT に関する能力を高める教育機会を増やすことで、IT 人材として活躍する新卒者の割合を高めていくことは可能であると考えられる。ただし、こうした取組においても、 IT 需要の構造変化を踏まえ、将来の IT 需要に対応したスキルや能力を対象とした教育を重点化していくことが重要である。こうした新卒人材が、明示的な IT 人材として活躍しない場合でも、IT の素養や基本的能力を有した人材が様々な産業で活躍することは、産業全体の生産性向上やイノベーションの促進に貢献すると期待される。初等中等教育でのプログラミング教育の実践や高等学校等で情報教育の強化が進められる中、中長期的には、IT に関する能力を持つ若年層が増加することが見込まれる。2020 年からは、小学校でのプログラミングを体験しながらコンピュータに意図した処理を行わせるために必要な“論理的思考力”を身に付けるための学習活動としてのプログラミング教育が、2021 年からは、中学校において、従前からの計測・制御に加え、双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングやネットワークやデータを活用して処理するプログラミング等を含むプログラミング教育が実施される。2030 年には、こうしたプログラミング教育を受けた若手が新卒人材として活躍することが想定され、多くの人材がプログラミング教育を受けた人材であることから、IT 人材供給の質的な向上も期待できる。

（出典：「経済産業省委託事業　平成 30 年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（IT 人材等育成支援のための調査分析事業）―IT 人材需給に関する調査―調査報告書」（みずほ情報総研株式会社）https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf ）

（注 4）　デジタル化の推進には、ICT 人材が不可欠であるが、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の調査結果（2019 年度）によると、IT 人材の量について、「大幅に不足している」又は「やや不足している」という回答の合計は、89.0%にも達している。また、時代によって求められる ICT 人材が異なり、現在では、情報セキュリティなどの高度な ICT スキルやアジャイル開発など新しい分野に対応できる人材が強く求められているが、IPA の調査では、IT 人材の質についても、「大幅に不足している」又は「やや不足している」という回答の合計は、90.5%にも達している。このように、我が国の ICT 人材は、量も質も十分ではないとユーザー企業に認識されている。
（出典：「令和 3 年版情報通信白書」（総務省）
https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf）

（注 5）（出典：令和 6 年度「宮崎県の学校の現状」
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/documents/95988/95988_20250801090730-1.pdf）

3　計画の全体像

(1)　事業の名称

地域産業のデジタル化を担う中核的人材養成プログラム開発事業

(2)　事業の内容

ア　開発する高・専一貫の教育プログラムの全体像

高等学校・専門学校・企業に行政を加えた四者が、各々の役割や特性を踏まえて、段階的、計画的カリキュラムの下でそれぞれ ICT 人材養成の一端を担う。

高等学校は生徒の興味や関心の喚起と基礎的素養の土台づくり、企業は社会において必要とされる専門性やモラルそして技術応用基盤の明確化、専門学校はこの二者の間をつなぎ、基礎から具体的な応用へと至る橋渡しと専門性発展を含めた職業実践教育と体験的学習を担う。

四者は緊密に連携し、生徒・学生がより主体的、意欲的に ICT 技術とその活用を学べるよう、教育の場、教える人材、機器やソフト等のツールの様々な面で、互いに不足を補い、卒業後には生徒・学生がそこで学んだことをその後の人生設計に生かせるよう教育環境を提供する。

カリキュラムを考える上では、基礎から応用へと段階を踏む過程で、5 年程度の長めの教育期間を念頭におき、中長期的スコープで計画的に人材を養成するプログラムとする。高等学校、専門学校のカリキュラム編成においては、「システム系」「クリエイティブ系」「共通」の三つの軸を考える。

「システム系」については、従来からあるプログラミングやセキュリティ、ネットワークインフラ等のシステムエンジニアリングに加えて、DX の中心テーマの一つでもある AI・データサイエンス及びそれらに関連するプログラミング等を学ぶ。

「クリエイティブ系」については、Web 制作及びデザイン、映像制作等をテーマに、その先にある企業での職業実践を意識して、企画から制作までのプロセスを学ぶ。

さらに、「システム系」であれ「クリエイティブ系」であれ、企業・社会で仕事をするに際しての基礎的素養ともいえる好奇心、主体性、創造志向、責任感、コミュニケーション力、チームワークといったビジネス上の資質やスキルを「共通」で学ぶ。

(ア)　高等学校

宮崎県では、令和 4 年度から商業系高等学校の学科改編が実施された。改編後のカリキュラムでは、共通教科において「情報Ⅰ」が採用されるほか（専門教科の情報系科目で代替する場合もある）、商業専門教科においても情報系科目が拡充される。具体的には、ネットワーク活用、ソフトウェア活用やコンテンツ制作等を扱い、更に AI、データサイエンスについても取り組みを始めた。

高等学校においては、これまでハイスペックな PC 等の教育環境もなく、教員もデザインや映像等を教えた経験がほとんどない。これらの不足を、自前で一から準

備することは最善策ではないし現実的でもない。

専門学校や企業との協力連携のもと、現役技術者の講話や企業見学、または高校生に最新ソフトや最前線の技術に触れる機会を提供したり、企業の実際の仕事を模したチーム課題を提起したりすること等で、高校生の興味関心を喚起することが、地域産業のデジタル化を担う中核的人材養成の有効な手立てになると考える。

（イ）　専門学校

従来、専門学校の情報系学科では、二年間の就学期間の中で、卒業後の就職に向けてのビジネススキル習得や専門領域における技能や資格、例えば Excel/Word の MOS 資格、各種情報処理技術者試験に主眼を置いた教育を行ってきた。

クリエイティブ系では Web 制作、動画制作編集やグラフィックデザイン、3D デザイン等々の技能習得と作品制作に、より軸足を置いた教育が主流となっているが、システム系においては今もこうした方針は大きくは変わっていない。

特にシステム系、情報処理技術者を目指す学生には、地道な学習努力が求められる。この分野が好きな学生でないと、例えばプログラミングの学習難易度が上がっていく途中で挫折したり、資格取得を諦めたりする例も少なくない。

また、クリエイティブ系に関しても、創造性と主体性は、この分野が好きな学生とそうでない学生では大きな差がつく。高校の段階で、生徒自身が自らの興味と適性のある分野を自覚できる教育プログラムは、生徒にも専門学校にもメリットが大きい。

専門学校は、高等学校の要請に応じて専門教科授業への協力・支援を行うとともに、基礎から具体的・実践的な応用へと至る橋渡しと、企業インターンシップ経験等を通しての職業実践教育の役割を担う。

（ウ）　企業

一般に専門学校は、学生の就職斡旋等の活動を通じて企業とある程度の繋がりはあるが、商業系高等学校は、情報系分野の就職率自体が割と低いこともあり、システム系、クリエイティブ系ともに企業との繋がりが希薄であった。

企業の思いとしては、専門用語の知識等ある程度の基礎が出来ていて、この分野の仕事に意欲のある人材を安定的に確保することのニーズが高い。

クリエイティブ系企業では、この分野が好きで制作経験もある即戦力人材にニーズがある。

システム系企業では、あらゆる職種をこなせるジェネラリストとして、理系文系を問わず大学卒を採用する。また技術者としての専門性を期待して、情報系・数理系学部卒や大学院卒を採用する。

一方で、高校卒に関しては、意欲・性格重視で、専門性は社内で教育し習得させることができると考えており、専門学校卒には基本情報技術者レベルの専門知識とインターンシップ等での職業経験までを期待する。

本教育プログラムには、一定の基礎的教育を受けた意欲的な若手人材を地元から安定的に確保できる仕組みとして、企業の期待も大きい。高等学校・専門学校に対して企業視点で助言や提言を行うことや、講話や特別授業、最新の業界動向や技術の紹介、

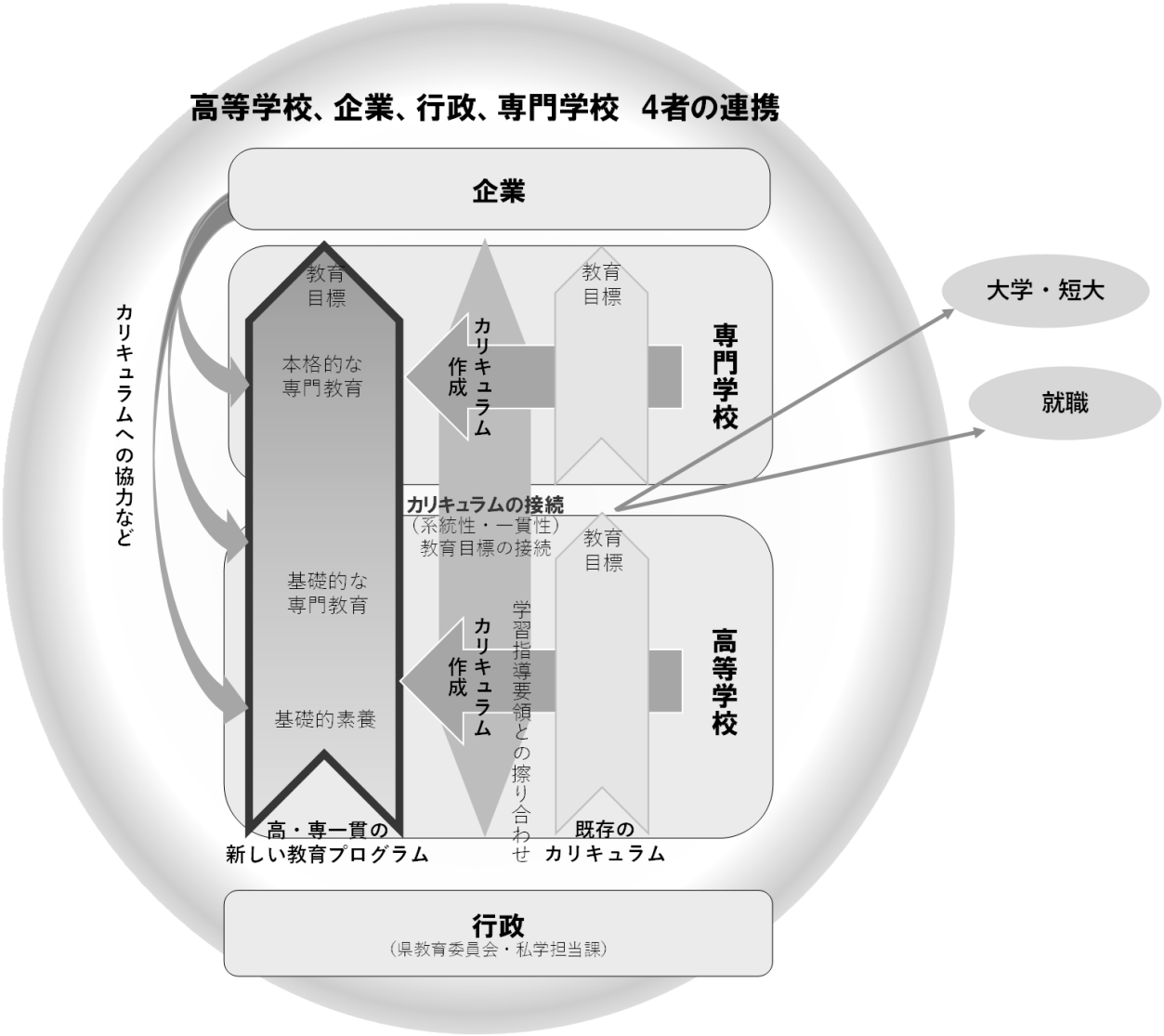
企業見学やインターンシップ受け入れでの実践的教育の提供等の役割を担う。

イ　開発する教育プログラムの新規性

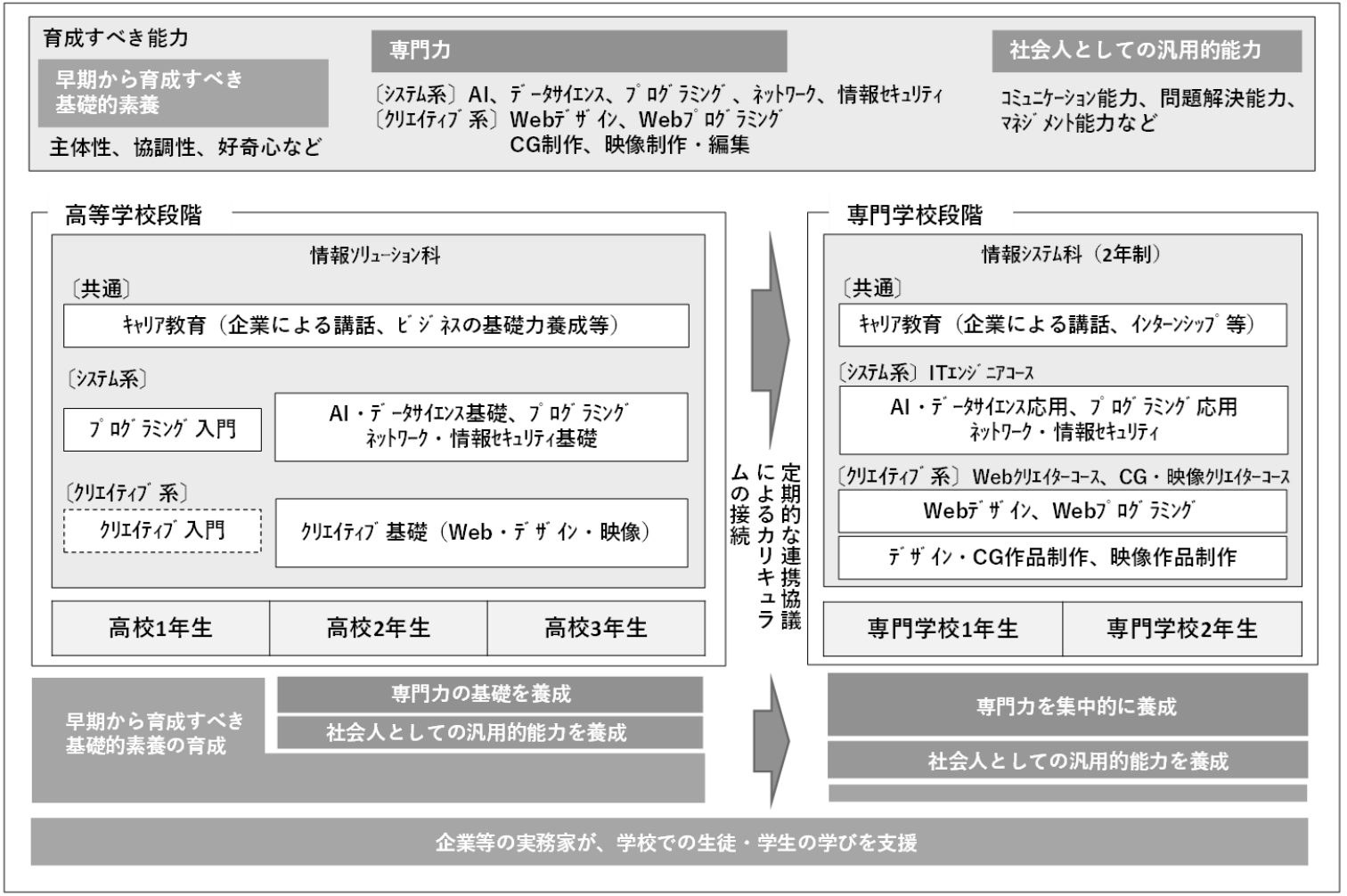
高等学校での 3 年間の教育と専門学校の 2 年間の教育を一貫して行うことで、応用的な専門教育やインターンシップなどを通したビジネススキルの習得をより効果的に実現できる。

高等学校、専門学校は、システム系、クリエイティブ系ともに、令和 4 年度から学習内容を見直し、取り組みを一部強化したが、企業や行政まで含めた関係者が本事業を通して多面的に連携することで、企業・産業界の求める人材を養成する観点でのより充実した教育を期待できる。

コンソーシアムによる事業取組イメージ



高・専一貫の教育プログラムのイメージ



※高等学校の学年によっては対応する科目がない場合もあるが、必要に応じて類似の科目の活用等を検討する。

※高校1年生段階の「ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ入門」については〔共通〕分野でのｷｬﾘｱ教育を含む。また、該当する科目が「情報処理」等の一部分に限られるため破線とした。

システム系　ロードマップ

	進路選択の段階／興味・関心を深める、基礎を固める		専門分野への就職を目指す段階／専門性を深める		実務を通して経験を積む
	高校1年生	高校2年生・3年生	専門学校1年生	専門学校2年生	企業
課題	情報ソリューション科への学科改編に伴い、デジタル人材の育成にさらに力を入れたい。 Python、AI・データサイエンスにも力を入れたいが指導体制が追い付いていない。		学生の学力差にも対応しながら、全体のレベルアップを図らないといけない。 資格試験の合格率のアップ、上位資格への合格を目指さないといけない。 プログラミングに拒否反応をおこす学生も多い。		DX化の推進などで人材（職員）が不足している
	行政としては、県内定着も目指したい。				
キャリア教育	業界や職種のことを知る／仕事に必要な能力を知る／システム系に興味を持つ		業界や職種のことをより深く知る／仕事に必要な能力をより深く知る → 就職活動		
能力や態度	仕事の上では、知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や課題解決力、主体性などが大事なことを知る （仕事の流れでは最初の企画段階が大事なことを知る）		仕事の上では、知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や課題解決力、主体性などが大事なことを知っていて、それらの能力を高める 仕事の流れの最初の企画段階を含めた課題に取り組み、実践力（実務能力）を高める		OJT、外部研修
知識や技術		AI・データサイエンス／プログラミング／ネットワーク・情報セキュリティについて、通常の授業に加えて、体験することで興味や理解を深める	システム系の専門分野（AI・データサイエンス／プログラミング／ネットワーク・情報セキュリティ／クラウド系／DX等）の知識や技術を深める PBL（課題解決型授業）やインターンシップにより実践力（実務能力）を高める（実践や体験を通して、知識の理解も深まる）		新人研修、OJT
共通科目	共通科目（国語・数学・英語） （ベースとなるため、高校時代に身に付けておくべきこと）		→ 専門学校での資格試験対策、就職してからのドキュメントの読み込みや作成などあらゆる場面でのベースとなる		
資格		希望者は、標準的なレベルとしてはITパスポートの資格取得を目指す	知識のベースとして資格取得を目指す ・基本情報技術者（難しければITパスポート）	ステップアップとして応用情報技術者などの資格取得を目指す	独学
本事業の区分	**ビジネス基礎** **プログラミング入門**	**AI・データサイエンス基礎** **プログラミング** **ネットワーク・情報セキュリティ基礎** リンクする科目により実施時期が異なる可能性	**キャリア教育** **AI・データサイエンス応用／プログラミング応用／ネットワーク・情報セキュリティ**		
養成目標	○システム系がどういう仕事か、どんな能力が求められるか理解している ○コミュニケーション力など社会人基礎力等の重要性を理解し、基本的な力を身に付けている ○システム系の基礎的な知識を持っている（要点は体験もしている） 成果：システム系に進みたい生徒が増える（進学・就職含めて） 進学：情報系の大学、専門学校など 就職：システム系企業（プログラマ等） 一般企業（将来的にICTに知識を生かせる）（将来DXを担えるような）		○PBLやインターンシップを通して、実践力、仕事で求められる能力や態度を身に付けている （コミュニケーション力、課題解決力、論理的思考力、経験がない局面での対応力など）（社会人基礎力） ○システム系の専門的な知識や技術を身に付けている（標準として、基本情報技術者レベル） 成果：IT業界で第1希望の会社に就職できる（会社から選んでもらえる） 専門企業：プログラマ・SE／ネットワークエンジニア／セキュリティエンジニアなど 一般企業：システム担当者／ICTに詳しい一般社員 など（DXを担えるような人材）		
実証講座の方針	高校時代にワクワク感（好きの部分）を育んで、専門学校で伸ばしてあげて、地域に送り出す ・興味関心を高める　・若手社員、専門学校生がロールモデル（メンター）となる ・高校の先生で難しい部分（現場のことや体験授業等）を企業、専門学校が協力する ・企業見学　・若手社員によるパネルディスカッション　・企業と専門学校生のコラボ など		・背中を見ながら学ぶような学び（実践を通して、コミュニケーション力などを身に付ける） ・企業の方や先輩がロールモデル（メンター）となる　・企業でのインターンシップ ・高校での実証講座への参加（指導、サポートする立場として）　など		企業に入ってからでも伸ばせる部分もあるので、高校・専門学校・企業での役割分担も意識 （高校の学習指導要領などの制約あり）
実証講座	コース選択のある高校は高1の7月 プログラミング入門については、今のところ実証講座なし 高校の希望もあまりなし	プログラミング(Pythonを使ったファイル操作等) AI・データサイエンス(機械学習やPowerBI等) ネットワーク基礎 【一部、専門学校生も指導・サポートに参加】	**専門学校1年生(4～5月頃)** キャリア教育(動機付け) 例：企業による講話	**専門学校1年生6月～2年生の夏くらい(就職内定が出るまで) インターンシップ(職場体験)** 就職するために必要な知識・技術 就職するための実践力 など 例：インターンシップ(職場体験) 実際の業務を模擬的に体験するワークショップ等	**専門学校2年生 就職内定以降（夏以降くらい）** 企業に入って役に立つ内容 例：Linux講座
	高校生希望者向け実証講座→授業の中での実証講座より、より高度なものなど（終日）				
	教員向け研修会→高校の先生のスキルアップにつながる				

クリエイティブ系　ロードマップ

	進路選択の段階／興味・関心を深める、基礎を固める		専門分野への就職を目指す段階／専門性を深める		実務を通して経験を積む
	高校1年生	高校2年生・3年生	専門学校1年生	専門学校2年生	企業
課題	情報ソリューション科への学科改編に伴い、デジタル人材の育成にさらに力を入れたい。 Adobe Creative Cloudも活用したいが、指導体制が追い付いていない。 特に生徒のクリエイティブ作品をどう評価してよいかわからない。		クリエイティブ系の教育内容にも力を入れたい。 クリエイティブ系の就職先があまりない。専門職として就職できる力がある学生はまだ少ない。		人材不足（若手の希望者減、マーケティングにも強い人材が少ない等）
	行政としては、県内定着も目指したい。				
教育 キャリア	業界や職種のことを知る／仕事に必要な能力を知る／クリエイティブ系に興味を持つ		業界や職種のことをより深く知る／仕事に必要な能力をより深く知る → 就職活動		
能力や態度	仕事の上では、知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や課題解決力、主体性などが大事なことを知る 仕事の流れでは最初の企画段階が大事なことを知る		仕事の上では、知識や技術だけでなく、コミュニケーション力や課題解決力、主体性などが大事なことを知っていて、それらの能力を高める 仕事の流れの最初の企画段階を含めた課題に取り組み、実践力（実務能力）を高める		OJT、外部研修
知識や技術		Webデザイン／デザイン（2D）／映像について、通常の授業に加えて、体験することで興味や理解を深める （ポートフォリオよりもまずは作品を作ってみる）	クリエイティブ系の専門分野（Webデザイン／デザイン【2D・3D】／映像等）の知識や技術を深める PBL（課題解決型授業）やインターンシップにより実践力（実務能力）を高める（実践や体験を通して、知識の理解も深まる）　【自分のプレゼンツールとしてのポートフォリオ】		新人研修、OJT
共通科目	共通科目（国語・数学・英語） （ベースとなるため、高校時代に身に付けておくべきこと）		→ 専門学校での資格試験対策、就職してからのドキュメントの読み込みや作成などあらゆる場面でのベースとなる		
資格		ビジネス系の資格をとっていると進学・就職後に役に立つ （クリエイターでも企画書や書類作成、プレゼンが求められる）	色彩検定、Photoshopクリエイター能力認定試験、Illustratorクリエイター能力認定試験など	Webクリエイター能力認定試験 CGクリエイター検定 など	独学
本事業の区分	**ビジネス基礎** **クリエイティブ入門**	**クリエイティブ基礎（Web／デザイン／映像）**　リンクする科目により実施時期が異なる可能性	**キャリア教育** **Webデザイン、Webプログラミング／デザイン・CG作品制作、映像作品制作**		
養成目標	○クリエイティブ系がどういう仕事か、どんな能力が求められるか理解している ○コミュニケーション力など社会人基礎力等の重要性を理解し、基本的な力を身に付けている ○クリエイティブ系の基礎的な知識を持っている（要点は体験もしている） 成果：クリエイティブ系に進みたい生徒が増える（進学・就職含めて） 進学：専門学校など（クリエイティブの場合、商業高校から大学はあまりない見込み） 就職：一般企業（将来的にクリエイティブの知識を生かせる）（例：Web、広報担当など） （商業高校からクリエイティブの専門職としての就職は厳しい見込み）		○PBLやインターンシップを通して、実践力、仕事で求められる能力や態度を身に付けている （コミュニケーション力、課題解決力、論理的思考力、経験がない局面での対応力など） ○クリエイティブ系の専門的な知識や技術を身に付けている 成果：クリエイティブ業界で自分の就職したい会社に就職できる（会社から選んでもらえる）←県内には、なかなか就職先がない 専門企業：デザイナー、Webデザイナー、カメラマン・映像編集など 一般企業：クリエイティブに詳しい一般社員、クリエイティブのスキルを生かせる一般社員など （Web、広報担当など）		企業に入ってからでも伸ばせる部分もあるので、高校・専門学校・企業での役割分担も意識 （高校の学習指導要領などの制約あり）
実証講座の方針	高校時代にワクワク感（好きの部分）を育んで、専門学校で伸ばしてあげて、地域に送り出す ・興味関心を高める　・若手社員、専門学校生がロールモデル（メンター）となる ・高校の先生で難しい箇所（現場のことや体験授業等）を企業、専門学校が協力する ・企業見学　・若手社員によるパネルディスカッション　・企業と専門学校生のコラボ など		・背中を見ながら学ぶような学び（実践を通して、コミュニケーション力などを身に付ける） ・企業の方や先輩がロールモデル（メンター）となる　・企業でのインターンシップ ・高校での実証講座への参加（指導、サポートする立場として）　など		
実証講座	コース選択のある 高校は高1の7月	デザイン(パンフ表紙、イラストマップ、Illustrator等) 映像(CM作成、スポット紹介動画等) SNSの活用、SNSのデザイン等 【一部、専門学校生も指導・サポートに参加】	**専門学校1年生（4～5月頃）** キャリア教育 (動機付け)	**専門学校1年生6月～2年生の夏くらい（就職内定が出るまで）インターンシップ(職場体験)** 就職するために必要な知識・技術 就職するための実践力　など	**専門学校2年生 就職内定以降（夏以降くらい）** 企業に入って役に立つ内容
	高校生希望者向け実証講座→授業の中での実証講座より、より高度なものなど（終日）		例：クリエイターによる講話	例：インターンシップ(職場体験やジョブシャドーイング) ポートフォリオ講評会／制作キャンプ	
	教員向け研修会→高校の先生のスキルアップにつながる				

第２　実施体制及び実施概要

１　事業の実施・推進体制（イメージ）



2　構成機関・構成員等

（1）　高等学校

名称		役割等	都道府県
1	宮崎県立宮崎商業高等学校	調査・開発・実証	宮崎県
2	宮崎県立都城商業高等学校	調査・開発・実証	宮崎県
3	宮崎県立延岡商業高等学校	調査・開発・実証	宮崎県
4	宮崎県立富島高等学校	調査・開発・実証	宮崎県

（2）　行政機関

名称		役割等	都道府県
1	宮崎県教育委員会高校教育課	支援、助言	宮崎県
2	宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	支援、助言	宮崎県

（3）　専門学校

名称		役割等	都道府県
1	宮崎情報ビジネス専門学校	全体統括 調査・開発・実証	宮崎県

（4）　企業

名称		役割等	都道府県
1	一般社団法人宮崎県情報産業協会 (事務局：株式会社宮崎県ソフトウェアセンター)	調査・開発・実証	宮崎県
2	株式会社ウェブサイト	調査・開発・実証	宮崎県
3	株式会社 MJC	調査・開発・実証	宮崎県
4	スパークジャパン株式会社	調査・開発・実証	宮崎県
5	テレビ宮崎商事株式会社	調査・開発・実証	宮崎県
6	株式会社デンサン	調査・開発・実証	宮崎県
7	株式会社宮崎南印刷	調査・開発・実証	宮崎県

3　事業を推進する上で設置する会議

(1)　会議名①：実施委員会

会議名①	実施委員会		
目的・役割	事業全体の推進、方針決定を行う。		
委員数	19 人	開催回数	3 回

○実施委員会の構成員（委員）

所属・職名	役割等	都道府県
学校法人宮崎総合学院　理事長	委員長	宮崎県
学校法人宮崎総合学院　副理事長	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院　法人本部長	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　校長	調査・開発・実証 副委員長	宮崎県
宮崎県立宮崎商業高等学校　校長	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立都城商業高等学校　校長	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立延岡商業高等学校　校長	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立富島高等学校　校長	調査・開発・実証	宮崎県
一般社団法人宮崎県情報産業協会　会長 株式会社 MJC　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社ウェブサイト　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
スパークジャパン株式会社　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
テレビ宮崎商事株式会社　取締役	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社デンサン　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社宮崎南印刷　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県教育委員会高校教育課　課長	支援・助言	宮崎県
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課　課長	支援・助言	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 大原簿記公務員専門学校　校長	コーディネーター	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ　校長／宮崎こども・医療専門学校　校長	コーディネーター	宮崎県
学校法人宮崎総合学院　企画本部　企画課長	コーディネーター	宮崎県

(2)　会議名②：システム系分科会

会議名②	システム系分科会		
目的・役割	システム系の教育プログラムの検討、開発を行う。		
委員数	16 人	開催回数	4 回

○システム系分科会の構成員（委員）

所属・職名	役割等	都道府県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　校長	委員長	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教務課長	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教務係長	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教員	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立宮崎商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立都城商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立延岡商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立富島高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
一般社団法人宮崎県情報産業協会　専務理事　事務局長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社 MJC　総務部　部長	調査・開発・実証	宮崎県
スパークジャパン株式会社　管理本部　本部長 システム開発部　部長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社デンサン 第一統括本部　統括部長　兼　営業統括部　部長	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県教育委員会高校教育課　主幹	支援・助言	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 大原簿記公務員専門学校　校長	コーディネーター	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ　校長／宮崎こども・医療専門学校　校長	コーディネーター 副委員長	宮崎県
学校法人宮崎総合学院企画本部　企画課長	コーディネーター	宮崎県

(3)　会議名③：クリエイティブ系分科会

会議名③	クリエイティブ系分科会		
目的・役割	クリエイティブ系の教育プログラムの検討、開発を行う。		
委員数	19 人	開催回数	4回

○クリエイティブ系分科会の構成員（委員）

所属・職名	役割等	都道府県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　校長	委員長	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教務係長	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教員	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教員	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教員	調査・開発・実証	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎情報ビジネス専門学校　教員	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立宮崎商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立都城商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立延岡商業高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県立富島高等学校　教諭	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社ウェブサイト　代表取締役社長	調査・開発・実証	宮崎県
スパークジャパン株式会社　営業本部長 Web マーケティングソリューション部　部長	調査・開発・実証	宮崎県
テレビ宮崎商事株式会社　統括部長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社宮崎南印刷　デジタル事業部　課長	調査・開発・実証	宮崎県
株式会社宮崎南印刷　営業部　主任	調査・開発・実証	宮崎県
宮崎県教育委員会高校教育課　指導主事	支援・助言	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 大原簿記公務員専門学校　校長	コーディネーター	宮崎県
学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ　校長／宮崎こども・医療専門学校　校長	コーディネーター 副委員長	宮崎県
学校法人宮崎総合学院　企画本部　企画課長	コーディネーター	宮崎県

4　本年度の実施概要

本年度は実施委員会を 3 回、分科会をシステム系、クリエイティブ系に分かれて各 1 回、合同で 3 回の延べ計 5 回実施した。

実証講座としては、高校生対象の実証講座を 9 回実施した。専門学校生対象の実証講座については、6 回実施した。

なお、高校生の希望者向け実証講座について、8 月の実施を予定していたが、実施を予定していた専門学校の学校行事等の関係で、夏休み・冬休みとも日程の調整がつかず、実施を見送った。

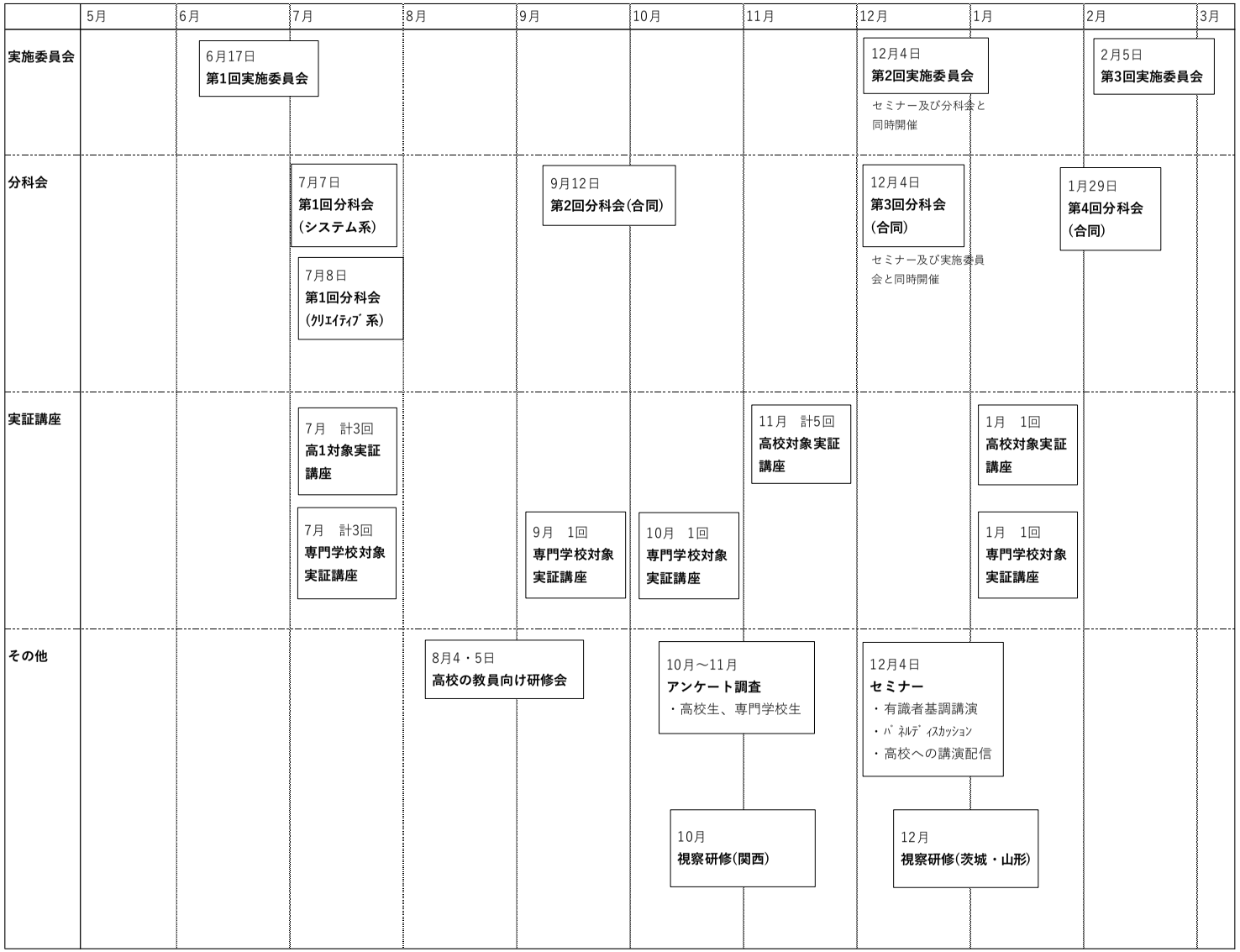
その他の事業内容としては、高校生、専門学校生を対象としたアンケート調査（10 月～11 月）を 1 年目からの継続として行った。（高校生、専門学校生のアンケート結果については、ページ数の関係で別冊とした。）

12 月 4 日にコンソーシアム外の参加者も対象に、「クリエイティブな学びの可能性　―『デザイン』でひろがる未来」をテーマとし、基調講演とパネルディスカッションによるセミナーを開催した。

高校の教員向け研修会については、昨年に引き続き、宮崎県商業教育研究会との連携により、8 月にシステム系、クリエイティブ系それぞれ 2 日間実施した。

その他、企業や地域との連携、AI・データサイエンス教育等に関する視察研修（10 月と 12 月）を行った。

令和7年度の主な事業実施内容　（5月28日 正式事業開始）



第３　本年度事業の総括

１　本年度の取組のポイント

本年度は高校、専門学校における実証講座、高校教員向け研修会、高校生・専門学校生アンケートを継続するとともに、6 年間の事業予定期間の 5 年目ということで、コンソーシアムや事業の継続性を意識した取組を行った。

（1）　本年度の実証講座のポイント

本年度の実証講座のポイントとして、大きくは以下のような点があげられる。

ア　コンソーシアム外の企業等の協力拡大

専門学校における実証講座については、これまでもコンソーシアム外の企業に講師をお願いしていたところはあるが、本年度はさらに協力いただいた企業が拡大した。

専門学校の場合、卒業後の就職に向けて、企業の現場を知るような実証講座についてのニーズが高いため、企業説明会等を通じてつながりがあるような企業等にも実証講座へのご協力をお願いし、数社に新たにご協力いただくことができた。（132 ページ専門学校実証講座①、②、⑥）

高校における実証講座については、高校からの希望が多い企業見学の実施を昨年度から引き続き模索する中で、コンソーシアム外の企業にもご協力をいただくことができた。（34 ページ　高校実証講座③、④、⑤、⑨）

きっかけとしては、本事業のコンソーシアムにも参加いただいている一般社団法人宮崎県情報産業協会のつながりのほか、本事業のコンソーシアムに参加いただいている企業とのつながりによるものである。

また、高校教員向け研修会では宮崎県警のサイバー戦略局（サイバー企画課）に協力いただくことができた。

イ　高校段階における企業見学の実施

高校段階における実証講座において、以前から企業見学の希望が高校からあったところである。昨年度の実証講座の中で企業見学を兼ねた講座を企業に出向いて実施したが、企業見学の部分については、当日の企業の業務の関係上、できなくなったという事情があった。

本年度については、昨年度、一般社団法人宮崎県情報産業協会を通して、企業見学を受け入れ可能かどうか宮崎県情報産業協会の会員企業に問い合わせた結果を参考に、受け入れていただける企業を見つけることができた。

本事業のコンソーシアム参加企業を通して、宮崎県サイバーセキュリティ協議会の加盟企業に企業見学を受け入れていただくことができた。（34 ページ　高校実証講座③、④、⑤、⑨）

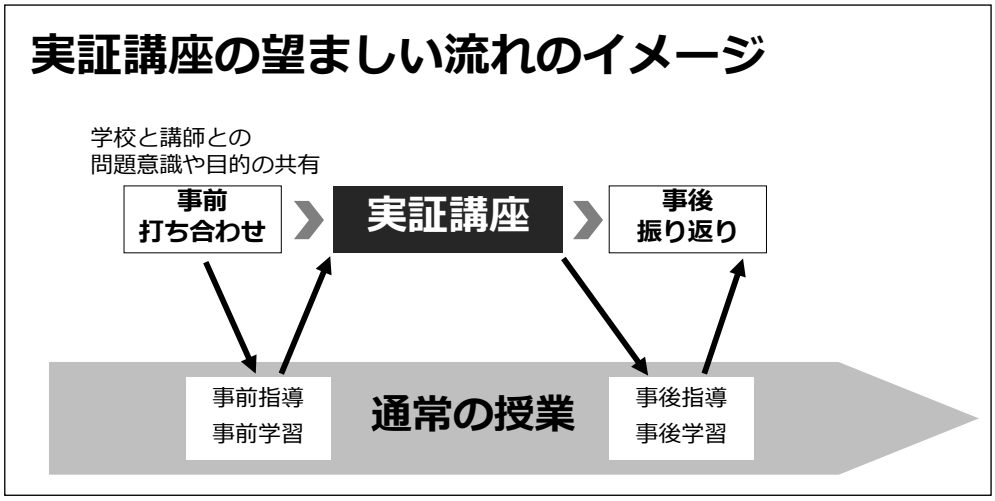
ウ　実証講座における望ましい流れ

専門学校の実証講座において、講師企業からの助言もあり、学生への事前指導に力を入れた講座があった。実証講座後の学生の変化について、教員からは、学生が自主的に企業や業種について調べるなど就職に向けての意欲向上が感じられるとのことであった。

実証講座の場合、2 コマ程度が中心のため、実証講座の中だけでは教えきれない場合も多い。そのため、これまでも高校では例えば、アプリの使い方を事前指導として通常の授業の中で実施したり、実証講座のグループワークの前段部分を通常の授業の中で実施したりすることもあった。

実証講座は単発での効果は限られるため、通常の授業とのつながりを意識して実証講座の内容を検討すること、実証講座の成果を通常の授業の流れの中にどのようにフィードバックしていくかということが重要だと考えられる。

実証講座を実施するにあたっては、学校と講師との問題意識や目的のすり合わせ、生徒・学生への事前指導・事後指導、講座後の振り返りについて、できるかぎり丁寧に行うことが、実証講座の成果をあげることにつながると考えられる。



実証講座の事前準備（事前指導）の内容例（高校実証講座①）

実習までに決めておいてもらいたいこと

①～③は必須。 ④、⑤はやるかやらないかはお任せします。当日作品審査あり。高評価もらうには事前の準備が重要です！

①グループ割

・1グループ4～5名の構成

・グループ名は「1-1、1-2、、、」「2-1、2-2、、、」 など、クラスとグループ番号で構成。

②担当を決めましょう

・次ページを参考に担当を決めておいてください。人数割りはお任せします。担当は分けますが、基本的に全員参加で進めてもらいます。

③クライアントを決めましょう

・「お花屋さん」のホームページを作るか、
・「飲食店」のホームページを作るか
を選びましょう。それぞれのクライアント（お客様）の詳細は別シートをよく読み込んでイメージを膨らませておいてください。

---

④ホームページのデザイン、レイアウト案をイメージしておきましょう。

・ネットで全国の「お花屋さん」や「飲食店」のホームページを調べて、どんなデザインが良いか調査をしましょう。
・グループのみんなとも話し合いができるともっといいですね。

⑤ロゴデザインを作っておいてもOK！

・ロゴ案は、サンプル素材は準備しますが、それを使ってもいいし、事前に自分で手書きやデジタルツール、チャットGPTなども活用して、作っておいたものを使ってもOK。その場合は、事前に印刷しておいてくださいね。当日印刷する時間は取れないので。
ロゴのサイズは、「縦幅2.5cm～3cm」「横幅　3cm～10cm」くらいでOK。

実証講座のルーブリックの例（専門学校実証講座⑥）

令和8年1月23日（金）実証講座　ルーブリック　この表は評価シートではなく、今日の目標を企業、学校、学生で共有して、学生の皆さんのこれからの学びに生かしてもらうためのものです。

内容	観点	整理番号	到達目標（終了後の学生の状態）	A　到達目標の状態に達した	B　一部できていないところがある	C　多くの点でできていない
⓪取組姿勢・態度（①～⑤全体に共通）	取組姿勢・態度	⓪-ア	○わからないことや疑問点について質問することができた			
		⓪-イ	○講座全体を通して、自分事として真剣に取り組むことができた（話者を見る／要点をメモするなど）			
①会社説明（30分）	職業理解（会社）	①-ア	○会社全体についての説明内容（企業理念、事業内容など）を説明できる			
		①-イ	○宮崎オフィスについての説明内容（役割、業務内容など）を説明できる			
②職種説明（20～30分）	職業理解（職種）	②-ア	○クリエイティブ職（デザイン・Web／映像）についての説明内容（仕事内容、必要なスキルなど）を説明できる			
③交流会（20分）	職業理解（職種）	③-ア	○クリエイターの方と交流することで、クリエイティブ職（デザイン・Web／映像）について新たな気づきがあった			
	コミュニケーション	③-イ	○自分から発言したり、クリエイターの方の質問に答えたりして会話のやりとりに参加できた			
④作品添削・フィードバック（40分）	作品制作	④-ア	○自分の作品について、意図や工夫した点などを具体例をあげて説明できた			
		④-イ	○フィードバックで指摘された改善点を整理して、説明できる			
⑤ワーク（40分）	作品制作（実践）	⑤-ア	○ワークの制作課題の内容や条件を把握することができた			
		⑤-イ	○ワークの時間内に、制作課題に沿って制作を進めることができた			
	コミュニケーション	⑤-ウ	○ワークの中で、必要に応じて講師に相談・確認することができた			

各行どれか1つに○を付ける

(2)　実証講座における課題

実証講座における課題としては、以下のような点があった。

ア　専門学校生の高校実証講座への参加

令和５年度、６年度は専門学校生が参加し、指導やサポートを行うような高校での実証講座を行ったが、本年度は実施できなかった。

要因としては、担当していた教員の業務分担の関係や学生の授業との兼ね合いなどがある。

ただし、専門学校生が参加する実証講座については、次のようなメリットもある。高校生にとっては、専門学校生と交流することで進路選択の参考になり、また、専門学校生にとっては、学校以外でのコミュニケーションの機会にもなる。さらに、学生がサポートに入ることで、講師が１人の場合よりも効果的な指導にもつながる。

そのため、これらのメリットを考慮しながら、効果的に実施できる方法を検討していきたい。

イ　企業による企業見学や職場体験の受け入れ

本年度、企業見学を高校の実証講座の中で複数実施できたが、企業見学を受け入れ可能な企業が限られている。

特に大きな理由としては、高校の授業としての実証講座の場合、クラス単位での見学となるため、最低でも 40 人程度の受け入れが必要となるが、少人数の受け入れは可能でもクラス単位になると受け入れが難しい企業が多かった。

また、専門学校においては、昨年度に引き続き、仕事の現場を知るための 1 日程度の職場体験（1 日インターンシップ）の受け入れについて、コンソーシアム外の企業も含めて相談したが、本年度は実施できなかった。

理由としては、クリエイティブ企業は規模が比較的小さい会社が多く、業務の関係で受け入れが難しいこと、学校側のスケジュールと企業側のスケジュールが合わないことなどがあった。

ただし、最終的に企業見学的なかたちでの受け入れをしていただいた企業はあったため、企業の現場を知る方法については、例えば、就職している卒業生と在校生との交流など様々な方法を検討したい。

また、専門学校生の場合は、就職活動の一環として、企業が受け入れしているインターンシップ等に参加することも可能なため、そういう機会の活用を学生に周知するというのも１つの方法と考える。

ウ　高校生希望者向け実証講座

本年度、夏休みに実施を予定していた高校生希望者向け実証講座については、専門学校のオープンキャンパス等の学校行事との兼ね合いで実施できなかった。冬休みに実施することも検討したが、こちらも同様にスケジュールの確保が難しく実施できなかった。

昨年度は専門学校で終日の講座を実施しており、高校生に専門学校のことを知ってもらう機会にもなっていたと考えるが、来年度以降については、企業体験や専門分野の外部講師による講座など実施方法の幅を広げて検討したい。

なお、学校単位での希望にもとづくものではあったが、12 月 4 日に実施したセミナー「クリエイティブな学びの可能性　―『デザイン』でひろがる未来」の基調講演について、オンライン配信を希望した高校 2 校に配信する取組を行った。

(3)　視察研修について

昨年度に引き続き、システム系・クリエイティブ系の教育内容、AI・データサイエンス授業の取組などに関する視察研修を行った。

本年度は本委託事業終了後も見据えて、企業や地域との連携内容についてもヒアリングを行ったほか、高校・専門学校の接続とも近い高校・大学の接続の取組を行っている高校への視察研修、生徒・学生の学びの多様性などの観点から探究学習に力を入れている高校などへの視察研修を行った。【第 8　視察研修　参照】

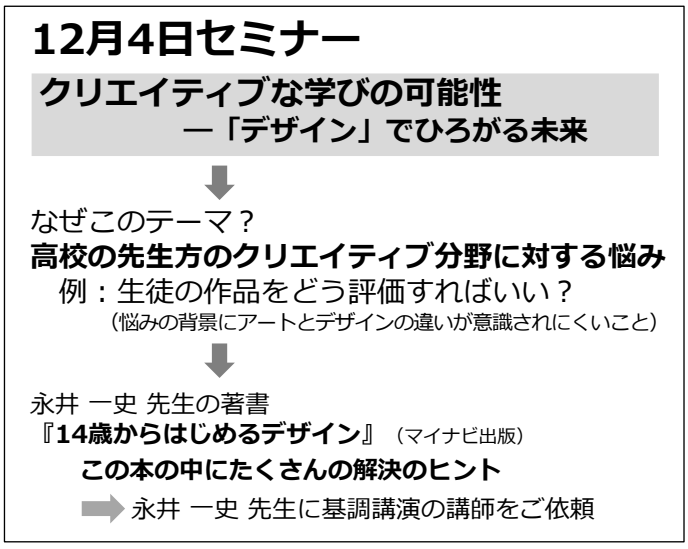
どの視察研修先にも共通していると感じたことについては、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていることであった。

本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組を継続していくためには、各参加主体の負担感だけでなく成果も感じられることが重要だと考えられる。

(4)　セミナーについて

これまでも本事業におけるコンソーシアム以外の方も参加できるシンポジウムやセミナーを開催してきたが、本年度は「クリエイティブな学びの可能性　―『デザイン』でひろがる未来」を全体テーマとして、基調講演とパネルディスカッションからなるセミナーを開催した。【第 9　セミナーについて　参照】

これまでのシンポジウムやセミナーではどちらかというとシステム系寄りの内容が多かったが、本年度は下図のような高校の先生方の悩みも踏まえ、クリエイティブ系に関連するテーマ設定とし、多摩美術大学教授の永井　一史先生に基調講演をご依頼した。



また、デザインというとクリエイティブ系のことと思いがちであるが、デザインはクリエイティブ系・システム系のどちらにも共通する考え方や手法であることに気づく機会となったほか、下図のような気づきがあった。

基調講演を通して、デザインの力や意義に対する気づき

○デザイン＝思考の仕方の重要なスキル（考える際の武器）
（パネルディスカッションにて有識者会議の佐藤様より）

○システム系の学生にも聴かせたかった（専門学校教員の感想）
※デザイン＝システム系にも共通すること

○高専接続コンソーシアムの仕組み・取組自体もデザイン
（ことのデザイン）

➡ 次年度の事業や事業終了後を見据えてデザインの考え方を生かしていきたい

第 4　理想的な実証講座について

1　理想的な実証講座を考えた背景

これまでの実証講座については、学校の希望中心に内容を設定していたところもあるので、そういった制約なしに理想的な実証講座考えてみる第 2 回分科会（9 月 12 日開催）の中でグループワークを行った。

当日のグループワークには本委託事業の有識者会議の植上一希先生（福岡大学 人文学部教授）と佐藤昭宏様（ベネッセ教育総合研究所 学習科学研究室 室長）にもご参加いただき、助言等をいただいた。

植上先生、佐藤様に助言いただくことで、本事業の取組も新たな視点で見直すことができた。

例えば、実証講座を考えるときに、システム系ではネットワークやセキュリティ、クリエイティブ系ではポスター等のデザインというような「何を教えるのか」ということを中心に考えてしまいがちである。

植上先生、佐藤様のお話を伺うことで、「何を教えるのか」ということだけでなく、例えば、生徒・学生の集中力が続くような内容や構成なのかどうかということも実証講座を計画する上で、重要な視点だと認識することができた。

第 2 回分科会での植上先生からのコメント概要

福岡大学 人文学部 教授　植上 一希 先生

植上先生からの主なコメント

ワークショップ前

○本事業の実証講座で得られる能力が大きい

⇒知識や技能だけでなく、業界における**価値観**や**行動様式**まで

⇒多面的な学び

⇒資質・能力を培っていく

映像関係の実証講座での例
- **「正解はないけど、まちがいはある」**
- **「気持ちいい ⇔ 気持ちわるい」**
- **「いろんな作品をみて、気持ちいいサイズを盗む（まねする）」**
- **「いろんな作品をみて、自分のサイズをつくってください」**

ワークショップ後

○参加主体ごとの目標の設定と評価の設定が大事

⇒連携事業において特に大事

○生徒・学生へのフィードバックが大事

第 2 回分科会での佐藤様からのコメント概要

ベネッセ教育総合研究所　学習科学研究室　室長　佐藤 昭宏 様

佐藤様からの主なコメント

ワークショップ前

○**資質・能力育成の重要性**

⇒幸せに活躍している若手の共通特性 → **学びに多様性がある**

ワークショップ後

○**生徒・学生が学びたい（真似したい・盗みたい）内容になっているかどうか**

⇒講座の流れや形式が大事（体験する→**気づき**がある→学びにつながる）

○**自分の将来にもつながる内容かどうか**

⇒普通に大人が語るよりも、身近な卒業生が語るほうが伝わる（刺さる）

○**プログラムのバリエーション化**

⇒企業の中で地域連携に興味がある方を活用できないか

実証講座での学びの多様性の例

ソーシャル・ラーニング（人を巻き込みながら学ぶ）

○企業からの話→一人でできないときは人に頼ればいい（若手社員からの例）

○わからないことをサポートの専門学校生に質問する

ラーニング・レジリエンス（困難なことからも学ぶ）

○専門学校生が三点照明の設置がうまくできなかった

→メンバー同士の意思疎通ができていなかったと反省

（専門学校実証講座 撮影の基本［実習］での例）

ラーニング・ブリッジング（いくつかの学びや経験を架橋する）

○実証講座の経験を生かしてパンフレット表紙をデザインする

○企業講話や職場体験の経験を就職活動で生かす

2　理想的な実証講座について

3 つのグループに分かれて理想的な実証講座をつくることをテーマにグループワークを行った。各グループは 5 人～6 人で高校、専門学校、企業、行政の委員がなるべく均等にグループに入るようにグループ分けを行った。

グループワークの進め方は下記のとおりで、60 分程度だったこともあり、各班 1 つずつの実証講座の提案となった。各班による実証講座は次ページ以降のとおり。

グループワークについて

（実証講座のブラッシュアップ：理想的な実証講座をつくる）

1　目標（理想）の整理

○学校：生徒・学生にどうなってほしい？

○企業：どういう生徒・学生を採用したい？

2　理想的な実証講座を考える

○上記 1 の目標（理想）に近づけるための実証講座を考える

①これまでの実証講座で、理想に近い実証講座はあるか

②これまでの実証講座の問題点、課題は何か

③職業的社会化の観点から考える

④資質・能力育成の観点から考える

⑤効果の側面からみた分類の軸などから考える

3　実証講座を具体化する

基本：高校 1 本＋専門学校 1 本

①タイトル（名称）

②目的

③対象（学年、コースなど）

④講師

⑤実施時期（何月など）

⑥コマ数（時間数）

⑦回数（年間）

⑧形態（座学、ワークショップなど）

⑨内容

⑩アピールポイント

4　発表

各グループ：５分以内

①「1　目標（理想）の整理」と「2　理想的な実証講座を考える」の議論の概要

②考えた実証講座の説明

項目	A 班
名称	**（検定試験対策とキャリアガイダンス）**
目的	商業高校生の**スイッチが入りやすい検定試験対策**／複数企業によるキャリアガイダンス
対象 (高校)	1～2 年生(進路が決まる前)
講師	検定対策(授業)：専門学校／キャリアガイダンス(説明)：複数企業
時期	
コマ数	
回数	
形態	検定対策：座学／キャリアガイダンス：複数企業によるブース形式(興味がある企業に参加)
内容	検定試験対策、専門学校の授業紹介／複数企業によるキャリアガイダンス、**商業高校 OB による説明**　など
アピール ポイント	・専門学校と企業の得意なことを生かす ・スイッチが入りやすい検定試験対策 ・複数企業により興味があるところに参加(主体的な参加につながる)

項目	B 班
名称	**生徒募集のポスターをつくろう**
目的	**コンテスト形式**で本気度を高める 最優秀のポスターを実際に採用
対象 **(高校)**	2 年生
講師	デザイン関係者
時期	9 月～12 月(生徒募集の時期より前)
コマ数	2 コマ(高校での事前・事後指導を別途。必要に応じて専門学校による支援)
回数	年 1 回
形態	ワークショップ
内容	・生徒募集のポスターを各自制作 ・コンテスト形式で教員＋生徒により、実際に採用するポスターを選ぶ
アピール **ポイント**	・実際に採用されるので地域にもアピールできる ・**コンテストで本気度を高める** ・完成までの忍耐力を身につけることができる　など

項目	C 班
名称	**動画のミニコンテスト(企業や専門学校による評価)**
目的	**動画をつくることで企画力、取材やコーディネートなど総合的な力**が身につく
対象 (高校)	・理想は 2 年生(3 年生でも可) ・情報の授業だけでなく、総合的な探究の時間でも可
講師	動画系やデザイン系のクリエイティブの指導ができる人 (企業・専門学校による研修を受けた高校の先生でも可)
時期	いつでも可
コマ数	複数回に分けて 4 コマくらい (随時、高校の先生による指導も可)
回数	年 1 回
形態	ワークショップ中心
内容	・地元の素材を扱うと地元のよさを知る機会にもなる ・動画を作る上での課題や難しい点を自分たちで解決することで、課題解決能力にもつながる
アピール ポイント	プログラミングや Excel・Word だと形が残らず達成感が少ないが、**動画だと形が残り**、社会に向けて発表もできるので達成感につながるのではないか

グループワークの結果による理想的な実証講座のポイントとしては下記のとおりで、特に、生徒の興味・関心を引き、集中力を高めるポイントとして、検定試験対策、動画制作、コンテスト形式、複数企業から選べることなどがみられた。

その他に企業のことを卒業生に紹介してもらうことで、高校生がより自分事として感じることができる、また、目に見えるかたちになるもののほうが成果につながりやすいというような点がポイントとなっていた。

今回、グループワークの結果としての理想的な実証講座については、来年度の実証講座として実現できるよう計画したい。

グループワークで出た理想的な実証講座のポイント

内容より前に、生徒・学生が集中力を持って参加できるか

（背景：集中力がなかなか続かない生徒・学生が増えている印象）

○**スイッチが入りやすいテーマ** → 検定試験対策(商業高校)

○**動画** → 興味・関心が高い

○**本気度を高める** → コンテスト形式 or コンテストへの応募

○**興味がある会社を選べる** → 複数企業によるブース形式

生徒・学生の身近な存在による効果

○**キャリアガイダンス** → 商業高校OBによる説明で親近感

目に見えるかたちになりやすいことによる効果

○**ポスター、動画** → 完成までの忍耐力や達成感

○**動画** → 企画力、取材やコーディネートなど総合的な力

第５　来年度以降に向けて

１　参加主体ごとの成果・負担の整理

第 2 回分科会を開催した際に有識者会議の植上先生より、下図のとおり、本事業のコンソーシアムに参加している主体ごとの成果と負担がどうなっているのか、目標設定と評価設定が必要なのではないかというお話があった。

実証講座を受ける側の高校や専門学校の立場としては、自分のところでできないことなどを実証講座として実施できるため、成果としては見えやすいと考えられる。ただし、実証講座がすべて成果を上げているとは単純に言えない場合もあるため、当初の目的に合致しているか、想定していた成果があったのかどうかは講座ごとの検証が必要である。

実証講座を提供する側の企業や専門学校の立場としては、どちらかというと実証講座を提供するという負担が先にきて、実証講座のあとに企業や専門学校にとっての成果が出てくるという感じが強い。

企業や専門学校にとっての成果が何かというと 1 つは企業であれば採用増や応募人材のレベルアップ、専門学校であれば入学者増や入学生のレベルアップというような面が考えられる。

企業にとって将来的な採用につながるという点については、例えば、第 4 回分科会（1 月 29 日）の中で、企業から会社のことを知ってもらうことや地元からの人材採用につながる可能性があるという意見があった。

また、ある企業では以前、実証講座に若手社員が参加することをスキルアップの機会ととらえ、人事評価の中でもプラス評価として加点しているという話もあった。

参加主体ごとの成果と負担については、本コンソーシアムの取組を委託事業としての期間が終了しても継続していく際の判断材料にもなることから、来年度整理をしながら、継続していくための条件を検討したい。

参加主体それぞれへの成果がどうなのか

コンソーシアムに参加することで、参加主体ごとにどういう成果が得られるか

⬇

成果がそのために投入した負担に見合っているか

⬇

参加主体ごとの目標設定と評価設定が必要なのではないか

（第2回分科会の際に植上先生より）

⬇

成果と負担が見合うことが継続性の1つの条件ではないか

参加主体ごとの成果・負担の整理の例（イメージ）

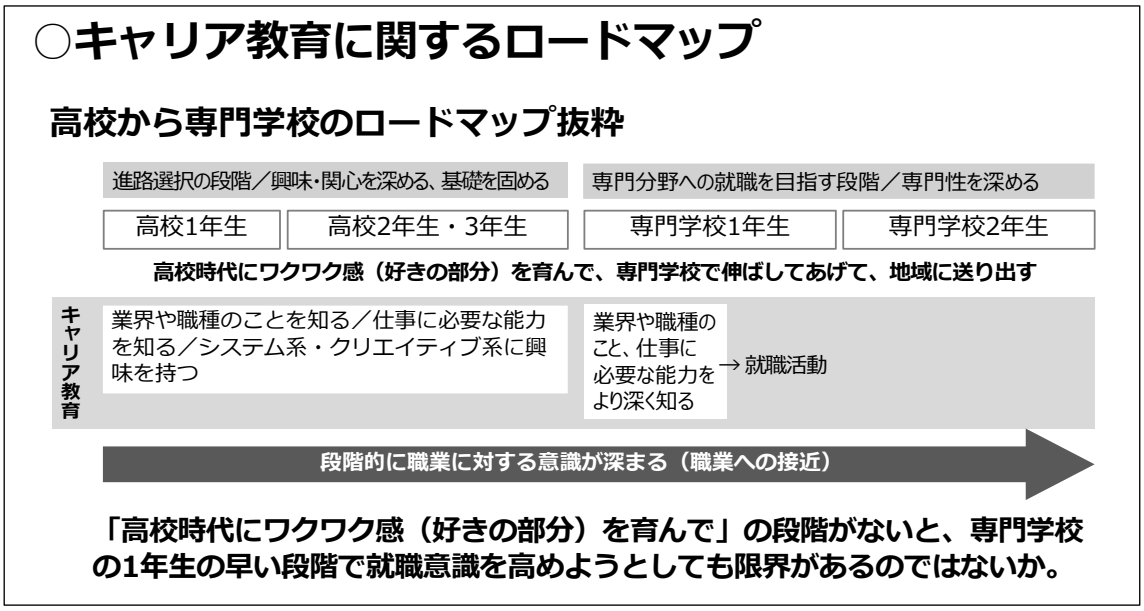
	成果の例 （どちらかというと中長期）	**負担の例** （どちらかというと短期）	**指標（例）**
高校	・職業理解の促進 ・専門分野における授業内容の充実 ・多様な学びの機会 ・先生のスキルアップ　など	・会議、打ち合わせへの参加 ・実証講座受け入れの調整 ・アンケートや KPI データへの協力 など	・情報系分野への進学、就職の状況
専門学校	・就職に対する意識づけの強化 ・学生の実践力アップ ・多様な学びの機会 ・進路としての認知度アップ　など	・実証講座（高校）への講師派遣 （・会議、打ち合わせへの参加） （・実証講座受け入れの調整） （・アンケートや KPI データへの協力）　など	・入学者の状況 ・第 1 希望への就職の状況
企業	・地元からの優秀な人材の確保 ・就職先としての認知度アップ ・若手社員の多様な経験の機会 など	・実証講座（高校・専門学校）への講師派遣 ・企業見学、職場体験の受け入れ ・会議、打ち合わせへの参加 など	・地元からの採用状況 ・高校、専門学校からの採用状況
行政	・若者の地元定着 ・専門人材の養成機会の増加 など	・高校現場との調整（教育委員会） ・関係部署等との調整　など	・地元就職の状況

2　高校・専門学校を通じたキャリア教育について

専門学校においては、就職に向けた意識付けを重視して実証講座を実施しているところであるが、そもそも目的意識がぼんやりした状態で専門学校に入学した場合、専門学校での早い段階からのキャリア教育に力を入れたとしても効果が出てくるまでには時間がかかる。

そういう点を考えると、下図は高校から専門学校のキャリア教育のロードマップのイメージ図であるが、高校の進路選択の段階から、専門学校の専門分野への就職を目指す段階へと徐々に考えが深まっていくため、高校段階での進路選択にかかるキャリア教育の充実が１つの解決策と考えられる。

そのためには、企業と専門学校が連携・協力して、システム系やクリエイティブ系の仕事の魅力を伝えるような取組を充実する必要があるのではないかと考えられる。



第６　本年度実施の実証講座

１　高等学校における実証講座の概要

(1)　令和７年度実施の実証講座

昨年度同様、前期は１年生を対象としたビジネス基礎とクリエイティブ入門の講座を実施し、後期は主に2～３年生を対象としたシステム系とクリエイティブ系の講座を実施した。

令和７年度の高等学校における実証講座一覧

実証講座	対象学年等	日　程	高等学校 企業（講師）	講　座　内　容
①	１年生	7/15(火) 3コマ	富島高等学校 株式会社ウェブサイト	【クリエイティブ入門】 Web制作会社の仕事（Webページを提案）を体験
②	１年生	7/15(火) 2コマ	富島高等学校 株式会社宮崎県ソフトウェアセンター 宮崎情報ビジネス専門学校	【ビジネス基礎】 企業講話：IT業界の説明（座学） 専門学校：簡単なプログラミング体験（演習）
③	１年生	7/15(金) 1.5コマ	延岡商業高等学校 AJS株式会社	【ビジネス基礎】 ※企業に出向くかたちで実施。 IT業界の仕事についての講話 (若手社員参加あり)
④	１年生	11/５(水) 1コマずつ (2クラス)	都城商業高等学校 株式会社デンサン 株式会社クラフ	【システム系】 企業見学（２社見学） (会社概要・業務概要の説明等)
⑤	２年生	11/6(木) 1コマずつ (2クラス)	都城商業高等学校 株式会社デンサン 株式会社クラフ	【システム系】 企業見学（２社見学） (会社概要・業務概要の説明等)
⑥	２年生	11/25(火) 2コマずつ (2クラス)	都城商業高等学校 株式会社宮崎南印刷	【クリエイティブ系】 学校パンフレットのデザインを体験
⑦	２年生	11/25(火) 2コマ	富島高等学校 宮崎情報ビジネス専門学校	【クリエイティブ系】 Illustrator基礎＋開校110周年記念のポスター(チラシ)とショート動画の指導
⑧	２年生	11/25(火) 2コマ	富島高等学校 宮崎情報ビジネス専門学校	【システム系】 ネットワーク・セキュリティ関係（8月の教員向け研修会のセキュリティに関する内容の一部)
⑨	３年生	1/23(金) 1コマ	延岡商業高等学校 株式会社デンサン 株式会社クラフ	【システム系】 企業見学（会社概要・業務概要の説明等） (２つに分かれて１社を見学)
⑩	２年生	12/15(月)を延期 【日程調整中】	宮崎商業高等学校 宮崎情報ビジネス専門学校	【システム系】 ネットワーク基礎
⑪	２年生	2月中旬頃 【予定】	延岡商業高等学校 宮崎情報ビジネス専門学校	【システム系】 ネットワーク基礎

2　ビジネス基礎・クリエイティブ入門に関する実証講座の実施報告・検証

(1)　実証講座①：実施報告

○期日　令和７年７月15日（火）

○場所　宮崎県立富島高等学校　総合実践室

○時間　３コマ　9:50～12:40

○対象　情報ソリューション科１年生２クラス80名

○授業形態　講義及びワークショップ

○講師　株式会社ウェブサイト　柳本 明子 様（代表取締役社長）

○見学　宮崎県立宮崎商業高等学校　工藤 綾二 様（教諭）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

岩村 聡志、尾崎 勝一、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

昨年度に引き続き、本年度も同様の内容での実施を希望する。

なお、生徒数が昨年度より約20名増加していることから、実証講座当日の作業を円滑に進めるためには、事前に授業内で準備時間を確保することが有効であると考えられる。そのため、講座当日の作業効率化に向け、事前準備を授業計画に組み込むことが提案された。

＜提案（企業）＞

昨年度に比べ、生徒数およびグループ数が増加することから、タイムスケジュールの管理がこれまで以上に重要となる。特に、各グループの発表時間だけでも相当な時間を要することが想定されるため、当日の円滑な進行に向けて、役割分担については事前に決定しておくことが望ましい。

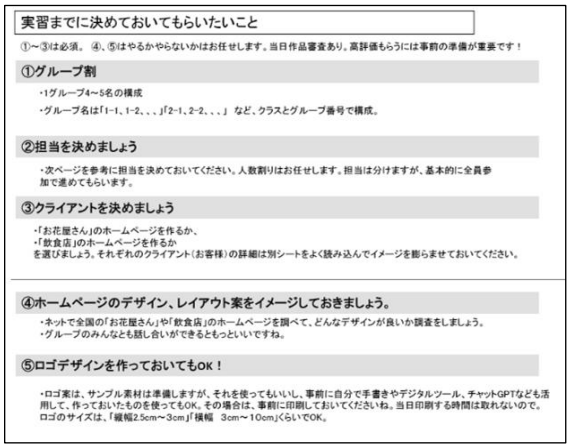
また、デザイン作業において、ロゴマーク等を手書きで作成すること自体に問題はないが、可能であれば事前にプリントアウトした素材を準備しておくことで、当日の作業時間短縮が期待できる。

以上を踏まえ、事前に準備すべき事項を整理した資料を作成・提示し、担当教員により授業内で実施していただくことが望まれる。

なお、高等学校からは、企業側としても事前授業で対応可能な内容があると助かるとの意見があったことから、これを受けて事前資料を作成した。

○内容：企業講話及びワークショップ

①事前学習課題



実習までに決めておいてもらいたいこと

①～③は必須。④、⑤はやるかやらないかはお任せします。当日作品審査あり。高評価もらうには事前の準備が重要です！

①グループ割

・1グループ4～5名の構成

・グループ名は「1-1、1-2、、、」「2-1、2-2、、、」など、クラスとグループ番号で構成。

②担当を決めましょう

・次ページを参考に担当を決めておいてください。人数割りはお任せします。担当は分けますが、基本的に全員参加で進めてもらいます。

③クライアントを決めましょう

・「お花屋さん」のホームページを作るか、
・「飲食店」のホームページを作るか
を選びましょう。それぞれのクライアント（お客様）の詳細は別シートをよく読み込んでイメージを膨らませておいてください。

④ホームページのデザイン、レイアウト案をイメージしておきましょう。

・ネットで全国の「お花屋さん」や「飲食店」のホームページを調べて、どんなデザインが良いか調査をしましょう。
・グループのみんなとも話し合いができるともっといいですね。

⑤ロゴデザインを作っておいてもOK！

・ロゴ案は、サンプル素材は準備しますが、それを使ってもいいし、事前に自分で手書きやデジタルツール、チャットGPTなども活用して、作っておいたものを使ってもOK。その場合は、事前に印刷しておいてくださいね。当日印刷する時間は取れないので。
ロゴのサイズは、「縦幅2.5cm～3cm」「横幅　3cm～10cmぐらいでOK。

②当日スケジュール

１限目　企業講話　講師紹介、業界・業種説明

２限目　ワークショップ

①事前に決めたグループで、ヒアリングシート（顧客情報）読み込み。

②ヒアリングシートに基づき、ワイヤーフレームを考える。

③ディレクターは②のイメージや方向性をまとめる。

④デザイナーは②に合う素材を選び、仮置きを行う。

⑤コピーライターは②に合うキャッチコピーを考える。

⑥ディレクターは全体を監修し、発表内容をまとめていく。

３限目　発表・まとめ





◀グループワークの様子

(2)　実証講座②：実施報告

○期日　令和７年７月15日（火）

○場所　宮崎県立富島高等学校　総合実践室

○時間　２コマ　13:25～15:15

○対象　情報ソリューション科１年生２クラス80名

○授業形態　講義及びワークショップ

○講師　株式会社宮崎県ソフトウェアセンター　満田 雅也 様（企画部）

宮崎情報ビジネス専門学校 川越 浩一（教務部 課長）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

岩村 聡志、花盛 和也

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

昨年度、延岡商業高校で実施された、ぷよぷよプログラミングを使ったワークショップとIT業界についてなどの企業講話で、専門学校生と高校生が協働で学ぶ内容をお願いしたい。

＜提案（専門学校）＞

昨年度と同様の内容での実施は当初可能であったが、担当教員のスケジュール調整が困難となり、あわせて専門学校生を同行させることも難しくなった。そのため、本事業開始2年目に作成した教材「p5.js」を使用した、簡単なプログラミング体験を実施することとした。

＜提案（企業）＞

当初は20分間の企業講話を予定していたが、他校においてキャリア教育の一環として50分間の講話を実施している事例があったことから、講話時間の延長について協議を行った。その結果、専門学校側の了解を得て、講話時間を50分に延長し、実施することとした。

○内容：企業講話及びワークショップ

１限目　企業講話「IT業界について」

２限目　専門学校教員による「p5.js」を使ったプログラミング体験



◀　企業講話の様子

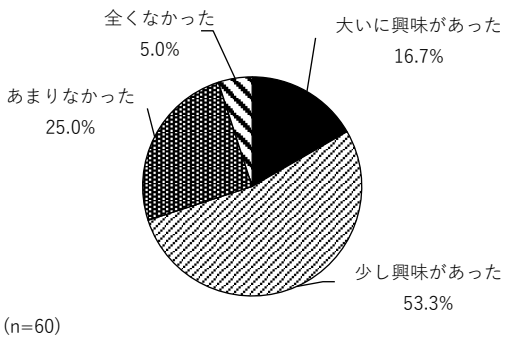


◀　プログラミング体験の様子

（3）　実証講座①・②：生徒アンケート及び意見の概要

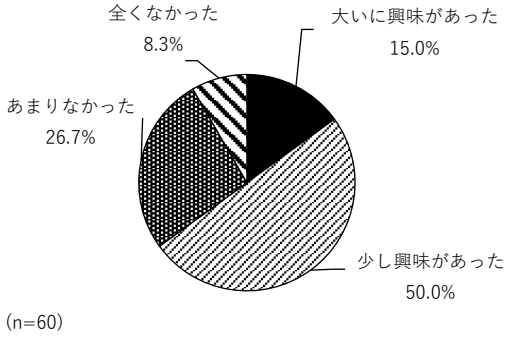
ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　もともとWeb作成・動画などのクリエイティブ業界に対して興味がありましたか。



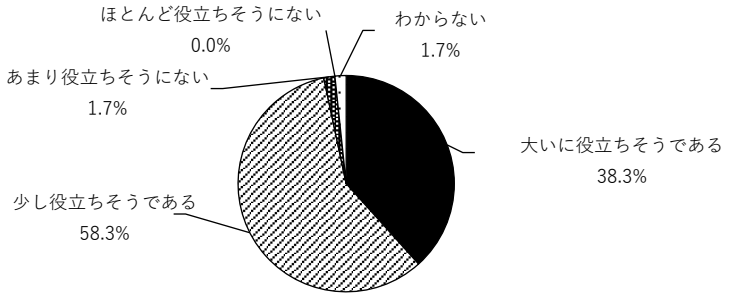
(n=60)

問２　もともとIT業界（情報通信業）に対して興味がありましたか。



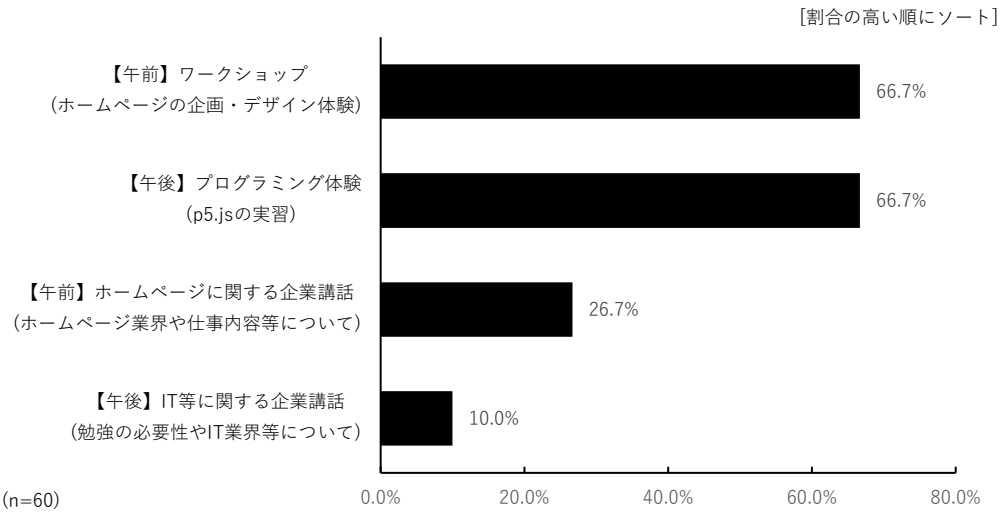
(n=60)

問３　講座全体を通して、今後の高校での学びや将来に役立ちそうですか。



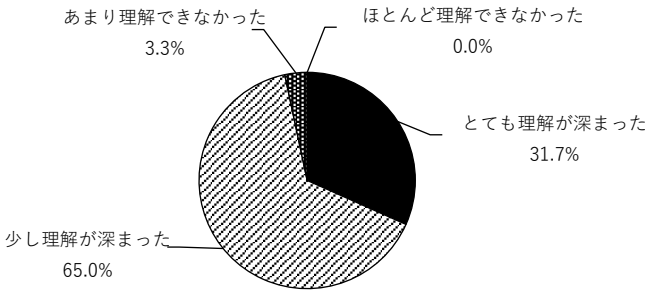
(n=60)

問４　一日の講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択】



(n=60)

問５　午前の講座を通してWeb作成などのクリエイティブ業界やその仕事について理解できましたか。



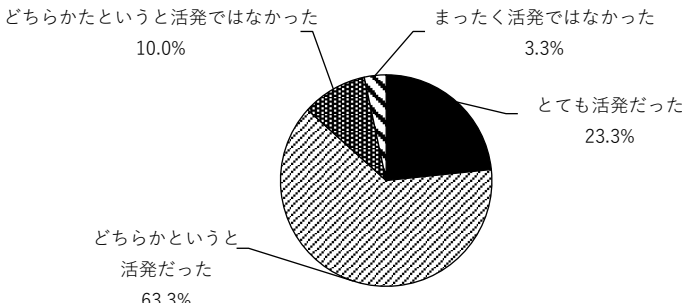
（n=60）

問６　問5で具体的によくわかったところ、またはよくわからなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
クリエイティブ業界などのいろいろな仕事について理解が深まった。
知らなかったWeb作成の全体的な流れがわかった。
相手の事を考えないといけないこと。
仲間と協力して一つのことを完成させる楽しさを知った。
ホームページを作るにあたって、インパクトや記憶に残るようにするのがいいということがわかった。
一つ一つの作業に多大な時間がかかる。
少し理解が深まった
みんなで協力して考えることができた。
色の配色やどの位置に重要な情報を置くのかがわかった。
どんな工夫をしているのか。
お客様のことを考えながら仕事をすることがわかった。
プログラミングで初めてイラストを動かせて嬉しかった。
デザインで違う印象になる。
どのようにしてウェブサイトを作るのかがわかった。
自分で作成するのは難しかった。
会社の顔とも言えるウェブサイトの重要性を実感した。

問7　午後の講座を通してIT業界やその仕事について理解できましたか。



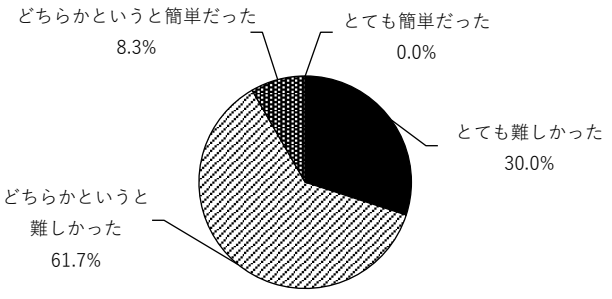
（n=60）

問８　問７で具体的によくわかったところ、または、よくわからなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
プログラミングが楽しかったです。
今勉強する理由などが知ることができた。
ITやプログラミングなどの体験を通して理解が深まったと思いました。
指示の内容によっては違う結果が出ることがわかった。
少し理解が深まった
社会に出てからは答えがないので、自分で学ぶことが大切だとわかった。
今後の重要性やどこに役に立つのかがわかった。
JavaScriptが役に立つこともあれば、役に立たないこともある点や、使い方、使われ方などを理解できた。
プログラミングが大変だとわかった。
プログラミングのコードの打ち方。
税金泥棒の話が一番印象に残りました。
将来の可能性を知ることができた。
プログラミングでこういう指示をしたらこう動くっていうことがわかった。
用途にあったプログラミングをしたりするのが印象に残った。
あまり理解できなかった
話が難しすぎた。
たくさんの話だったので少し難しかったです。
ほとんど理解できなかった
プログラミングについて難しさがわかった。
寝たら税金の無駄だということがわかった。

問９　午前のワークショップの課題（ホームページの企画・提案体験）はどうでしたか。



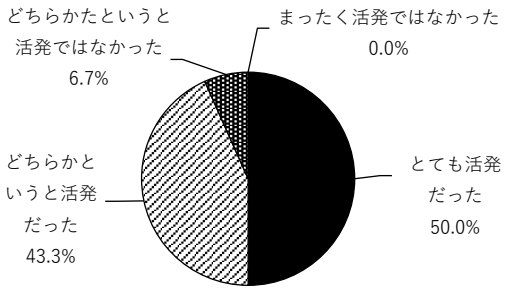
（n=60）

問10　問９のように思った理由を教えてください。（一部抜粋）

とても難しかった
作るだけで難しかったし、興味を持ってもらえるように作るのが難しかった。
お客様に向けて自分の店をPRすることが難しかった。
キャッチコピーを考えるのが難しかった。

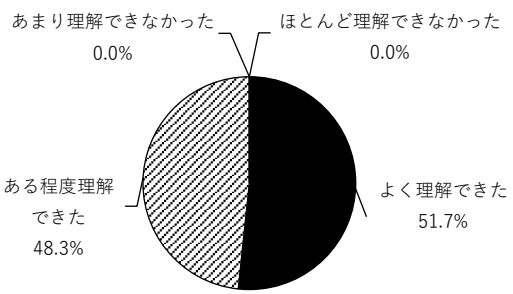
話し合いに参加できなかった人がいて、実際に話し合いに参加した人数が少なく感じられた。 また、話し合いの時間が短く、限られた時間の中で意見をまとめて結論を出すことが難しかった。
どうしたら見やすくなるかなどを考えるのが難しかった。
自分で考えて作ることが苦手だから。
どのようにすれば会社の特徴を捉えられるかが難しかった。
考えることが多く、約2時間でまとめまでしないといけなかったから難しかった。
写真の配置が難しかった。
資料などを作るのは大変だったけど班の人と協力して作るのは楽しかった。
どちらかというと難しかった
たくさん考えないといけなかった。
少ない時間の中、大きな模造紙にホームページを作るのは大変だった。
バランスを整えるのが難しかった。
キャッチコピーが難しかった。
アイデアが思いつかない。
制限時間内に提案を完成させるのが大変だった。
お客さんの希望に沿ってデザインを決めるのは客観的に見ないと分からないから、簡単ではないと思った。
工夫のしかたや、どうやったらわかりやすく伝えられるかを考えるのが難しかった。
一からどう作ればいいかわからなかった。
時間が短かった。
適当に貼って説明するだけだと思っていたが、実際は考えることや作業が多く、想像以上に大変だった。
私はデザイナー役でしたが、一から配置を考えるのが難しかったです。 ただ、慣れてくればできそうだとも感じました。
デザイン一つで違う印象になるから。
色や位置やキャッチコピーなどを考えるのが難しかった。
どちらかというと簡単だった
グループのみんなのセンスが良すぎた。
友達同士だと意見を言い合いやすくて、どんどんアイデアが出た。
自分が好きなようにデザインして、人を喜ばせるために作れるから。

問11　午後のワークショップにおいて、グループ内での議論は活発だったと思いますか。



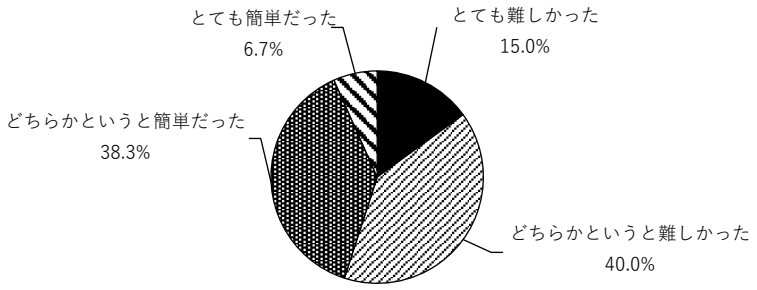
(n=60)

問12　午前のワークショップを通して、クリエイティブの仕事の流れやコミュニケーションの大切さについて理解できましたか。



(n=60)

問13　午後のプログラミング体験（p5.jsの実習）はどうでしたか。



（n=60）

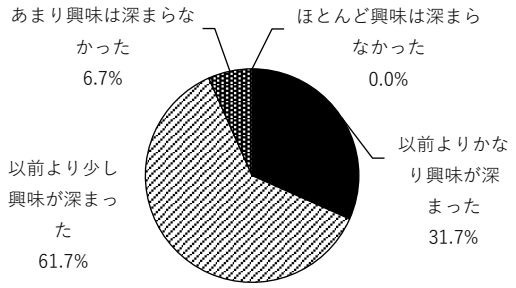
問14　問13のように思った理由を教えてください。

（一部抜粋）

とても難しかった
英語ばかりでどこがどのプログラミングかわからなくなった。
担当者の説明がとてもうまかったのでスムーズにできました。
プログラミングを初めてしたから難しかった。
数字を変えるだけで横に動いたり、動く速さが変わったりしてとても難しかった。
初めてのことでよくわからなかったから。
色んな用語などたくさん工夫しなければならなかった。
どちらかというと難しかった
いろんな単語があった。
難しい言葉ばかりだった。
見ながらじゃないとできない。
何か一つでもミスするとエラーになって難しかった。
まだ説明書があるから理解できたが、個人でやるとなった時に苦手な分野だと感じた。
初めてだった。
普段使わない言葉とか出てきた。
プログラミングのコマンドなど覚えることがあり、組み合わせることが難しかった。
色のコードが難しかった。
プログラミングは複雑だから。
どちらかというと簡単だった
操作が思ったより簡単だった。
説明がわかりやすく楽しむことができた。
文字を打つだけだったから。
教えてもらったことをしただけだから。
見ながらだったので簡単でした。
用語の意味はわからないのがあったけど、説明書通りにした後にY座標を追加して縦にも動かせた。
PCを触るのはもともと好きな方なので、とても楽しかったです。
関数を覚えたらだいたいできる。
迷わずすることができた。
基礎的なところだったので、思っていたよりも早くすることができた。

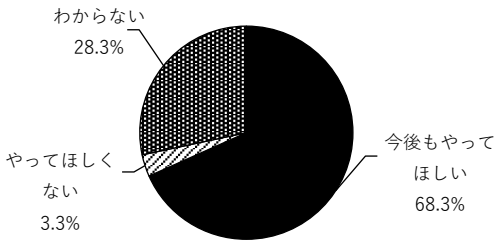
授業でやってるのとちょっとしか変わらなかった。
とても簡単だった
知らないこともあったが、それ以外はある程度知っている内容だった。
講師の方の説明が分かりやすかった。
分かりやすい資料と指示があった。

問15　午後のプログラミング体験を通して、プログラミングに対する興味は深まりましたか。



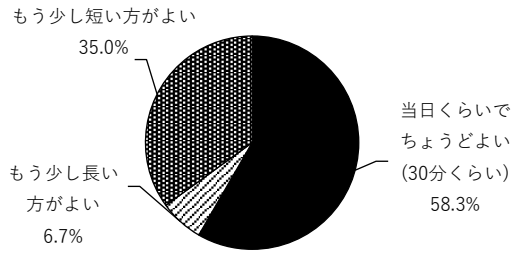
(n=60)

問16　企業や専門学校など外部の方による講座に対する要望について



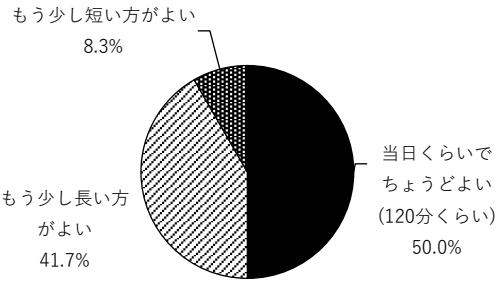
(n=60)

問17　午後の企業講話の時間について



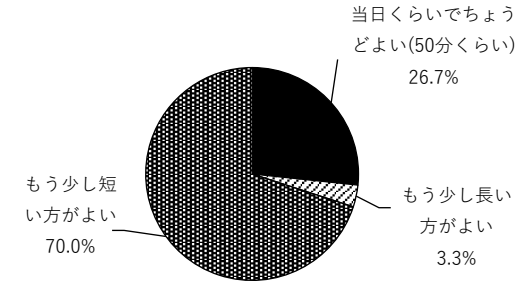
(n=60)

問18　午前のワークショップの時間について



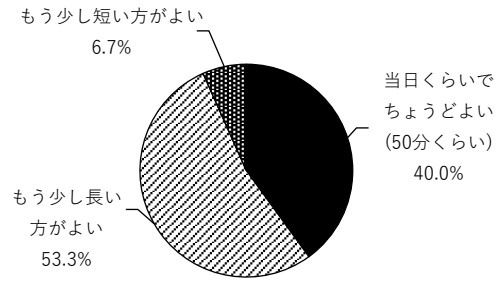
(n=60)

問19　午後の企業講話の時間について



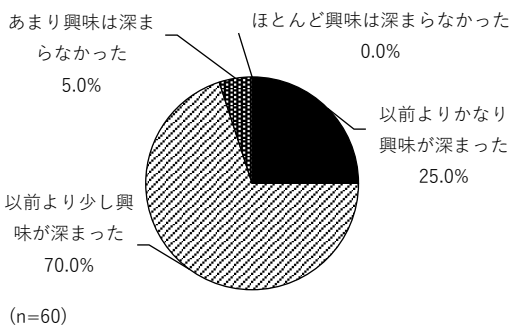
(n=60)

問20　午後のプログラミング体験の時間について



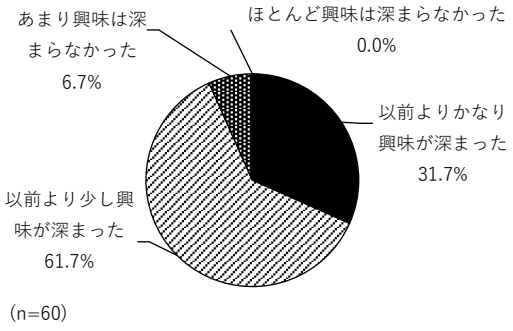
(n=60)

問21　午前の講座を通してWeb制作などのクリエイティブ業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



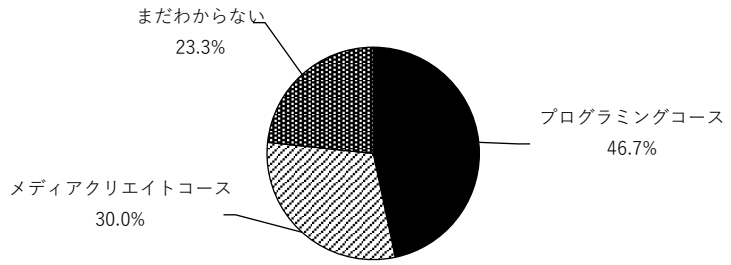
(n=60)

問22　午後の講座を通してIT業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=60)

問23　一日の講座全体を受講してみて、２年次にどちらのコースを選択したいと考えていますか。



(n=60)

問24　一日の講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

（一部抜粋）

とても楽しかったです。
自分の可能性を知ることができた。
普段体験できないことができて良かったです。
楽しかったのもあったけど、それ以上に難しかった。
みんなで協力して最後まで集中して取り組むことができました。
Web制作やプログラミングは何をするのか具体的に分からなかったけど、実際に体験してどんな事をするのかということや、大変なことなどを知ることができました。
クラスの人と協力して仲を深められて良かった。
午前はグループで協力してそれぞれの意見が取り入れられたと思います。思っていたより興味を引かれました。 午後は考えさせられる時間が多く、何にせよ良い学びができたと思います。 プログラミングはしてみたら楽しいですが、自分が学びたい分野とは少し違うなと感じました。
5限目の講話が難しかった。午前の活動は楽しかったし興味が深まった。
ワークショップもプログラミングもすごく難しかった。
なんでプログラミング体験は１時間だけだったんですか。もっと長い時間やってみたかったです。
ワークショップとか貴重な体験ができたから良かったと思う。
将来どの仕事に就いても使えるスキルなどが学べたのでとても良い経験になった。

中学と高校のプログラミングの差を知りました。
丁度コース選びに悩んでいる頃だったので、講座を通してそれぞれのコースの特徴がわかって、これからのコース選びなどに役に立ちそうなので、受けることができてよかったです。
すごくいい体験ができたと思いました。 初めての体験で少し時間を要したけれど、みんなで協力しながら楽しくできたので良かったです。
Webサイトやプログラミングをする際に上手くできるか心配しましたが、最後まで上手くできたので良かったです。
経済に関するお仕事を体験させてもらって少し力を与えてくれました。
やはり話を聞くよりも実習作業などで実際にやってみた方が理解は大きかった。 全体的に時間が無かったので、２日ほど掛けてもらえると助かります。
友達と協力しながら企画とかを進めるのが楽しかった。
PCを使うのが改めて楽しいと思いました。プログラミングが思っていたよりも簡単で楽しかったです。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）（実証講座①）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者・見学）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
WEB関係の仕事はデザインだけではなく、お客様のお悩みを聞き取り、課題解決に導けるホームページを提供することができるか、が大切であるという点を伝えたい。またディレクター、コピーライター、デザイナーなどチームで知恵を絞って力を合わせて作り上げる体験をしてもらうことが目的。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[企]	
今回は生徒数が多く教室が２部屋にまたがったため、ワークショップの指示が行き渡りづらかった時があった。時間的に全員が発表する時間が取れなかったことが改善点である。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[高・専]	
高校側としてはクリエイティブに興味を持ってもらう導入として良い内容だと感じております。生徒はまだ商業の学びを初めて２ヶ月ほどなので難しくなく、またアナログ形式も興味を持たせる上で良かったと感じます。今後の発展的な展開としては、一人１台端末をもっているので、それらを使用した時間もあると良いかと思いました。	高校
講話に関しては実際に商業高校出身の柳本社長の話は生徒に伝わりやすく、内容も良かったのではないかと思う。	高校 (見学)
ホームページ作成企画は、ある程度興味を持って取り組めたのではないか。	専門学校
前半のWeb業界やWeb関係の仕事に関する講話については、ご自身のWeb業界での起業の経験とインターネットに関する技術の変化などを交えながらの話でわかりやすかったと思う。 後半のワークショップについては、途中までの見学で発表までは見ることはできなかったが、ホームページ制作の企画・提案の段階の作業を複数のメンバーで協力しながら取り組む方法として、模造紙に書き込むという作業は現実的な方法であると思う。	専門学校
昨年度同様、企業講話＋ワークショップの説明＋ワーク＋発表＋講評という流れをさらにブラッシュアップされていたように思う。 生徒の皆さんは、ワークショップが始まるとグループごとに話し合いを行いながら、楽しそうにしているグループもあれば、難しそうに考えこんでいるグループもありながら作業を進めていた。 別の実証講座のため完成品を見ることができなくて残念だったが、難しい・大変だからこそ見えてく	専門学校

る楽しさも感じられる内容になっていると感じた。	

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[高・専]	
内容としては生徒たちも理解して取り組むことができた。	高校
適当だと思う。	高校(見学)
作成に取り掛かるのに少々時間が掛かったが、特に難易度が高い訳でもなく、取り組みやすい内容。	専門学校
前半の講話については、１年生にあわせてかなりわかりやすく説明されていてよかった。 インターネットの誕生から普及の歴史的な部分が、現在の高校生にとっては体験していない部分であるので、どのくらい理解できたのかは少し気になるところ。 ワークショップについては、説明も年々洗練されており、わかりやすかったと思う。１年生にとってワークショップでやることや役割などその場で聞いて、すぐ行動に移せるかどうか難しいところもあったと思うが、巡回指導などでフォローされていたのはよかった。	専門学校
レベルは例年同様で１年生にとっては難しくない内容ではあると思います。 難易度は高くないが、手順が多いので、ある程度書いてもらう内容は簡略化・固定化して、どれだけ作業時間・考える時間を作れるかのように思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当。	企業
紙媒体で作成するものに関しては適当な時間だといえる。また、実際にホームページを作成する時間があれば、さらに技術や興味関心につながりあると思われる。	高校
Webページの構成だけだとWebページ作成のおもしろさが伝わらないのではないかと思う。 実際に簡単なページを作成させるためにもコマ数を増やす必要があるのではないだろうか。	高校 (見学)
製作時間がもう少しあると良いが、講師の都合もあり、また間延びする可能性もあり仕方ないか。	専門学校
３コマの講座ではあるが、２クラス80人で16班あるとワークショップの発表・講評に約1コマ、ワークショップの説明に約0.5コマくらいはかかるので、講話の時間を除けば、実質的なワークショップの作業時間は1コマ程度となる。 そうしてみるとワークショップ部分はそれほど時間に余裕がないため、集中力がないとなかなか作業が仕上がらないのではないかと感じた。	専門学校
役割分担の話し合いの時間は事前に行っていただいていたため、ワークへの取り掛かりは早かったと思います。全体的に妥当かどうかは、途中退席のため判断は難しいです。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
人数を少なくするか、日程を分けるかしたほうが良い。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
グループで意見を交えながらオリジナルあふれるものが作品としてできあがることが良い点である。 工夫としては、事前に概要を説明し、自分たちが必要な道具なども追加で加えられたらよいかと思った。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
基本的には積極的に取り組んでもらえたと思うが、一部、参加が出来ていない生徒のフォローにまわる時間が取れなかった。	企業
友人と話し合いながらすることで、まだ馴染めていないクラスも仲が深まり、活発な意見の出し合いが見られた。内容もわかりやすく、生徒にとっては活動しやすかったと思われる。	高校

グループでそれぞれの役割を与えられていたので、積極的に取り組んでいる姿が多く見られた。	高校(見学)
アンケートからも、ホームページ作成、企画をある程度理解ができた様子が伺え、楽しそうに受講していた。	専門学校
昨年度より、落ち着いて取り組んでいる生徒（班）が多かったように見えた。 今回使用した教室が２部屋続きだが中央に少し壁があり見通しが悪く、講師の目が常に行き届いている状態ではなかったため、説明の時間帯など、生徒が集中力を欠く場面も少しあったように見えた。 アンケート結果をみると、自由記述の部分が昨年度より、しっかりした文章で書かれている回答が多いように感じた。 これについては、アンケートの方法が昨年度は１日に１講座の実施だったため、講座ごとにアンケートを行ったが、今回は午前にクリエイティブ系のこの講座、午後にシステム系の講座を行い、一日まとめて一本のアンケートとしたため、他の講座と比較しながら書きやすかったのかもしれない。	専門学校
講師が全員の生徒から見える位置にいるわけではないので、講師が見えないと少し集中力が削がれるような感じがしましたが、生徒さんは慣れているのか、モニターを注視し話は聞けているのかなと感じました。 ただ、ワークの工数・手数が多いため、「今することはこれだよ」と言われてはいるのですが、生徒がスピードについてきていない場面がありました。「理解できていなくて作業が遅れている」「他に興味があり別の作業をしている」「鉛筆書きはしているけど、清書して良いのかわからない」など、止まる理由はさまざまなので、随時フォローが必要だと思いました。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
事前打ち合わせがあったので、進行はスムーズに出来た。 教室が広くなったこととモニターの状況を現地視察しておけば良かったとは感じた。	企業
事前にオンラインにて打ち合わせ等もできていたこともあり事前準備にはゆとりがあった。	高校
事前にグループ分けをしてあったようなので、スムーズに始められていたように思う。	高校(見学)
３回目であり、準備、打合せともしっかり出来ている事が伺える。	専門学校
富島高校では昨年度に引き続きの実施であったため、スムーズに打ち合わせできた。 生徒の数が昨年度より少し増えたことで、班の数が増え、発表時間も伸びることが予想されたが、班分けや役割分担、ロゴマークの検討などを事前準備として、高校の先生から事前に行いたいとの申し出があり、通常の授業の中で行っていただいたのは非常によかった。	専門学校
打ち合わせで、人数の関係もあり事前授業で高校の先生の方で、役割分担を決めていただいておりましたが、具体的にどこまでされたかを確認が必要だったかなと思いました。	専門学校

④昨年度と比較してどうだったか	
やはり生徒が多かったことと、教室が２つに分かれており、１つのモニターを見せて説明することができなかったのが去年との大きな違いである。	企業
昨年と同じ内容ではあったが、年度により生徒たちの個性が発揮されていた。	高校
今回初めて見学させてもらったので、比較ができませんが、何年もされていてブラッシュアップされているとのことなので、例年良くなってるのだと思います。	高校 (見学)
今回が富島高校で３回目（３年度目）の実施で、説明の仕方やワークショップの進め方など、これまでに比べてスムーズでブラッシュアップされているのを実感できた。 高校の授業の中で事前作業を行っていただいたのは、当日の限られた時間の中で充実したワークショップを行う意味でも非常によかった。	専門学校
昨年度より比較的生徒のワークへの行動も早いように感じました。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
今後、私が担当せず、学校の先生でこの授業を行う場合は、もっとコマ数を増やして、時間をかけて課題作品を進めていける仕組みづくりが必要と思われる。	企業
実際にホームページ作成までいくと、さらなる興味関心が高まると感じた。	高校
企業の方々の負担を考えながら、継続させるためにはリモートや教員側の事前指導などを組み合わせるといいかもしれません。	高校 (見学)

２クラス同時は人数が多いので１クラスごとに実施できると目が届くと思われるが、高校側の時間の制約、講師の時間確保を考えると厳しいか。	専門学校
高校１年生対象で、クリエイティブ系の仕事を知ってもらう（体験する）ことを主な目的として行っているが、内容としてはホームページ制作の最初の部分の体験でもあるので、２年生、３年生の授業になるかもしれないが、ホームページ制作の授業とリンクできるとよいと思う。	専門学校
基本的な内容のため、継続的に行う内容としては全く問題ないです。 継続するための条件は、高校と企業との連携によるところが大きいと思います。 人材育成やキャリア教育・地域貢献といったところに、どこまで企業が余力を割けるのかというところで、そこには謝金の問題ももちろん出てくると思います。 無償でもしていただけるのか、もしくは高校側で予算がとれるのか、思いは一つでもそれを生業にする人にとっては長い目で見ての投資と捉えるか、お金を払ってでも受けさせたいのか、だからこその価値の創造になるように思います。行政・高校の予算について知りたいところです。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
毎回貴重な体験をさせていただき感謝いたします。 AIが進化しても、お客様の課題に真剣に寄り添い、解決を提案出来るスキルを持っていれば、必要とされる人材になれると思います。今後もその部分をどう伝えていけるか、このワークショップ内容をさらにブラッシュアップしていけたらと思います。	企業
会場が狭いので、できればパソコン室②部屋で活動したい。	高校
最後の得点集計は、Excelフォームを事前に準備しておくと早いのでは。 または、Google Formに評価を入力して集計しても良いかも。 事務局サイドの準備物への対応、お疲れ様でした。	専門学校
講師の柳本社長には、忙しい中、ブラッシュアップの工夫やワークショップで使用する写真素材の準備など、手作り感のある講座を毎回実施していただき、感謝申し上げます。	専門学校
今回、別の実証講座のため途中までしか拝見できず申し訳ありません。 高校側には、お忙しい中授業時間を確保いただき、ありがとうございました。 講師側には、毎年お忙しい中、ブラッシュアップされた内容をご提供いただきありがとうございました。講師のサポートをするために、高校の先生方と事前の流れを共有できるとカリキュラム化できる可能性もあるように感じました。	専門学校

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）（実証講座②―企業講話）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
業界の話に終始するのではなく、今の勉強を通して、自分の足で立ち、考えて生きる為の基礎作りであるということ。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[企]	
生徒の異なるレベル感に合わせて話をするというところ。時間配分等も含めてブラッシュアップしたい。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[高・専]	
勉強に対する意識を高めるための話は生徒もよく聞いていた。その中で、エンジニアの仕事やIT分野についての興味関心を高めるためには、高校時代の取り組みなど聞かせてもらえるとありがたいです。	高校
勉強の必要性について内容が中心で、IT分野に興味関心を持ってもらうという当初の目的を十分に達成することができなかったと思う。 また、高校生向けの授業としては不適切と思われる言葉がいくつかあった。	専門学校
講座の趣旨として、エンジニアかクリエイターかを選択するときに参考になる話を希望していたが、勉強の重要性に関することが中心で、エンジニアの仕事の話がほとんどなかったのは残念。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[高・専]	
講話形式でしたので、もう少し対話方式であればよかったと思います。	高校
IT分野に関する内容がほとんどなく、且つ概念的な話であったため、高校生にとってはイメージしていた内容と違って戸惑ったのではないかと思う。	専門学校
勉強の重要性は理解できるが、今回の目的にはあまり合っていないように感じた。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当。	企業
時間は妥当。内容の精選が必要かと思います。	高校
予定の50分を超えての講義であったが、要点を絞り切れていなかった感がある。	専門学校
今回の話の内容であれば50分は長い（一方通行の話で、興味をもつか疑問）。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
教室の広さと構造が、想像とだいぶ違っていた。時間があれば下見しても良かったかも。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　［高］	
人数に対して、場所の確保が非常に難しくご迷惑をおかけしたと思います。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
差が激しいと感じる。また、ホワイトボード等があれば、より具体的かつイメージで理解してもらう事ができたかもしれない。	企業
アンケートでも難しいなどの回答があり、講座中の反応もあまりない状況。	高校
午後の時間帯の授業で、資料やPowerPoint等もなく講義だけの内容であったため、生徒の集中力の維持が難しかったのではないかと思う。	専門学校
受講後のアンケートでも「難しかった」などの意見があったが、講義形式だったこともあり、講座中の反応は少ないように見受けられた。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
十分すぎるほど十分にできていたと思います。	企業
２年次のコース選択での参考としたく希望しました。事前の伝え方に問題があったと反省しております。次年度に生かしていきたいと思います。	高校
高校側からは、２年次のコース選択でシステム系を選ぶ生徒が少ないので、少しでも増えるような講座の依頼を受けていたが、期待に応える内容ではなかったため、本事業の実施主体である専門学校として、事前の打ち合わせ結果の確認・共有が不十分だったと思われる。来年度に向けて、事前打ち合わせのあり方については改善を図りたい。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
もし日程をずらして頂けるのであれば、自分の講師としてのスキルアップの為にも再度担当してみたいです。	企業
今回、うまくいかなかった事をブラッシュアップされて、生徒たちの未来にプラスであればお願いしたい。IT人材が減少していく中で、その重要性とコース選択に参考となるエンジニアなどの説明を入れてほしい。	高校
もしお願いする場合は、エンジニアの業界や仕事のことなどを中心にお願いしたい。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
事前にご担当の先生とは打ち合わせておりましたが、やはり生徒間の理解力のギャップについて悩ましいところだと感じました。岩村校長のおっしゃった通り、総論的な部分の話が大きすぎて、本来の主題と離れてしまった点があるので、来年度もし機会を頂けるのであれば、その点ブラッシュアップしたいと考えています。	企業
次回、講座をお願いするならばエンジニアの仕事についての講話お願いしたい。	高校
講義内容については、高校との事前のすり合わせが重要であるとあらためて感じた。	専門学校
次回、講座をお願いするならばエンジニアの仕事についての講話お願いしたい。	専門学校

ウ　意見の概要（高等学校、専門学校）（実証講座②―プログラミング体験）

設問①については、高等学校（受講者）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[専]	
高校１年生が対象でプログラミングの授業もまだ始まったばかりということで、まずはプログラミングのイメージを掴んでもらい、「プログラミングは難しくない」「プログラミングって面白い」とポジティブな印象を持ってもらうことを目的とした。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[専]	
受講生も多く、またPCとタブレットが混在した状況での講座であったため、限られた時間内でどこまで作業を進めることができるかを踏まえて構想を練るのがやや難しかった。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[高・専]	
非常に勉強になったと思います。短い時間でしたが、楽しそうに取り組んでいました。	高校
p5.jsを使って、円を描き円の色を塗り変え円を動かすというプログラミング体験であったが、１年生の初めという時期に適した内容であり、生徒たちは興味関心をもって臨んでいた。	専門学校（教員）
JavaScriptを使用した簡単なプログラミングのため、生徒も理解しやすい。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[高・専]	
非常に良かったと思います。	高校
プログラムを簡単に作ることができ、すぐに実行できてその結果をプレビューで見ることができるので、非常に分かりやすかった。	専門学校
特に問題ない。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
準備した内容を全て終えることができなかったため、もう少し時間があると良かった。 今回は時間が短かったこともあり、こちらから指示した通りにプログラミングするだけで終わってしまった。もう少し時間を確保して、受講者が自分たちで考えながらプログラムを作成するところまで取り組ませたかった。	専門学校（教員）
生徒たちの満足度は高いと感じた。	高校
前段の講義の関係で45分授業になってしまったため、予定していた最後の実習まで行かなかったが、生徒たちの満足度は高いと感じた。２コマあると更に充実した講座になると思う。	専門学校
１コマでは少々短い気がするが、ダラダラするよりも良かったかもしれない。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[専]	
今回は事前に依頼していなかったにも関わらず、たくさんの高校の先生方がサポートに入ってくださったおかげである程度スムーズに進行することができた。やはり受講者数が多い場合は、職員なり学生なりの補助をつけるのが好ましいと感じた。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
今回、場所が実践室ということで間に壁があり非常にやりづらさがあったと思います。人数に対しての場所の確保が難しいと感じました。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
みんなで相談し合ったりしながら楽しそうにプログラミングに取り組んでくれたと感じている。しかし上述した通り、今回は自分たちで考えながらプログラミングを作成するというところまで到達できなかったため、資料通りに入力するだけの単純作業となってしまい、物足りなく感じた受講生が多かったようである。	専門学校（講師）
生徒はプログラミングに対して苦手や難しいという意識を持っているため、簡単なところからはじめられて非常にわかりやすいと感じたと思います。	高校
会場が2つに分かれ、80名という生徒で実習状況の把握が難しい環境であったが、講座の初めに「分からない時はできた人が手助けしてほしい」という講師のコメントがあったため、自然発生的にペア学習が展開されていた。「プログラミングの楽しさ」「プログラミングは面白い」と感じる生徒が多くいたのではないかと思う。	専門学校
自分で操作して結果が表示されるので、楽しそうであった。 講師１人で80名近くを指導するのは厳しい状況であったが、高校の先生方からの援助があり良かった。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
今回は会場が特殊な形の教室であったため、事前に使用する教室のレイアウトもしくは写真をいただけるようお願いすると良かった。	専門学校（教員）
場所の確保が難しく、ご迷惑をおかけしたと思います。今後も場所には限りがあるため、タブレットなどを活用できる場所の問題を改善できると感じました。	高校
高校の先生方が６名ほどサポートしていただいたお陰で、厳しい教室環境の中でもスムーズに授業を展開することができた。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
実技・体験授業に関してはやはり人数が多いと実施が難しいと感じた。可能であれば受講生の上限を30～40名程度としていただけると有難い。	専門学校（教員）
今後はコマ数を増やして、１クラスずつの対象で実施すると、さらに充実した講座になると考える。	高校
2コマ、40人対象で実施すると、さらに充実した講座になると考える。	専門学校
環境整備（PCとタブレットの準備）が準備について高校側の協力があり、次年度以降も期待。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
今回は受講者が自分で考えてプログラムを作成し、自分の作成したプログラムが動いたという達成感を感じてもらうことを目標としていたが、そこに到達できなかった点が非常に残念であった。 また、これまでの分科会でも何度か意見として挙がっている「エラーが出たから難しく感じる」というコメントもアンケート中に幾つか見られるため、この辺りを如何にして解消してあげるかが課題だと再認識できた。 ただ、分科会での高校の先生方から「本事業に携わっている先生方に偏りがある」というご意見もある中で、今回は高校の多くの先生方にご参観いただいただけではなく、ご協力いただきながら講座を進めることができた点は大変有難かった。	専門学校（教員）
苦手意識が多い生徒が多い中で、苦手意識をなくすという目的に沿った内容であった。	高校
「プログラミングは難しい」「プログラミングは嫌い」と思う生徒をなくすという目的に沿った内容であり、１年生の最初の段階に適した講座内容であった。	専門学校

(4)　実証講座③：実施報告

○期日　令和７年７月15日（火）

○場所　旭化成(株）延岡支社　旭化成向陽倶楽部　会議室

○時間　1.5コマ　13:30～15:20

○対象　情報ソリューション科１年生２クラス74名

○授業形態　企業講話及び施設見学

○講師　ＡＪＳ株式会社　松本 麻子 様（開発Gr　グループ長）
堤内 孝 様（カスタマーサービス Gr　グループ長）
牛場 正敏 様（ネットワークサービス Gr）
大久保 綺女 様（カスタマーサービス Gr）
日髙 颯也 様（延岡 Gr）
富山 留衣 様（開発Gr）

○視察見学　宮崎県立宮崎商業高等学校　工藤 綾二 様（教諭）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）
川越 詩子、飯干 賢、尾崎 勝一、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

継続的な取組として、地元地域との連携を深める観点から、地元企業の見学を希望している。

また、IT企業に対しては、「常にパソコンに向かって仕事をしている」「忙しく、いわゆるブラックな職場である」といったイメージを持つ生徒も少なくない。特に1年生にとっては、IT企業で働くことが具体的にどのような仕事であるのか、将来像をイメージできる機会があることが望ましい。

本校では、2年生進級時に「ITシステムコース」「ITビジネスコース」に分かれるが、コース選択は１年生の９月に行われる。そのため、進路選択の参考とする目的から、コース選択前となる７月に本講座を実施している。

＜提案（企業）＞

会社概要について説明（旭化成の関連会社で、本社は東京で採用も基本、東京だが延岡での独自採用もある。延岡商業高校との関係ではこれまで出前授業など実施している。）

なお、今回は生徒の人数が多く、企業見学の受け入れとしては難しいところはあるが、将来的に地元採用につながる可能性等も考慮し、受け入れることとした。（一度に収容できるよう［旭化成向陽倶楽部］を確保）

IT企業はプログラミングなど仕事が難しくて、ハードルが高いイメージがあるが、実際にはお客様とのかかわりも多く、職種もいろいろある。難しいというような既存のイメージを払拭してもらい、進路の1つとして考えてもらえるようになるといい。

○内容：企業講話及びワークショップ

13：30～14：00　生徒移動（高校→会場）

14：00～14：15　①AJSの説明

14：15～14：25　②AJSの職場概要、職場紹介

14：25～15：20　③先輩社員からの説明＋Q＆A＋
［旭化成向陽倶楽部］の展示センターの見学

15：20～15：50　生徒移動（会場→高校）





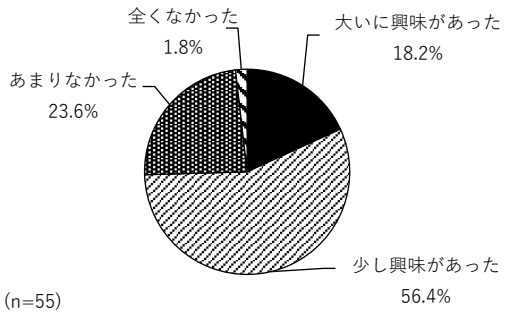





(5)　実証講座③：生徒アンケート及び意見の概要

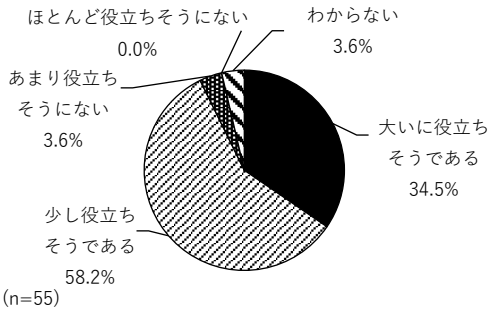
ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　もともとIT業界（情報通信業）に対して興味がありましたか。



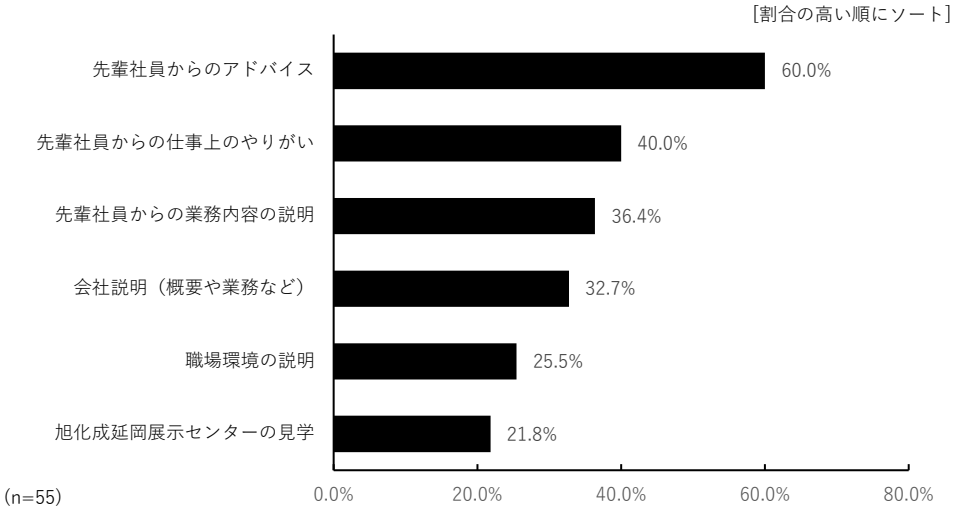
(n=55)

問２　講座全体を通して、今後の高校での学びや将来に役立ちそうですか。



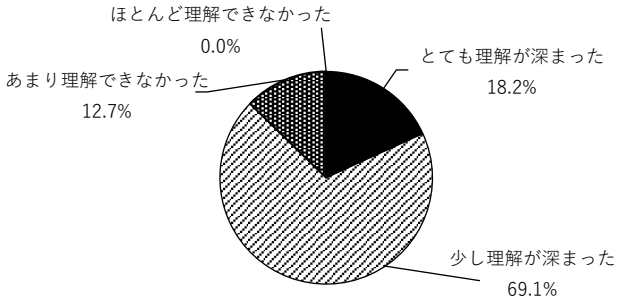
(n=55)

問３　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択】



(n=55)

問４　講座を通してIT業界やその仕事について理解できましたか。



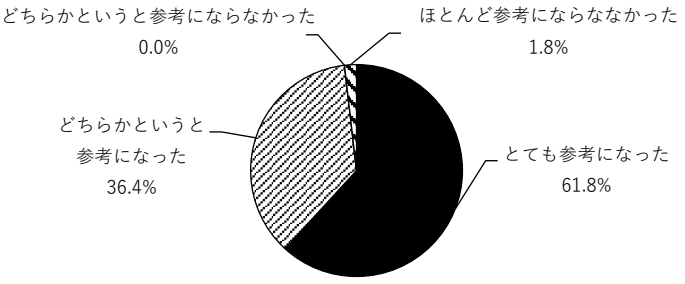
(n=55)

問５　問４で具体的によくわかったところ、またはよくわからなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
職場でのアドバイスがよくわかった。
全体的にわかりやすく、将来に役立てることができそうである。
それぞれの業務内容や会社のことなどがわかりました。
５大インフラや、高校のうちに意識しておいたほうが良いことなどがよく理解できた。
旭化成の人がどんなお仕事をしているのかよくわかりました。知識が増えてよかったです。
ヘルプデスクやインフラ系、システム運用保守などの聞き慣れない用語についての理解を、前よりもより深く知ることができました。
バッチ処理やリアルタイム処理の具体的なところ。
少し理解が深まった
ITの仕事は大変ということがわかった。
メモを残すことや人を頼ることが大切であることがわかった。
あまりIT系の仕事の詳しい内容を知らなかったけど、今回の講話で少し詳しくなった。
いろいろな種類があること。
仕事でもパソコンは絶対に使うから、今のうちからしっかり勉強をすること（Excel関数やPowerPointなど）。
パソコン作業だけではないということ。
その会社内だけでもいろいろなタイプの職種があることがわかった。
たくさん仕事があるんだなと思いました。
国内３万人以上の顧客からのパソコンの操作、不具合、セキュリティに対応していること。
IT業界でも人とのコミュニケーションなどをとることも大切なことがわかった。
今学校で学んでいることが大人になってからも、役に立つ事がわかりました。
IT関連の仕事ではいろんな種類があって、まだ詳しくはわからないけど、すごく興味を持てた。
あまり理解できなかった
話が難しかった。
どういうことをするのかがわからなかった。
仕事の内容や会社の説明が難しかった。
たまに出てくる専門用語がわからない時があった。

問６　先輩社員からの業務説明やアドバイスは参考になりましたか。



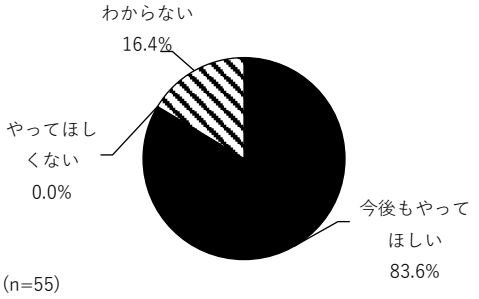
(n=55)

問７　問６で具体的に参考になったところや印象に残ったところがありましたらお教えください。

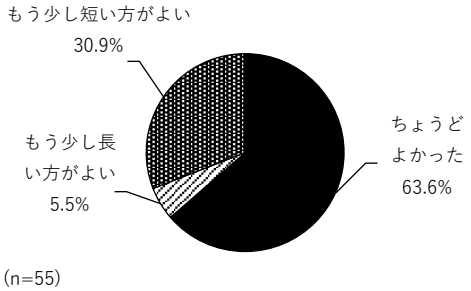
（一部抜粋）

とても参考になった
周りに流されないことが大切ということが多かった。
今学ぶことの大切さ。
やりがいや業務内容が印象に残った。
今授業で習っていることが役に立つことを知ったので、これからもっと勉強を頑張っていきたいと思いました。
将来付く仕事の参考になった。
コミュニケーション能力や、何事にもチャレンジすること。
メモをすること、先輩などを頼ること。
どういう仕事なのかを詳しく知ることができた。
コミュニケーションを大事にしてくださいとアドバイスがあったので頑張ろうと思えました。 先輩たちが学生時代にやっておいたほうが良かったなと思っていたことが具体的に知れてよかったです。
当たり前のことだけど勉強をしっかりすることで情報系だけじゃなく他の場面でも役に立つということが参考になったし、自分の心によく響きました。
方向性を決めることや、周りに流されない、自分から好奇心を持っていろんな分野に触れるなどの言葉が印象に残った。
先輩社員さんたちからのアドバイスで、チャレンジすることやコミュ力が必要と言われていて今のうちから簡単にできることもあるので、しっかり将来のためにも身につけておきたいです。
プログラミングのこと。
どちらかというと参考になった
頑張ったこと。
ITにも色んな種類があることにびっくりした。
やりがい。
アドバイスで勉強を頑張ると言われて、改めて頑張ろうと思った。
情報で知らない仕事も知ることができて、印象に残った。
Excel関数は覚えとくといいということ。
他人と協力することが大切。
違う業務や職でもコミュニケーション能力がとても大切ということが印象に残りました。
分からないときは一人で悩まないで、周りの人を頼ること。

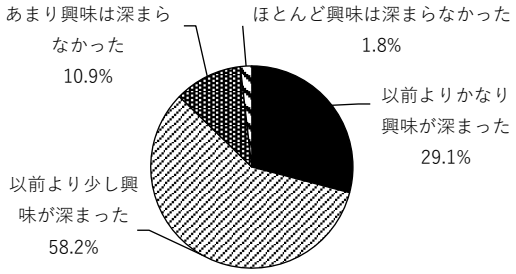
問8　企業や外部の方による講座に対する要望について



問9　講座全体の時間について

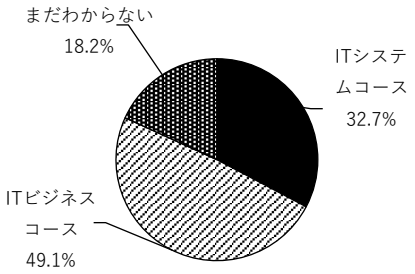


問10　講座を通してIT業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=55)

問11　講座を受講してみて、２年次にどちらのコースを選択したいと考えていますか。



(n=55)

問12　講座を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

(一部抜粋)

行ってよかった。
仕事内容などがわかって、とてもよかったです。
見学がとても楽しかったけど、話を聞く部屋がとても寒かった。
将来のために検定などを取ろうと思った。
講座を聞いて今後自分の進路や、就職先など参考になりました。
ITについて詳しく理解することができたと思う。アドバイスも役に立った。
やりがいやアドバイスがとても丁寧だったので理解しやすかったし、とても参考になりました。
講座を通して少しでも興味があるものを知れたのはすごくよかった。知りたかったことについても知れたし、新しい発見もあった。またしてほしい。
もう少し詳しく知って、こういう仕事に就いてみたいです。
僕はパソコン系に興味があり、将来はIT系の仕事に就こうと思っていたけれど、実際どんな感じの仕事があるかなどは全然わかっていなかったため、今回の講話はかなり役に立った。
とてもためになって、いい話だった。
話が聞け、製品とかも見られて楽しかったです。
講座をしていただきありがとうございました。たくさんの部署の紹介をしてくださりとても面白かったです。また、延岡商業高校を卒業された方たちもいて進路の幅も広がり、参考になりました。私はメモを取ったり、スケジュール管理が苦手なので、高校生のうちに習慣化できるように頑張ります。
ビジネスとシステムの仕事の違いを理解することができてとても勉強になった。
できれば職場も見てみたかったです。
外部への講話を増やして欲しい。
この仕事をしていて一番良かったと思うことを知りたいです。
講座を通してIT業界にはどのような職業があるのか、どのような事が大切かよくわかりました。また、講座を通してIT業界ではコミュニケーション能力がとても大切だということが改めてわかったので、これからの学校生活で活かしていこうと思いました。
今回の講話でいろんなことがわかりました。 自分は今プログラマーになりたいと思っているので、講話で学んだことをしっかり活かして行きたいです。
AJSの職員が今まで一番やりがいを感じたことが何か、今の仕事は楽しいのか、大変なのか知りたいなと思いました。
もっといろんな職種に触れてみたい。
IT企業の人達がどんなふうに働いてるかが分かってよかったです。
先日は、私たちのために貴重な話をしていただきありがとうございました。

私は、去年も中学校でAJSさんに行って、ドローンのプログラミング体験をさせていただきました。私は、もともとIT関係の仕事に興味があり、今回の講話を聞いてさらに知識が深まりました。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者・見学）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［高・専］	
講座に入る前に、会の主旨説明を入れると、生徒の理解が深まったのではと感じた。	高校
県北地区で赴任していた頃は、毎年１～２名、AJS様から内定をもらっていたが、実際に職場環境や入社してからの希望を汲んでいただき、各部署に配属されることなど知らないことが知れて、良い機会であった。 私たち教員が知ることで、今後、生徒たちの進路指導に活かすことができる内容であったように思う。	高校 （見学）
若手で、地元高校出身の社員を何人も起用してのプレゼンで、高校１年生に向けて、AJSの仕事が何なのか、高校生に伝えたいことなど、その内容が工夫されていた。 専門用語が多く使われていて、高校１年生にとって初見では理解が厳しかったようだ。また、数名の発表者の発表内容も似ていたため変化に乏しかった。 その後の、教頭の解説を加えた時間つなぎの内容が良かった。	専門学校
会社の概要説明、職場環境、５人の若手社員からの業務説明とアドバイスなど、話が5～10分程度の内容に分かれていたので、高校生も飽きずに聞きやすかったのではないか。 個別の業務内容を5人の若手社員の方に説明していただくとともに、高校生へのアドバイスや業務を通じての学びなど、高校生が知りたいようなことを話していただいたのは非常によかった。 若手社員の方の話を聞ける折角の機会であったが、高校生から質問が出なかったのは少し残念であった。まだ１年生のため、進路のことが自分ごとになっていないのかもしれないが、高校の先生にサポートしてもらうなど質問を引き出すような雰囲気づくりが必要だったかもしれない。 生徒から質問がなかったこともあり、時間にも余裕があったため、企業の方による話が終わったあと、15分ほど教頭先生から、アドリブだと思うが講座内容の振り返りと生徒に向けての総括のような感じで話があった。これまでの企業による実証講座では、最初から最後まで企業の方におまかせする形であったため、新鮮な感じがした。 授業としての話し方や進行は企業の方より、先生方のほうが慣れてらっしゃる場合も多いので、高校の先生と企業の方が協力しながら講座を進める方法も、企業の方が講師となるハードルを下げ、高校生にわかりやすく伝えるという意味では、有効な方法の１つではないか。	専門学校
企業全体の業務内容や勤務情報に加え、実際に現場で活躍する若手社員の方々からは、自分の部署で日常的に行っている業務や、具体的に自身が担当している仕事内容の紹介がありました。 また、各部署の若手社員の方から、就職したきっかけや学生時代にやっておくと良いこと。メモを取ることの重要性、勉強は学校だけでなく社会に出て働くときに必要な癖（習慣）づけの訓練である、コースを選択していく生徒が進路を決めていく中で、周りに流されて決めてしまう、あとで自分が辛くなるので考えて決めることの大切さなどのアドバイスは、同じテーマでも配属部署ごとに異なる視点からの話を聞くことができ、大変参考になったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［高・専］	
若手社員の説明で専門用語がいくつかありわからないところはあったが、話して頂いた内容は今後の高校生活を送る上でとても参考になる内容であった。	高校
１年生には少し難しい内容かもしれない。２年生ぐらいだと新入社員の方々話されている内容が少し理解できると思った。	高校 （見学）
１年生にはちょっと高度な話もあったかなという印象です。もう少し、高校１年生目線でのお話（自分が高校生の時に何を意識して勉強したか、将来を考えるにあたって何を参考にしたか、など。）や、かみ砕いた会社の話（おそらく今回の会社概要の説明などは、高校２年生や大学生向けだったので	専門学校

は？）があれば良かったなと思います。	
専門用語が多く使われていて、高校１年生にとって初見では理解が厳しかったようだ。また、数名の発表者の発表内容も似ていたため変化に乏しかった。 意味の分からない単語が２～３あると、内容が把握しづらいものとなるので、専門用語を使うことは仕方ないことだが、その用語の簡単な説明を都度付け加えて説明すればよいのではないか。	専門学校
業務内容の説明ではITに関する専門的な用語も出てきたため、高校２年生、３年生であれば問題なかったかもしれないが、１年生にとってはまだ勉強していない用語があったのではないかと思う。	専門学校
内容が非常に良いため、高校１年生のこの時期の生徒にとって、説明された専門用語を理解できているのか少し疑問に感じました。授業の進捗状況を確認しておくとさらに充実した内容になると思いますので、今後の課題かと思います。 最後に教頭先生が補足されていましたが、この問いかけが各プレゼンターとの間にあると、生徒の理解度が上がるように感じました。 専門用語はどうしても出てくるので、事前にこういった用語が出てくるから事前に調べておく。もしくは、メモをし、学校や自宅で調べるなどということは必要に思います。しかし、知らないと頭に入ってこないということもあるので、前者の方がより理解力を深めるために良いと感じました。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
今回の目的が将来の職業観育成かと思うので、１コマで妥当。	高校
妥当だと思います。	高校(見学)
妥当だったと思います。	専門学校
AJSの説明としては早く終わりすぎていた。内容の量的な部分を精査して欲しい。	専門学校
今回は高校生が企業に出向くかたちの講座であったため、移動時間の関係もあり、もともと１時間～１時間半程度が確保可能な時間数であった。それにあわせて、構成してあり、話中心の講座としては、妥当な長さであった。	専門学校
企業講話に加えて展示ブースの見学も組み合わせていただいたため、時間は妥当だと思います。 また、企業講話について私はやや物足りないように感じましたが、足りないくらいの方が余裕もあり妥当だと思いました。	専門学校

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
最後に高校職員でまとめさせていただいたが、まとめや講評的なものがあった方が良いと感じた。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
アンケートから将来に対して前向きにとらえるきっかけとなったと思われる回答が見られた。 ・将来に役立ちそうかの質問に「大いに役立ちそう」「少し役立ちそう」合計が92.7% ・記述式「今学校で学んでいることが大人になってからも役立つことがわかった。「私はメモしたりスケジュール管理が苦手なので高校生のうちに習慣化できるように頑張ります」など	高校
メモをしている生徒も見受けられて集中して聞いている生徒は多かったように思う。	高校 (見学)
寝ている生徒もいれば、熱心にメモをとっていう生徒もいて、温度差はあるのかなと思いました。質問が全く出なかったことを考えると、生徒側が事前にAJSという企業について調べる、質問を用意しておく、などの時間をとるべきだったのかなと感じました。 教頭先生がまとめて質問するというのは、生徒は楽かもしれませんが、ちょっと工夫がいる気がしました。	専門学校
内容が把握しづらく、また発表者の内容も似ていたため変化に乏しく、生徒も反応しづらかったのではないか。	専門学校
全体的に落ち着いてまじめに聞いていた感じ。何人かメモをとっていた生徒もおり、IT業界に興味関心が高い生徒もいるように見受けられた。 アンケート結果をみると、若手社員の話が最も印象に残っているようなので、講師の方の話だけでなく、可能であれば、今後も若手社員の方にも参加していただけるとありがたい。	専門学校

コメントは１年生としてはしっかり書いている生徒が多かったように感じたため、それだけ講座の内容が印象に残ったのではないか。	
生徒は積極的にメモを取っており、クラスの指導方針による影響もあるとは思いますが、その行為が吸収しようという意欲の現れと捉えることもでき、良い印象を持ちました。 また、生徒が具体的にどの話に興味を持ったかを明確に判断することは難しいですが、後ろから様子を見ていて、メモをする手や頭の動きなどから、卒業生の方のお話の際は全体的に生徒たちが熱心に耳を傾けていたように感じました。逆に少し難しいサーバーの話になると、動きが鈍くなっていたので、理解できているのかな？、難しいのかな？、と感じた部分ではありました。 複数のプレゼンターが登場することで、部署の多様性や企業内での多彩な業務内容を視覚的に理解できたことや、年齢が近い若手社員から直接アドバイスを受けられたことは、生徒にとって貴重な機会になったと思います。 最後に設けられた展示ブースの見学については、視覚、触覚など五感を使って企業のことを直接感じることができ、生徒も楽しそうに取り組んでいました。 なお、見学を最初に実施し、まず旭化成の概要を理解した後に講話を聞く流れでも良いと感じました。 また事前に旭化成やAJSについてグループワークなどで予備知識を深めておくと、生徒の理解度がさらに高まったのではないでしょうか。 今回、事前授業があったかは不明ですが、講座後でも生徒が自ら企業について調べるきっかけになれば、今回の実証講座の効果は十分あったと感じます。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
当日の進行の打ち合わせが必要だった（主催者または学校側の主旨説明があった方がよかった）。	高校
延岡商業の教頭先生が気を利かせて、まとめてくださったので良かったと思うが、各分野ごとに、質問する生徒を準備しておいた方が良かったように思う。	高校 (見学)
AJS側は、延商の卒業生を含め、高卒で就職した職員を複数、プレゼンターにしてくださるなど、配慮があったと思います。 プレゼン能力や会話力に差があったので、もう少し年配の職員でも高校生の興味を引いたり、質問を引き出す努力ができる方が何人かいると良かったかなと思いました。	専門学校
AJS様には、文科省の委託事業の中で実証講座をお願いするのは今回が初めてであったが、対面とオンラインの計２回の打ち合わせをさせていただいた。 ５月の末頃にお願いをして、７月15日の実施で時間的な余裕があまりなかったため、講座内容（構成）の確認までで、講座資料を事前にいただくことまではしなかったが、１年生向けに目的に沿った内容で実施していただき、問題はなかった。 しいて言えば、若手社員とのQ＆Aの際に、生徒から質問がなかった場合の対応を打ち合わせておけば、より充実した内容になったかもしれない。	専門学校
事前打合せには参加していないため詳細はわかりませんが、会場設定にはじまり、プレゼンターの社員選定、資料作成など、会社全体で多くのご尽力をいただき、丁寧に取り組んでいただいたことが随所に感じられました。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
今回、１年生のシステム系職業に対する職業観を養成する為、２クラスによる企業訪問を無理にお願いした経緯がある。本校生徒は２年生からシステムとビジネスのコースを選択するため必要な内容であるが、学校で実施し、２つのコースに関わる企業の方をお呼びするのも良いかと思います。	高校
AJS様が引き受けて頂けるのであれば、年に１回の実施は継続していけると思うが、生徒達のバス代をどこから捻出するかが課題だと考える。しかし、自己負担でもいい内容だと思う。	高校 (見学)
高校生側の事前準備や、企業側へのリクエスト（コミュニケーション力の高い社員希望、など）が必要になってくるのではないかと思いました。	専門学校
AJS様は昨年度、宮崎県情報産業協会を通して、企業見学の受け入れが可能かどうか照会させていただいた中で、ある程度の人数は受入可能とのことだったため、今回、初めて実証講座の実施をお願いした。 ただし、実施に向けて打ち合わせる中で、１年生が２クラスで80人近くとなることからAJS様の会議室では受け入れが難しいこと、また、社内見学もセキュリティの関係等で難しいこと等の課題も明らかになった。会場については、AJS様のご厚意で会社のすぐ近くの旭化成向陽倶楽部を会場として確保していただき、生徒全員が一度に入る会場で実施することができた。 高校生が企業に出向くかたちでの講座は、企業や場所の条件が揃わないとなかなか難しいことをあらためて実感した。	専門学校

講座の内容自体は非常によかったので、やはり高校生が企業に出向いてのやり方が難しい場合は、企業の方が高校に出向くかたちで継続してもいいのではないかと考える。	
初めての場所で、自主的に大勢の前で意見を発表するのは緊張もしますし、勇気も必要かもしれません。しかし、これをグループワークの一環と捉え、事前に質問事項を考えて発表に臨むという姿勢も大切だと感じました。事前準備を行うことは、受け入れてくださった方々への感謝の気持ちを示すことにもなります。また、学校や生徒にとっては、意欲をアピールできる良い機会でもあるため、長期的な視点で見ると、企業講話時の一種のマナーとして昔ながらの対応を取り入れることも必要なのかもしれません。 プレゼンターの説明が統一されていたため、メモを取りやすいとも感じました。 打ち合わせ段階で、講義資料の事前確認をし、高校側や企業側が「この内容は補足説明が必要だ」「ここで生徒に問いかけを入れる方が理解しやすい」など、進行のすり合わせができると、生徒がより理解しやすく、企業の業務の魅力をより深く伝えることができたのかと思いました。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
AJSの皆様には、講話の準備から会場設営までご尽力いただき大変感謝しております。今後、他学年でもお世話になる機会がございますので、引き続きご支援等いただければ幸いです。	高校
実際にIT系の仕事に就いている人達の話しを聞くことで、プログラミングや国家試験などのレベルを学習していなくてもさまざまな部署があり、個々の能力を活かせる仕事があるということは、私たちが話して聞かせるよりも生徒たちには伝わると言うことを改めて再認識できた。	専門学校
今回は、生徒の人数が多く、会社を訪問する形での実施が通常では難しい中、社内での調整や会社近くでの別会場の確保など、実施に向けてご尽力いただいたことに感謝申し上げます。 高校としては企業による実際の仕事のお話や就職先としての可能性、企業としては将来的には地元採用につながる可能性など、お互いの目的が合致するような面があったのもうまくいった要因の１つなのではないか。 今年度の１年生向けの実証講座を検討しはじめた段階では、分科会に参加いただいている先生が３年生の担任で多忙なため、今年度の実施は難しいという話であったが、最終的には校長先生が生徒のための学びの機会ということで、実施を判断され、打ち合わせなどの対応は教頭先生にご協力いただいた。 分科会に参加いただいている先生以外の方が窓口となって実証講座を実施したのは今回が初めてで、分科会の先生だけにまかせるのではなく、学校全体で取り組むかたちの1つのモデルになるといいと思う。 今回の富島高校、延岡商業高校の実証講座については、他の高校の先生からも見学希望があり、見学していただいたが、自分の高校の参考にしたいということもあったようで、お互いの実証講座を見て、意見交換の機会が広がるといいと思う。	専門学校
今までの印象として、その場でのＱ＆Ａはやや難易度が高いカテゴリーだと個人的に感じています。 生徒にとっては、事前準備があれば質問内容をあらかじめ考えたり調べたりといった時間を確保できますが、特に準備がないまま当日の話を聞いた中で疑問点を即座に言葉にするのは、考えをまとめる時間が足りないため難しいですし、「こんな質問をしてもよいのか」と慎重になってしまう生徒もいるかもしれません。 一方、講師の側にとって「やった甲斐があった」ということにもつながると思いますので、進行を企業・教員と連携していくと、より深い学びに繋がるのではないかと思います。 この度は、貴重なお時間を頂戴し、たくさんの社員様に多くの生徒へ業務紹介のための資料準備からプレゼン準備、会場確保など、ご尽力をいただき誠にありがとうございました。	専門学校

3　システム系・クリエイティブ系に関する実証講座の実施報告・検証

(6)　実証講座④・⑤：実施報告

○期日　令和７年11月５日（水）・６日（木）

○場所　株式会社デンサン（宮崎市大字赤江字飛江田224番地）
　　株式会社クラフ（宮崎市老松２丁目２－22 JR宮交ツインビル10階）

○時間　各１コマ　Aグループ　9:15～10:15　株式会社デンサン
　　10:45～11:45　株式会社クラフ
　　Bグループ　9:30～10:30　株式会社クラフ
　　11:00～12:00　株式会社デンサン

○対象　１日目：情報ソリューション科　１年生２クラス80名
　　２日目：情報ソリューション科　２年生２クラス80名

○授業形態　企業講話および企業内見学（企業に出向くかたち）

○講師　株式会社デンサン　田中 啓一朗 様（総務部 部長）
　　株式会社クラフ　宮本 佳奈 様（広報）

○事務局　学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校
　　デンサン様：岩村 聡志、川越 浩一、クラフ様：前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

昨年度はネットワーク分野の実証講座を実施したが、本年度は企業見学を通して、宮崎県内にIT企業があることや、実際にどのような環境で働いているのかを生徒に知ってもらいたいと考えた。また、実際に職場を見学し、従業員から直接話を聞くことで、生徒の勤労観や就労意識の向上につなげることを目的としている。

＜提案（企業）＞

学校側の意向を踏まえ、企業見学を通して職場環境や業務内容を生徒に伝えることは有意義であるとの認識で、企業2社の意見は一致した。

一方で、見学内容については、企業紹介や業務説明を中心としたオープンカンパニー的な内容とするのか、あるいは専門的な業務内容まで踏み込むのかを事前に明確にする必要があるとの意見が出された。また、2社を見学することから、それぞれの企業の特色や違いが生徒に分かるよう、見学内容に工夫を持たせることが望ましいとの提案があった。

○内　　容：企業講話および企業内見学

【株式会社デンサン様】

①会社説明（概要や業務など）
②IT業界について
③開発アプリやシステム紹介
④AIの活用紹介
⑤社内見学





【株式会社クラフ様】

①会社説明（概要や業務・働き方）
②IT業界について
③セキュリティについて
④情報セキュリティの市場規模
⑤サイバーセキュリティの脅威・格差
⑥ホワイトハッカーの業務内容紹介（パスワード等のチェックなど）
⑦アナリストの業務内容体験（アラートの内容・よく見ている部分など）
⑧社会見学

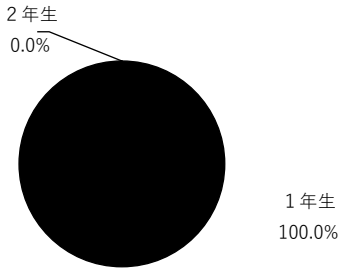




(7)　実証講座④・⑤：生徒アンケート及び意見の概要

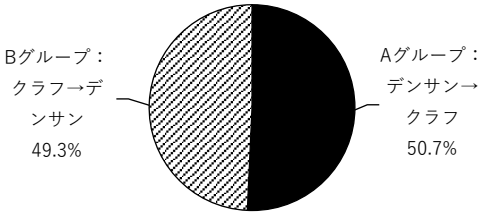
ア　生徒アンケート結果（単純集計）（1 日目：１年生）

問１　学年を教えてください。



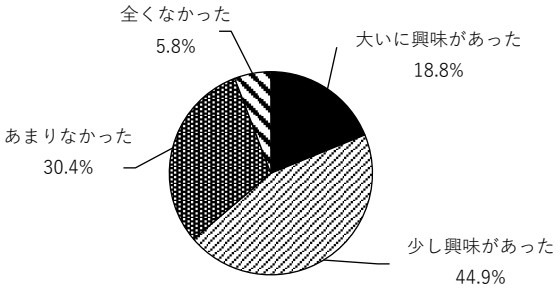
(n=69)

問２　当日の行程を教えてください。



(n=69)

問３　もともとIT業界（情報通信業）に対して興味がありましたか。



(n=69)

問４　IT業界（情報通信業）に対して、どういうイメージを持っていましたか。もしくは、どの程度知っていましたか。

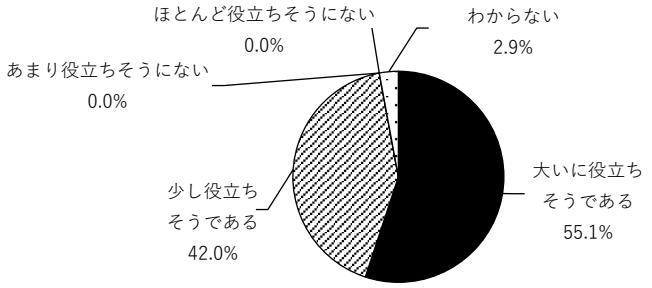
（一部抜粋）

「難しそう」というイメージ
難しそう。
専門的なことができないといけない。難しい。
とても難しい。パソコンを主に使う仕事。
難しそうで、そこまで情報通信業について知らなかった。
いろんなプログラムとか使ってたから難しそうだと思った。
プログラミングができないとその仕事はできない。面白くなさそう。難しそう。
難しそうな作業や内容だと思っていた。
難しそう、いつもパソコンと向き合っていそう。
難しいことを学んだ人が難しいことをしている。
難しそうなイメージ、システムだけを開発する。
デスクワークで興味はあるけど、とても難しそう。
さまざまな情報を扱っていて、専門的な知識が必要で難しそうな業界。
「パソコンと使う／ずっとパソコン」というイメージ
ずっとパソコン触っていて疲れそう。
パソコンを使って仕事する。

パソコンを使って難しい作業をする。
パソコンでプログラミングの作業をやるものだと思っていた。
ひたすらパソコンを打つ仕事。プログラミングを使う。
パソコンを中心に仕事をする業界。
パソコンなどをつかった職業。
PCを使いIT系の仕事をする。
デスクワーク。
ずっとパソコンに張り付いている。
パソコンをずっと使っていて会話などもメールで行う。
「プログラミング・技術・専門性」のイメージ
プログラミングをして開発する仕事。
プログラミングなど難しい技術を使っていて、高度な技術が必要な仕事だと思っていた。
難しいプログラムとか言葉とかが多くて、慣れるのが難しい。
パソコンをよく知ってないとできない仕事。さまざまな情報を扱う仕事。
パソコンの技術が絶対必要になる。
情報やコンピューターについて詳しい人が多い。
情報処理技術やセキュリティなどを取り扱う企業。
けっこう頭を使う職業なのかなと思っていて、情報通信業に関する資格を多く持っていたほうがいいのかなと思っていた。
さまざまな情報を扱っていて、専門的な知識が必要で難しそうな業界。
「AI・最先端」のイメージ
AI作成。
AIなどを利用して仕事をしている。
最先端なイメージ、基本的にパソコンで仕事をするなど。
AIを活用したりしながらプログラムの添削や、色々な家電などに組み入れるプログラムを組んだりすることは知っていた。
「よく知らなかった／わからなかった」というイメージ
何もわからない。
あまり知らなかった。
少しのミスも許されない硬い環境のイメージ。特に何も知らなかった。
才能のある人が行くところで、何をしているのかはよくわからなかった。
「一人作業・コミュニケーションが少なそう」なイメージ
情報特化型でコミュニケーションが少なそう。
一人でパソコンに向かって黙々と作業をする仕事。
「きつそう・大変そう」のイメージ
きつそう。
仕事の種類と量が多そうだと思っていた。
入るのが難しい会社。
「インターネット・社会を支える仕事」のイメージ
インターネットを利用した職業。
インターネットを使って人々が暮らしやすい街にすること。
専門性の高い業界でパソコンを使って世の中をアシストする業態。

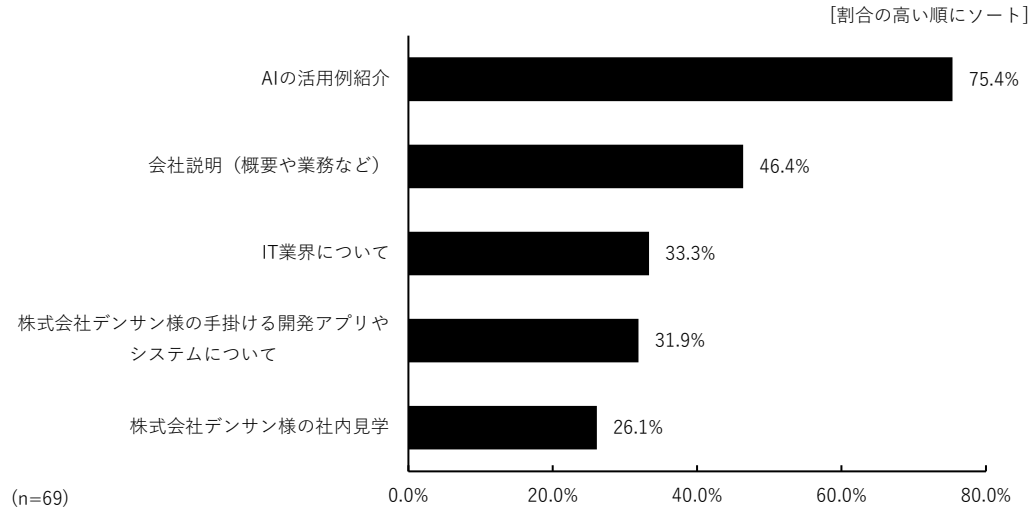
ただ具体的にパソコンを使って何をするかはわからなかった。
「その他（やや具体的なイメージ）」
パソコンでウイルスを除去したり、情報を取り扱ったりする難しいイメージ。
アプリを作ったりパソコンで作業をしたりする仕事。

問５　講座全体を通して、今後の高校での学びや将来に役立ちそうですか。



（n=69）

問６　株式会社デンサン様（宮崎空港付近）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



(n=69)

問７　問６（デンサン様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

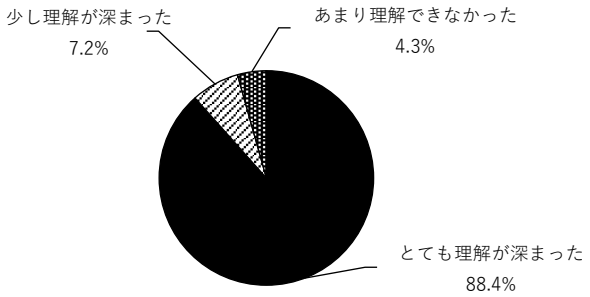
（一部抜粋）

AIの活用・種類・使い方がよくわかった（AI全般）
AIの種類についてよく分かりました。
AIについて少しだけ知ることができた。
AIなどの使い方がわかった。
AIを使えば短い時間でいろいろなことができる。
AIを使ってさまざまなアプリが製作できることや、IT関係以外の仕事の人も助けることができるということ。
生成AIでChatGPTは知ってたけど、ほかのものも知れてよかった。

AIの活用例紹介のところが分かりやすかったし、AIを使っていきたいと思った。
AI技術についての話が興味深かった。
AIがどんなものに使われているかが知れました。
AIの活用例の箇所がよく分かりました。
AIを活用したアプリでさまざまなことができると知った。
AIの使い方をもっと詳しく知れてよかったし、丁寧な説明だったので分かりやすかったです。
AIを使った具体例（ゲーム・漫才・アプリ等）が印象に残った
AIを使って自分たちでゲームが作れてすごいと思いました。
AIを使ってどのようなことをどんなふうにしているのか実際に見て感じることができました。
AIで漫才やゲームを短時間で作ることができることがわかった。
複数のAIを使ってゲームを作ったり、都商をミルクボーイ風に紹介したりなど、AIの使い方が参考になりました。
AIで作ったゲームをしたり、学校紹介をホームページから短縮して、芸人さんの声で呼んでくれたりなど、人の手ではできないことを紹介してくれた。
アプリ開発・システム開発の理解
開発アプリやシステムについてよくわかった。
オリジナルのアプリを作ったりする。
アプリ開発をしていたり、AIが身の回りのある活用をしている。
AIの活用方法や開発しているアプリについて理解できた。
宮崎で一番初めのIT企業だということとアプリ開発だけではなくて、AIを使って仕事をしているということ。
社内見学・職場環境・雰囲気がよくわかった
社内見学でどのように働いているのか、どんな職場環境なのかが詳しくわかりました。
社内の様子などがよくわかった。
各部署でどのような仕事をしているのかがよくわかった。
会社のことや社内の雰囲気などよくわかった。
実際に仕事の風景も見させてもらえたりしたので分かりやすくて、少し興味が湧いた。
AIを活用したアプリでさまざまなことができると知った。
デンサン様ではAIの活用例や社内見学などいろいろ参考になるところがたくさんありました。 ほかにもお話していただいてる中で、どんなふうに取り組んでいるのかなどもよくわかりました。
社内の様子やAIのさまざまな活用法が参考になった。
AIの活用方法や、職場が色々な意味で暖かくて素敵なところだと思いました。
会社理解（事業内容・歴史・地元性・規模など）
会社のやっている仕事やイベント。
歴史が長く、地元に根付いていて、地元のための活動も行っていることを知って興味が湧いた。
IT業界と一括りで言っても、さまざまな分野があって、日本の現在のIT業界の状況を知ることができた。（規模や業界に携わっている人数など）
説明を聞いて会社の人は何人いらっしゃるのか、どういうお仕事をするのかなどがわかりました。
仕事の内容や、どういう人がなれるのかわかった。
IT業界の仕事に就く際に仕事の内容などを参考に、どのような仕事が行われているのかを知ることができた。
AIの発達がとても進んでいて情報セキュリティの人材が不足していること、同じ会社でも部署ごとにやっていることが違って、テレワークをうまく活用してよい職場環境。
説明・進行・工夫に関する感想

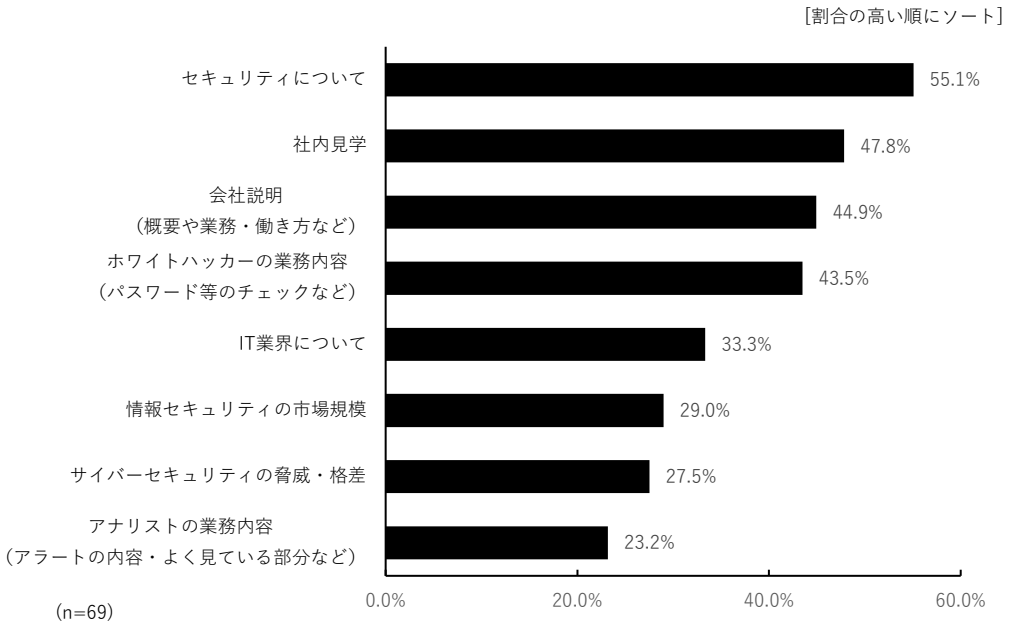
少し楽しそうだった。
ゲームを取り入れて聞き手があきない工夫があって、最後まで飽きずに聞くことができた。
社内見学が少し早歩きになってしまったことと、大人数での移動だったため、説明が聞こえなかったのが残念だった。
特になし／わからなかった点なし

問８　株式会社デンサン様の講義時間について



(n=69)

問９　株式会社クラフ様（AMUプラザ）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



(n=69)

問10　問９（クラフ様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

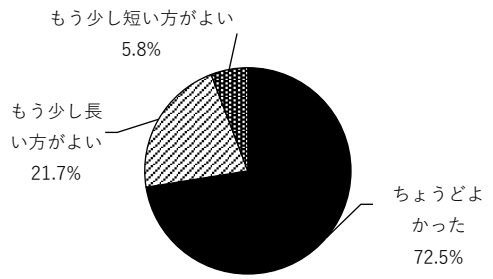
（一部抜粋）

会社の仕事内容・役割がわかった
会社で何をしているのか、どんな役割をしているのかわかった。
やっている仕事の内容がわかった。
会社全体の様子がわかった。

業務の内容やセキュリティについて理解できた。
情報セキュリティや仕事内容について。
わかりやすく説明してくださったので、いろいろなことが知れて、最初はわからないことばかりだったけど、お話を聞いて、どんなお仕事をされているか、会社で仕事をしているところを見たりして、どんな感じで進んでいるかなどが何となくわかったのでよかった。
情報セキュリティ・サイバーセキュリティ全般の理解
セキュリティについてよく知ることができた。
セキュリティについての仕事。
情報セキュリティ分野はプログラムなどに比べて人数が少ないことがわかった。 私たちが普段目にしているインターネットの世界は、裏で人々がたくさん支えてくれていたんだと感じた。
私たちが普段使っているスマホやアプリは人間の手によってウイルスから守ってくれているのだと知りびっくりした。社員への気遣いもしっかりしているところだなと感じた。
サイバーセキュリティの脅威・格差がわかりやすかった。
セキュリティがしっかりしていてすごいなと思いました。
情報セキュリティのことが詳しくわかりました。
サイバーセキュリティの内容がどのようなものなのか、また情報セキュリティが業界の中でどれくらいの人数いるのかなど、自分の将来に役立つ情報がたくさんありました。 実際にアラートを見て、このように見ているのかなど、ためになることもありました。
サイバーセキュリティがどんな活動をしているか、ホワイトハッカーの役目が参考になった。
ホワイトハッカー・アナリストなど職種理解
ホワイトハッカーについて知ることができた。
アナリストやホワイトハッカーなど初めて聞いたお仕事だったけど、人々の安全を守っているということを知ってとても参考になりました。
ホワイトハッカーの話やセキュリティの話がわかりやすかった。
ターゲットが危ないサイトを開かないかを見守ったり、安心してスマホを使えるようにしたりと、ホワイトハッカーが担っていること。
ホワイトハッカーの存在を初めて知ってもっと知りたいと思いました。
IT業界全体・多様性・人材観の理解
IT業界について少しわかった。
特にIT業界について詳しく知ることができました。 この講座を通してこれから働いていく企業について深く考えることができました。
いろいろな役割があること。
難しいと思うことでも簡単にすることができる。
絶対に資格や知識が必要というわけではないことや、ITの中でもさまざまな種類があること。
プログラムの中にも簡単な単語が入ってることがわかった。
デンサンと同様にITについて詳しく知ることができ、デンサンとは違った仕事を行っていたため、IT関係の仕事に就く際に参考になった。
同じ仕事でも技術、人の数などのセキュリティに格差があるからそこが問題になっている。
在宅勤務・テレワーク・職場環境への気づき
自宅ワークを取り入れていたり防災グッズを置いていたりしているところ。
セキュリティのことやパスワードのチェックなどの仕事があり、職場に来なくても家でも仕事ができるところがすごいなと思いました。
クラフさんで働いている職員は半分以上が在宅勤務で、仕事をする場所は入れないようになっていて、とても大切で貴重なお仕事だと思いました。
自宅勤務の人がとても多かった。
クラフはとても大きい会社のグループ企業の一つで全国各地からクラフで働きに来ている人がいる。

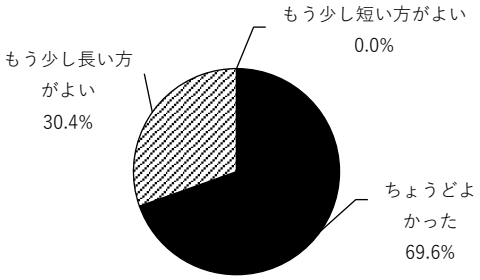
大きいオフィスには人が少なくテレワークなども使ってハイブリッドな職場環境。
県外からリモートワークで働いている人が多いことが参考になりました。
社内見学では実際に活動しているところを見ました。 長時間座っても腰が痛くならない椅子や、いつ災害が起きても避難できるように防災グッズがあったりしました。 リモートワークなので家にいて仕事をできたり、引越しをしても転勤したりしなくていいという現代社会にあってるなと感じました。
システム監視・具体的作業の理解
サイト内でどのような動きがあったのかなどの確認をしていると知れた。
普段やっていることがサーバー側ではいろんな単語になっていて、こんな感じなのかと参考になった。
(プログラミング)コードを見て、その中から異常を発見するのは難しそうな気がしました。
設備・会社環境への印象
会社の設備がすごかった。
よくわからなかった・もっと知りたかった点
IT業界についてもう少し詳しく知りたかった。

問11　株式会社クラフ様の講座時間について



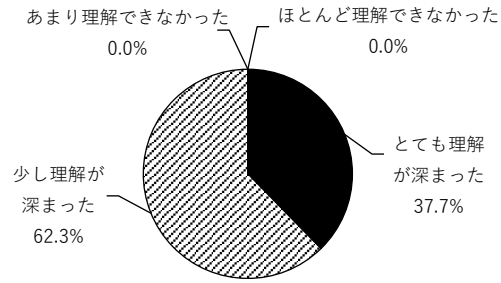
(n=69)

問12　講座全体(２社)の時間について



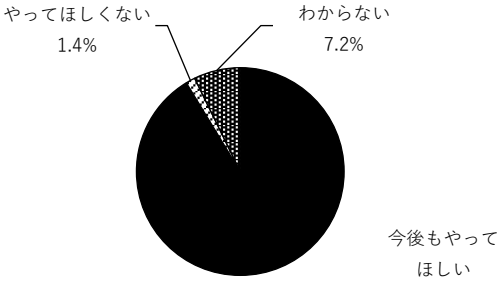
(n=69)

問13　講座を通してIT業界やその仕事について理解できましたか。



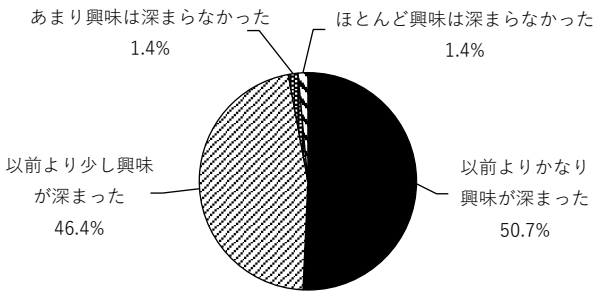
(n=69)

問14　企業や外部の方による講座に対する要望について。



(n=69)

問15　講座を通してIT業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=69)

問16　講座を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

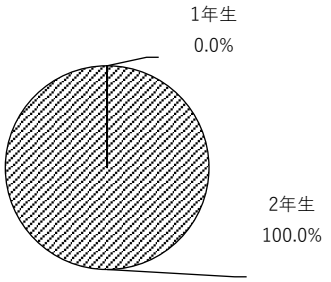
(一部抜粋)

IT業界・仕事内容への理解が深まった
その会社がどんな仕事をしているかについて詳しく知ることができた。
IT企業どんな仕事をしているのか分かっていなかったので、2社の企業を見学して仕事内容やどんなことをするのかなどたくさん知ることができて少し将来に興味がわきました。 今後も見学をたくさんして、自分の将来をはっきりと決められるようにしたいです。
自分の知らなかった仕事について知ることができたのでよかったです。
よくわからなかったIT業界のことなどがわかった。
IT企業でも色々な種類の会社があって驚いた。
これまでITといっても何をしているのかがよくわかっていなかった。 今回の講座を通してセキュリティやサービスを提供しているということがわかった。
講座を通して、IT業界の主な仕事内容や分野の種類を知ることができて、将来の職業の選択肢が広がった。
IT業界への興味・関心が高まった／イメージが変わった
今までIT業界に少し興味があって、今回の講座でこんな感じなんだなと思いました。
意外と知らないだけで、興味のある企業や仕事がたくさんあることを知れました。 もっとIT企業の見学に行ってみたいです。
今回の講座を通して、IT業界のイメージがかなり変わった気がします。 私はIT業界のことを知っているつもりでいましたが、いざ見学をするとさまざまな発見があって、しっかり自分の目で確認することが大事だと感じました。
もっと難しそうだと思っていたけど、講座を聞いていたら意外と簡単そうだなと思いました。 AIを利用して命を助けたり、いろいろなことに役立ったりしていてすごいなと思いました。
なかなかできない貴重な体験をさせてもらえて、今まで堅苦しい印象が強かったIT企業だけど、面白いなと思う話もあって、堅苦しい印象が少し減った。
情報セキュリティやAIを使ったものはとても難しく大変なイメージだったが、実際に聞いたり見たりして、少し興味や夢が広がった。就職の道もいいなと感じた。
私はあまりITの企業に興味はなかったけれど、講座を通して自分が思っていることとは違うところがあり、興味がわきました。
もともとIT業界にはあまり興味がなかったけど、講座を通して自分が思っていたよりもたくさんいろんなことをやっていて、自分の将来の就職先の候補にもつながったと思います。
企業見学・体験そのものが良かった
社内見学の時間をもっと増やしてほしい。
とても有意義な時間だった、またやってほしい。
今まで知らなかったことが知れたのですごくいい機会になった

もう少し話を聞く時間が欲しいと思った。でも、普段知ることのできないようなことを知れてよかった。
今後もこういう機会を作ってほしい。
もっといろいろな企業を見たりして社会を知っていきたい。
今回の企業見学は自分にとっていい経験になったのでよかったです。
２つの場所に行ってみて、IT業界について何も知らなかったけど、少し知ることができてよかったと思うし、家で調べてみて興味が持てたので、とてもよかったです。
２つの会社を見て参考になったところが多いから1年に1度はやってほしい。
将来・進路を考えるきっかけになった
自分の将来の選択が増えて、あまり興味のなかったIT企業にも興味を持てたいい機会でした。
将来について考えるいいきっかけになりました。
ITについて全然知らなかったので、この講座を通してITとは何なのかというものを知ることができたのでよかったです。
今後もいろいろな分野のIT企業を見学し、自分たちが今学んでいることがどのように活用されているのか知りたい。
IT企業などの仕事について詳しく知ることができました。 パソコンでの作業が私的には好きなので、仕事を探すときは候補に入れたいと思いました。
IT業界はパソコンの前にいることが多いので、在宅でも仕事ができるのは何か理由があったときに便利だなと思いました。将来なりたいものがないのでとても参考になりました。
学習意欲・学びとのつながり
今まで自分が勉強している情報やプログラミングなどがIT業界でどのように使われているかわかりにくかったけど、今回の講座でIT業界について具体的に知ることができたので、前より意欲的に学習に取り組めるようになったと思う。
情報通信技術は難しいけど面白い仕事だと思った。
今回学んだことをこれからに活かしていきたいと思いました。
要望・改善点
もっといろんなIT企業について知りたいと思いました。
もっと頻繁に講座などを増やしてほしい。
IT企業の簡単な仕事内容を体験してみたい。
今後もいろいろな分野のIT企業を見学し、自分たちが今学んでいることがどのように活用されているのか知りたい。
もっといろいろな企業を見学してみたいです。

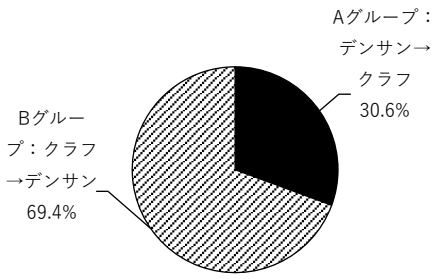
イ　生徒アンケート結果（単純集計）（２日目：２年生）

問１　学年を教えてください。



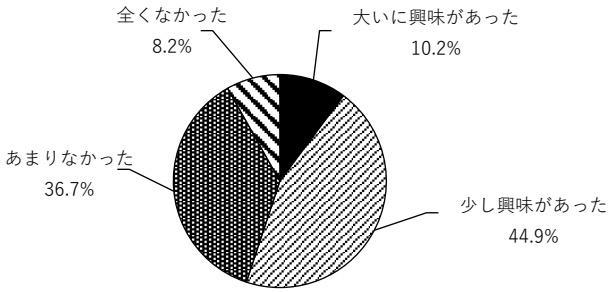
(n=49)

問２　当日の行程を教えてください。



(n=49)

問３　もともとIT業界（情報通信業）に対して興味がありましたか。



(n=49)

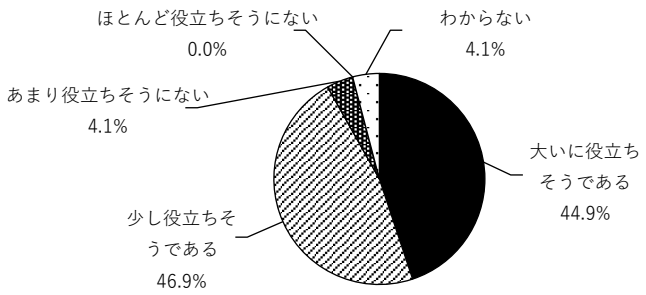
問４　IT業界（情報通信業）に対して、どういうイメージを持っていましたか。もしくは、どの程度知っていましたか。

（一部抜粋）

「難しい・大変そう・無理そう」というイメージ
難しくて、私には無理だなと思っている。
とても難しいものだと思っていた。
難しそうだなというイメージ。ITを使うんだなということしか知らなかった。
すごく難しい職業、プログラミングなどが主な職業だと思っていました。
難しそうでとても大変そう。
ずっとパソコンのイメージで難しい。
「パソコンをずっと使う／／画面作業中心」というイメージ
パソコンを使っていろいろなことをするイメージを持っていました。
ずっと画面に向かってキーボードを動かしている。
パソコンを使って何かを作ったり管理したりするものだと思っていた。
一人ひとりが堅い。
個人作業でパソコンと向かい合っている。
ずっとパソコンと向かい合っていて明るくない。
パソコンでHTMLやCSSを使って仕事をする。
一日中パソコンとにらめっこをしてプログラミングをしている。

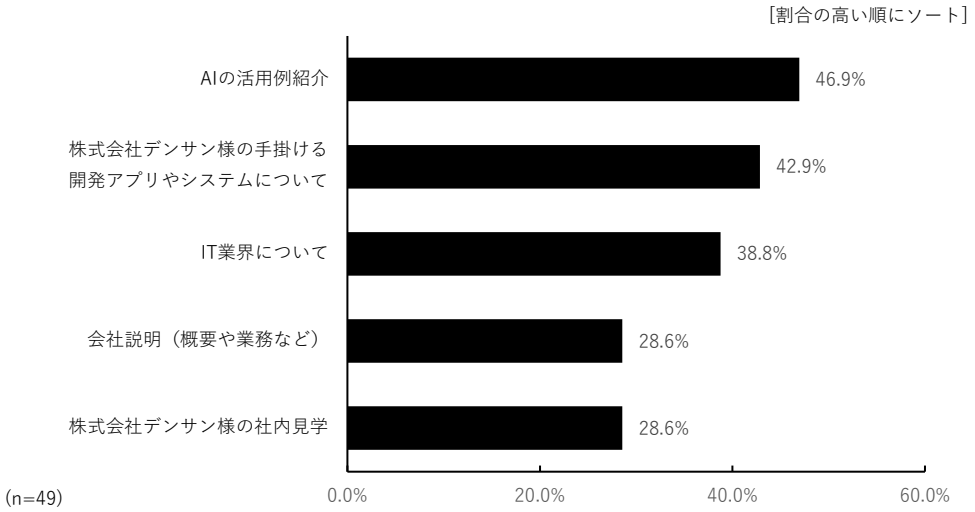
「プログラミング中心」のイメージ（開発・コード・言語）
プログラミングをする業界。
プログラミングでシステムを作っている。
プログラミングを行う企業。
IT業界はプロの人達が集まってプログラミングをしている。
プログラミングやAI、HTMLを活用する仕事。
プログラミングや数学などで事業を行うイメージだった。
「アプリ・システム・AI・ネットワーク」のイメージ（やや具体的）
パソコンを使ってプログラミングやシステム言語を使ってアプリを使ったり、AIを使って仕事を自動化させたりする。
アプリケーションを作ったり、ネットワークに関わる職業。
プログラムを組んだりして会社や客のデータを管理したりする。
アプリ開発などを作っていそうだなと思っていました。
AIを上手く使えたほうがいい。
「才能のある人・理系・プロしか無理」というイメージ
才能のある人しか働けない。
プログラミングについての知識や資格がないとつけない仕事。
就職するのが難しい。高尚。
才能のある人や理系の人しか就職できない。
「忙しい・ブラック・大変そう」なイメージ
忙しそう。
仕事が多くてブラック。
「IT業界全体・社会的位置づけ」のイメージ
近年伸びている業界なのかなと思っていて、すごくハイテク。
今やっていることの更に上を行く職業。
都会に会社が多くて、地方の方にはあまり会社がなさそう。
IT業界といえば、プログラマーやホワイトハッカーなど。
リモートワークで働ける。
「インターネット・SNS・セキュリティ」のイメージ
インターネット、SNS。
インターネットを活用する仕事。
セキュリティなどを難しい言葉を使って管理することとイメージを持っていたから、あまりこの業界について知らなかった。
「あまり知らなかった／何も知らなかった」
あまり知らなかった。
何も知らなかった。
よく考えてみると、どのようなものなのか具体的にはわからない。

問５　講座全体を通して、今後の高校での学びや将来に役立ちそうですか。



(n=49)

問６　株式会社デンサン様（宮崎空港付近）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



(n=49)

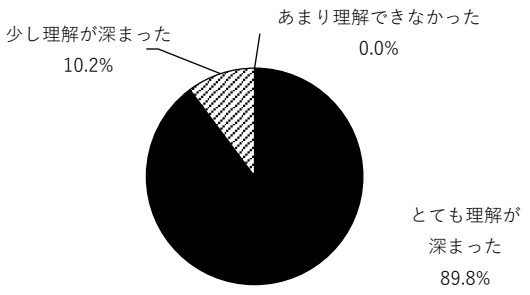
問７　問６（デンサン様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

（一部抜粋）

AIの活用・身近さ・可能性がよくわかった
AIなどを駆使している。AIでいろんなことができることや、ITでもいろんな分野があることを知れた。
AIの活用方法がよくわかりました。
いろいろなAIを組み合わせることで、自分が作りたいものを生成できるというところが興味を持ちました。すでに色んなところにAIが使われていることがわかった。
AIがすごく身近にたくさんあることがわかりました。
AIがどのように活用されているのか、会社の雰囲気・この業界についてよかったところなどが聞けたので、これからの進路の選択の幅が広がる機会になったのでよかった。
AIを活用して独自のアプリを作成するなど、AIの良い方向での使い方を知ることができた。
AIについての説明のときに、Googleのアプリだけでニュースが作れたり、他にもいろいろな使い道があることを知りました。
AIをどのように使い、利用しているのかが参考になった。

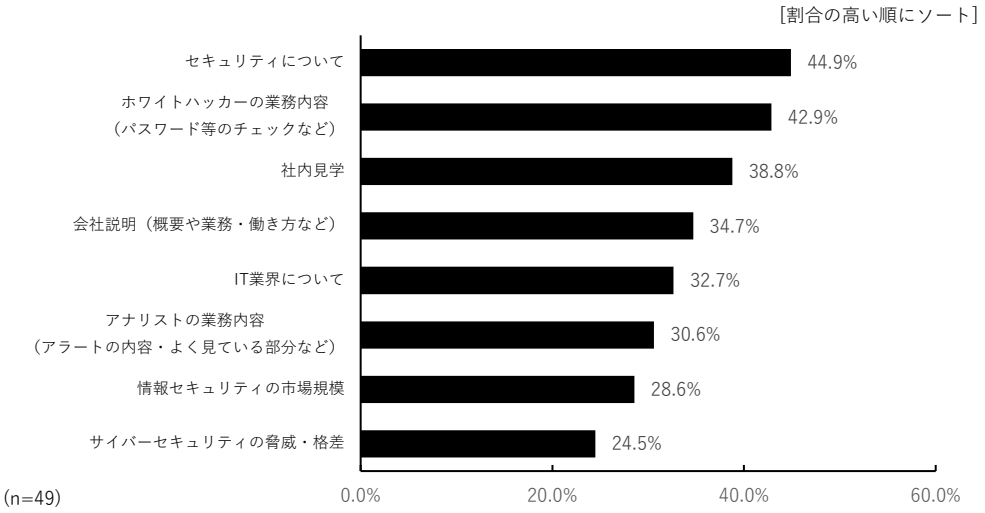
IT業界・IT企業の仕組みや分野の多様さへの理解
ITがどのようなところで活用されているのかを知れた。
IT企業の仕組みについて詳しく知れたのがよかった。
IT企業の中にも色々な種類があるのを知って驚きました。
IT業界の中にもいろいろな分野があること。
デンサンが行っている業務についてよくわかりました。
AIを活用してアプリを作ったり、ネットワーク環境構築、アウトソーシングサービスをしているところで、どんな会社なのかがわかった。AIを使ってアプリを作ったりしているところが、授業でもしたことがある内容だったので参考にしたいと思った。
MRTのグループの会社ということがびっくりしました。
アプリ開発・具体的な事例が印象に残った
作ったアプリの説明がわかりやすかった。
実際に仕事をしているところを見てすごいと思った。習ったHTMLなどもパソコンに表示してあり、学習への意欲が湧いた。
アプリ開発の仕組みや、どんな人が役に立つのかが参考になりました。
牛の顔をスマホでかざして個体を識別するアプリなどの開発が進められていることがわかった。
デンサン様で作っているアプリが色々凄かった。
職場環境・働き方・コミュニケーションへの気づき
ずっとパソコンで仕事を行うかと思っていたけれど、社員同士で話し合いをしていたり、社員の方も凄く優しくて、働きやすい環境が整っていると感じました。また、どんな仕事でもコミュニケーション能力が必要だと感じました。
宮崎県で働くメリットやAIの良さ、仕事のやりがいが参考になった。
業界課題・社会的背景への理解
最大70万人の人材不足になるということが印象に残りました。
業界課題・社会的背景への理解
説明・資料のわかりやすさ
資料がとても細かく書かれていてわかりやすかった。
よくわからなかった点・疑問点
入社するために必要な資格があるのかわからなかった。

問８　株式会社デンサン様の講義時間について



(n=49)

問９　株式会社クラフ様（AMUプラザ）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。
【複数選択可】



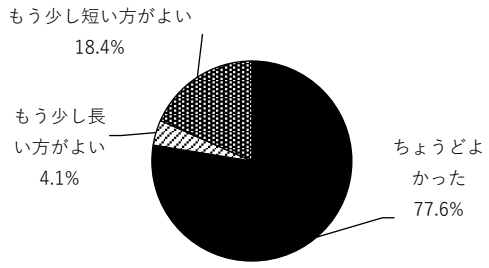
問10　問９（クラフ様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

（一部抜粋）

セキュリティ・ホワイトハッカー関連の理解
ハッカーとかの話を、自分が泥棒だったらという視点で考えたこと。
セキュリティの分野をあまり知らなかったけど、IT業界で1%から2%ほど占めていることを知れた。
ホワイトハッカーがいる理由がわかりました。
情報セキュリティの仕組みなどがよくわかりました。
セキュリティ監視の仕事が人手不足であるということ。
IT企業がプログラミングだけでなく、セキュリティの対策などお客さんが安心してサービスを利用できるようにしていることもIT企業の仕事の内容だと知ることができた。
ホワイトハッカーやクラフ様がしている仕事の内容についてよくわかった。
セキュリティが厳重だと感じました。
(インターネット上の)セキュリティを、どのようにして解決しているのかを知ることができた。
今セキュリティがとても大事だということがわかった。
会社・業務内容・社内の様子がわかった
他のIT会社との関係性を知れた。
会社が行っている事業、所属グループなど知ることができた。会社の働き方も面白かった。
情報化社会でこのIT企業が必要とされているのかがよくわかりました。 このクラフ株式会社の職場の雰囲気や業務内容を実際に見たりして、自分もこんなところでいつかこのような会社で働きたいと思いました。
実際に仕事をしているところを見せてもらったりして社内の雰囲気がよくわかった。
IT企業と一括りにされていてあまり理解していなかったけれど、IT業界でも沢山の職種があると知ることができました。 また、オフィスがきれいで席も予約制というのは初めて見たので、良い環境が整っているなと感じました。
自分がパスワード入力ミスをした場所などが一つの単語でわかってしまうところや、セキュリティ管理をしているところで、どんなことをしている会社などがよくわかった。

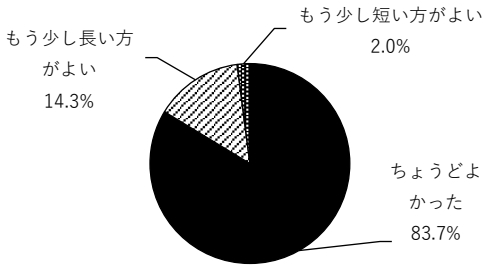
働き方・在宅ワーク・環境に関する気づき
会社に毎日行かなくてもいいところが魅力だと思った。
仕事に集中できる環境が整っていて、働きやすくていいなと思いました。
実際に働いているところや在宅ワークの話を聞いて、働くにはとてもいい環境だと思った。
在宅ワークがすごくいいなと思いました。
出勤する人が少なく、自宅で仕事もできることがわかった。
説明や例えが理解しやすかった
一つ一つを身近なものに例えながら説明してくださったので理解しやすかったです。
プレゼンがとても上手だった。

問11　株式会社クラフ様の講座時間について



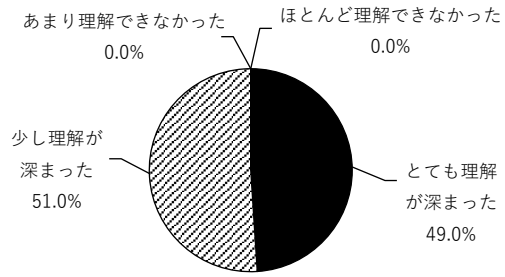
(n=49)

問12　講座全体(２社)の時間について



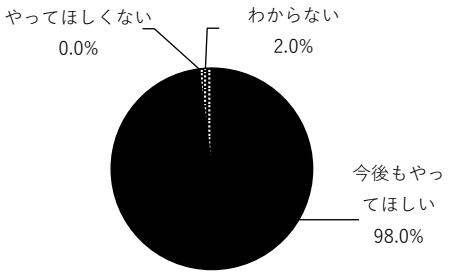
(n=49)

問13　講座を通してIT業界やその仕事について理解できましたか。



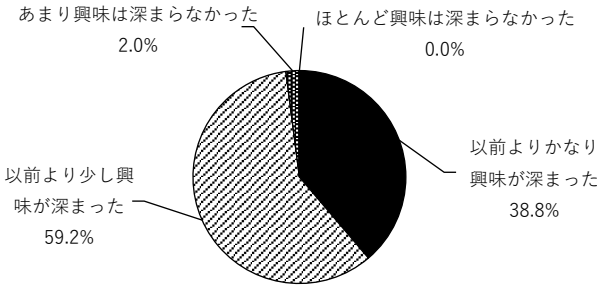
(n=49)

問14　企業や外部の方による講座に対する要望について。



(n=49)

問15　講座を通してIT業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=49)

問16　講座を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

（一部抜粋）

IT業界への理解が深まった・イメージが変わった
ITは難しいからこそ人手不足なんだなと思った。
もともとIT企業について名前は知っていたけど、どんな仕事内容か知らなかったので内容を具体的に知れて自分の視野を広げられてよかった。
講座を通して、今までIT業界に持っていたイメージがプログラミングだけでしたが、セキュリティやAIのことも扱っているということが分かり、IT業界へのイメージが変わりました。
IT企業という言葉は聞いたことがあっても何を専門としているのか詳しくは知らなかったので、今回の講座で私たちの生活をより豊かに便利にしてくれている影の立役者だなと感じました。
IT業界について詳しく知ることができて、いろいろな分類があって、その中でも情報セキュリティについてより理解が深まりました。
同じIT企業で、業務内容や働き方に違いが出ていることがわかり、面白かったです。
今回の講座を通して、前よりもIT業界についての理解を深めることができました。 IT業界はパソコンに向かって必死にプログラミングをしている業界だと思っていたけれど、開発だけではなくて、セキュリティ関係の仕事もあって驚きました。今後の進路の参考にしたいと思います。
興味・関心が高まった／選択肢が広がった
自分は進路でどの道に進もうかまだ全然決まっていないので、とてもいいきっかけになりました。
クラフの企業を見て、今の業界の人材不足について知って、自分の将来の選択肢なども少し増えた。 2社とも会社の雰囲気が良くて、こういうところで働きたいと思った。
今まで興味を持ったことがなかったけど、今回の講座を通して理解が深まったし、興味も少し持つことができた。
IT業界の職業には興味があったため良い経験だった。それぞれの企業の良さがあるのだと感じた。
IT関係の職業について少し興味を持てるようになりました。
自分はもともと情報系の仕事にはあまり興味がなかったけど、今回の講座を通して興味が持てるところがたくさんあったので、一つの参考にしたいなと思いました。
IT企業は就職の中の選択肢になかったので、新しい視点が広がって面白かったです。
IT業界に興味はあったけれど選択肢にはなかったので、それを考える幅が広がってよかったです。 これから色々調べてみて、将来のことを明確に考えたいです。
今回の企業見学でIT企業にすごく興味が惹かれたので、もし行けるのであればもっと色んなところを見て、進路に繋げていきたいです。
今回の企業見学をするまでIT企業にあまり興味がなかったけど、IT企業も今習ってることが生かされているので、将来の夢を考えるときに選択肢に入れてみようと思った。
企業見学・社内見学が良かった／現場を見る効果
学校外のところでいつもとは違う人に教えてもらうことはとても重要だと思った。
IT業界についての興味関心は薄かったが、講座を通して少しだけ興味が深まった。 社内見学をすることができてよかった。
今回の企業見学では最先端の技術がどのように活用されているかを目の当たりにし、大変感銘を受けました。
ITの仕事をされている方の話を実際に聞くことができ、興味が以前よりも深まった。 社内見学でより興味が深まりました。
大人の方が実際に働いているところを目にする事ができ、とても勉強になりました。 仕事をする環境が整っていて働きやすそうだと思いました。
企業に実際に足を運んで、仕事の風景を見ることができ、大変良い経験になった。
職場環境・働き方（雰囲気・在宅勤務など）
2社とも会社の雰囲気が良くて、こういうところで働きたいと思った。
社員の方々が生き生きと働く姿を見て、職場の雰囲気の良さも感じることができました。

最初は、IT業界と言ったら、プログラミングやすごく難しくて少し就職しづらいものだと思っていましたが、実際に社内見学や会社の概要を聞いて、今は自由な環境を目指しているとおっしゃっていたので、私が思っていたときよりも会社の環境がよくて入りやすいのかなと思いました。 在宅勤務も可能ということで、すごくいい環境だなと思いました。
IT業界は難しくて、大変そうだというイメージを持っていましたが、講座を通して、自分の好きなときに出勤できるなど楽しみながら仕事をしていて良いイメージになりました。
地元（宮崎）・地域への気づき
県外のことしか考えていなかったから宮崎にもこんな企業があるのだというのを知れたのはよかったです。
宮崎のIT業界の仕事について知るきっかけになった。
自分が住んでいる宮崎にもITの会社があることを知れてよかった。
今回の企業見学を行ったことにより、今までに知らないものや知識について知ることができた。 また宮崎にこんなところがあるんだと理解できたし、選択肢も少し増えたので、今からでも進学・就職のことについて調べて理解を増やしていきたいと思った。
学習とのつながり・将来に向けた意識
IT関係の仕事など大まかにしか知らなかったので、今回の講座で深く知ることができた。 企業の方も今自分たちが授業で使っているようなソフトなどを使っていて、将来必要になってくる能力だと思うから、今のうちからしっかり覚えておきたい。
これからIT系の仕事は引く手あまたらしいので、今取れる上位資格を取ったり、知識を深めてこれからの進路に活かせるようにしたい。
講座を通して、ITは人材不足であることを知りました。そして、技術だけでなく「チームで協力することの大切さ」を強く感じました。
要望・改善点
IT業界以外の企業見学も行ってみたい。
自分で選べるようにしてほしい。
今後も会社だけでなく大学などもやってほしい。
その他・全体的な感想
いろいろな会社を見ることで、自分が働きたい会社のイメージにもつながった。
今回の企業見学を通して、IT企業に関する専門知識と仕事のやりがいなど学べるものが多かった。
自分が調べていたことより聞きたかったことがIT業界のことについて聞けて、以前より興味が深まった。
どちらの会社もきれいで初めて聞いた会社だったけど社員の人数も多くてびっくりしました。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
IT業界、ITに興味をもっていただけるよう、AIを使ってできるだけ生徒が興味を持てるような内容を意識しました。	企業 （デンサン）
当社の内容はもちろんですが、それ以上に職業選択に必要な視点をいくつか伝えられたらと内容を検討しました。例：市場規模、労働環境、業界の特性・将来性など	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［企］	
人数が多かったので、大人数でも分かりやすく体験いただける内容にしました。	企業 （デンサン）
学生さんのIT業界への理解度が分からず、どのような話し方をしたら良いかが難しかったです。 事前に学校でどこまで勉強しているか（プログラミングに特化？セキュリティも？）など、聞いておけば良かったと思いました。	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［高・専］	
デンサン様：生徒が興味を持つようなコンテンツを入れてくださっていて良かったです。 クラフ様：どんな仕事内容かが具体的で分かりやすかったです。	高校
企業説明に加えて、AIの活用事例についても紹介や説明があった点は良かったです。 また、実際に社員の皆さまが働く姿を見学できたのも良い経験になったのではないかと思います。	専門学校 （デンサン）
東京に本社を置くSHIFT SECURITYグループ企業の一つであることを踏まえ、IT業界・セキュリティ業界の社会的な立ち位置や市場規模、企業としての将来性、社会への展望など、グローバルな視点からの企業紹介が行われており、非常に興味を引く内容でした。 また、インターネットセキュリティという抽象的でイメージしづらい分野について、「家の防犯」にたとえながら説明されており、「今、このオフィスに泥棒に入ろうとしたら、どこから入りますか？」「考えうる内容の侵入方法をどう監視しますか？」「では、対策として何をすべきでしょうか？」といった問いかけを通して、生徒に考えさせ、回答を引き出しながら次の内容へ進む構成となっていました。さらに、プログラムのエラー文を題材に、文章中の単語をいくつか拾い出すことで、エラーの概要を読み解くワークも取り入れられており、セキュリティを身近なものとして捉えられる工夫がなされていました。 企業内見学では、会議室と執務エリアの境界内という決められた範囲から、実際の執務状況を見学し、在宅ワーク（県内・県外）座席の配置やフリーアドレスならではの座席のルール、防災対策など、実際の働き方や職場環境についての説明がありました。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［高・専］	
２社とも妥当だと思います。	高校
１年生ということで、ITにまだそこまで詳しくない生徒でも理解できる内容であり、適切だったと思います。	専門学校 （デンサン）
専門的になりがちなセキュリティ分野を、身近な例えや具体的な問いかけ、ワークを通して説明されており、高校生でも理解しやすいレベルに調整されていました。 また、講師の方ご自身が実際に就職活動を行う際に、企業のどのような点を重視して見ていたのかという具体的な経験談が紹介され、IT・セキュリティ業界の市場規模を踏まえた「需要と供給」の観点から、現実的な給与水準としてどのように考えたのかという例示もありました。 進路選択や職業観に直結する内容であり、生徒にとって将来を考える上で非常に分かりやすく、実感を持って理解できる構成だったと感じました。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）［共通］	
妥当だった。	企業 （デンサン）
１時間は妥当だと思いましたが、移動による遅れの幅が大きく、プログラムに大幅な変更を加えざるを得ませんでした。	企業 （クラフ）
デンサン様：妥当だと思います。やや少なかった。 クラフ様：妥当でしたが、到着が遅れ約30分程度の見学となってしまった。やや少なかった。	高校

妥当だと思います。	専門学校 （デンサン）
１時間は妥当だが、移動やトイレなどで時間が取られたことにより、内容が素晴らしいだけに、速足での説明がもったいように感じました。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　［企］	
やはり１回あたりの人数が多かったので、全員に伝わっているかが把握しづらいと感じました。	企業 （デンサン）
こちらとしてはIT業界に興味がある前提でプログラムを検討していましたが、当日伺ってみると興味があると応えた生徒の数が少なく戸惑いました。	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　［高］	
デンサン様 実際にフロア見学をさせていただき、仕事の様子を間近で見学させていただけた点がよかったです。採用について気にしている生徒が数名いたので、 そのあたりもご説明いただけるとより助かります。 クラフ様 説明や例えが非常にわかりやすく、高校生にも理解しやすいように説明してくださっていた点がよかったです。採用について気にしている生徒が数名いたので、 そのあたりもご説明いただけるとより助かります。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
AIを使ったゲームの体験はとても反応があってよかったと思う。 生徒は、皆メモを一生懸命とっていて、熱心さが伝わってきてよかった。	企業 （デンサン）
熱心に聞いてくださる生徒さんも多くいらっしゃいましたが、明らかに興味のない生徒さんもいて（「端っこが良い」とスクリーンが見えづらい席へあえて移動する、質問もほとんどない、時間が押しているのに移動がゆっくりなど）気になりました。 80名規模での受け入れは企業側としても準備を含めかなり時間を使うので、興味がある生徒さんに絞るのも良いのかなと思いました。	企業 （クラフ）
デンサン様 AIを使用した漫才作成や、インベーダーゲームなど、興味深そうな様子であった。企業説明に対する興味関心が高かった。 クラフ様 仕事内容ももちろんドラマで見るようなIT企業の雰囲気に圧倒されていたようです。施設見学への興味関心が高かった。	専門学校
講師の話にもきちんと反応しており、皆まじめに聞いていた印象です。	専門学校 （デンサン）
問いかけに対して自分なりに考える場面が多く、生徒は受け身ではなく、主体的に参加している様子が見られました。 特にエラー文を読み解くワークでは、知っている単語を見つけて「こういうところを見て判断しているのか」といった新たな気づきがあったようで、セキュリティへの心理的なハードルが下がった様子が伺えました。 全体として、「難しそう」という印象を持たれがちな分野を、興味深く、身近に感じられる内容であり、生徒にとって非常に有意義な講座になったと感じました。	専門学校 （クラフ）

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
特にはございません。	企業 （デンサン）
高校側が求めているものや、生徒さんの志望度、何を学んでいるかをもう少し詳しく聞いておけば良	企業

かったです。	（クラフ）
特にありません。	高校
クラフ様しか拝見していないので分かりませんが、移動時間を含めた1時間ということはスケジュールで分かりましたが、予定していた講話の時間を優先するのか、それとも時間内で完結させるために講話時間を短くするのかというのを確認しておく必要があったと思いました。引率の先生が講座のメイン教員でないため、意志決定権が不明瞭でした。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
今回、各学年２回、２日にわたって実施したので、要員のスケジューリングに課題を感じました。	企業 （デンサン）
80名規模での受け入れは可能な企業が限られていると思うので、もう少し絞って分散いただけると企業側としてはありがたいです。 または、IT業界に興味のある生徒さんに絞っていただくなど受け入れ企業を増やす、継続していくことを考えると検討が必要かなと思いました。	企業 （クラフ）
移動時間にもう少し余裕があると、生徒のトイレ休憩等に時間を取ったり、遅れた際の調整もしやすいのではないかと感じました。もう少し各社で時間を取っていただけると嬉しいです。もう少し余裕をもった時間設定の方が良かったように感じた。貴重な機会が時間に急がされてしまい、消化不良だったグループもあったようです。 昼食をどこかで取らせ、もう１社か２社見学企業を追加し（もしくは宮崎情報ビジネス専門学校を行程に追加し）１日で計画すると、よりよい機会になったのではないかと感じた。	高校
企業側の受け入れ態勢が重要である一方、見学内容や進行方法の整理など、お願いする側における事前調整も含めて検討する必要があると思う。	専門学校 （デンサン）
今回の企業見学は、企業見学を実施したいという要望に沿って計画し、貴重な学びの機会を提供いただきました。一方で、当日の運営を振り返る中で、より円滑に実施するための課題や改善点も明確になったと感じています。 まず、当日の時間配分については、今後はより余裕を持った見込みを立てる必要があると考えます。また、受講者である高校生を引率する高校の先生方のご協力、生徒自身の協力が不可欠であり、特に引率にあたる教員間での事前および当日の情報共有を徹底することが重要であると認識しました。 集団行動であるからこそ、生徒同士の一体感や全体としての統率が求められます。今回の見学を通して、こうした点についても、事前指導の在り方を改めて検討する必要性を感じました。企業の方々が業務の合間に丁寧にご対応くださる中で、場の雰囲気を大切にしつつも、見学の場にふさわしい緊張感や行動規範を共有しておくことが、より充実した学びにつながると考えます。 また、移動や着席などの場面では、限られた時間の中で状況を判断し、迅速に行動する力の必要性も浮き彫りになりました。これらは今後の企業見学や社会に出た際にも求められる力であり、学びの一環として意識づけていくことが望まれます。 企画する側として、こうした点への配慮が十分でなかった部分もあり、結果として関係者の皆さまにご迷惑をお掛けしたことについては、真摯に受け止めております。今回明らかになった課題を次回以降の企画・運営に確実に活かし、より実りある講座となるよう改善を重ねていきたいと考えております。	専門学校 （クラフ）

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
今回、できるだけ生徒に楽しんでいただくことを目的に内容を設定致しました。 不足する内容などがあったかもしれません。生徒さんのアンケートで、IT業界に興味をもっていただく目的は到達できたと思いますが、もっとIT活用した世の中の仕組みまで話せると良かったと考えております。有難うございました。	企業 （デンサン）
バスの到着が遅れましたが、企業側と高校側の担当の方同士で調整されていました。 今回のように２か所の見学となると企業間での調整も必要になるため、そこが難しいと感じました。	専門学校 （デンサン）
IT企業と一口に言っても、システム開発に特化した企業や、セキュリティ分野を強みとする企業など、それぞれに得意分野があり、さらに多様な企業が存在することを、２社を見比べることでこそ実感できる貴重な機会になったと感じています。 アンケートにも見られたように、「興味がなかった」「分からなかった」「難しそう」「才能のある人がする仕事」といったイメージを持っていた生徒にとっても、IT分野をより身近なものとして捉え	専門学校 （クラフ）

られる機会となり、また、現在学んでいることが社会の中でどのように活かされているのかを具体的に知ることができた点は、非常に意義深かったと考えます。 今回の取り組みは、企業の皆さまの多大なご協力と、高校の先生方が生徒一人ひとりの選択肢を広げ、将来を描くうえで「知る」機会を大切にされている熱意によって実現したものだと感じております。 ご尽力いただきましたすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。	

(8)　実証講座⑥：実施報告

○期日　令和７年11月25日（火）

○場所　宮崎県立都城商業高等学校

○時間　２コマ　10:50～12:40、13:25～15:15

○対象　情報ソリューション科２年生２クラス80名

○授業形態　講義および演習

○講師　株式会社宮崎南印刷　國武 葵 様（クリエイティブディレクター）
高橋 勝 様（営業部 副部長）
杉山 亮 様（デジタルコンテンツディレクター）
福島 凪沙 様（デザイナー）

○事務局　学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校　花盛 和也

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

本年度についても、昨年度に引き続き実証講座の実施をお願いしたいとの要望があった。あわせて、就職に関する話題を講座内容に取り入れてもらえるとありがたいとの意見が出された。

また、近年関心が高まっているAIに関する内容についても、可能な範囲で紹介してほしいとの要望があった。

＜提案（企業）＞

昨年度の内容に加え、中途入社した職員の中に都城商業高校の卒業生が在籍していることから、その職員のキャリア（経歴）を通して、さまざまな進路の選択肢があることを生徒に知ってもらうことも有効であると考える。その点について、あわせて紹介することとしたい。

○内容　講義および演習

①デザインの基礎説明（色・文字・レイアウトなど）

・昨年度の生徒作品（学校案内表紙デザイン）の解説

②ワークショップ

・初歩的なIllustratorの操作方法の説明・実践

・作りたいデザインを手書き（ラフ）で簡単に作成

・ラフを基にIllustratorでデザイン作成

・新入社員によるキャリア紹介

・制作見本、ウェブサイトの紹介、画像生成AIについて

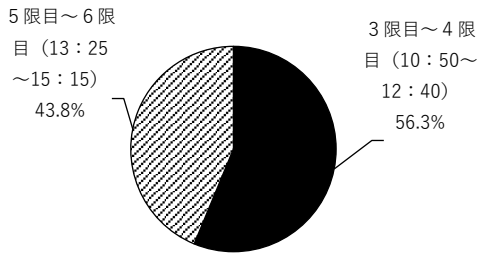




(9)　実証講座⑥：生徒アンケート及び意見の概要

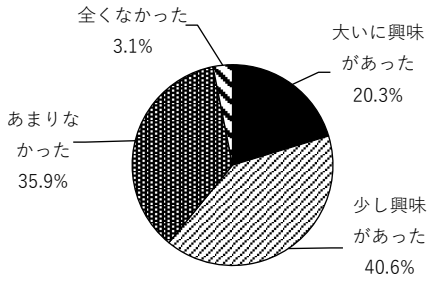
ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　どちらの時間を受講されたかお教えください。



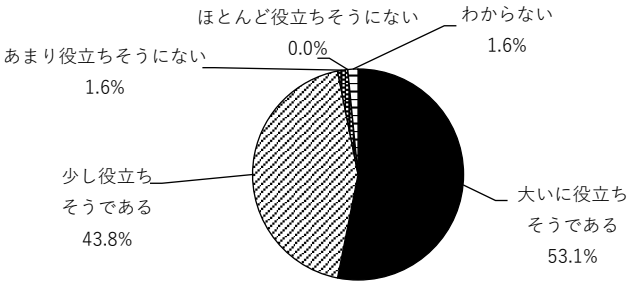
(n=64)

問２　もともとデザインなどクリエイティブな分野に対して興味がありましたか。



(n=64)

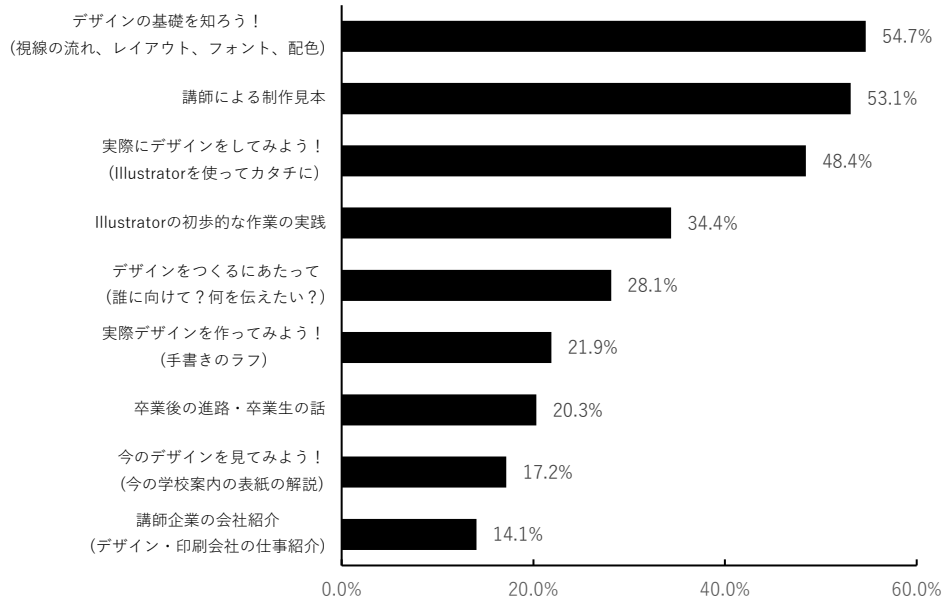
問３　講座全体を通して、今後のデザインなどクリエイティブな分野の授業に役立ちそうですか。



(n=64)

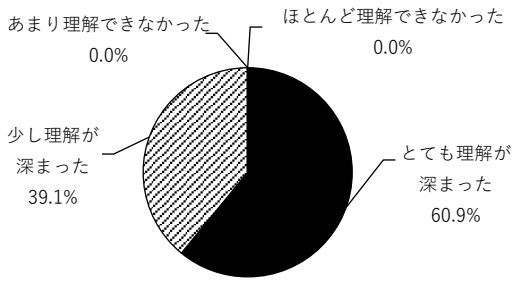
問４　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】

［割合の高い順にソート］



(n=64)

問５　講座全体を通してデザインのやり方について理解できましたか。



（n=64）

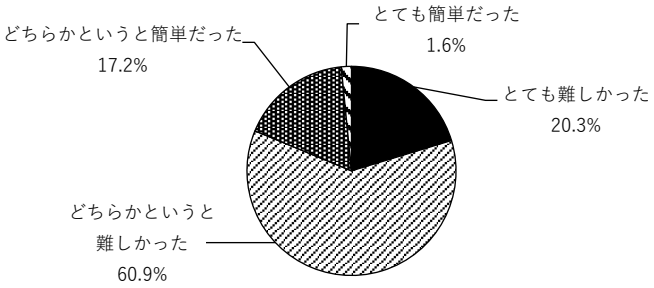
問６　問５で具体的に理解が深まったところ、または理解できなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
Illustrator（イラストレーター）の使い方があまり理解できていなかったけど、今日の講座を通して理解を深めることができた。
Illustratorのツールの使い方や、写真を好きな形で挿入する方法がわかった。
Illustratorの使い方で新しい手法を学ぶことができた。
Illustratorの基礎的な使い方。
自分たちが知らないショートカットキーなど、わかりやすく教えてくださってとても勉強になりました。
ショートカットキーを覚えたことで色々な操作を一度にできて時間短縮にもなった。
作ったものを見た人が印象に残るようになるような工夫がすごく理解が深まりました。 確かにこれに似たデザインの表紙がある！と思ったり、見るだけではあまり気にかけない工夫がたくさん詰まっていたので、今回の授業を聞いてすごく理解が深まった。
どんな色の組み合わせがどんな印象を与えるのかというのがわかった。
メインで使用する色から関係のある色を使うことで良い印象になることがわかった。
写真や文字の配置、書体によってさまざまな印象を与えることができるのだということを知れた。
視線誘導や効果的な色の使い方などの理解が深まった。
レイアウトの作り方や視線の流れについて理解が深まった。
文字や写真などの構図の組み合わせ方がわかった。
いろんなツールを使って表紙を作っていることがわかった。
デザイナーが作るものの凄さがわかった。
5W1Hなど、誰に何を伝えたいかを考えることが大切だと知った。
パスファインダーの使い方、変形のやり方。
トリミングのところなどがわかった。
Webページの作成。
まだ自分の知らないことでいっぱいだなと思った。
少し理解が深まった
アプリのさまざまなツールについて理解できた。
今まで簡単に使っていたツールも、使い方の順序を変えたりしたらまた新しい活用のしかたがあるんだと思った。
ショートカットキーでトリミングできることがわかりました。

色のグラデーションや文字のフォントなどによって雰囲気が違う、色んなデザインが生まれることがわかった。
配色の選び方や画像を配置する場所など。
図形の幅広い使い方。フォントの置き方。
デザインのバランス。
デザインのポイント。
一つの形からいろんな形を作れることがすごく理解できました。
初めからデザイナーになるという道もあるけれど、転職をしてデザイナーになるという道もいいなと思った。
Illustratorの仕事を学べました。

問７　学校案内の表紙作成は課題としてどうでしたか。



(n=64)

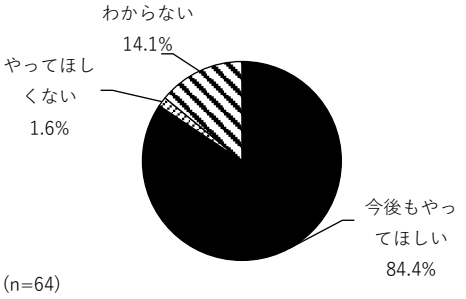
問８　問７のように思った理由を教えてください。

(一部抜粋)

デザイン発想・アイデア出しが難しい
デザインをどうするかすごく悩みました。
デザインを考えることに時間がかかった。
どんなパンフレットにしようか全然アイデアが思いつかなかった。
なかなかいいデザインが思いつかなかった。
誰かに惹かれるようなデザインが思いつかなかった。
デザインを考えるところが難しかった。
自分の個性を出せるデザインがなかなか思いつかなかった。
どんなデザインがいいか思いつかなかった。
自分で一から考えて制作すること。
構成・配置・ラフ・全体設計が難しい
最初のデザインの構成を考えるのが難しかった。
配置が難しかった。
配置や構成を考えるのが難しいと感じた。
構成やキャッチコピーを考えるのが難しいと思った。
一から構成を考えたり色の使い方などが難しかったです。
デザインの構造を考えたり、実際書いたラフ画をパソコン上でつくってみると、自分が思っていたようにできなかったから難しかったです。
パーツ一つ一つをどうやったらラフのように作るのが難しく思った。

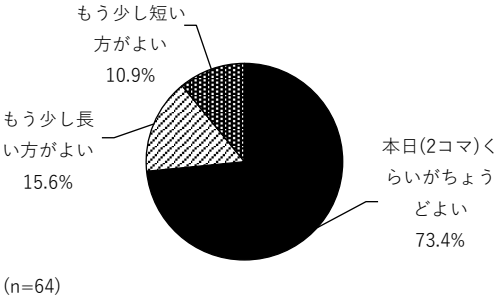
自分のセンスを生かさないといけないため、どのような配置にするか難しかった。
ターゲット（中学生・見る人）を意識するのが難しい
見てもらう人のためにどんな工夫をするかが難しかった。
どのような表紙にしたら中学生が見てくれるのかと考えてラフを考えるのが難しかった。
どのようにしたら中学生の興味を引けるか考えるのが難しかったです。
中学生がどのような表紙に目が行くのかがわからなかった。
どうやったら見る人の気を引けるか、誰をターゲットにするのかを考えるのが難しかった。
それが学校のパンフレットとして出る可能性があると考えてしまう。
操作・工程・ソフトの扱いが難しい
どのように操作するのか忘れてしまったり、画面が固まって思うように操作できなかったため。
自分の思っているように動かせなかったり、アプリが動かなくなったりして苦戦した。
習った操作を覚えるのが大変だった。
工程を覚えられていないとできないところがあった。
いろいろな仕方があって覚えるのが難しかったです。
先生がいないとわからないところがあった。
わからないところがあって自分が思うように作業が進まなかった。
授業でやったことのないことをした。
思い通りにいかない・時間がかかり難しい
自分が思ってるように作れない。
自分の想像どおりにできなかったから難しかったです。
デザインを作るのに時間がかかった。
表現・センス・色・独自性の難しさ
都商のパンフレットをセンス良く作るのが難しかった。
自分のデザインなどは好みに合わせて好きなように作れるが、全体に見せるものは万人受けするカラーを使ったりなどが難しかった。
どうしてもお手本と似たような感じになってしまい、独自のものを作り上げるのが難しかった。
表紙作成があまり得意ではない。
比較的簡単・楽しかった・できた
考えやすい。
同じ工程を繰り返すだけだった。
自分の想像どおりにできた。
説明などがあったため簡単だった。
簡単に作れた。
全部がやったことの応用をするだけだった。
企業の方の見本を見て参考にした。
形などを考えたらうまくいった。
デザインを考えるのが楽しかった。
楽しかった。
やったことのある作業が多かった。
基礎が身につけばいろいろなことに発展することができる。

問９　企業や外部の方による講座に対する要望について



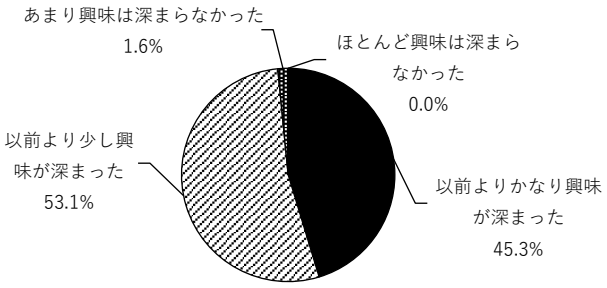
(n=64)

問10　講座全体の時間について



(n=64)

問11　講座を通してデザインなどクリエイティブ業界に対する興味は深まりましたか。



(n=64)

問12　講座全体を通して、難しかったところやわかりにくかったところがあれば、自由に記入してください。

(一部抜粋)

進み（スピード）が早くてついていけなかった
講師の方の進みが早かったので追いつけなかった。
進みが早くてついていけないところがあった。
スピードが早かった。
進めるのが早くてついて行ってない時があった。
スピードが速くついていくのが大変だった。
説明・手順・操作がわかりにくかった
行う手順や、やりたいことは明確にあるけど、それをどのように実行すればよいのかがわからないということが多々あった。
１回の説明では覚えきれなくて、やり方がわからない部分があった。
今日習った操作が難しかった。
ショートカットキーを理解するのが難しかった。
デザイン・表紙・配置が難しかった
表紙の作成。
デザインの配置が難しかった。
図形が複雑すぎると写真が図形の中に入らない。

問13　クリエイティブ系で教えてほしい内容や授業の希望がありましたら、自由に記入してください。（希望理由も教えていただけますと嬉しいです。）

（一部抜粋）

動画編集・動画制作
動画編集。
動画制作：クラス紹介や部活動紹介とかにも使えるし興味がある。
Illustrator関連
Illustratorのいろんな機能など。
Illustratorを使ってデザインを作るのを増やしたい。
今回の授業をまた行いたいなと思った。次回はPhotoshopなどで作品を作りたい。
今回の授業のように、Illustratorなどの授業で教えられない専門的なところまでする授業。
もっと詳しくソフトの使い方を知りたい。
いろんなショートカットとか画面に異常が起きたときの対処。
イラスト・絵を描くこと
イラストを描くコツ(構図や塗り方など)。 絵を描くのが好きで、プロの方のお話を聞いて少しでも上手く描けるようになりたい。
自分のアイコンを作って見たい。
チラシ制作
お店のチラシなどをつくってみたいです。
お店のチラシを作る方法。理由は両親が自営業を営んでいてそれに役立つと思った。
新しい分野・発展的内容への希望
デザイン系を飛び越えて映像系やライティング系をしてみたい。 自分が映像系やライティング系が好きだから。
他のアプリの講座もやってほしい。
アニメーションを作ってみたい。
Webサイトを作る。
進路・将来・仕事を意識した内容
進路について考えられました。
アプリ開発についてAIを使う授業を教えてほしい。理由は、将来の職業に考えていて、もし就かなくても使う場面は来ると思うから。

問14　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

（一部抜粋）

楽しかった・面白かった・良い時間だった
表紙を作る時が難しいと思ってたけど、説明がわかりやすくて楽しかった。
パソコンの操作は難しくて苦手だけど、一から教えていただけたので楽しくできました。
途中からしか参加できませんでしたが、背景の色合いなど褒めていただき、とても楽しく授業を受けることができました。
とても貴重で有意義な時間になった。
今回の講座を通してIllustratorを使用した新しい使い方を知ることができ、とても勉強になり、とても良い時間になりました。
いろんなことが知れて良かった。自分が興味ある作業だから新しいことを学べて嬉しかった。
授業ではできなかったことができて楽しかったです。

面白かったし楽しかったです。
とっても楽しかったです。
とても貴重な経験になりました。
説明がわかりやすい・優しく教えてもらえた
優しく教えてくれたので質問しやすかったです。
説明がわかりやすくて楽しかった。
説明してくださる方が優しく説明してくれたのでやりやすかった。
今回の講座を通して、宮崎南印刷さんの教え方がとても上手で、実践してくださったり詳しく説明してくださったので、わかりやすかったです。
分からないところを聞いた時にわかりやすく教えてもらえて嬉しかった。
専門の人に教えてもらえたことでより理解がしやすくなった。
理解が深まった・知識が増えた
Illustratorのアプリの使い方が前よりもよくわかった。
アプリの色々なツールもしれて、デザインのことについてより理解が深まりました。
今回の講座でデザインのことについて以前より理解が深まったと思います。
前よりデザインに対しての理解や興味が深まりました。
今回の講座を通して今まで知らなかったことを知ることができ、今後の授業でも活かしていきそうだったのですごくいい時間でした。
興味が増えた・もっと学びたい
あまり興味を持っていなかったけど今回の講座ですこし興味を持ちました。
表紙以外にもたくさんいろんな物をデザインしてみたいと思いました。
もっとデザインについて学びたいと思った。
今後の活動に活かしたい。
今回の授業を今後デザインを考える時や授業に活かせたらいいなと思います。
教えてもらったことをこれからに活かしていきたいです。
プロ・外部講師のすごさに感動した
外部から講座をしてくれるおかげで知識の幅が広がり自分がしたいことが見えてくると思った。
やはりプロの方がデザインする表示は一味違っていて感動しました。
プロの方たちが作るデザインはとても見やすくて、短い時間で作ってすごかった。
Webデザイナーという職業がどういうものなのかをちゃんと知ることができた。
講座を通してWebデザイナーの方の作る速さや配置がすごかったです。
Illustrator・ツール・機能について
Illustratorの色んなツールの使い道がわかった。
ショートカットキーや複製など簡単にできるものが身近でできるなんてすごいなと感じました。
普段は教科書の内容ややり方に沿ってやっていましたが、ショートカットキーなどを覚えてアプリがもっと使いやすくなった。
今回の講座を通してIllustratorの機能やデザインの基礎を知ることができて、とてもいい経験になりました。
表紙・パンフレット・構成についての気づき
パンフレットをいざ作ってみると意外とシンプルの方が良かったりするんだと個人的に思いました。
中学校のときに手にとって見てたパンフレットも、いろんな工夫がされてるんだなと思いました。
色や図形の使い方や見せ方についてわかりました。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）［企］	
まずはIllustratorの楽しさ、デザインの面白さを知ってもらいたい。 その上で興味を持ってもらうことを「目的」にしました。	企業
Illustratorの操作方法、デザインの基礎知識。	企業
Illustratorの基本的な使い方。デザインすることの楽しさ・面白さ。 普段デザイナーがどんなことを考えてデザインしているのかを知ることでもっとデザインを身近に感じてもらえればと思いました。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［企］	
昨年から「レイヤーを少なくする」など改善していたこともあり、困っている生徒さんは少ないように感じました。 一方で、課題データをMacで準備したため、Windows環境で不必要なファイルのアイコンが表示されるなど、生徒さんが戸惑う部分もありました。今後は、学校に持ち込む前にWindowsとの互換性をチェックを行っておきたいと思います。 また、Illustratorが落ちてしまう生徒さんもいたため、フォーマットデータはできるだけ軽くしておこうと感じました。 さらに、授業内で「AI生成」まで進められない回があったので、社内での時間配分や事前の打ち合わせをより綿密にしておく必要があったと反省しています。	企業
3回目ということもあり設定に難しい点はなかった。	企業
この実証講座は今年で３年目を迎え、毎年改善を重ねてきたので実った部分があった。 あとは生徒さんにもっと楽しんでもらうための工夫をしていきたい。	企業
個人的にはすごくわかりやすい内容となっておりました。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［高・専］	
実証講座に入る前に、２～３時間程度イラストレーターの操作方法や、デザインに関する基礎知識を教えた後だったので、実証講座へスムーズに移行するとこができたと感じています。	高校
デザインの基本（20分）、イラストレーターの基本操作（30分）、ラフ作成（5分）、パンフレット作成（40分）、進路について（10分）という流れで大変スムーズな展開であった。 デザインの基本については、「誰に向けて」「何を伝えたいか」、「視線の流れを知ろう」、「レイアウトを考えよう」、「フォントを選ぼう」、「配色を考えよう」について簡潔明瞭な説明と資料提示で生徒たちの理解を深めることができた。 AIでのデザイン作成に関する話もあり、生徒たちは興味深く聞いていた。 講師が作成した４つのパンフレット見本を呈示しての特徴の説明は、生徒たちのデザイン理解に関してとても有効であった。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［高・専］	
生徒によっては、技術面で多少差が出たものの、授業についていけない生徒はいなかった。	高校
事前学習がしっかりとできていたため、生徒のイラストレーター操作もスムーズであった。 また、企業の方４名、高校の先生２名がサポートに回っており、個別の質問に対してもしっかりと対応できていた。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当でした。	企業
欲を言えば、もう少し時間を確保できればと思いました。	企業
年々コツを掴んできたので、事前に教える基礎的な内容も定着してきた。時間としては妥当だと感じる。もう少しやりたい、もう少しやりたい、もっと教えて欲しいと生徒に思わせる微妙なタイミングで終わることができたと感じました。	高校
２コマの授業であったが、高校側の事前学習と事後学習と上手く連携しており、妥当なコマ数であった。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
最初はお互いに緊張していて、うまく声かけができませんでしたが、こちらから「素敵な点」を伝えることから始めると、質問や相談も増え、良い雰囲気で進めることができました。 ３年目ということもあり、積極的に声かけできたのも良かったです。	企業
もっと楽しい雰囲気をつくりたいと思った。	企業
生徒の皆さん、最初はどこか自信なさげだったが、作品の良い点を褒めることで、安心して取り組んでもらえたと思う。	企業
こちらも十分に把握していない点があったので、教えきれないところがあった。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
最後に高校職員でまとめさせていただいたが、まとめや講評的なものがあった方が良いと感じた。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
例年以上にラフ制作の着手が早く、Illustratorを使う際も「こうしたいからどうすれば？」と自主的に動けている生徒さんが多かったです。 アドバイスや、作業方法を教えていた時の反応もとてもよく教え甲斐がありました。	企業
当日もアンケートの結果を見ても非常に真面目であることが伝わってきた。 毎回思うことではあるが、生徒たちのリアクションがとても嬉しく、毎回講師をしてよかったと思える瞬間である。	企業
皆さんとても真面目に取り組んでいたのが印象的だった。	企業
皆さん興味津々に聞き、活動に取り組んでいた。	企業
１クラス40名での講座であったが、全員が熱心に講義を聞き、パンフレット作成に励んでいた。 授業の後半で卒業生でもある企業の方の、歯科衛生士から現在のデザイナーに転身した話は、生徒たちにとってもチャレンジ精神を高める興味深い内容であった。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
十分でした。特に昨年はキャッチコピーで悩む生徒さんが多かったため、先生方が事前授業で対応してくださり、今年は素敵なコピーを事前に考えてくれていました。 また、例年以上に必要な操作を事前授業で学んでくださっていたので、ツールの使い方など理解が早く、制作時間をしっかり確保できた点は、生徒さんにとっても良かったと思います。	企業
十分であった。	企業
大枠は特に問題なかったと思います。MacとWindowsの互換性の部分や、ときどきIllustratorがフリーズしていたので、その点はもう少し配慮したいと思いました。	企業
使用したマシンは、性能やスペック的には良いものの、OSやソフトのバージョンが古くメンテナン	高校

スが難しいマシンであったためにフリーズしやすくなっていた。準備の段階でできるだけのことはやったが結果的には進行に支障をきたした。事前打ち合わせについては問題なかった。	
３年目の取り組みであり、内容もほぼ同じであったため、事前打ち合わせは十分であった。	専門学校

④昨年度と比較して工夫した点や反省点等	
昨年「進路」についての話をさせていただきましたが、今年は都城商業高校OGの社員にも初参加してもらえたことで、生徒さんにとってより身近に感じてもらえたのではないかと思います。 生徒さんの飲み込みが非常に早かったため、いろいろと追加で教える場面もありました。ただ、アンケートでは、「スピードが早かった」という声もいただいたので、全体を見ながら進めることの大切さを改めて感じました。	企業
デザイナーという職業を身近に感じてもらえるよう、卒業生である金丸を参加させた。	企業
卒業生に参加してもらって、身近な先輩がデザイナーとして頑張っていることを伝える工夫をしました。これはキャリアを想像するためにとても重要だと感じました。	企業
技術やデザインの勉強だけでなく、デザイナーとしての進路について学ぶことができたことは、非常に良かったと思います。	高校
年々生徒たちのIllustratorの操作技術が向上しているように感じた。おそらく高校側の事前指導の向上が要因ではないか。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
要望はありません。	企業
Illustratorの基礎を覚えてから、表紙のデザイン案が採用されるまでの流れを意識させるためのワクワクさせるような要素をもっと増やしたいと思った。	企業
もう少し時間が確保できたら、より積極的に取り組んでもらえるのではと思いました。	企業
講師の先生方については申し分ありません。生徒の使うマシンがもっといい物であればもっと満足のいく授業になると思う。この委託事業が終わっても継続してもらえることを非常に望んでいます。	高校
３年目となりしっかりと定着した講座になった印象である。学校パンフレットを生徒が作成するという内容からも、文科委託事業終了後も継続できる講座である。	専門学校

現在、講師謝金や執筆謝金・旅費のお支払等を行っておりますが、 ２年後には費用捻出が課題になりますが、講師料（無料）で継続可能か。 継続するにあたり、費用的な課題について現時点のご意見を頂戴できますと幸いです。	
依頼があれば、「地域貢献」として参加させていただきたいと考えています。	企業
個人的には無料でも継続したいと考えております。	企業
基本的には社会貢献として参加したいと考えています。 それぞれデザイナーは、一人あたりの時間単価が一時間4,000円なので、講師料という形で費用が発生すると、各デザイナーにお願いする立場としては依頼しやすいです。 また、そういった形がとれると、デザインだけでなく動画の講座やWeb制作の講座なども幅広く展開することも可能になります。	企業
県の規定によって、交通費と謝金を支払うことができます。	高校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
アンケートを見て、「中学生が見ると思って～」や、「色やフォントの組み合わせで印象が変わる！」など、講義内容をしっかり意識して制作してくれていたことが伝わり、生徒さんたちがとても真剣に取り組んでくれたことを実感しました。特に、「楽しかった」という声が多かったのは、「デザインの楽しさ」が伝わったのだと感じ、とても嬉しかったです。 毎年このような機会をいただけていることに感謝しています。 また、今年はお弁当のご準備までご配慮いただき、ありがとうございました。	企業
アンケートで答えていただいたさまざまな意見をしっかりと受け止めて次回に活かしていきたいと思います。アンケートに答えることも生徒にとっては負担になることかもしれませんが是非毎回答えていただければ幸いです。	企業

校長先生や担任の住友先生、生徒の皆さん、そしてMSGの皆様にはたくさんのご協力を頂いて大変感謝しております。 生徒さんの純粋に学ぶ姿勢を見ることで社員としてもとても刺激になります。 また今後機会がありましたらぜひよろしくお願いします。	企業
今回初めて参加させていただき、こちらとしてもいい経験になりました。 皆関心を持って取り組んでいる印象で、より積極的にこういった授業を行っていけたらいい学びになるのではと思いました。	企業
実証講座を受けた生徒の作品は、非常にレベルが高く、フォントや色の使い方がうまくなり、面白いアイデアや創意工夫がみられるようになった。 技術だけではなく、プロのデザイナーに学ぶという機会に恵まれるのがとても刺激になるようです。 ありがとうございました。	高校
40名×２コマの授業を２つのクラスで実施していただいた宮崎南印刷の4名の講師の方に改めて感謝したい。	専門学校

（10）　実証講座⑦：実施報告

○期日　令和７年11月25日（火）

○場所　宮崎県立富島高等学校

○時間　２コマ　10:50～12:40

○対象　情報ソリューション科２年生２クラス80名

○授業形態　講義および演習

○講師　宮崎情報ビジネス専門学校　髙良 由佳（教務部 教員）

岡本 伸吾（教務部 教員）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

黒澤 伸也、尾崎 勝一

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

創立110周年記念事業の一環として、記念ポスターおよび記念動画を生徒が制作しているため、完成度向上を目的に、作品の添削についてご協力をお願いしたい。

＜提案（専門学校）＞

ポスターデザインについては、事前に生徒の作品を提出いただき、当日はそれらをもとに作品の添削指導を行う予定としています。また、必要に応じて作り直した場合の作品例を紹介し、改善のポイントを具体的に示したいと考えています。ショート動画については、当日の時間的制約から添削指導の実施は難しいことが想定されるため、事前に提出された動画作品に対し、ウェブ上で添削・講評を行う方法を提案します。

○内容　講義および演習

①110周年記念ポスター講評

②CanvaとIllustratorの違いについて、Illustratorの簡単な操作

③動画作品講評





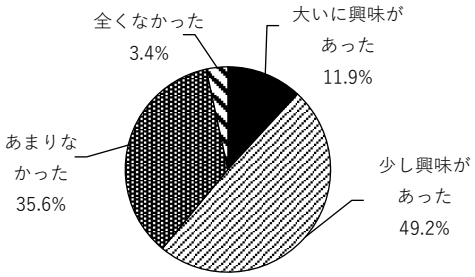




（11）　実証講座⑦：生徒アンケート及び意見の概要

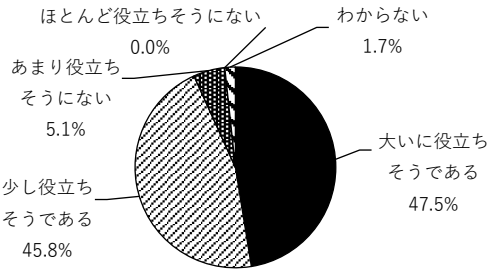
ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　もともとデザインなどのクリエイティブな分野に対して興味がありましたか。



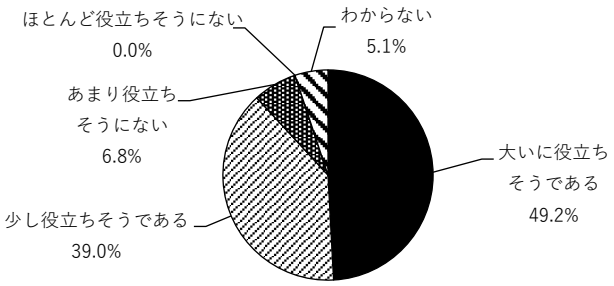
(n=59)

問２　講座を受けてみて、ポスターを制作する際に役立ちそうですか。



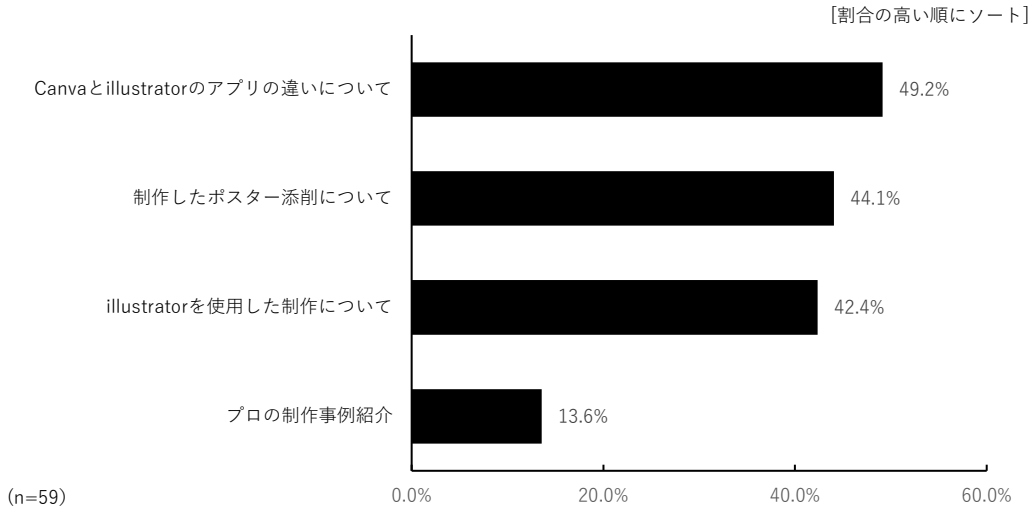
(n=59)

問３　講座全体を通して、今後のデザインなどクリエイティブな分野の授業に役立ちそうですか。



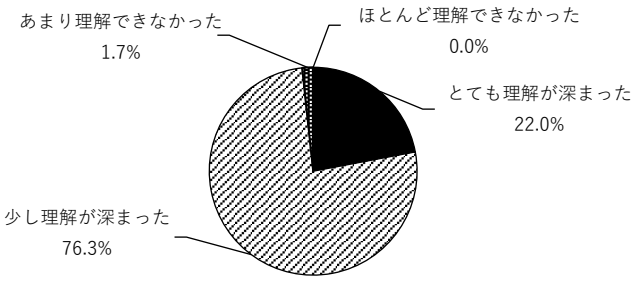
(n=59)

問４　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。　【複数選択可】



(n=59)

問５　講座全体を通して、ポスターを作成するポイント等について理解できましたか。



（n=59）

問６　問５で具体的によくわかったところ、または、よくわからなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

見やすさ・わかりやすさ（全体の印象）
見え方。
見えやすい工夫の仕方。
見やすさ。
わかりやすいポスターを作ること。
読む人にわかりやすく。
配置・バランス・全体構成
バランスよく見る人が見やすいポスターを作らないといけないということ。
細かいところまで気を配ったポスターを作るところ。
配置や色使いなどで見やすさがガラッと変わる。
文字・フォント・文字装飾
文字が人にかぶらないようにすること。
文字の見やすさなど小さなところにも目をつけて作ること。
文字を見やすくするための袋文字や見やすい色の組み合わせ方。
文字は見やすく主張したい部分を強調して、遊び心も加えるといいとわかった。
漢数字などを数字に戻したほうが見やすかったり、同じ素材でも色の組み合わせで全く違うものに見えたりすること。
どんな文字とか文字の配置にすれば注目が集まるとかいろいろなことを知ることができた。
色の使い方
青い色などの爽やかな色合いを使ったほうが目に留まりやすい。
色によって見やすい色がそれぞれ違うことが分かりました。
情報量・伝え方（相手意識）
どれだけ相手に自分の伝えたいことを伝えるかが大事だとわかった。
ポスターに情報を増やしすぎても良くないことや、減らしすぎても何のポスターかわからなくなるので、入れる情報の塩梅を考えるのが大事だと思いました。
遊び心・硬さの調整
固くなりすぎないように遊び心を入れることが大事だとわかりました。
真面目すぎじゃない工夫も大事。

Illustrator（イラストレーター）の使い方
Illustratorの使い方がわかった。
Illustratorの使い方が難しかった。
Illustratorが難しくもっと理解したかった。
Illustratorを使ってみて線などを入れてみるとか、写真の貼り方についてわかった。
Illustratorには色々な使い方があるとわかりました。
オブジェクトの複製。
ポスターを作るソフトの使い方が難しかった。
Canva・アプリの違い
CanvaとIllustratorの違い。
アプリによって全然違うなと思った。
Canvaで今まで作っていたけど、Illustratorは自分の形やデザインにできるということがわかった。
ポスター作成全般・考え方
ポスターの作り方。
テンプレートを使うと絶対かぶらないと言う可能性は0ではないから、自分の想像力を使っていかないといけない。

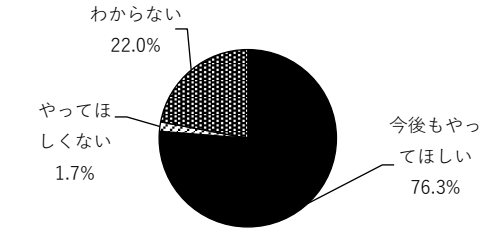
問７　もっと教えてほしかったことなどご希望がありましたらお教えください。

（一部抜粋）

特にない
特にない。
特にないです。教えて欲しいとこをたくさん教えてくれました。
進みが速い／ゆっくりしてほしい
進めるスピードが速くて理解できなかった。
もう少しゆっくり詳しく教えて欲しかった。
進みが早くてついていけなかったので、もう少しゆっくりするともっといいと思いました。
ペースが早くて追いつけなかった。
もう少しゆっくりやってほしかった。
わからなかったことが多かったので丁寧に説明を受けたかった。
詳しい使い方をもっと教えてほしい
もっと詳しい使い方を知りたい。
使い方をもっと時間を使ってほしかった。
Illustratorの使い方がわからないところが時々あったからそこをもっと教えてほしい。
Illustratorの中で画像をファイルから開くときのやり方。
Illustratorのすごいところなどをもっと教えてほしいです。
動画の作り方／動画
動画の説明。
動画などの作り方。
詳しい使い方。静止画だけでなく動画の作り方も教えて欲しかった。
ポスター・配置・色
ポスターが目に入りやすい色使いなどを、もっと教えてもらいたかった。
色のバランス。

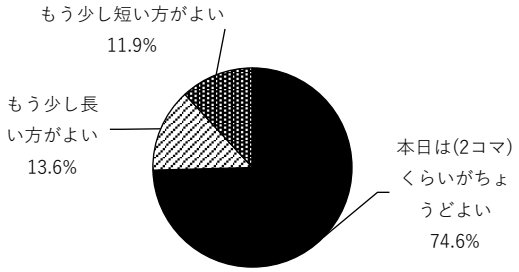
ポスターの作り方。
配置の場所をもっとこうするとわかりやすくなるなど、教えてほしかった。
イラスト関連
イラストを描くときとかの基本。
授業回数・継続への要望
わからなかったところがあるから、もっとこういう授業をして欲しい。

問８　企業や専門学校など外部の方による講座に対する要望について



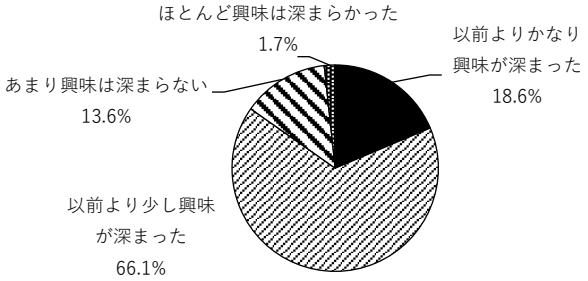
(n=59)

問９　午前中の講座時間について



(n=59)

問10　講座全体を通して、デザインなどクリエイティブな分野に対する興味は深まりましたか。



(n=59)

問11　今回はポスターの添削・制作がメインでしたが、クリエイティブ系の授業を受ける場合、どのような内容がご希望ですか？　もしよろしければ、理由も添えて自由にお教えください。

(一部抜粋)

動画制作・動画編集・映像系
動画作成。
動画の添削・製作。
動画の編集。
動画制作の授業。
動画制作、プロがどう作るか興味があるから。
動画制作の方を呼んでほしい。動画制作に少し興味がある。
動画作成もしてみたい。動画作成は極たまにする。
ポスター・チラシ・パンフレット制作
ポスターの作り方やデザインの仕方。
ポスターの作り方をもっと深く知りたい。

ポスターを完成させる。
実際にオリジナルのポスターを作る授業。自分で使ってみないと身につかない。
チラシやちょっとしたパンフレットなどの作り方や添削解説を受けてみたい。
体験・実習・自分で作る時間を増やしたい
体験学習を増やしてほしい。
実際に体験できたり講話を聞くのがいいです。
何かを制作する授業。
講和を行った上で実際にやってみたい。
もっと自分で作ってみる時間が欲しい。
話し合いなどの時間をとる。
制作の考え方・プロセスを知りたい
どのようなことを考えて作るのか制作過程が見たい。
人の目に留まるような構成や動画の作り方。
今回と同じような感じ。
今回と同じ内容でもっと深めたもの。
イラスト・アニメーション・表現系
イラストを描くときの基本。理由はイラストについて少し学びたい。
アニメーションなど。
プログラミング・アプリ・ゲーム系
プログラミング。
ゲーム作成。
プログラムでアプリを作る。
アプリとかの製作方法。どうやって作ってるのか気になった。
面白いプログラム。
写真・映像・音楽（動画以外）
映像写真系の授業を受けたい。
DTM（Desk Top Music）。
その他・抽象的
自分のためになればいい。
もっと役に立ちそうなこと。
特になし／ない／わからない

問12　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

（一部抜粋）

楽しかった・よかった・満足感
とってもよかったです。
楽しかったです。
楽しくもっとやって欲しい。
自分たちが作ったポスターをよくしてもらう体験はすごく見ていて楽しかったです。
見やすさ・工夫・デザインのポイントが分かった
どこを工夫したら見やすい方とかわかった。

色や影を付け足すだけでこんなに見やすさが変わるんだなあと思いました。
見やすいポスターを作る参考になった。
少し違うだけで読みやすさが変わった。
今までと比べてより良いポスターを作るための大事なポイントを知れた。
新しい知識・方法を知れた／学びになった
わからないことがわかった。
知らないことを知れて今後のためになると思うのでこれからの授業に生かしていきたいと思いました。
新しいポスターの制作方法を知ってよかった。
今まで知らなかったことが知れたのでよかった。
専門的な知識が知れてよかったです。
とてもいろいろな技術について知ることができた。聞いたことを活かせるように頑張りたいと思う。
プロ・専門家の視点や話が良かった
プロの方がどのような視点でポスター制作を考えているのかがわかった。
普段関わることのないプロの話を聞けてよかったです。
実際に専門としている人たちがどうやって作っているのかなど知れてよかった。
プロはどんな感じでつくるかを学んだ。
Illustrator・Canva・ツールの理解
ポスターデザインの講座を聞いてCanvaとIllustratorのアプリの違いについてわかったし、Canvaではできないことがlllustratorではできるということを知れた。
Illustratorを使えて嬉しかった。
興味・関心が高まった／今後につながる
デザインについては興味があることの一つなので、遊び心を入れることや、端まで文を書かずに少し中央寄りにすることなど沢山学べて良かったです。
もっといろいろ知りたいと思った。
講座を受けてデザイン関係の仕事も少し興味を持てました。今度時間があったら調べてみます。
ポスター制作に興味がわきました。
ポスター作りの能力があったら役に立ちそうだなと思いました。
添削・改善の体験が良かった
添削してもらうことで自分の意見を深めることができてよかった。
授業への要望・課題感
ポスター制作に関する知識を得てましたが、それが今すぐ授業で使えるかというと難しいので、もっとクリエイティブ系の授業を増やしてほしいです。
友達に説明していたら次の説明が始まってしまって追いつけなくなった。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、高等学校（受講者）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）［専］	
ポスターデザインに関して、色々なデザインのアプローチがあることと、CanvaとIllustratorの違いについて。	専門学校（講師）
動画編集で、どこに着目すれば素人っぽさから抜け出せるのかを学んでいただきました。また、良かった部分もお伝えすることで、自分でも動画編集はできるという自信を持っていただくよう気をつけました。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　［専］	
時間内での納め方に関しては２コマしかなかったこともあり、難しかったと感じています。また、生徒の能力の差もあるため、修正案の提示にどうしても差が出る点にも課題があるかと思います。	専門学校（講師）
難しかったのは、２時間でデザインと動画の両方を取り上げるという点でした。結局、デザインをメインでする形で対応し、動画は最後の5分担当しました。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［高・専］	
生徒たちが作成した作品の添削をしていただき、また改良したポスター・チラシを作成していただきプロの目線などをしることができた。また普段から使用していないAdobeを使用することで、興味をもたせることができた。	高校
前半のCanvaを使って生徒が作成した富島高校創立110周年のポスターデザインの添削については、１人～２人でも生徒がどういう意図でそういうデザインにしたのかを質問してもよかったのではないかと思った。 後半はCanvaとIllustratorの違いに触れた後、Illustratorを使用した実習であった。 実習は２～３人でPC１台のところもあったため、できれば一人１台のほうが理想的であった。 最後に時間は4～5分程度であったが、同じく110周年をテーマに生徒がつくった動画についての講評であった。できれば動画の講評ももう少し時間があるとよかった。	専門学校
学生の作ったポスターの批評ができたのは、学生にとっても非常に良かったと思われる。何が良くて、何が悪いのかが明確になったことで、今後の学生の作品作りに良い影響が出ると思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［高・専］	
Illustratorに関しては初心者がほとんどではあったが、専門学校の先生のフォローもあり基礎的な操作などがある程度使えるようになった。また、もう少し時間が確保できれば、自分たちで作品を作成できると充実した時間となったと思われる。	高校
Illustratorの実習については、生徒がほとんど使ったことがなさそうだったので、アンケート結果をみると操作についてくるのも大変だった生徒も多かったようである。 また、もう少し時間的に余裕があると生徒も今の作業は何をしているのか、理解しながらやりやすかったかもしれない。	専門学校
そこまで難しい内容ではないが、Illustratorの機能の多さを考えると、何がどこにあるのかわからないという生徒も少なからずいただろう。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
Illustratorの使い方まで指導することを考えると、時間は足りなかったと感じています。	専門学校（講師）
少ないです。	専門学校（講師）
デザインに関しては、知識などを12時間で実践を２時間するとよいかと感じた。	高校
今回の内容に対しては、少なかったと考える。２コマであれば、添削かIllustratorの基本操作実習かどちらかに絞ったほうがよかったかもしれない。 添削も本来は、生徒の作成意図を確認しながらのほうが効果的だと考えるが、今回はその時間がなかった。また、Illustratorの実習については、触ってみる程度しかできなかったため、もう少し時間が必要だと考える。	専門学校
内容を考えると少ない。とはいえ、準備にかかる労力を考えると、妥当だった。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[専]	
人数が多かったため、２時間ではサポートまで含めると厳しいと感じました。そのほかの職員がサポートに回ってくれたため、なんとかなりましたが、それでも足りているとは言い難く、実技系の講座に関しては１人だと難しいかと思います。また、話を聞く前から作業に取り掛かる生徒も数名いた点も難しさを感じたところです。	専門学校（講師）
とくにありませんでした。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
生徒への作品に関して細かい部分に関しても良い点などを言っていただきありがたかった。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
楽しんでIllustratorに触れていたように思います。	専門学校（講師）
積極的に参加をしていただき、サポートをしていて楽しかったです。	専門学校（講師）
プロが作成したデザイン等をみて驚く生徒や興味を持つ生徒がいた。	高校
アンケート結果をみると、興味や理解がある程度は深まったようであるが、時間的な制約もあり、かなり深まったというところまでは難しかったようである。	専門学校
質問もあり真面目にやっている生徒も多かった印象。ただし、システム系の学生においては講座をする前からやる気のない発言の生徒もおり、非常にもったいないと感じた。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
特に問題はなかったかと思います。	専門学校（講師）
特になし。	高校
事前打ち合わせ自体は9月と11月に2度行ったため、回数としては問題ないと考える。ただし、カリキュラム全体の中での位置づけなども考慮して調整したほうがより効果的な講座になるのではないか。（今回の例で言えば、110周年のポスターと動画を作成する際に専門学校にどういうことを期待するのか等を整理した上でのほうがより効果的だったかもしれない。）	専門学校

現在、講師謝金や執筆謝金・旅費のお支払等を行っておりますが、 ２年後には費用捻出が課題になりますが、講師料（無料）で継続可能か。 継続するにあたり、費用的な課題について現時点のご意見を頂戴できますと幸いです。	
専門学校に関しては、高校側から依頼があったタイミングのみ行っていければと思いますが、企業側の講義の方が説得性もある点は否めません。企業様に対して無料でというのは無理な話なため（特にクリエイティブ企業に関しては企業規模も小さいためシステム系より難しいと思います）、検討自体が難しくなると感じています。	専門学校 （講師）
我々が高校に出向く今回の形式であれば学生へのPRになるため、専門学校側にもメリットはある。そのため、講師料がなくても継続は可能です。ただ、外部の方をお招きする場合は、相手方にメリットがない場合の継続は不可能だと思います。有償であれば私にも登壇をお願いできる方が知り合いに沢山いますが、無償だと、私の方が申し訳なくて誰も紹介できなくなります。旅費と講演料は捻出できないと相手にとってデメリットが大きいため、継続はかなり難しいと思います。	専門学校 （講師）
オンラインを活用することで、移動等の負担は軽減できる可能性はあると考えるが、無料で対応可能かどうかは講師の方次第だと考える。また、文科省の規定による謝金自体はそれほど高額ではないため、学校の通常予算の範囲でまかなえる可能性もあるのではないか。	専門学校
旅費などの課題をクリアしていくためにも単発的な講座を繰り返すよりも、先生方が成長する場を提供し、継続的に生徒が成長する場(学校)を提供したほうがよい。ただし、教材作成などの労力がかかることは間違いなく、有償・無償に関わらず、その点をどのようにフォローしてもらえるのかが課題だと思う。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
スケジュール調整の課題は常に挙げられるかと思います。今回も先方からの要望に対して時間が短い点があります。また、クリエイティブ系に関しては、以前より評価が難しいとのご意見もありましたので、生徒向けの講座よりも教員向けの講座の方が良いのではないかと思っています。	専門学校 （講師）
検証のコメント様式については、必要な内容は確保しながら、質問項目の精査など負担軽減も検討課題だと思います。 また、検証の精度を高めるため、実証講座の記憶が残っているうちに、実証講座終了後すぐに記入できるような実施方式が望ましいと思います。	専門学校 （講師）
高校生ができる少し専門的で高度な知識や実習を専門学校の先生と継続的にできればと感じている。我々教員も知識を深めることができ、またより専門的な知識や技術を習得出来るからである。継続していくために授業に組み込んでいくことを年度末に計画等をたてられると良いかと思う。	高校
Illustratorの基本的な操作自体は生徒も慣れればできるようになると考えられるので、専門学校や企業の講師としては、デザインをつくる流れや理論的な部分などを担当したほうがよいのではないか。	専門学校
生徒向けの講座より先生向けの講座として継続したほうがよいと思う。 私たちが常に評価ができるとは限らないため、先生方が生徒を指導できる体制を作っていく事が重要と考える。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
分野としては、商業よりも工業に近い部分もありますので、２年後を見据えた場合には、工業高校へのアプローチも必要かと思います。もちろん、目的はIT等の人材を増やすことにあるため、裾野を広げるためにも商業高校に対して実証講座を行う点は良いかと思いますが、工業高校の方がより高度な話もできるのではないかと感じています。	専門学校 （講師）
デザインだけではなく、モラルや法律にからめた講義等があるとより身近に感じ興味を持つ生徒が増えるかと感じた。	高校
本来であれば、110周年のポスターを作成する前に、事前指導という感じで実証講座を入れたほうがさらに効果的だったのではないか。	専門学校

（12）　実証講座⑧：実施報告

○期日　令和７年11月25日（火）

○場所　宮崎県立富島高等学校

○時間　２コマ　13:25～15:15

○対象　情報ソリューション科２年生２クラス80名

○授業形態　講義および演習

○講師　宮崎情報ビジネス専門学校　黒澤 伸也（教務部 教員）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

髙良 由佳、岡本 伸吾、尾崎 勝一

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

夏季に実施された高校教員向け研修会（情報セキュリティ）の内容が非常に充実しており、生徒にとっても有益であると考えられることから、生徒向けにも同様の内容を実施してほしいとの依頼があった。

＜提案（専門学校）＞

夏期に実施した研修内容は、は基礎から丁寧に解説する構成としており、情報セキュリティの初学者にも理解しやすい内容であることから、高校生を対象とした実施も可能である。

○内容　講義および演習

①情報セキュリティの重要性や脅威

②フィッシング詐欺の手口

③パスワード管理の重要性や認証要素

④写真情報公開の危険性

⑤ネット上の情報が本当かどうか

⑥ネット上のトラブル

⑦価値観の違いに関するワークショップ

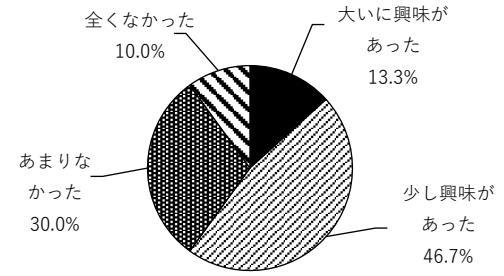




（13）　実証講座⑧：生徒アンケート及び意見の概要

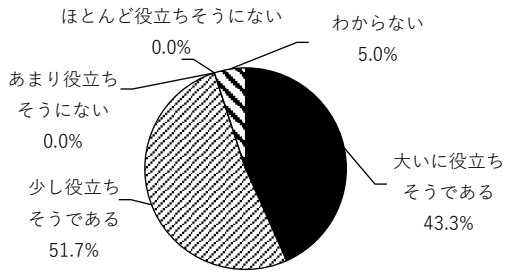
ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　もともと情報セキュリティに対して興味がありましたか。



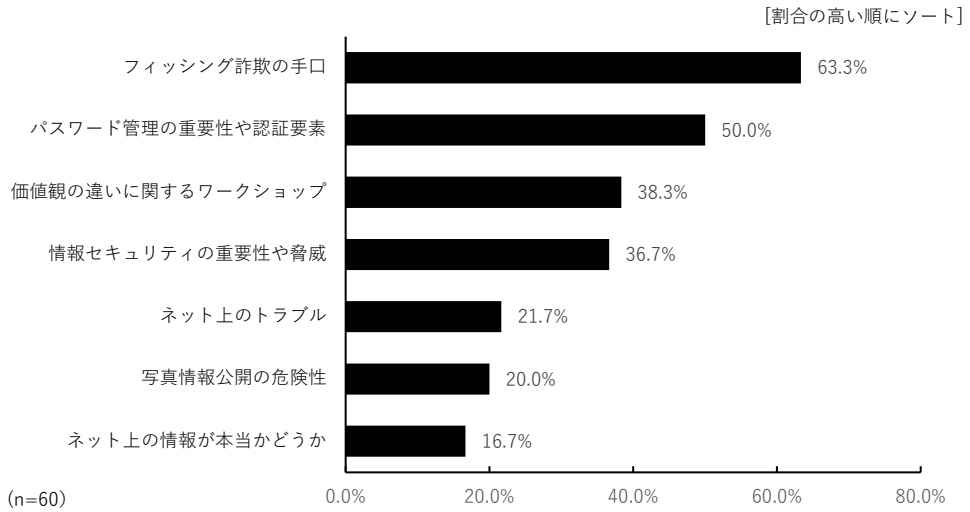
（n=60）

問２　講座全体を通して、今後のインターネット利用の授業に役立ちそうですか。



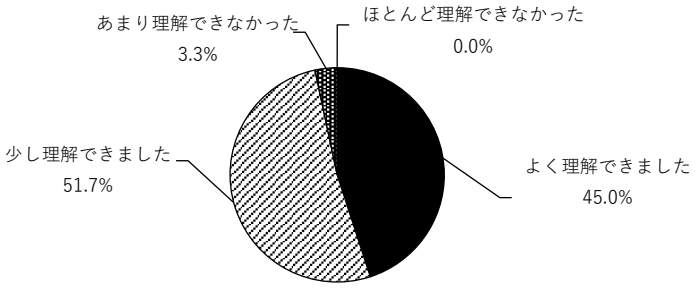
（n=60）

問３　講座全体の中で印象に残ったところは何ですか。【複数選択可】



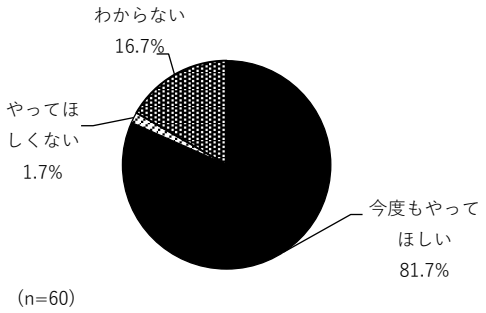
（n=60）

問４　講座全体を通して情報セキュリティについて理解できましたか。

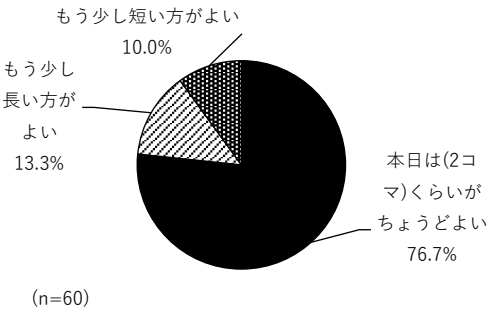


（n=60）

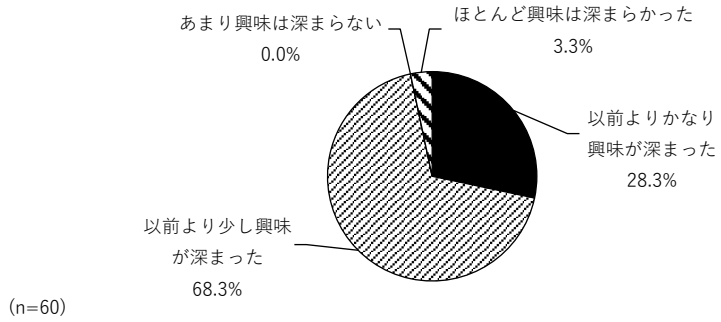
問５　企業や専門学校など外部の方による講座に対する要望について



問６　午後の実証講座の時間について



問７　講座全体を通して情報セキュリティに対する興味は深まりましたか。



問８　講座全体を通して、難しかったところやわかりにくかったところがあれば、自由に記入してください。

(一部抜粋)

特になし／ない／わからない
内容・話が難しかった／理解しにくかった
全体的に難しかったけど理解できた。
専門用語や横文字が多くて理解できないところがあった。
話の内容が難しかった。
用語・見分け方・知識理解が難しかった
どれが本物のサイトかの見分け方が難しかった。
2段階認証と2要素認証の違い。
偽サイトへの転送のしかた。
見えにくさ・表示の問題
文字が見えづらかった。
セキュリティ・個人情報に関する理解
パスワードやロックなどは自分の個人の情報を守るものに大切だと感じました。
価値観・考え方に関する内容
価値観の違いを認め合うことが難しいことなんだと思った。
最後に行った価値観の違いに関してやったゲームが楽しかった。

サイバー攻撃・仕組み理解
いろいろなサーバー攻撃とかがあるということがわかった。

問９　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

（一部抜粋）

楽しかった・面白かった・良い授業だった
おもしろかった。
ゲームなどが交えられていたことで楽しく学ぶことができました。
面白かったけど、同時に怖いなと思った。
すごく面白くて楽しかったです。
ゲームが楽しかった。
身近な内容でわかりやすく説明してくれたのでよかった。
素晴らしい授業だと思った。
わかりやすかった。
グループ活動・ゲームが理解につながった
グループ活動があってとても頭に入ってきたどんどん取り入れてほしい。
ゲームでみんなの意見がバラバラで人それぞれ考えが違うのがよくわかりました。
6時間目にしたグループでのゲームがとても楽しかったです。
価値観が違うことがよくわかった。
価値観が人によって全く違うということが知れて楽しかった。
価値観の違いを学んでまずは意見を否定しないことと、受け入れる大切さを再確認できました。
パスワードの大切さ・見直し
パスワードなどはとても大切なものなんだと思った。
パスワードは特に何も考えずに覚えやすさで決めていたので、これからは詐欺に合わないためにもしっかり考えたいと思いました。
今後はパスワードをもっと考えて設定しようと思った。
これからはパスワードを決めるときは気をつけようと思いました。
詐欺・フィッシング詐欺・危険性の理解
詐欺の手口とか見てすごいと思った。
シンプルなパスワードの危険性や悪質な詐欺サイトの見抜き方など、今後の生活に役立ちそうなことが多かった。
今まで自分はあまり詐欺など考えずにサイトを開いてましたが、今回のフィッシング詐欺の話を聞いていつ騙されてもおかしくないと感じました。
フィッシング詐欺がどうなっているのかがわかった。
情報セキュリティの講座を受けてネット上の情報が本当かどうかわかったし、簡単なパスワードだとハッキングされる可能性が高いということがわかった。
フィッシング詐欺がすごく印象に残った。
詐欺の手口を初めて目の当たりにすることができてよかった。
身近に起きそうな詐欺などの手口を知れてよかった。
情報を疑う・ネットの使い方を見直した
情報はうのみにしないようにしようと思いました。
LINEを使う時とか気をつけたいと思った。

自分のパスワードを見直したり、サイトに気をつけようと思った。
講座を受けてトラブルに巻き込まれないようにしようと思いました。
知識が増えた・今後に活かしたい
使い方でこんなに変わるのだということがわかった。
色々なことを知ることができたのでよかったです。今後に活かせると思うので頑張りたいと思う。
特になし
眠くなった。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、高等学校（受講者）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[専]	
他人事ではなく、自分の身近な問題としてとらえてほしい。また常に人との関わりの中で生活しており、だからこそいろいろな考えを持った人たちがいる状態で、どのようなコミュニケーションを取るべきなのかを知ってほしい。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［専］	
どうしても話だけになってしまうために学生が飽きてしまう。 実習があるといいのだが、高校の環境の中では実施できない。ちなみに今回実施していく中では、飽きてきた学生がいた為に話を早々に切り上げて、２コマ目が始まった段階でゲームを実施。その分時間に余裕ができすぎてしまった。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[高・専]	
生徒達が楽しんで参加をしていて、すごくよかったです	高校
セキュリティやネットリテラシーに関する内容であったが、フィッシング詐欺体験やパスワード解析体験のほか、グループディスカッションなども、ちりばめられていたので、あまり単調には感じなかったのではないか。 ただし、PC環境等の関係でフィッシング詐欺体験やパスワード解析体験が全生徒ではなく、教室の前に代表の生徒１名が出てきての体験だった。体験した生徒に感想などを聞いてもよかったかもしれない。	専門学校
ゲーム要素もあり、生徒も楽しそうに受講していたのが印象的でした。	専門学校
学生が楽しんで参加をしていて、すごくよかったです。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[高・専]	
非常に面白く、適切だったと思います。	高校
ネットワークやセキュリティの技術的な内容ではなかったため、高校生でも十分に理解できる内容であったと思う。また、事例紹介も多く、高校生にも参考になったと考える。	専門学校
前半の講義は難しいと感じる生徒もいたかもしれませんが、後半は楽しそうにしていたため、トータルしたら難易度も丁度良かったのではないでしょうか。	専門学校

ちょうど良かったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
多少多かった。	専門学校（講師）
適正だと思います。	高校
妥当であった。余裕をもって説明できたのではないかと思う。	専門学校
妥当だったかと思います。	専門学校
ちょうど良かったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[専]	
実習があったわけではないので、特になし。	専門学校（講師）

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
分かりやすく非常に面白い内容でした。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
最初の１コマ目は飽きている学生がいた。それでもパスワードクラックでは全体的に反応があったのはよかったと思っている。2コマ目は盛り上がってくれたのは良かった。	専門学校（講師）
生徒達が楽しむ様子が印象的でした。	高校
アンケート結果をみると、あまり理解できなかったというような内容は少ない感じだった。 実際のPC画面を見せながらの説明で、フィッシング詐欺などの仕組みが生徒にもわかりやすそうであった。	専門学校
楽しそうにしていました。	専門学校
楽しんで参加をしている様子が見られて、すごくいい反応だったと思います。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
十分だった。	専門学校(講師)
十分だと思います。	高校
９月と11月に打ち合わせを行ったが、高校からは、８月に実施した教員向け研修会でのセキュリティに関する講座の内容を高校生向けにお願いしたいとの希望であったため、高校と専門学校とで講座内容について共通認識を持ちやすかったと考える。	専門学校
十分だったかと思います。	専門学校
ちょうどよかったと思います。	専門学校

④昨年度と比較してどうだったか	
学生が飽きてしまうため、PC等を持ち込んで多少の実演を行ったり、少しでも興味がありそうな内容を踏まえて話を進めてみた。	専門学校（講師）
昨年度は専門学校生も参加してのPythonを使ったDX体験とDS（データサイエンス）体験で3コマであった。	専門学校

内容がかなり異なるため、単純な比較はできないが、日常の生活にもつながるネットワーク・セキュリティに対する意識やネットリテラシーを高める意味では役に立つ講座であったと考える。	

現在、講師謝金や執筆謝金・旅費のお支払等を行っておりますが、 ２年後には費用捻出が課題になりますが、講師料（無料）で継続可能か。 継続するにあたり、費用的な課題について現時点のご意見を頂戴できますと幸いです。	
講座内容にもよるが、もしオンラインを活用できれば、移動等の負担は軽減できる可能性はあるが、無料で対応可能かどうかは講師の方しだいだと考える。 また、文科省の規定による謝金自体はそれほど高額ではないため、学校の通常予算の範囲でまかなえる可能性もあるのではないか。	専門学校
スケジュール調整の課題は常に挙げられるかと思いますので、そこをどうクリアにしていくか（企業側や高校側の負担や手間をどう少なくしていくか）が継続できるかどうかに直結するかと思います。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
話の内容としては高校の先生方でも十分に実施できる内容だと思っている。ただし、フィッシング詐欺の実演は高校側のセキュリティ上の問題から、実施は難しいと思われる。その問題さえクリアできれば、環境を作る事は難しくない。	専門学校 （講師）
検定取得やカリキュラム等の問題で、このような時間を確保することが難しい。だからこそ、学校としての課題を解決し、継続できるようにして行きたいと考える。	高校
今回のような内容であれば、専門学校の教員でも継続するのはそれほど難しくないと考えるが、教員向け研修会で取り上げた内容でもあるので、高校の先生で教えることができる部分は高校の先生に将来的に移行していくのが理想的ではないかと考える。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
私の希望で、この講座を依頼したこともあり、大変勉強になった。この内容は、情報を学ぶ全ての生徒が受講するべきだと考える。	高校
今回は教員向け研修会を受けられた先生が生徒にも受けさせたい内容だったということで、実証講座の実施に至った。教員向け研修会は高校の先生方のスキルアップを目的としているため、今回のような内容を高校の先生でも教えることができるようになると、さらによいのではないかと思う。	専門学校
分野としては、商業よりも工業に近い部分もありますので、２年後を見据えた場合には、工業高校へのアプローチも必要かと思います。もちろん、目的はIT等の人材を増やすことにあるため、裾野を広げるためにも商業高校に対して実証講座を行う点は良いかと思いますが、工業高校の方がより高度な話もできるのではないかと感じています。	専門学校

（14）　実証講座⑨：実施報告

○期日　令和８年１月23日（金）

○場所　株式会社デンサン（宮崎市大字赤江字飛江田224番地）

株式会社クラフ（宮崎市老松２丁目２－22 JR宮交ツインビル10階）

○時間　１コマ　10:45～11:30

○対象　株式会社デンサン

情報ソリューション科３年生

（ITシステムコース　27名・ITビジネスコース13名　２クラス40名）

株式会社クラフ

情報ソリューション科３年生（ITビジネスコース　２クラス37名）

○授業形態　企業講話および企業内見学

○講師　株式会社デンサン　小林 未来 様（総務部）

株式会社クラフ　伊藤 ことの 様（人事部）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

デンサン様：花盛 和也、前田 賀子、クラフ様：岩村 聡志

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

昨年度は企業見学を予定していたが、見学先企業の業務上の都合により実施できず、企業講話およびPC体験のみの実施となった。そのため、企業内の様子を生徒に見せ、地元企業への理解を深める機会を設けたいとの要望があった。

＜提案（企業）＞

デンサン様：11月の都城商業高校の企業見学の構成と同じ内容で予定。

クラフ様：11月の都城商業高校の企業見学の構成と同じ内容で予定。

○内容：企業講話および企業内見学

【株式会社デンサン様】

①会社説明（概要や業務など）

②IT 業界について

③開発アプリやシステム紹介

④AI の活用紹介

⑤社内見学



◀会社説明・IT 業界説明の様子




▲開発アプリなどの紹介および生成AIで作成したゲームで楽しむ様子

【株式会社クラフ様】

①会社説明（概要や業務・働き方）
②IT業界について
③セキュリティについて
④情報セキュリティの市場規模
⑤サイバーセキュリティの脅威・格差
⑥ホワイトハッカーの業務内容紹介（パスワード等のチェックなど）
⑦アナリストの業務内容体験（アラートの内容・よく見ている部分など）
⑧社会見学



◀説明の様子

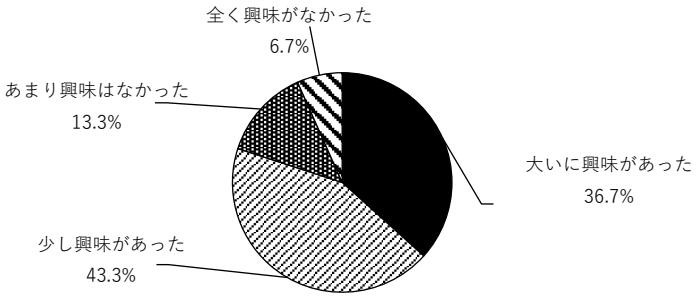


◀社内見学の様子

（15）　実証講座⑨：生徒アンケート及び意見の概要

ア　生徒アンケート結果（単純集計）

問１　もともとIT業界（情報通信業）に対して興味がありましたか。



（n=60）

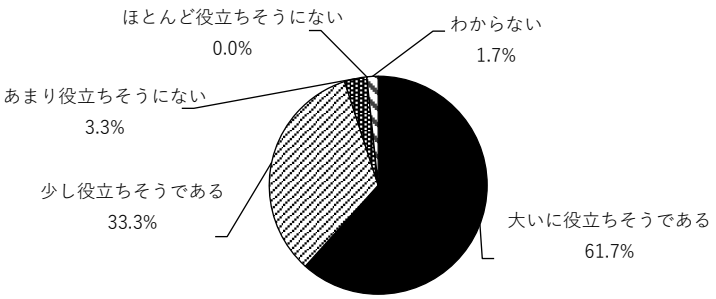
問２　IT業界（情報通信業）に対して、どういうイメージを持っていましたか。もしくは、どの程度知っていましたか。

（一部抜粋）

「難しい・専門的・才能がないと無理」というイメージ
難しい。
難しそうな業界。
プログラミングがめっちゃ難しい。
すごく難しそう。
難しいけどカッコイイ。
プログラムなどばかりで難しそう。
難しく一人でパソコンをカタカタして作業する。
難しくて入るには大変で知識や技術が必要だと思う。
業務内容が難しい。
難しい仕事をしている。
「あまり知らなかった／知識がなかった」というイメージ
何も知らない。
あまり知らない。
あまり（イメージを）持っていなくて、パソコンのイメージしか無かったです。
具体的なことはよく知らなかった。
「パソコン作業中心の仕事」のイメージ
パソコンを使って長時間作業する。
パソコンに詳しい人が沢山いる。
専門用語やずっとパソコンでの作業だと思っていた。
「忙しい・大変そう」というイメージ
忙しそうな業界。
男性が多く、何日も会社で作業をしている。
残業が多い。
大変そう。

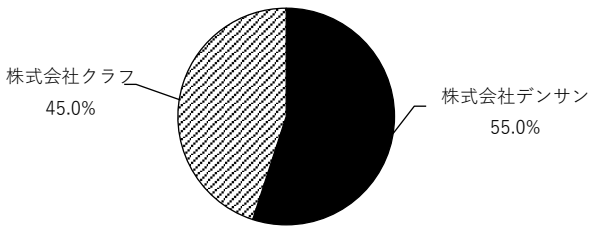
最新の技術が揃っていて常に忙しそう。
「理系・頭が良い人向け」のイメージ
頭が良い。
理系。
ITはものすごく秀才じゃないと入れない。全く知らないです。
「AI・最新技術」というイメージ
AIの役立つ場面を広く知ることができて、AIの便利な使い方についてより深く理解できました。
「開発・アプリ・システム系」というイメージ
ソフト開発やシステム開発をしている。
パソコンを使ってアプリやセキュリティをメインとして活動している。
Googleなどの便利ツールを作る。
「社会に不可欠・重要」というイメージ
今の社会において重要視されている。
日常でITは使われており、生活を便利にするという認識です。
生きていく上で欠かせないものになってきている。
人々が住みやすくするために考える業界だと思った。
「業界の雰囲気・将来性」のイメージ
今はあまり人が少なく、今後栄えていく。
固い。
堅苦しい会社。

問３　講座全体を通して、今後の高校での学びや将来に役立ちそうですか。



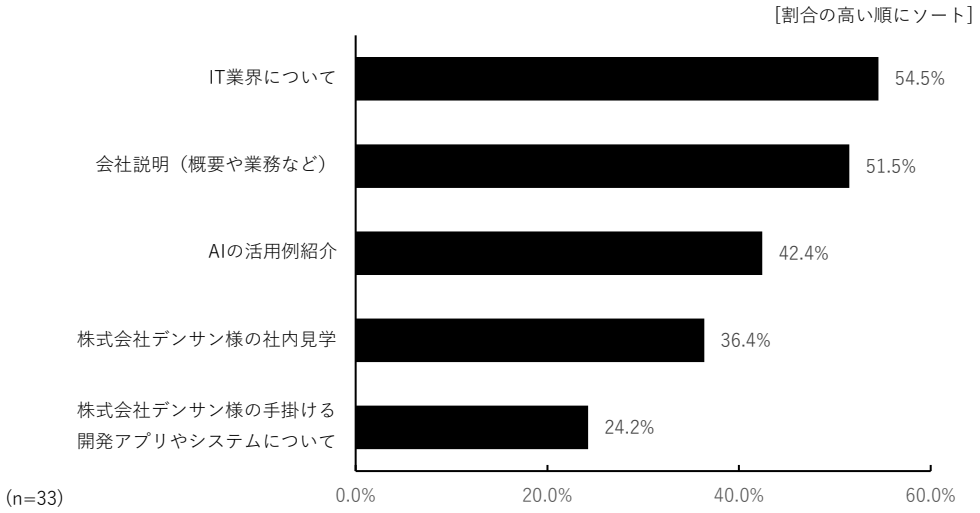
(n=60)

問４　見学した企業を教えてください。



(n=60)

問５　株式会社デンサン様（宮崎空港付近）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



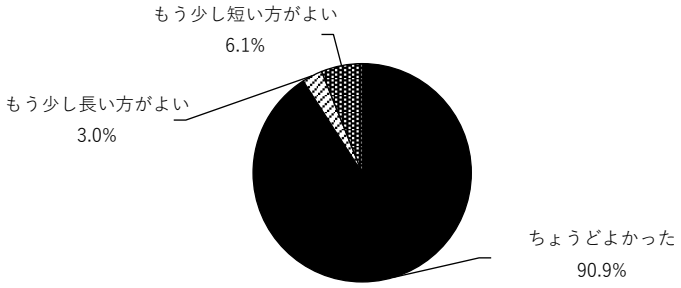
問６　問５（デンサン様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

（一部抜粋）

仕事内容・会社理解が深まった
どんな仕事をしているか詳しくわかった。
会社の成り立ち、業務の内容。
デンサンもシステム開発をしていたところ。
デンサンが何をしている企業なのかわかった。
何をしているかなどの仕事内容がよくわかった。
社内の雰囲気がわかりました。
地域の方々に寄り添って事業を行っていることが伝わってきた。
AIの活用・技術理解
AIについてわかった。
AIの活用がすごいと思った。
AIのことについて詳しく学べた。
AIの種類や活用の仕方。
生成AIの使い方について詳しくなれたことが良かった。
ChatGPTやGeminiなどのアプリの正しい使い方などを学ぶことができた。
数年後にはIT技術者が不足するなどということがわかった。
生成AI（Google Notebook LM）
実践・体験が印象に残った
ゲームとか作ってくれて楽しかったです。話の仕方がわかりやすかったです。
ゲームをしてたのでわかりやすかった。
実際にAIのアプリを使って、ゲームを作れるのがおもしろいなと思いました。
説明の時に実践的にやってくれたところ。

具体的な事例・ツールへの関心
牛の顔を読み取って体重や個体番号を知ることができるのは便利だなと感じた。
人・コミュニケーションに関する印象
コミュニケーション能力が求められること。
話し方が優しかった。

問７　株式会社デンサン様の講義時間について



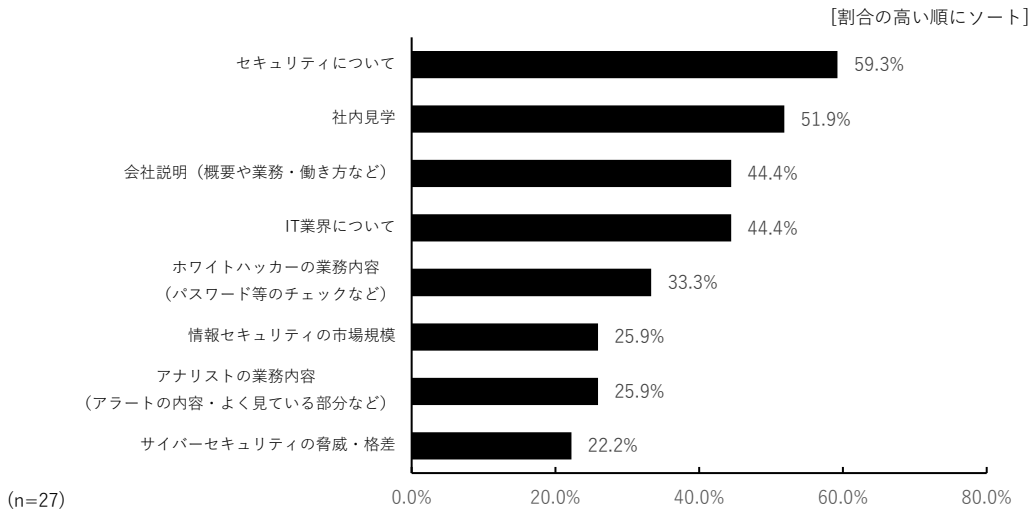
(n=33)

問８　問２で想像していたメージと受講後のイメージに変化はありましたか。もし、変わった場合は、具体的にどのように変わったのかを教えてください。

（一部抜粋）

変わっていない
会社・職場の雰囲気が良いと感じた
働きやすそう。
会社の雰囲気がよく働きやすそう。
職場の雰囲気がよかった。
思ったよりも気難しそうにないと思った。
カジュアルな感じを大切にしながらも伝統的なのがIT業界だということを学びました。
かっこいいと思った。
業界・仕事理解が深まった（視点の変化）
やっぱりIT人材は不足しているのだと思った。
エンジニアだけでなく事務や営業もあること、女性が他より多いことを知って、誰でも入社できる会社なのだと思った。
仕事の見方が変わった。
イメージが変わったと明確に回答
変わった。
AI・今後の取り組みへの気づき
AIを他の企業と協力して活用する。

問９　株式会社クラフ様（AMUプラザ）の講座の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



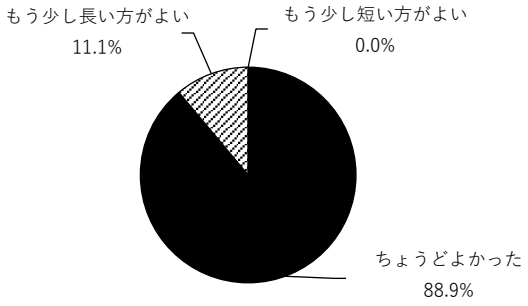
問10　問９（クラフ様）で具体的によくわかったところや参考になったところ、または、よくわからなかったところがありましたら、教えてください。

（一部抜粋）

セキュリティ・サイバーセキュリティ理解
情報セキュリティを守るために非常に動いていること。
サイバーセキュリティ。
会社のセキュリティなど。
セキュリティについてわかった。
セキュリティがどれだけ強いのかがよくわかりました。
ホワイトハッカーは泥棒から家を守るように守ってくれることがわかった。
個人情報が漏洩しないように気を使っているところがよくわかった。
家のセキュリティなどについて考えられた。
会社の特徴・強みがわかった
株式会社クラフ様の強み。
365日24時間稼働し続けていること。
働き方・労働環境への関心
（宮崎は）地震が多く、（事務所は）免震構造のため、避難グッズが用意されていたこと。
働きやすそうだった。
勤務時間はどのくらいなのか。
残業が少ない。
IT業界・仕事理解が深まった
IT系の仕事の内容や業界の規模など。
IT業界が成り立たないと今の社会はないと思った。
将来・進路への影響
将来を見直したいと思った。

疑問・情報不足を感じた点
何人くらい社員がいるのだろうかと思った。

問11　株式会社クラフ様の講座時間について



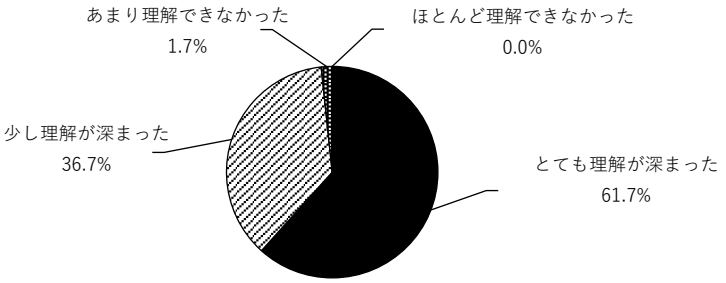
（n=27）

問12　問２で想像していたメージと受講後のイメージに変化はましたか。もし、変わった場合は、具体的にどのように変わったのかを教えてください。

（一部抜粋）

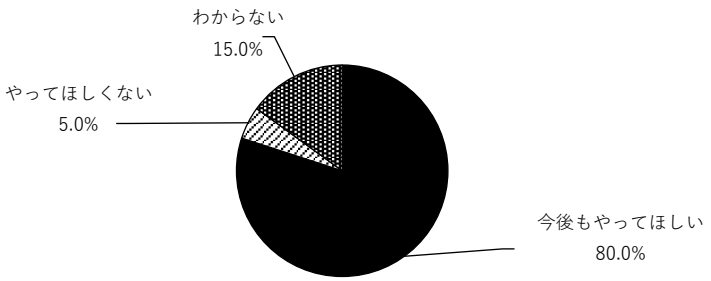
変わっていない
働きたい・好印象を持った
働きたいと思った。
意外と自由。
堅苦しい感じではないんだなと思った。
働きやすさ・職場環境への気づき
この会社だけかもしれませんが、女性も比率が高く働きやすそうだと感じた。
女性が多く、残業も少なかった。
残業時間が少なく、働きやすいことがわかった。
仕事内容への理解・認識の変化
パソコン作業ばかりではないところ。
少しだけ理解できた。
ホワイトハッカーの仕事内容がわかっていなかったが難しそうだけど、楽しそうでもあると感じた
みんなで分担して業務をすることで効率よくできているんだなと思った。
セキュリティ体制への驚き・理解
この会社を通してセキュリティを守る仕事をしているため、部屋に入る時もセキュリティが厳しいなどしっかりしているところがびっくりしました。

問13　講座を通してIT業界やその仕事について理解できましたか。



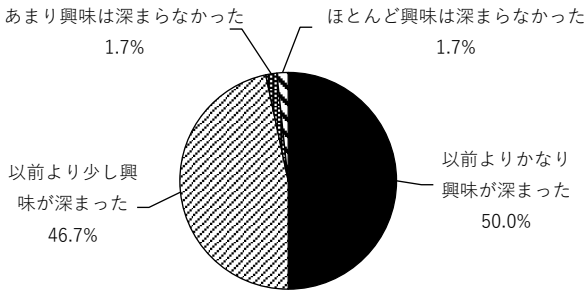
（n=60）

問14　企業や外部の方による講座に対する要望。



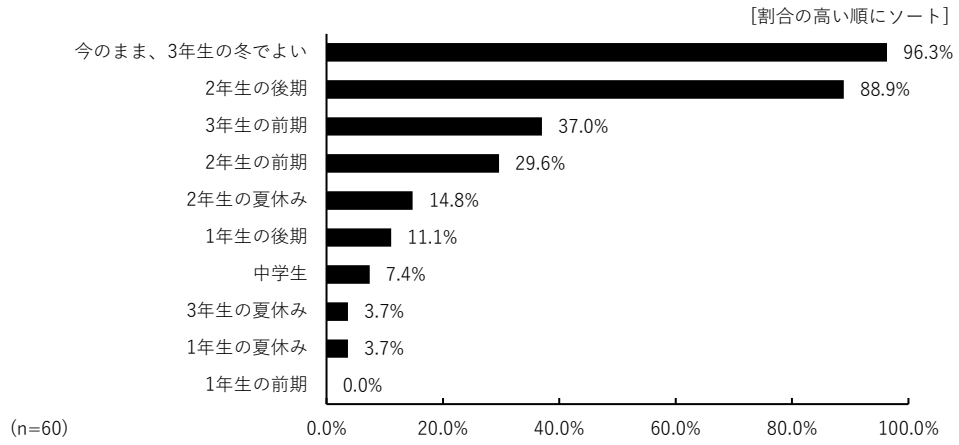
（n=60）

問15　講座を通してIT業界やその仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=60)

問16　今回の企業見学は３年生(1月)でしたが、同じ企業見学をするならいつを希望しますか。【複数選択可】



問17　講座を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

(一部抜粋)

分かりやすさ・理解しやすさ
よくわかった。
とてもわかりやすかった。
本当によくわかりました。ありがとうございました。
とても参考になる説明で、とても聞きやすかった。
わかりやすくて、環境も良くて、勉強になりました。
学び・勉強になった
とても勉強になった。
とても勉強になり、世界の情報発信のことや、どれぐらいの人が就職しているのかがわかった。
とても学びになった。
講座を聞いてすごく勉強になりました。
ITについてもっと知ることができてよかった。
ITの事について詳しく知れてよかった。
今回の講座を通して、ITについての理解がより深まったのでこれからも詳しく学習していきたいです。

楽しさ・雰囲気の良さ
とても良い。自分のためになった。
とても楽しくいい機会でした。
すごく楽しかった。
楽しく学ばせてもらいました、ありがとうございます。
楽しかったので、また行きたいです。
楽しそうな雰囲気でした。将来こういった仕事と関わる機会があったらいいなと思います。
講師の方がわかりやすく楽しく教えてくださったので、とても有意義な時間になりました。
企業・現場を見られたことの価値
現場の状況を間近で見ることができて、とても有意義な時間になった。楽しかった！
実際に企業に行って見学したりすることで理解がしやすくなりました。
環境が整っていてよかった。
防災グッズとか椅子とか設備が良くて、働きやすそうだと思いました。
本当の会社を見ることで、これから行く社会を知ることができた。
進路・将来への影響
貴重な時間をくれて嬉しかった。 IT企業説明は滅多にない機会と思うので、この意見を聞いてこれからに活かしていきたい。
仕事についてイメージがつくいい機会だった。
あまりITについてわからなかったけど、少し興味を持つことができました。
楽しそうな雰囲気でした。将来こういった仕事と関わる機会があったらいいなと思います。
自分は大学進学でこれから就職先を探していくので、会社見学はいい経験になりました。
AI・IT技術への理解
AIの使用したサービスがわかった。
AIは、日常生活を便利にするものだと改めて感じました。
ITは人々の生活を暮らしやすくするために頑張っていると思った。
生成AIについて学べたことが嬉しかった。 使うことが当たり前になっている今だからこそ正しく使いたいと思った。
中学生のころにホワイトハッカーになりたいと一時期思っていたので。簡単に知れてよかった。
要望・改善点
企業の前情報が全くない状態での講座だったので、もう少し前情報が欲しかった。
もう少し（企業を知る）時期が早ければ、もっとITについて興味が湧いていたと思った。
こういった行事はもっと前のほうがいいと思います。 就職組はほとんど決まってると思うので、この機会で進路が決まる人もいると思います。
学べることも多く、もっと早めの時期に開いたら、今回のホワイトハッカーのように仕事内容の理解ができると思う。
どの講座にするかをアンケートで決めてもよいと思う。
その他
基本情報技術者試験の勉強を今しているので頑張ります。
知らなかったことについて知れて、時間もちょうどよく、わかりやすくて聞いていて楽しかったです。
自分の知らないことを知れて面白かったです。ありがとうございます。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、高等学校（受講者）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、高＝高等学校、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）［企］	
IT業界が担う役割や今後の展望を知ってもらうことで、IT業界に興味を持ってもらい、将来の職業選択の参考してもらう。	企業 （デンサン）
宮崎発のサイバーセキュリティ企業であり、社会的意義のある事業を展開していることを伝える。 セキュリティ業界の理解、重要性を伝える	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［企］	
IT技術を身近に育っているITネイティブの学生にとって、どういった内容、レベルを設定するのが適正であるのかを設定するのが難しかった。	企業 （デンサン）
前担当者より引き継いだ内容のためコンテンツ設定での難しさはなかったが、興味を持っていない生徒さんが多かった印象のため、コンテンツの見直し・改善には課題あり。	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［高・専］	
企業の事を知らない学校現場からすると実際の現場の雰囲気を知ることができたのは良かったと感じる。 自分たちが学習した内容が実際に開発部などのコーディングなどをみて仕事に活かされていることを知れて良かったのではないかと思う。（デンサン）	高校
「IT業界について」「会社概要の紹介」「業務内容の紹介」「社員構成・社内制度について」「AIについて」「社内見学」という流れであり、短い時間ではあったが大変スムーズでとても充実した企業見学であった。 「あなたは何のために働きますか？」「身の回りのどんなところにAIが活用されていますか？」という質問があったり、Google AI Studioで作成したゲームに生徒が挑戦したり、質問コーナーでは生徒たちが聞きたがる質問をあらかじめ準備されていたりと生徒たちの興味関心や積極性を高める工夫が随所に見受けられた。	専門学校 （デンサン）
① IT業界の分類とデンサン様の位置づけ IT業界には5つの業界があることを示し、その中でデンサン様は「情報処理サービス業界」に属することを説明。業界の概要説明から企業紹介へつなげてご紹介いただいた。 ② 企業紹介 社員数や男女比・出身地・文理比などの内訳、福利厚生や働き方について紹介があった。社内交流として野球観戦やeスポーツ大会、社員の健康やスキル向上を目的とした健康セミナー、話し方セミナーなどの取組も紹介された。 ③ 業務紹介 営業担当の方より、AIを活用した共同開発アプリの紹介があった。宮崎の畜産県ならではのアプリなど、地域性を活かした内容も含まれていた。 ④ 生成AIの活用事例（実演） Google Notebook LMで高校紹介のラジオ台本作成→2人番組化、Geminiで「みやざき犬」の画像生成、Google AI Studioで自然言語入力によるゲーム作成などを実演。短時間で生成され、ゲームはプログラミングまで実施される点が印象的だった。活用時の注意点も併せて説明があり、生成AIは試行錯誤しながらプロンプトを工夫して活用していくことが重要、という案内が良いと感じた。	専門学校 （デンサン）
セキュリティの基本的な説明、セキュリティオペレーションセンター（SOC）の説明。 セキュリティ業界の説明、サイバーセキュリティの説明。 会社（クラフ）の説明　→　会社見学（セキュリティ上ガラス越しに執務室見学）。 全体的に初心者にもわかりやすい説明で、セキュリティについて家への侵入に例えて説明。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[高・専]	
（両社とも）適当である。	高校
AIについては、画像認識AI、音声認識AI、メタバース、Google Notebook LMの活用法、Geminiの活用法、Google AI Studioでのゲーム作成等の紹介があり、生徒たちも高い関心をもって講義に臨んでいた。 企業概要の説明をしていただいた方、AIの説明をしていただいた方、企業見学の説明をしていただいた方の説明がいずれも丁寧で分かりやすく、生徒たちの企業に対する理解もより深まったのではないか。	専門学校 （デンサン）
全体を通して説明が分かりやすく、生成AIの活用事例も各ツールの特性を生かした内容だったため、学校や自宅に戻ってからでも取り組みやすいきっかけづくりになっていました。難しすぎず楽しく学べる構成で、非常に良い印象を持って終えることができました。 また、開発されたアプリについても、どのような目的で作られ、どのように活用されるのかを社会的課題とあわせて掘り下げて説明いただいた点が印象的でした。特に、自然言語から短時間でプログラミングまで生成される様子は、生徒の関心も高かったように感じます。 生徒はゲームに親しみやすいようで、待ち時間に楽しんでいる姿も見られ、学びへの入り口として効果的だったと思いました。	専門学校 （デンサン）
難易度は特に問題ない。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
多かった。	企業 （デンサン）
多かった。	企業 （クラフ）
デンサン様：妥当であった。 クラフ様：企業の都合等もあると思うが、少し短かった。	高校
内容的には妥当であったと思うが、生徒の中にはもっと話を聞きたい、体験をしたいという思いの生徒も多くいたように感じる。	専門学校 （デンサン）
企業紹介・業務紹介と企業見学ということで、１時間は妥当だと思います。	専門学校 （デンサン）
説明内容を考えると妥当かと思うが、移動距離を考えると休憩を入れて2時間くらいあると充実した内容となるかと思われる。	専門学校 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
少しでも興味をひく内容にしたいが、レベル感の設定が難しかった。	企業 （デンサン）
特になし。 オフィスツアーでもしっかりついてきてくれました。	企業 （クラフ）

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[高]	
生成AIの活用やICTツールを教えていただいたのが有り難かった。 実際にゲームに触れるなどの体験もあり良かった。（デンサン） 現代では皆が持たなければならない知識なので、セキュリティに関する話を聞けて良かった。	高校

②生徒の様子や反応に関する意見	
AIを使った体験作業など、生徒が楽しそうに反応してくれたので、少しでも興味をもってもらうことにはつながったのではないかと考えています。	企業（デンサン）
コンテンツが難しかったか、前方に座っていた数名の男子生徒以外はほとんど反応がなく、双方向でのやり取りが難しかった。最後に簡単なYes/Noクエスチョンを提供するなどしたものの、変わらず反応はなかった。オフィスツアーは好反応だった。	企業（クラフ）
生徒たちは、予想以上に反応が良かったように感じる。	高校
40人全員の生徒が最初から最後まで積極的に、且つ集中して講義や見学に参加していた。 見学終了後に、数人の生徒に尋ねたところ、ここで働きたい気持ちになったと全員の生徒が答えてくれた。アンケート結果からも、IT企業への理解や興味関心が高まったことが理解できる。	専門学校（デンサン）
生徒の皆さんはとても素直で、熱心にお話を聞かれていました。もうすぐ卒業を迎える生徒さんでしたが、県外に進学・就職したとしても、将来宮崎に戻ってきた際には「働いてみたい」と感じたようです。 社員の皆さまが優しい雰囲気で迎えてくださったことや、さまざまな業種のアプリ開発に取り組まれていることを知ることができ、進路や将来を考える上でも非常に良い機会になったと思います。	専門学校（デンサン）
一部の生徒はメモを取りながら集中して聞いており、全体的にも真面目に聞いていた。	専門学校（クラフ）

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
事前の打合せに関しては、お互いの認識合わせができてよかった。	企業（デンサン）
漏れはなかったものの、打合せ時の決定事項について議事録として共有いただきたかった。 撮影ありとは聞いていたものの、校内(社内)広報・簡易記録用と思い込んでおり、業者および大型機材が入ることを前もってアナウンスいただきたかったです。	企業（クラフ）
問題なし。	高校
事前の打ち合わせに直接は関係していないが、企業側のしっかりとした受け入れ態勢を見る限りでは、十分であったと思う。	専門学校（デンサン）
打ち合わせについては、参加できておりませんでしたが内容に関して十分だったのではないかと思います。 撮影に関する訪問時間など、撮影会社からの時間と実際の訪問時間に食い違いが出てしまい、企業様にはご迷惑をお掛けし大変申し訳ございませんでした。撮影準備のための訪問時間など、しっかりと調整したいと存じます。	専門学校（デンサン）

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
受け入れの日程調整が一番重要であると思いますが、事前打合せなども設定されており、とても取り組みやすかったと感じています。	企業（デンサン）
求める期待値についての共有（依頼することになった背景など）があれば、コンテンツをそれに合わせて検討できると感じた。 今回、一方向での説明となり、退屈に感じている生徒さんが散見されたため、興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供は当社の課題として残る。また、訪問先企業についてある程度事前にインプットいただき、もっと知りたいことを考えていただいた上で来ていただけると、何か1つでも持って帰っていただけたのではと思う。	企業（クラフ）
地元IT企業を知るという高校側と地元IT企業を知ってもらうという企業側にとってとても意義のある実証講座であった。 次年度までは、委託事業の一環として実施できるが、それ以降の一番の課題としては、生徒たちの交通費をどう捻出するかである。	専門学校（デンサン）
デンサン様には高卒入社の社員の方もいらっしゃるため、企業・高校双方にとってWINとなるには、開催時期や対象学年の設定が重要だと感じた。 学年によって生徒の受け止め方は異なるため、企業理解の機会として継続できるよう、行事として定着・継続できる形を検討していきたい。また、企業には情報系以外にも総務や営業などの職種があるため、学科を限定せず参加できる取組として実施することも検討できると考える。 一方で、高校としては、真っ新な状態で企業を見学し、どう感じるか（体感）を重視されている可能性もございますが、企業の講師側としては、自社のことを知っていただくための機会とはいえ、高校からの依頼で実施しているということも踏まえると、深くは知らなくてもどういう企業なのかという	専門学校（デンサン）

事前に企業を簡単に調べて臨む方が、講師の方は話しやすいのかと思いますので、事前指導はセットでお願いできると更に内容の充実したものになるではないかと思います。	

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
デンサンに来社した生徒さんは、挨拶や講演中のメモとりなど、とても好印象でした。 大人数になるので、受け入れ側としては、場所と内容検討に時間を要したことが今回の自社の反省点としてありますが、来年以降は今回の経験でもっと効率的に実施できると考えております。	企業 （デンサン）
生徒さんからの反応が薄く、進めながらもどのような方向で話を振れば良いのかに迷いました。 生徒さんからしても興味のない話を聞くのはつらかっただろうなと感じています。 お互いに学びある有意義な時間にしたいので、上記のとおり、次回開催時は、意図目的を踏まえた期待値の設定をしたうえで臨めたら尚良いと感じました。	企業 （クラフ）
デンサン様が挙げていただいた『宮崎で働くこと』という問いに対しての解答を知りたかった。 その話などをして頂くと宮崎という地域で活躍する人材にも繋がっていくのではないかと感じました。 企業の方々にはお忙しい時期に対応していただき誠にありがとうございました。	高校
生徒たちが生き生きとした表情で企業見学に参加していたことがとても印象に残っている。 今回、丸1日を使って遠方である延岡からの参加を考えるとプラスαの取り組みがあっても良かったのではないかと思う。	専門学校 （デンサン）
都城商業様の際はデンサン様に伺うことができず、視察された方の報告で概要は理解していましたが、今回実際に視察したことで、改めて非常に良い内容だったのだと実感しました。企業の皆さまには、事前準備も含め多大なるご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。 生徒の皆さんは、特に遠方の場合、バスで宮崎市内まで移動して受講し、その後地元へ戻るという、一日がかりの行程となります。企業・学校双方が時間をかけた分だけ、意味や意義のある機会になったのであれば良かったと感じます。一方で、企業見学を実施したからといってすぐに就職へ直結するわけではないため、取組としてのゴール設定が難しい点も課題として感じました。 本日は誠にありがとうございました。	専門学校

（16）　実証講座⑩：実施予定

○期日　令和７年12月15日（月）を予定していたが延期【日程調整中】

○場所　宮崎県立宮崎商業高等学校

○時間　２コマずつ

○対象　情報ソリューション科２年生

○授業形態　講義および演習

○講師　宮崎情報ビジネス専門学校　黒澤 伸也（教務部 教員）

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

昨年度と同様のネットワーク分野の内容で差し支えないが、可能であれば専門学校への進路に関する説明も行ってほしいとの意見があった。また、県内のIT企業について十分に把握できていない状況であるため、企業紹介に加え、IT人材の採用状況について、IT企業以外の業種も含めて紹介してほしいとの要望があった。

なお、延期後については、１時間×２クラスでの実施形態であっても構わないので、特に進路に関する内容だけでも実施してほしいとの意向が示された。

＜提案（専門学校）＞

高校卒業後の進路の選択肢について整理し、大学との違いを含めて説明するとともに、専門学校卒業後にどのような社会人として活躍していくのかを具体的に紹介したいと考えている。あわせて、県内の代表的な企業や職種についても紹介し、進路と地域産業とのつながりを示したい。

そのため、一部企業の協力を得て写真等の資料を収集し、具体性のある説明資料を作成する予定である。

○内容：当初ネットワーク基礎を予定していたが、

延期に伴う日程調整にて、「IT 系の就職進路講話」に変更予定

①高校卒業後の進路としての専門学校

②大学と専門学校の違い

③専門学校でのスクールライフ

④IT企業での仕事

⑤IT企業以外における、IT人材の活躍

（17）　実証講座⑪：実施予定

○期日　令和８年２月中旬【予定】

○場所　宮崎県立延岡商業高等学校

○時間　１コマもしくは２コマ

○対象　情報ソリューション科２年生

○授業形態　講義および演習

○講師　宮崎情報ビジネス専門学校　黒澤 伸也（教務部 教員）

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（高等学校）＞

１月に実施予定の検定に関連し、既習内容の理解を深めるための補強的な講座の実施が可能かとの要望があった。内容については、昨年度実施したネットワーク講座と同様の内容でも差し支えないとのことであった。また、宮崎商業高校・工藤教諭より、県内のIT企業について十分に把握できていない現状があるため、企業紹介を実施してほしいとの提案があった。

＜提案（専門学校）＞

今年度宮崎商業高校で実施した実証講座の内容をもとに、改めて資料を作成する予定である。

また、実証講座としての時間確保が難しいとの相談を受け、進路講座の1コマとしての実施に変更となる可能性があるとのことであったが、同様の形式での実施は可能であるため、今後具体的な内容について協議していく。

○内容：当初ネットワーク基礎を予定していたが、

延期に伴う日程調整にて、「IT 系の就職進路講話」に変更予定

①高校卒業後の進路としての専門学校

②大学と専門学校の違い

③専門学校でのスクールライフ

④IT企業での仕事

⑤IT企業以外における、IT人材の活躍

4　専門学校における実証講座の概要

(1)　令和７年度実施の実証講座

本年度は、就職に向けての意識づけ等のキャリア教育的な内容を中心に宮崎情報ビジネス専門学校の情報システム科に在籍する学生を対象に、システム系とクリエイティブ系の講座を実施した。専門的な内容も一部実施した。

なお、昨年に引き続き、2年生向けのLinux講座を12月頃に予定していたが、国家試験対策や学校行事等の関係でスケジュールの調整が難しく、見送ることとなった。

令和７年度の専門学校における実証講座一覧

実証講座	対象学年等	日　程	専門学校 企業（講師）	講　座　内　容
①	１年生 ２年生	7/24(木) 2時間	宮崎情報ビジネス専門学校 株式会社日向屋	【クリエイティブ系】 CGコース：企業講話
②	１年生 ２年生	7/24(木) 2時間	宮崎情報ビジネス専門学校 株式会社九州インターメディア研究所	【クリエイティブ系】 Web・デザインコース：企業講話 (株式会社デジタルハリウッド協力)
③	１年生	7/30(水) 3時間	宮崎情報ビジネス専門学校 テレビ宮崎商事株式会社	【クリエイティブ系】 ※企業(テレビ局)に出向くかたちで実施。 企業講話＋撮影の基本（実習）
④	１年生	9/24(水) 100分	宮崎情報ビジネス専門学校 スパークジャパン株式会社	【システム系】 企業講話（就職に向けての意識づけ等）
⑤	１年生	10/29(水) 2コマ	宮崎情報ビジネス専門学校 株式会社共立ソリューションズ	【システム系】 企業講話（就職対策や社会人との違い）
⑥	１年生	1/23(金) 2.5時間	宮崎情報ビジネス専門学校 GMOインターネット株式会社	【クリエイティブ系】 会社説明、職種説明、作品添削、ワークなど（会社説明以外は、Web・デザインと映像に分かれて実施）

5　システム系・クリエイティブ系に関する実証講座の実施報告・検証

(1)　実証講座①：実施報告

○期日　令和７年７月24日（木）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校８号館６Ｆ　６０２教室

○時間　２時間　13:30～15:30

○対象　情報システム科CGコース１年生４名、２年生２名　計６名

○授業形態　企業講話

○講師　株式会社日向屋　仁平 孝佳 様（代表取締役）

○視察見学　日経BP総合研究所　高津 尚悟 様（リサーチユニット編集）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

飯干 賢、岩村 聡志、谷山 珠之、尾崎 勝一

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（専門学校）＞

企業説明に加え、CG制作を行ううえで必要となる考え方や姿勢についても学生に話していただきたいとの要望があった。これにより、学生の今後の学習意欲の向上につなげたいとの意向が示された。

＜提案（企業）＞

キャリア教育の観点も含めた内容での講話は実施可能である。また、学生のポートフォリオ等、確認を希望する作品があれば拝見することも可能である。

○内容：企業講話

①会社説明

企業で取り組んでいる事業（企画、特にゲームやVR）について

②職種について

各アーティストの説明（特に目指している学生が多い3Dキャラクターアーティスト）、またどういう職種がなりやすい、なりにくいか、就職に関して必要なこと

③キャリアデザイン（役に立つ話）

・なぜダイエットをするのか（目的と手段に関して）

・錯覚資産（実力と評価）

④質問やポートフォリオ添削

ポートフォリオ添削（２年生の希望者）

１年生はその様子を見学。

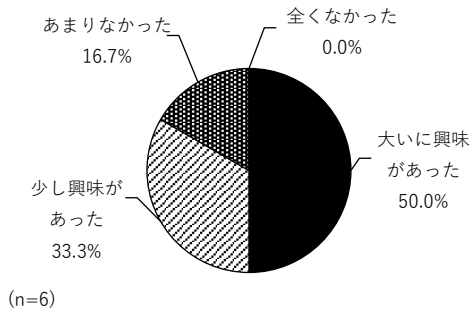
・どのような作品で、どういう点を添削されているのか観察するかたち。

・個別質問。

（2） 実証講座①：学生アンケート及び意見の概要

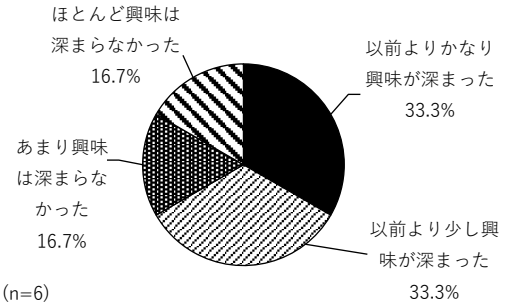
ア 学生アンケート結果（単純集計）

問１ 講座を受ける前、3DCG分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対してどの程度、興味がありましたか。



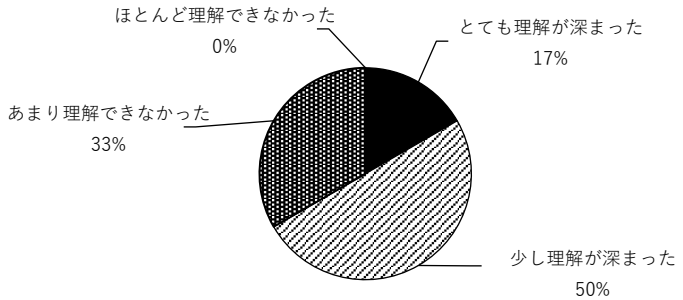
(n=6)

問２ 講座全体を通して、3DCG分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=6)

問３ 講座全体を通して、3DCG分野のクリエイターやクリエイティブの仕事について理解できましたか。

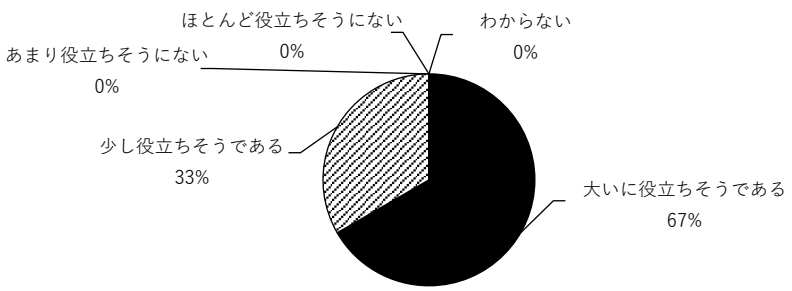


(n=6)

問４ 問３で具体的によくわかったところ、または、よくわからなかったところがありましたらお教えください。

なし

問５ 講座全体を通して、今後の授業や就職活動において、役立ちそうですか。



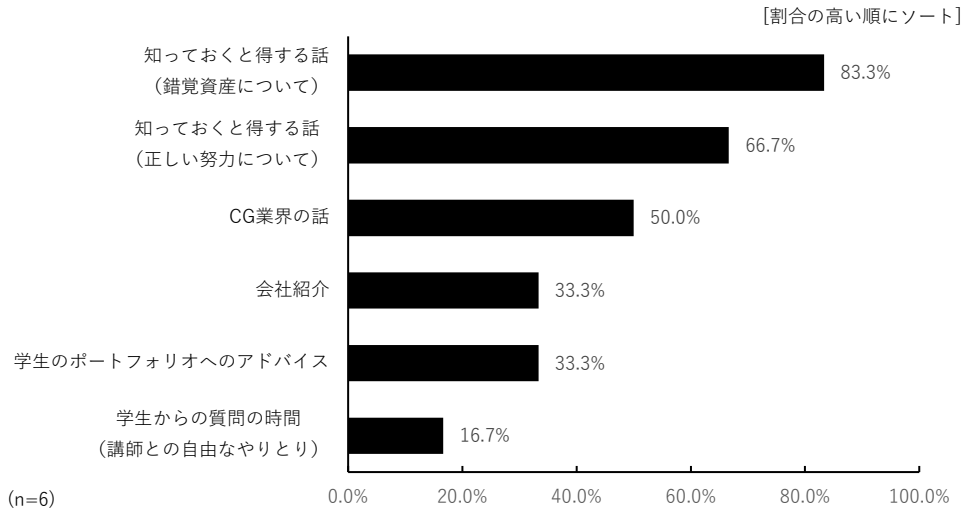
(n=6)

問６　講座全体を通して、今後の授業や就職活動に関連して、新たな気づきや生かしたいことがありましたら、お教えください。

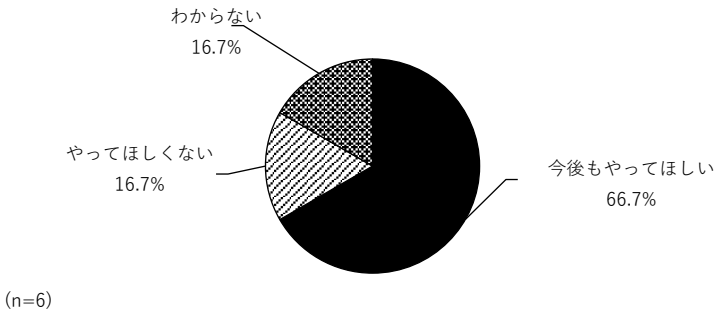
（一部抜粋）

必要なのは能力だけではないこと。
CGを目指すなら、本当に好きって気持ちや楽しいと思える気持ちが大事なことを改めて知ることができました。また、能力以外にも大事なことは沢山ある事も改めて知ることができたので、自分なりにもっと頑張れるようにしたいです。
ポートフォリオの改善。

問７　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



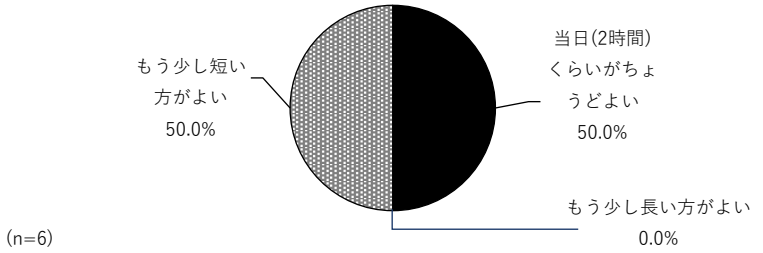
問８　クリエイターや企業など外部の方による講座に対する要望について



問９　クリエイターや企業の方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。

回答なし

問10　今回の講座の時間について



問11　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

ポートフォリオを褒められました。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［専］	
内容としては毎年実施していただいているものを、１年生向けとしていただいたこともあり、とても良い内容だったと思う。また、キャリアデザインの内容はCGだけでなく、就職選択を行っていく他コースにも行っても良いのではないかと思う。	専門学校（教員）
会社説明にとどまらず、業界内部の話や就職に対しての心構え等の話があり、大変有意義な講話であった。終盤には個別にポートフォリオへの指導を行ってもらえ学生には貴重な時間となったのではないか	専門学校（教員）
学生にとって、実践に基づいた話であり職業選択という視点からも参考になるものであったと思う。後半の内容に関しては、高校生に対して行ったもののようだが、正しい努力・錯覚資産など私自身にとっても面白く参考になるものだった。	専門学校
講師の方の経歴も交えた会社の説明や業界の話は非常に具体的でわかりやすく、CG業界への就職を希望している、あるいは興味を持っている学生にとってかなり参考になったのではないか。 後半では知っておくと得する話ということで、正しい努力をするためには目的とするゴールから何をするか考えていったほうがいいという話や錯覚資産の話として、第一印象も大事だが、努力して結果を出し続けることも重要という話があった。これらの話はこれから授業を通してスキルを高めて、就職に向けてスタートする学生にとって、大変参考になったと思う。 最後の30分程度は質問やポートフォリオへのアドバイスの時間をとっていただいたが、学生が講師とやりとりできる機会にもなるので、非常によかったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［専］	
１年生の取り掛かりとしては良いのではないかと思う。ポートフォリオの添削は入ってすぐの１年生からすると、難しいように感じた。	専門学校（教員）
分かりやすい内容で、学生が就職活動を行う上で良い話が聞けたのではないか。	専門学校（教員）

私にとっても新鮮でわかりやすかった。システム系を考えている学生にとっても難易度は良かったのではないか。また、職業選択という視点からも参考になるものであったと思う。	専門学校
話自体は社会人でも参考になるような内容であったが、学生向けに非常にわかりやすく説明されていて、十分理解できるレベルだったと考える。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当。	企業
コマ数的に妥当であった。 ２コマで丁度よい時間。	専門学校 （教員）
時間的には講師の方の都合で終了されたので、伸ばして話されるより、良かったと思う。	専門学校
話の部分は休憩含めて90分程度だったが、具体的な話が多く、講師の話し方も堅苦しい感じがなく、親しみやすい感じだったので、最初の40分くらいはあっという間に感じた。話のみで2時間だと長く感じたかもしれないので、90分くらいでちょうどよかったと考える。 90分の話のあとの30分間は質問とポートフォリオへのアドバイスの時間にあてていただいたのもメリハリができてよかったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
将来、ゲーム業界を目指している生徒さんより、自身の作品の添削や、目指す会社について積極的にアドバイスを求められた。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[専]	
今回はCGクリエイターコースの学生向けということもあり、業界での経験話は学生にとって、良い内容だったと思う。また、後半の内容は、就職活動や、今後の社会人としての活動にも役立つことなので、とてもよかった。	専門学校 （教員）
業界（3DCG）内の話やゲーム業界の話と盛り沢山であり、また就職するにあたっての心構えの話は今後の学生生活に役に立つと思われる。 「役に立つ話」は全ての学生に聞かせたい内容であった。	専門学校 （教員）

②学生の様子や反応に関する意見	
メモを取りながら興味津々に聞く学生が多かった。 うまく呑み込めていない学生も一部いた。	専門学校 （教員）
静かに聞いていたようだが、興味深く聞いて反応もしていた。	専門学校
まだ自分のやりたいことなどが定まっていないのか１年生からの質問があまりなかったのはせっかくの機会なのに少し残念に思った。２年生は業界で活躍されている方からポートフォリオにアドバイスをもらえて、うれしそうな感じだったのが印象に残った。 アンケート結果をみると、CG業界への興味の度合いによるのかもしれないが、話が刺さった学生とそうでない学生に分かれているように見受けられた。 ただし、講座の中で印象に残ったポイントとしては、知っておくと得する話（正しい努力と錯覚資産）が回答したすべての学生に共通していた。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
十分であった。	企業
詳細な打ち合わせはあまりできていなかった。内容としては例年行っていただいているものをベースにとしていたため、次年度はもう少し踏み入って打ち合わせをしても良いかもしれない。	専門学校 （教員）
特に問題ない（特に準備は不要）。	専門学校 （教員）

時間に関しては、打ち合わせはされていなかったのでは。しかし、残った時間を個別の質問等に充てていたので、問題はないと思うが。	専門学校
窓口の方を通しての打ち合わせであったが、講師の方は宮崎情報ビジネス専門学校でもこれまで学生向けに話をされたことがあったようので、スムーズにできたと思う。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
そもそもの生徒の選定基準は妥当だったのか？ プロジェクトの目指す「結果」に繋がっているのかを知りたい。	企業
次年度以降は１つのコースになるため、CG、Web、映像と分けずに行えると良い。企業研究にもなるため、システム・クリエイティブ合同で行う形が取れると良いかと思う。	専門学校 （教員）
CG系学生に留まらず、クリエイター系の学生全員に聞かせたい講話なので次年度は受講生の幅を広げても良いかもしれない。	専門学校 （教員）
専門学校として、いつ頃、どのような内容で実施するかなど、カリキュラムの一部として位置付けておくと継続しやすいのではないか。 今回のような企業の方による講座で意識付けをしたあと、中だるみしないように時期にあわせて定期的に企業の方の講座を行うのも効果的ではないか。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
企業様のお話しだけでなく、業界全体としての話、就職に対しての心構え等、これから就職活動をしていく学生にとって、良い講話だったかと思います。	専門学校 （教員）
講師の方から「月曜日が楽しみな会社にしたかった」（休み明けの月曜日に出社することが憂鬱でない会社）という話など、経営者としての立場からの話もあったが、社員を大事にされていることがうかがえるような内容で、就職先を考える学生にとっても参考になったのではないか。 「始めるのに遅いということはない」とか「（CGを作る上で）デッサン能力が底力になる」とか、勉強や就職のことなど、いろいろなアドバイスがあり、教員からでなく企業の方からの話は学生にとって新鮮味があってよかったのではないか。	専門学校

（3）　実証講座②：実施報告

○期日　令和７年７月24日（木）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校8号館3Ｆ　Mac Room

○時間　２時間　13:30～15:30

○対象　情報システム科Web・デザインコース１年生４名、２年生５名　計９名

○授業形態　企業講話（一部ワークあり）

○講師　株式会社九州インターメディア研究所　久保 晶子 様（取締役）

ＴＡ　デジタルハリウッド大学　花松 嘉明 様（まなびメディア事業部 マネージャー）

○視察見学　日経BP総合研究所　高津 尚悟 様（リサーチユニット編集）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

髙良 由佳、岡本 伸吾、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（専門学校）＞

昨年度はクリエイティブ系1年生を対象に11月に実施したが、今年度はコース別に、より早い時期での実施を希望している。なお、デザイン（紙媒体）分野については6月に地元企業による講話を依頼済みであるため、今回はWeb専攻の学生を対象とした内容としたい。

講義内容については、クリエイターとして求められる力や就職に向けた意識の醸成に加え、社会人基礎力（報告・連絡・相談、納期管理等）の重要性についても触れていただきたい。特にWeb分野に特化した講義を希望しており、UIデザイン志望の学生が1名在籍しているため、可能であればその分野に関する内容も含めていただけるとありがたい。

学生の状況としては、クリエイティブ業界への明確な志望を持つ学生は半数以下であり、県内就職志望の傾向が強い。そのため、Web分野における幅広いキャリアパスの紹介や、自己理解の深化、ポートフォリオ作成への動機づけにつながる内容を期待している。

＜提案（企業）＞

本講師は、デジタルハリウッドの学生向けに２カ月に１回セミナー研修を行っているデザイン会社に所属し、デザイナーと企業をマッチングする業務にも携わっているなど、就職およびキャリア支援に関して豊富な社会経験を有している。

講義では「デザイン会社に入るには」という視点を前提としつつ、デザイン会社への就職に限らず、社会で広く役立つ内容を扱う予定である。

なお、制作の技術的な詳細については講義内での説明が難しい部分もあるが、事前アンケートで寄せられた質問については社内デザイナー等にも確認のうえ、当日回答する形で紹介したいと考えている。

○内容：企業講話

①企業・講師紹介
②業界説明
③お仕事の見つけ方
④ポートフォリオについて
⑤就職ノウハウ・現場担当の声

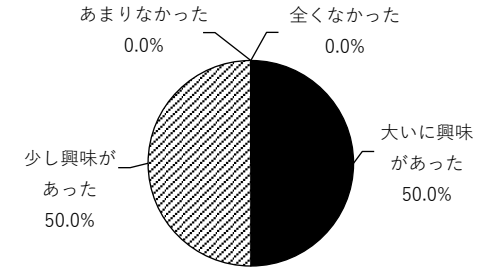




(4)　実証講座②：学生アンケート及び意見の概要

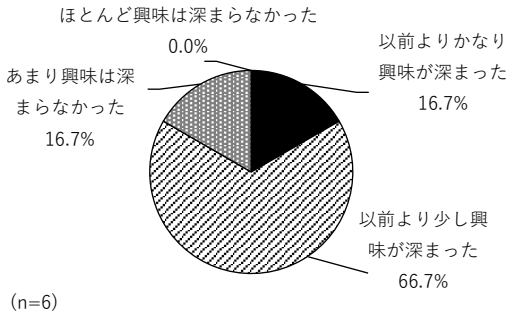
ア　学生アンケート結果（単純集計）

問１　講座を受ける前、Web・デザイン分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対してどの程度、興味がありましたか。



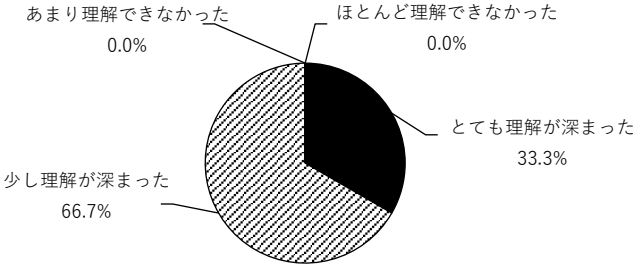
(n=6)

問２　講座全体を通して、Web・デザイン分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=6)

問３　講座全体を通して、Web・デザイン分野のクリエイターやクリエイティブの仕事について理解できましたか。



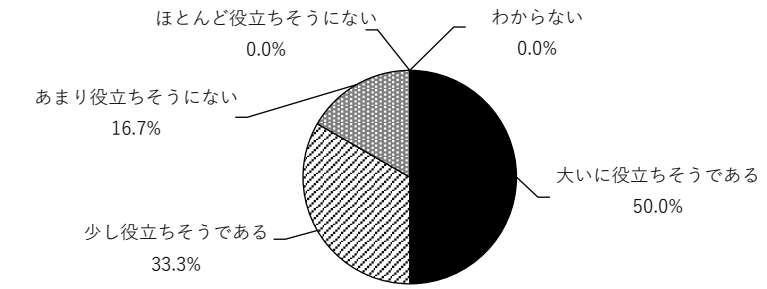
(n=6)

問４　問３で具体的によくわかったところ、または、よくわからなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

Webを作るにあたっても企画からリリースまでがどれだけ大変か、またデザインもギリギリに変更になる事がある大変さがよく分かった。
自分に合った企業の選び方が分かりました。

問５　講座全体を通して、今後の授業や就職活動において、役立ちそうですか。

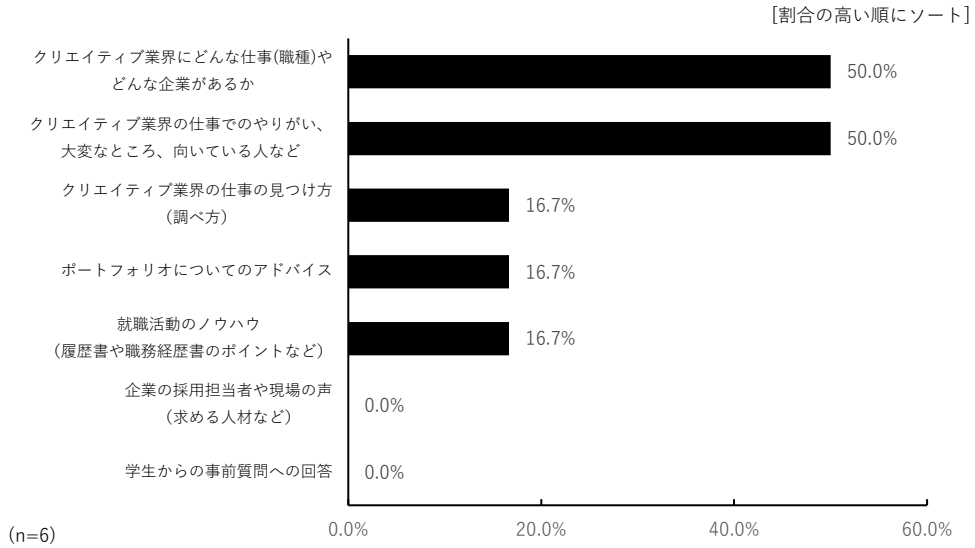


（n=6）

問６　講座全体を通して、今後の授業や就職活動に関連して、新たな気づきや生かしたいことがありましたら、お教えください。

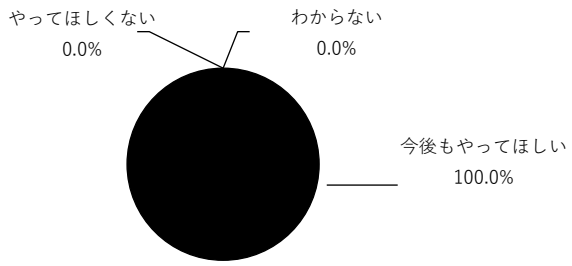
就職活動をする時は自分のしたいことと、許容できることを上手く見極めて行こうと思った。

問７　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



(n=6)

問８　クリエイターや企業など外部の方による講座に対する要望について

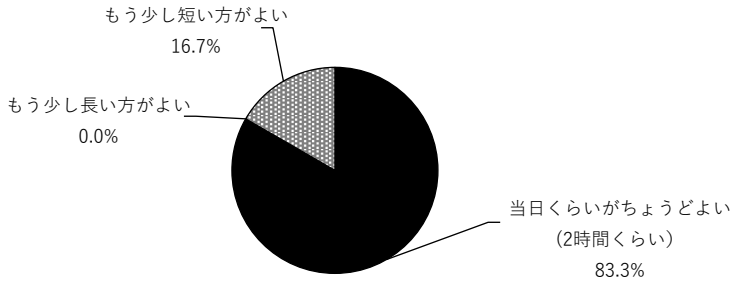


（n=6）

問９　クリエイターや企業の方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。

回答なし

問10　今回の講座の時間について



（n=6）

問11　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

福岡の前線で活躍されている方の話を聞いて、もっとウェブに対する興味が湧いて、もっと知りたいと思いました。
業界の事を知ることができてよかった。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、共通＝２者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
クリエイティブ業界の就職について、Webデザイナーコースの学生向けに実施。Webを学んだ後の就職先、業界、職種について、幅広く知ってもらいたい。 その他、クリエイターが就職する際、大事なこと（作品のほか、コミュニケーションはもちろんのこと、熱意）。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［企］	
2時間と長い開催だったので、学生の集中力を保たせることが難しかった。ワークショップなども織り交ぜながら講義を行えるよう改善したい。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　［専］	
十分だったかと思います。 Web系の就職内容も分かりやすく、途中でクイズもあったため、メリハリもあり、Web系に興味があれば飽きの来ない時間だったかと思います。	専門学校 （教員）
就活に役立つ情報で、学生にとって有意義でした。	専門学校 （教員）
専門学校側が依頼した内容について、Web系に進むと決めている学生、ならびにWeb系以外に進むと決めている学生の双方に対して、制作会社と一般企業におけるデザイナーの立ち位置や働き方の違いが分かりやすく説明されており、学生にとって将来像を具体的にイメージしやすい内容であったと感じました。 ポートフォリオに掲載する作品については、制作物が少ない場合の考え方や対応方法について、非常に具体的かつ実践的な説明がなされていました。就職先として想定する企業の制作物を調べ、それを参考にしながら、「自分がこの媒体にデザインをするならどのように作るか」といった模倣（真似）からでも良いので、ポスターやWeb広告などを実際に制作してみることの重要性を丁寧に教えていただきました。このような取り組みは、制作経験を補うだけでなく、就職先企業研究を行った証明にもなるという点で、学生にとって非常に有益であると感じました。 また、事前アンケートについても、社内のデザイナーの方々に実際に回答していただき、その内容を紹介してくださるなど、説明は微に入り細を穿つものであり、学生が現場の声を具体的に知ることができる構成となっていました。 さらに、職種の良い面だけに目を向けるのではなく、自分自身がどのような基準で進路や企業を選ぶのか、また採用企業側が学生をどのように見て、どのような印象を持ちやすいのかといった視点も含まれており、進路選択や就職活動を考える上で、非常に参考になる内容であったと感じました。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　［専］	
適切なレベルだったかと思います。 ちょうどよかったと思います。	専門学校 （教員）
社会で働くことや就職することについて、自分の少し先、さらにはその先の将来を具体的にイメージしやすい内容であり、１年生というこの時期の内容のレベル・難易度として妥当であったと感じました。 また、就職試験という課題に対して、単に対策を行うという視点にとどまらず、どのように真摯に向き合うべきか、その前提として自分自身の将来像や生き方、目標といった、より広い視野で考える必要があることを感じさせる内容であった点も印象的でした。さらに、「声（評価）」を通して就職に備えるという意識を持たせるために、多くのデザイナーと向き合い、企業とのマッチングを行ってきたこれまでのノウハウやナレッジが随所に盛り込まれており、多くの示唆に富んだ講義であったと考えます。 以上の点から、本講義は学生にとって非常に有意義であり、就職に対する意識づけという面でも大きな効果があったと感じました	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
伝える内容としては、まだまだ伝えきれないが、とはいえ、集中力を考えると長い。 講義内容の工夫が必要。	企業
妥当かと思います。	専門学校 （教員）

学生の集中力を考慮した時間構成がなされており、適切に休憩を挟みつつ、〇×クイズなどを取り入れることで、学生が考える時間や隣の学生と意見を交わす場面も設けられていました。一方的に話を聞くだけの構成ではなく、緩急のあるプログラムとなっており、１年生を対象とした講義として妥当であったと感じました。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　［企］	
学生さんとのコミュニケーションの取り方。 学生の反応を見ながら、臨機応変に講義内容を変更することも検討したい。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　［専］	
眠くなる時間帯であったため、休憩も入れつつ学生にとっては受けやすい講義だったかと思います。 就職に必要なポートフォリオのレベルも教えていただくと、現実味があったかと思いました。	専門学校 （教員）
学生に投げかける形だったので、参加型でよかったです。	専門学校 （教員）

②生徒の様子や反応に関する意見	
真剣に聞いてくれつつも、集中力を維持させることがこちらも難しかった。	企業
Web業界への就職の知識を伝えることが難しかったため、よい機会になったかと思います。 １、２年ともに、ためになったといった声はありました。	専門学校 （教員）
業界の就活へのアプローチ、待遇など、現場の話が聞ける貴重な機会でした。	専門学校 （教員）
講師の話を素直に聞こうとする学生の姿勢は、全体として非常に良かったと感じました。 また、講師への質問についても、事前だけでなく講義の最後にも意見や質問が出るか懸念していましたが、TAの先生が学生一人ひとりに寄り添い、ゆっくりと問いかけながら声をかけてくださったことで、「このようなことも質問して良いのだ」と学生が気づき、実際に発言につながった点は、大きな進歩であったと思います。 一方で、講義中にメモを取っている学生は少なく、内容をどこまで記憶として保持できているのかという点には疑問が残りました。記憶の仕方は個人差があるものの、時間の経過とともに内容が曖昧になることを踏まえると、要点だけでもメモを取る習慣を身につけることが重要であると考えます。また、メモを取るという行為そのものが、相手に対して熱意や真剣さを伝える行動であるという点についても、学生に理解してもらう必要があり、今後は教務側からの指導が求められると感じました。 質疑応答の場面では、「これは聞いてよいのだろうか」と迷っている様子の学生に対し、TAの先生が丁寧に話を聞きながら疑問を引き出し、質問できるよう導いてくださったことは、非常にありがたい対応でした。このような学生の小さな変化や戸惑いを本校教員が見落とさずに対応できれば、より良かったと感じますが、外部の立場であるTAの方だからこそ、学生も安心して本音を出せた面もあるのではないかと感じました。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
詳細を共有いただきました。また事前に学生さんからの質問も共有いただいていましたので、大変助かりました。	企業
十分だったかと思います。	専門学校 （教員）
事前の打合せにおいて要望した内容については、講義の中に十分に盛り込まれており、特段意見はございません。また、資料のご準備に加え、講師企業のデザイナーの皆様や営業の皆様に、学生からの質疑応答にご協力いただき、誠にありがとうございました。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
ワークショップを取り入れたい。	企業

学生が、本当に興味のあることを中心に講義できればと思う。	
１、２年合同で行う可能性も考えると同じ内容というわけにもいかないかと思いますので、ある程度実習の時間も必要かと思います。	専門学校（教員）
学生に、どんな人の話を聞きたいかアンケートを取ってもいいかもですね。	専門学校（教員）
今後の継続的な課題としては、企業の方に一定の枠組みや内容を規定していただき、その話を学生が聞く機会を設けることに加え、本校の教員が、より一層学生のキャリア形成に関わっていくことが重要であると感じました。学生に話を聞かせる機会を設けることも大切ではありますが、継続的な視点で考えると、教員自身が指導方法や関わり方を研究し、学生の意識や行動につながる働きかけができているかを見直していくことが、最も有効であると考えます。 また、学生に企業研究を求めるのであれば、その模範となるように、教員自らが企業との接点を持ち、情報収集や関係構築に取り組んでいく姿勢も重要であると感じました。そうした教員の姿勢が、学生にとって現実的な進路意識を育む土台になるのではないかと考えます。 さらに、専門学校として、学生が社会と関わる機会を意図的に持たせていくことも重要であり、学校や学生を知ってもらう取り組みを、継続的に行っていく必要があると感じました。その一環として、例えば、美術館や展示物を「一度は自然に鑑賞し、二度目は意識的に観る（察する）」といった視点を持たせるような授業展開ができるかどうかが、今後の鍵になるのではないかと考えます。そうした経験を通して、学生が単に制作物を作るのではなく、物事の背景や意図を捉えた上で、創り出す（create）こと、そして意図をもって形にする（design）ことができるようになるかどうかが重要であると感じました。 なお、「create」はラテン語のcreare（生み出す・育てる）を語源とし、何もないところから価値を生み出す行為を意味します。一方、「design」は designare（指し示す・計画する）に由来し、目的や意味を持って形や構成を与える行為を指します。これらを踏まえると、感じ取る力と考える力の双方を育てる授業展開が、学生の創造力や表現力の向上につながるのではないかと考えます。 そして、創り続ける（createし続ける）ためには、情熱や熱意が不可欠であると感じました。その熱量は多くても少なくても、必ず相手に伝わるものであり、教員や社会人がどのような姿勢で取り組んでいるかは、学生に少なからず影響を与えるものだと考えます。 このような姿勢を学校全体で共有し、継続的に取り組んでいくことで、人や企業とのつながりが広がり、結果として、より大きな輪を形成していく学校になっていくのではないかと考えます。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
この度は貴重な機会を賜りましてありがとうございました。 これを機に学生の就職に対する意識が少しでも上げられるよう、学校側としても工夫を重ねつつ、頑張っていければと思います。	専門学校（見学）
就職担当側の情報を得る機会はなかなかないので、とてもよかったと思います。 学生にとって、就活を意識するいい機会でしたので、とてもよい人選でした。	専門学校（見学）
デジタルハリウッド様および九州インターメディア研究所様には、本校の個別のオーダーに対し、毎回丁寧なカリキュラムを作成・実施していただき、誠にありがとうございました。 クリエイティブ系の分野においては、高校生の段階で就職している事例も見られる中で、専門学校に進学した学生が十分に就職につながらない状況が生じてしまうことは、学校として重く受け止める必要があると感じます。そのためには、学校そのものを知ってもらうこと、学生一人ひとりを知ってもらうこと、そして学生が社会と直接関わる機会を、学校として意図的かつ継続的に持たせていくことが重要であると考えます。	専門学校

(5)　実証講座③：実施報告

○期日　令和７年７月30日（水）

○場所　UMKテレビ宮崎（宮崎市祇園２-78）

○時間　３時間　9:00～12:00

○対象　情報システム科 動画・映像クリエイターコース　１年生７名

○授業形態　テレビ局見学・企業講話・体験授業

○講師　テレビ宮崎商事株式会社　藤並 秀行 様（統括部長）
西田 博文 様（プロダクション事業部 部長）

テレビ局見学協力：株式会社テレビ宮崎

○見学　宮崎県総合政策部 みやざき文化振興課　松元 弘樹 様（課長）
坂本 広樹 様（主任主事）

株式会社日経BPコンサルティング　髙橋 健太朗 様（ブランド本部長）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

川越 詩子、岩村 聡志、尾崎 勝一、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜専門学校からの提案＞

専門学校1年生（動画・映像クリエイターコース）を対象に、キャリア教育の一環として進路の方向性を8月中に決定することを目的とした講話を依頼したい。実施時期は7月後半（7月28日の週～8月1日、8月2日より夏季休業）を想定しており、50分×2コマ程度での実施を希望している。

＜企業からの提案＞

【企】今年の１年生、どういった学生さんがいらっしゃるのか。

【専】カメラマンや編集など、比較的ビジョンが明確で意欲的な学生が多い。

【企】現在の授業内容は。

【専】動画の企画や編集が中心で、一眼カメラを使用した撮影を一部実施。

【企】被写界深度の学習状況は。

【専】まだ学習していない。
未経験者向けの内容の方が適している可能性がある。

【企】学生数は何名か。

【専】１年生は６名。（７月に転コース学生が加わり７名に変更）。

【企】座学もよいが、照明の当て方や影を使った撮影演出など、体験型の授業の方が学生は喜ぶのではないか。

【専】座学だけでは学生がイメージしきれず、２年次の実習等でようやく理解が深まるケースが多い。体験・見学型授業は有効と思われる。

【企】体験・見学型であれば、２コマは十分な時間であり、問題ないとの見解。

【専】２コマで足りない場合、半日の４コマに時間を変更することは可能。

※情報共有

宮情：現在、動画・映像クリエイターコース（１年生）に対して行っている授業内容を、概要で構わないので一覧表にまとめる。もしくは作成済みのコマシラバス的なものがあれば代用可。

※可能であれば、今後の授業展開の流れも併せて記載

○内容　9:00～ 9:30　宮崎の放送業界と仕事内容




9:30～10:45　番組収録見学「みやざきゲンキTV」






10:45～11:45　基本的な撮影方法について



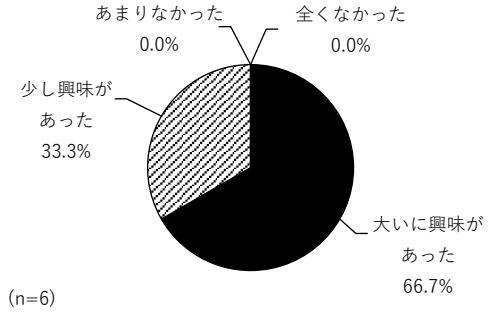



11:45～12:00　ニュースタジオ+編集室/美術見学

（6）　実証講座③：学生アンケート及び意見の概要

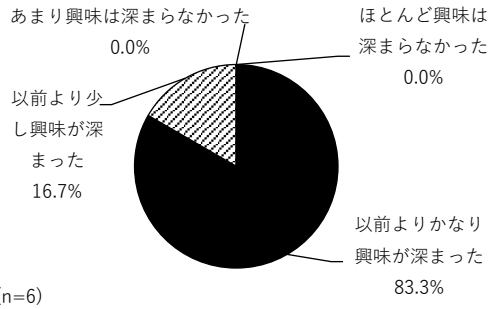
ア　学生アンケート結果（単純集計）

問１　講座を受ける前、映像分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対してどの程度、興味がありましたか。



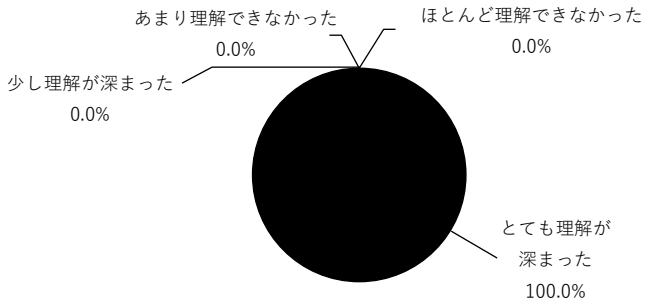
(n=6)

問２　講座全体を通して、映像分野のクリエイターやクリエイティブな仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=6)

問３　講座全体を通して、映像分野のクリエイターやクリエイティブの仕事について理解できましたか。

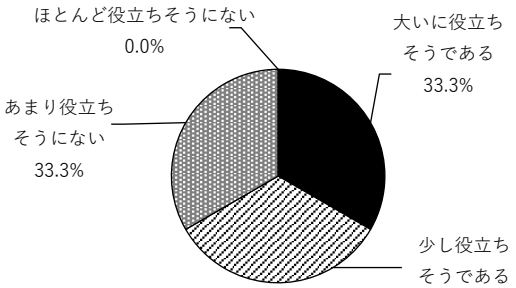


(n=6)

問４　問３で具体的によくわかったところ、または、よくわからなかったところがありましたらお教えください。

現場のカメラを使って、実際にバストショットやウエストショットを撮ることで、だいたいのコツが掴めました。
幅広くする事ができること。
意外と細かいところでもちゃんと丁寧にしてるとか、人数がすごい。
沢山の色々な経験の積み重ねが大切だと思いました。

問５　テレビ局での仕事を見学してみて、思っていたイメージと違いがありましたか。

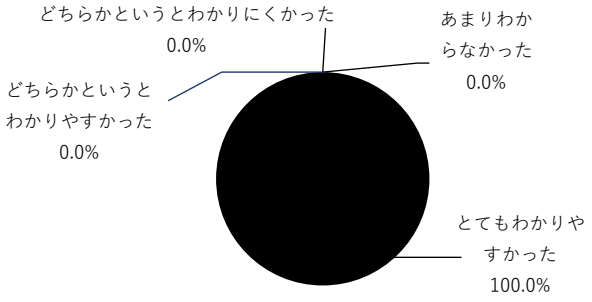


（n=6）

問６　問５で「イメージと近かった」または「イメージと違った」と感じたところを具体的にお教えください。

ドラマなどで見ていた風景ととても似ていたから。 人数の多さには驚いたけど、機械などは知っていたので、イメージにとても近かった。
カメラマンと編集者が1人2役でやっていたこと。 番組のセットを撮影ごとに動かして、片付けて、使用するときにまた出していたこと。
思った以上にスタッフがいた。
スタジオがあんまり広くなかった。
イメージと近かったことが多かったけど、プロデューサーが編集までやったり、収録中の音声とか、映像の切り替えなど、自分が思っていた以上に大変だと思いました。

問７　撮影の基本の体験（実習）はどうでしたか。

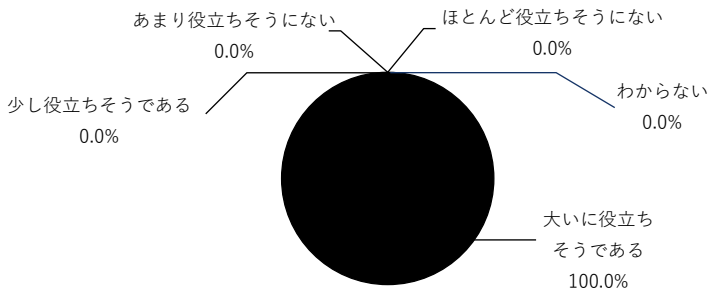


（n=6）

問８　問７のように思った理由をお教えください。

聞いて理解するよりも、実際に動いて学ぶことによって身につきやすいことを感じたから。
実際に機材を使ってどう動かすとこう撮れるというのがわかったから。
照明の仕方などを学べたし、撮影の仕方も学べたので良かったです
担当の方たちがすごく丁寧に教えてたからです。
分からなくなった時に分かりやすく教えてくれて理解しやすかったです。

問９　講座全体を通して、今後の授業や就職活動において、役立ちそうですか。

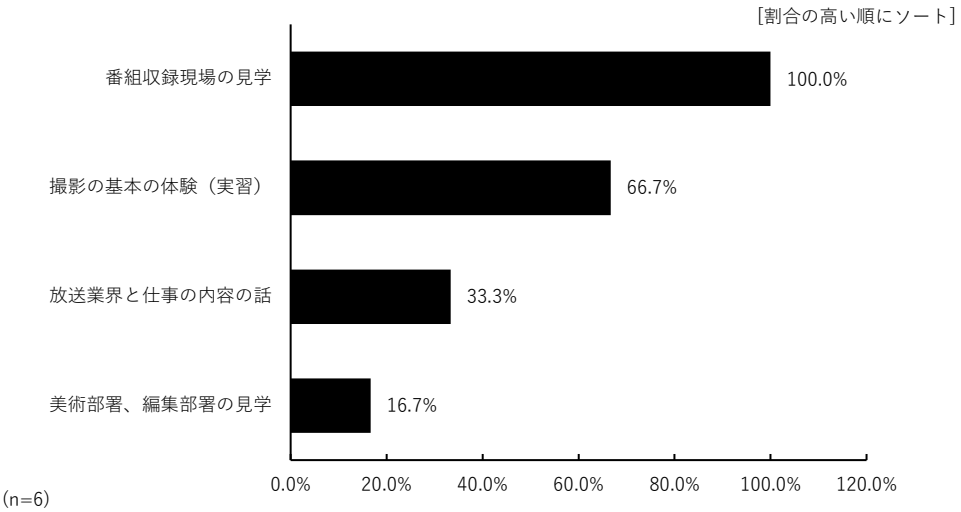


（n=6）

問10　講座全体を通して、今後の授業や就職活動に関連して、新たな気づきや生かしたいことがありましたら、お教えください。

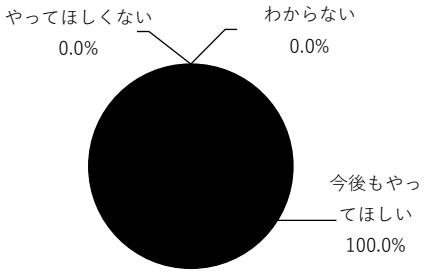
実習の際に話し合いがあまりにも少なく、意思疎通ができていなかったため、自分で意見をもっと出せるようにならなきゃいけいないと思った。
宮崎は一人でカメラマンや編集、クライアントとの交渉に出向くことが分かったので、自分が就きたい仕事の技術だけでなく、他の仕事の基本についてもしっかり覚えようと思った。
撮影の仕方を学んだのでこれから生かしたい。
カメラの使い方など学んで活かしたい。
照明の当て方の高さなどをしっかり学べたので生かしていきたいです。

問11　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



（n=6）

問12　クリエイターや企業など外部の方による講座に対する要望について

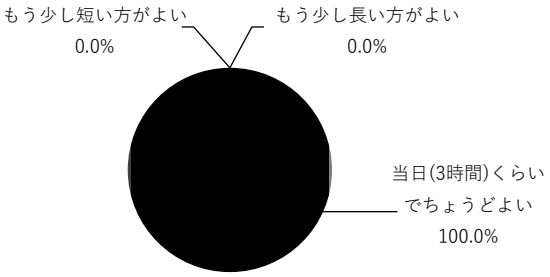


（n=6）

問13　クリエイターや企業の方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。

撮影をする際に、すぐこの撮り方はダメと気づくにはどうしたらいいかが気になった。
もっと撮影の仕方を学びたい。

問14　クリエイターや企業の方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。



（n=6）

問15　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

実際に見学をしたことによって、職場の状況や動きを学べた。 さらに、自分たちでライト（照明）を設置した際には、お互いが話し合わないことで、間違いや勘違いが起こっていたので、仲間とコミュニケーションをとることは切羽詰まっている課題を解くことにも、仕事を早く進めるのにも重要なのだと、改めて理解することができた。 今後はこの学びを活かして、みんなの意見をしっかり聞き、自分の意見も出せるような楽しいコミュニケーションの取れる空間を作りたいと思った。
実際に機材を動かしたのでとても分かりやすく、印象に残る体験をしました。 クリエイターを目指すためなら楽しいと思えることが大切なんだと感じた１日でした。
いろんなことに意識しながら撮影をすることが大切だし、沢山の人と協力が大切だと思いました。
教え方も一つ一つがすごく丁寧で分かりやすくて、細かいところまでこだわってるのが伝わってきて、凄かったです。
裏方の仕事をテレビで見て裏方の仕事に興味を持ったので、テレビ局の収録の様子などを見ることができてとても楽しかったです。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、行政（みやざき文化振興課）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、行＝行政、共通＝4者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）［企］	
宮崎ローカルの放送業界関連の会社の存在と仕事内容わかりやすくなるように伝え、学生さんたちにとってこの業界が就職ターゲットの一つになるよう内容を組み立てました。	企業
映像撮影に関して、まずは基本的なことを学んで欲しいと思いました。また映像制作は教えてもらうものではなく、撮影技術を盗むことが一番成長するということを学んでほしかったです。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　［企］	
特にございません。	企業
学生さんたちが何を学びたいか、何に興味があるかを事前にリサーチしておくべきだったと思いました。どれくらいのレベルの話をすればよかったのかが分からなかったです。ただ学生さんの人数が7名だったので、座学だけではではなく、実際にカメラに触ったり、照明をセッティングしたりと、ワークショップ的なことができたのが良かったと思います。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか	
実際の番組収録の見学や、現場のプロから受ける直接の技術的講座によって、より実践的な知識が身につくとともに、現場への理解が深まったと感じた。	行政
報道業界、広告業界でのクリエイティブ関係の仕事説明は分かりやすい。 ゲンキTV収録見学、副調整室見学は興味を持って見学できた。 撮影方法の説明は機材を実際に体験し、カメラの基本的撮影が理解できたのでは。 全てを通して、講師の話し方（相手に伝わる話し方）がうまく、聞いている方が引き込まれる。	専門学校
学生のレベルにあっており、なおかつ興味を惹きつける内容だったと思います。 テレビの撮影を実際に見学できる機会はなかなかないでしょうし、その後の撮影体験も良い刺激になったと思います。	専門学校
最初に30分ほど県内の放送関係の業界について、どういう会社があるか、どういう仕事なのかというような説明があった。会社としてはテレビ局、広告代理店、制作プロダクションなどがあることや、テレビ局と広告代理店での仕事の流れの説明等があり、就職先としてどういう業界なのか概要はわかったと思う。 次に45分ほど番組収録の見学として、打ち合わせからリハーサル、本番までをした。番組制作には多くのスタッフの方がかかわっていることなど実際の現場を実感できるいい機会になったと思う。 次に1時間ほど撮影の基本について、実際にカメラを操作しながら実習形式であった。クローズアップやバストショットなどの撮影サイズや照明、被写界深度など実際に体験しながら学んだ。通常の授業とは違いプロのカメラマンの指導を受けることで、わかりやすく刺激になったのではないか。 最後に15分ほどで美術部門や編集部門、報道スタジオなどの様子を見学した。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか	
見学がメインだったことや、講師の説明等が丁寧だったことで、学生にとって分かりやすかったように思う。	行政
現場見学は非常に興味深く、学生にとっても興味を持ったと思われる。 学校で学習した内容の復習を交えての講義もあり、非常に理解しやすい。	専門学校
学生が既に学んだ内容を把握した上での講座だったので、ちょうど良かったのでないかと思います。 学生のやる気を引き出すような働きかけがとてもお上手でした。 また、学生が実際に機材に触れて、撮影を体験できたのは非常に有益だったと思います。	専門学校

7人という小さなグループだったため、一人一人が色々な体験をできたと思いますが、これが大人数になると、なかなかこうはいかなかったかもしれません。	
見学や実習など体験する時間のほうが多く、実感としてわかりやすかったと思う。 また、講師の方の説明も大変わかりやすかった。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当でした。	企業
2時間で丁度良かったと思います。	企業
妥当だった。	行政
妥当だった。	専門学校
業界に関する講話、テレビ局の見学、撮影の基本の実習など中身は充実していたが、午前中の3時間によくまとめられており、１年生が概要を知るための講座としてはポイントを押さえてあり、妥当であったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
特にございません。	企業

②生徒の様子や反応に関する意見	
概ね興味を持っていただけたかと思います。	企業
学生のみなさん、非常に興味を持ってくれたので非常に授業がやりやすかったです。	企業
座学ではない現場での実習を経て、より理解が深まったという印象がある。また、事前知識を持つ生徒が多く、そのおかげもあってかスムーズに学習できていたと感じた。	行政
アンケートからも良い体験となったことが伺える。 実際の現場見学、機器操作の講習等いろいろな事を体験でき満足度が高い講座と思われる。	専門学校
良く言えば礼儀正しい、悪く言えば消極的な反応だったと思います。 熱心に聞いている姿勢は後ろからでもわかったのですが、しゃべっていいよ、と言われても言葉が出ないというのは、ちょっと残念でした。 クリエイティブの仕事において、言葉でコミュニケーションを取ることは非常に重要なので、学生からの積極的なアウトプットがあるともっと良いと思いました。	専門学校
講座の間は学生からは講師から促されてもなかなか質問が出ず、おとなしめの感じだった。 ただ、アンケート結果をみると全体的な満足度が高く、プロのこだわりに気付いたり、コミュニケーションの大切さに気付いたり、印象に残った講座になったようである。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
特にございませんでした。	企業
事前打ち合わせに関しては十分であったと思います。	企業
特に漏れはなかったと思われる。	行政
特に問題ない	専門学校
学生がどの程度学習しているかを把握した上で、話を進めて下さっているのを感じました。 講座終了後のお話だと、ぶっつけ本番、とても緊張した、というお話でしたが、そんな風には感じませんでした。	専門学校
専門学校の教員も交えて、最初の段階と直前の段階と2回打ち合わせを行うことができ、十分であった。	専門学校

④昨年度と比較してよかった点、気になった点	
昨年度は１年生のクリエイターコース全員に向けての講座であったが、今年度は3DCG、Web・デザイン、映像の３つのコース別に講座を設定した。 映像のコースについては、座学だけでなく、テレビ局見学と撮影の基本的な実習を含む講座であったが、体験的な内容があった映像の実証講座が一番学生へのインパクトが大きいように感じた。	専門学校
昨年度は取材にインターンシップという形でしたので、少し形態は異なりますが、短い時間でも中身の詰まった濃い授業だったかと思います。 また、撮影体験では実際に学生が手を動かすことによって、学びを反復できること、思っていたのとやってみるのとでは、違うことなど、いろいろと「気づき」を得られる内容になっていました。 映像といっても幅広いため、編集がしたいから編集だけを学ぶのではなく、周囲のことを知って編集することで、より自分の中の「引き出し」が増えることを気付く機会になったと思います。 メモを取る学生がほぼいなかったことが気になりましたが、学生に聞いてみると、メモを取ることで、聞き漏らしたくないという声も聞けました。記憶方法は人それぞれですので、自分にあった方法でさまざまなことを吸収していただきたいと思いますが、やっぱりメモは必要かなと思います。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
谷山先生との間で多少意見交換をさせていただき、学校で教えている授業内容と齟齬や重複を気にかけて授業内容を組み立てさせていただきました。こちらは普段の学生の様子を知り得ませんので、普段の履修内容のすり合わせや学生さんたちの様子をうかがうことは必須でした。	企業
学生には貴重な機会なので、学校だけでは学習できない実践的な知識の取得や現場体験ができる講座を継続する必要がある。	行政
継続してテレビ局の見学があると、学生の映像系への理解が深まると思われる。	専門学校
実際に学生さんたちが制作したものなどを観て、その時の問題点などを聞いてアドバイス等をしてあげたいと思いました。実際、学生さんたちがどれくらいのレベルで撮影、編集等ができているのかを見極めて、今後の講座に役立てたいと思いました。	専門学校
企業側がやってくださるかどうか、にかかっているのではないでしょうか？ 学生にはとても貴重な体験なので、企業側にメリットがあると思っていただくことが大事かと思います。	専門学校
今回は、番組収録の時間にあわせた講座時間となったため、遠方から来る学生にとっては、朝早く出る必要があったようである。 企業など外部での講座となる場合は、企業側の事情等にあわせる必要もあるが、学生が参加しやすい実施時間にも配慮する必要がある。	専門学校
専門学校には成果があるかもしれないが、企業に成果がどこまであるのか分からない。 本気で映像業界に進む人材を育てたいのであれば、もっと柔軟なカリキュラムが必要になると思う。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
受講者が８人ぐらいまでが一番しっかりと教えられる人数だと思いました。今後、それくらいの人数でセッティングして頂くと助かります。	企業
自社の話だけでなく、クリエイティブの仕事の広がりを説明してくださり、なかなか自主的に動けない学生の動かし方がとても上手でした。	専門学校
撮影の基本の実習の中で、学生だけで、話し合っていいから3点照明（キーライト、フィルライト、バックライト）を配置してみて、という課題があったが、学生同士が遠慮がちでうまくできていなかったが、アンケート結果をみると、そういう経験から現場でのコミュニケーションの大切さに気付いたというような意見もあり、体験することで、どういう学びを深めたらいいのか気付くことにつながったのはよかったと思う。 撮影の基本の実習では、学生が映した映像を見ながら、プロのカメラマンの方が解説され、例えば、バストショットでの人物の位置や画面上の空間など映像全体の配置を見て「気持ちがいいかどうか」というような表現で判断されていた。言葉だけでなく実際の映像を見ながらどういう状態だと気持ちいいかというような説明をされていたので、大変分かりやすく、実践を通して教えるという感じでとてもよかった。	専門学校

(7)　実証講座④：実施報告

○期日　令和７年９月24日（水）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校８号館　５F　501教室

○時間　100分　10:00～11:40

○対象　情報システム科　ITエンジニアコース１年42名
ゲームプログラムコース１年6名
IT高度専門士コース１年6名　　計５４名

○授業形態　講義

○講師　スパークジャパン株式会社　岡田 憲明 様（代表取締役社長）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）
岩村 聡志、川越 浩一、岡本 伸吾、尾崎 勝一、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（専門学校）＞

昨年度、岡田社長による講話を実施したところ、学生の国家試験取得および就職活動に向けた意識の向上が見られた。そのため、本年度も同様の内容での実施をお願いしたい。なお、昨年度は80分での実施であったが、本年度は100分での実施を希望する。

＜提案（企業）＞

昨年度は質疑応答の時間を十分に確保できなかったため、本年度は事前質問の形式でも構わないので、学生からの質問を受け付けたいと考えている。内容は分野を問わず、学生が聞きたいことや疑問に思っていることについて可能な限り回答したい。

○内容：企業講話

①本日の講座で伝えたいこと・人生がうまくいく人の３か条
②「仕事」って何ですか？　何のために仕事する？
③仕事をするうえで登場する３つの軸（何があなたの価値なのか）
④私が実現したいこと　➡　みなさんは？
⑤IT業界地図・どのような仕事をしているのか・宮崎県内のICT産業
⑥ソフトウェア開発（システム開発）の工程
⑦会社概要（事業・歴史など・業務説明・お仕事例）
⑧IT業界が求める人物像・学生時代にやっておいたほうが良い５つのこと
⑨資格・就活・ICT産業の可能性
⑩まとめ

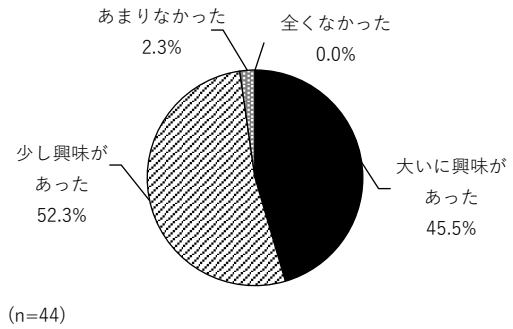




(8)　実証講座④：学生アンケート及び意見の概要

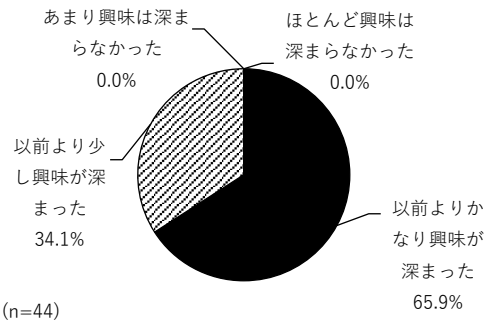
ア　学生アンケート結果（単純集計）

問１　講座を受ける前､ITエンジニアの仕事に対してどの程度、興味がありましたか。



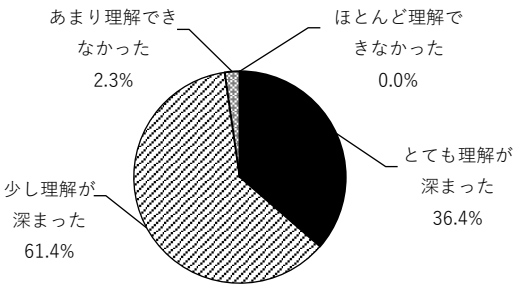
(n=44)

問２　講座全体を通して、ITエンジニアの仕事に対する興味は深まりましたか。



(n=44)

問３　講座全体を通して、ITエンジニアの仕事について理解できましたか。



(n=44)

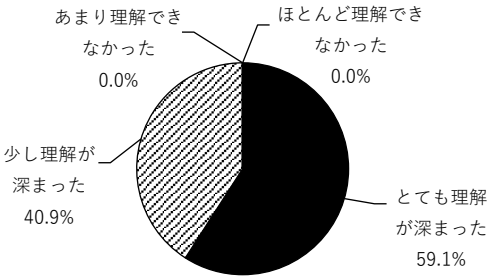
問４　問３で具体的に理解が深まったところ、または理解できなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
仕事の形態などがわかった。
システムやホームページを作ったりする仕事ということがわかった。
開発系のエンジニアについては理解できたが、インフラ系などのエンジニアについて詳しく知りたいです。
伝える力や聴く力などコミュニケーション能力の必要性が高く、挑戦するのが大事。
どんな会社でどのような仕事をしているのかわかった。
仕事について。
少し理解が深まった
資格取得の重要度、会社が求める人材像、仕事をする上で大切な3つの軸について理解が深まりました。
どういった箇所、場面で活躍しているかが理解できた。
ITエンジニアの仕事の概要。
システム開発には多くの工程があることがわかりました。
ITの職種についての理解や仕事に就くためにしておくこと。IT適性など。
ITエンジニアをイマイチ理解していなかったので今回の講座でわかったのでよかったと思いました。

ITエンジニア業界では人手が不足しているし、資格があった方がよいと改めて感じた。
IT関係の仕事は全国から見てもとても重要視されていること。
最初は分からなかったんですが、ITエンジニアの仕事内容が少しだけ理解でき、興味を持ちました。
開発の手順について理解が深まった。

問５　講座全体を通して、今後の授業や就職活動において、役立ちそうですか。



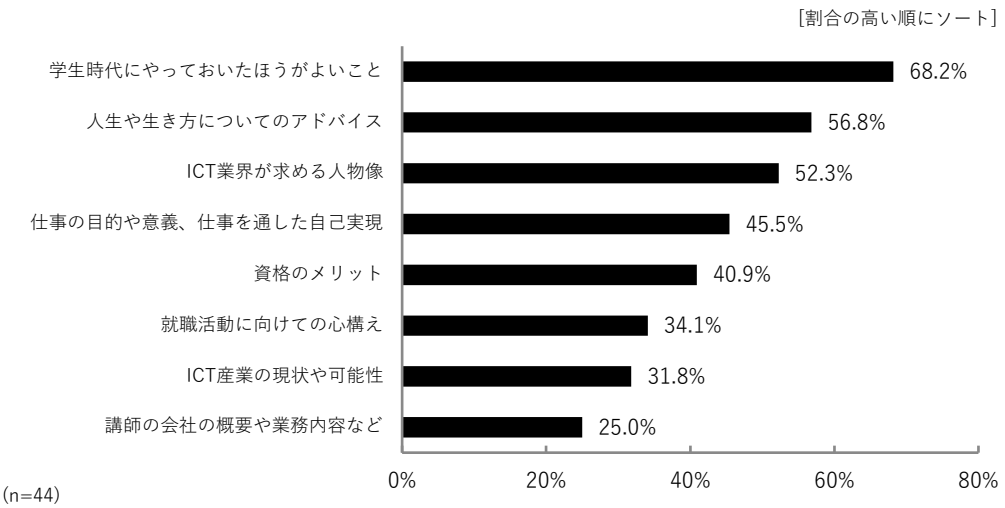
（n=44）

問６　講座全体を通して、今後の授業や就職活動に関連して、新たな気づきや生かしたいことがありましたら、お教えください。

（一部抜粋）

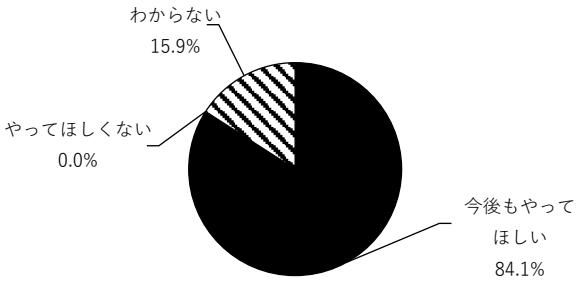
ITエンジニアを理解していなかったので今回の講座でわかったのでよかったと思いました。
課題を見つけることを意識すること。
為せば成るの精神。
ITが求める人物像である、「気づく力、聴く力、考える力、伝える力」を少しずつでもいいから、身に着けようと思った。
鵜呑みにせず、しっかり自分自身でも考えて考えて実行すること。
宮崎県の企業も大いに活躍しているんだなと思い、宮崎県のIT企業にも興味を持ちました。
何事にも挑戦する。
無理かどうか考える前に挑戦してみる。
資格の重要性がよくわかった。
相手と自分の強みと弱みを分析することを実践してみようと思いました。
4個の持っておきたい力を養って今後に活かしたい。
選択が重要だと思う。
資格取得の重要性。
IT関係の授業に対するモチベーションが上がった。
資格や自己アピールが大事だと感じた。
自分は人と交わる機会が少ないのでもっと増やしていきたいと思った。
3つの軸についての話が特に興味深かった。
求められている人物像を知ることができました。

問７　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



(n=44)

問８　企業など外部の方による講座に対する要望について



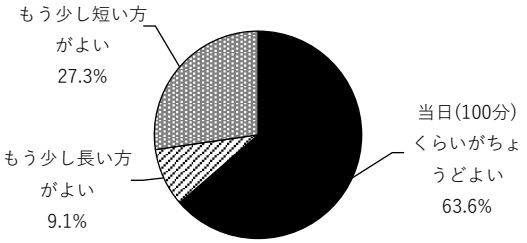
(n=44)

問９　企業の方やITエンジニアの方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。

（一部抜粋）

平均給料。
やりがい・エンジニアをしていて苦労したこと、楽しいこと。
システム開発について要件定義や外部設計、内部設計などイメージが全然湧かないし、実際にできるのかわからないが大丈夫なのか。
IT系の力は他のどんな仕事で活かすことができるか。
活躍するのに大事なことは？
他の企業の方々の話を聞いてみたいです。
企業の方が採用の際に興味をもつ学生や社会人の特徴を聞いてみたいです。
資格について。
自分に合った職種・企業の選び方。
学生のうちに持っておいたほうがいい資格。
具体的にどんな仕事をするのか。

問10　今回の講座の時間について



(n=44)

問11　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

(一部抜粋)

今後やるべき事がよく理解でき、学習や就活の意欲がより一層高まりました。
学生時代にしといたほうがいいことやIT業界が求める人物像を知ることができたので、今からでもそれを生かして立派なエンジニアになりたいと思います。
今、自分が何を意識して生活した方がいいのかがわかった。
これからIT企業で活躍する上でたくさんの大事なことを聞けたし、これからも今日聞いた言葉を忘れず授業やインターンシップなど就職に向けて取り組んでいきたいです。
今回の講話を聞いてもっと自分自身を磨いていく事が大事だと思いました。
自分は、新しいものに挑戦するまでに時間がかかってしまうので、今日のお話の中にあった「良いと思ったことはすぐにやってみる」という考え方を取り入れたいなと思いました。
仕事とは何かという心構えのようなものに感動しました。
とてもためになりました。
少し居眠りしてしまったのがとても悔しかった。
質問です。採用する側からみてどのような人が面接落ちやすいと思いますか。
話が分かりやすく、岡田社長の実体験を混じえて話をされていたので腑に落ちやすかった。IT業界への興味関心がより深まったし、インターンなどにも積極的に参加してみたいと思った。
これからの生き方についてなど勉強になりました。
今回の講座を通して改めてICT業界が求める人物像の力が必要で、そのために日頃から頑張っていきたい。
資格を取ることはこれから仕事をするうえでとても大切だとおっしゃっていた、基本情報技術者試験は一生懸命勉強して取得して自分の武器としたいと思いました。
今回の講座を受けて、学生のうちにやってたほうがいいことや、会社についての具体的な説明について、すごく分かりやすかったです。
ITの知識があまりなかったけどこの講座で理解が深まった。
人生はずっと選択ばかりであるという事が、改めてわかった。

ウ　意見の概要（企業、専門学校）

設問①については、企業（講師）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
まずは、仕事に就くということがどういうことなのか（自己実現と社会貢献）を理解して欲しかった。そのうえで、IT分野の知識はどの業界でも必要だし、特にIT業界に就業することでさまざまな業界の根幹（土台）に関わることができるということと、学生時代に磨くことができる要素（資格取得も含め）を知って欲しかった。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[企]	
学生の皆さんのITに関する予備知識も就業への期待もそれぞれ違うので、専門的な話を深掘りするよりも、就業することの魅力や、就業に向けての心構えと準備についてお話ししました。もっと技術的に深掘った話を聞きたかったという要望には応えられなかったかもしれません。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[専]	
社会人になるための基本的な考え方やこれからの過ごし方について大変有意義な講演であり、これから就職活動を行う学生に対して貴重な内容であった。 また、資格試験の重要性も話して頂き、専門学校の立場としては非常にありがたい。	専門学校（教員）
昨年度と同じ内容でご実施いただき、学生にとっても非常に参考となる内容でした。	専門学校（教員）
専門学生のうちにしておいたほうがよいことみたいなすぐに役立つものだけではなく、大切な心構えなども含まれていて、かなり内容が良かったです。	専門学校（教員）
前半は社会人になるにあたって伝えたいことというような話で何のために仕事をするのかなど人生と仕事を絡めたような広い視野の話であった。 後半はIT業界、会社の業務内容、IT業界で求められる人材、資格をとるメリットなどで会社説明会などでも聞く機会が多い内容であったように思う。 全体的に岡田社長の経験を交えた内容であり、また、経営者（採用する側）としての立場の視点もあり、学生にとっても興味深い内容であったのではないかと考える。	専門学校
岡田社長には、ご自身の仕事観や人生への向き合い方について、要所要所で具体的なエピソードを交えながらお話しいただきました。 また、専門的な内容についても言葉を噛み砕いて丁寧にご説明いただいたことで、随所に岡田社長の思いや、参加者にとって新たな気づきや行動のきっかけとなり得るエッセンスが盛り込まれており、非常に引き込まれる内容でした。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[専]	
学生のレベルにあった内容でほとんどの学生が理解できると思われる。	専門学校（教員）
就職や資格取得に向けての意識付けに関するような話でもあり、レベルはちょうどよかったと考える。 人生がうまくいく人の3か条、IT業界が求める人物像と4つの力、学生時代にやっておいたほうが良い5つのこと、就活に向けての心構えなど、ポイントがわかりやすく整理されていた。	専門学校
内容はシンプルでありながら、聞く対象を選ばず、どのような立場の方にとっても参考となるお話であったと感じました。また、聞く人の年齢や置かれている状況、時期によって受け止め方が広がり、さまざまな気づきを得られる内容であったため、学生にとっても理解しやすい内容であったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
妥当でした。	企業
妥当でした。昨年よりも講話の時間を延ばしていただき、より詳しくお話いただけたので良かったです。	専門学校（教員）
学生の様子を見ていると、それほど集中力が途切れずに聞いているようだったので、時間数については概ね妥当であったと思う。	専門学校
質疑応答の時間を含め、随所に考える時間が設けられており、全体として100分という講演時間は適切であったと感じました。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
特に難しい点はありませんでした。熱心に聞いてくれているように感じました。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　[専]	
これからの就活についての意識づけと、資格試験の重要性の話工夫については特になし。	専門学校（教員）
現在、国家試験対策期間中という状況で基本情報技術者試験や応用情報技術者試験の重要性について、またこれから就活が本格化するこの時期に、就活に臨む際の考え方や心構えについてお話しいただいたことは、大変ありがたいです。	専門学校（教員）
専門学生が必要な内容が盛りだくさんでしたので、大変良かったです。	専門学校（教員）
IT業界に関係する話だけでなく、人生や生き方まで含めた話をしていただいたのは、何のために仕事をするのかということにもつながり、学生にも参考になったと思う。	専門学校

②学生の様子や反応に関する意見	
ほとんどの学生さんがしっかり聞いていただいたように思いました。全員の前での質問はしづらいこともあり、発言に積極的ではありませんでしたが、後ほど質問があったり関心の高い学生さんは多かったように思います。	企業
一部学生はあまり関心を示さなかったが、ほとんどの学生はしっかりと聴いていた。	専門学校（教員）
休憩なしで1時間半お話いただきましたが、一部の学生を除きほとんどの学生が集中して熱心に聞いていたと思います。	専門学校（教員）
学生に非常に役立つ内容でした。	専門学校（教員）
学生の様子としては、それほど集中力が途切れずに聞いているようであった。 受講後アンケートをみると、自由意見の中には、これからどういうふうに取り組んでいくかというようなことに前向きに触れている意見が多いように感じた。	専門学校
事前に教員より、学生に対して「気になった点はメモを取ること」や、「将来就職する可能性のある企業であり、今後を見据えて良い印象を持つことも大切である」といった声かけがなされていたこともあり、学生は全体を通して真剣に話を聞いている様子がうかがえました。 また、卒業生が就職している企業であるという点も、学生が関心を持ち、より耳を傾ける要因の一つになっていたのではないかと感じました。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
事前アンケートが非常に役立ちました。アンケートの際に、今回の講座では、こちら側が何を意図し	企業

て、何を伝えたいかをあらかじめ伝えたらより良かったかもしれないと思いました。	
十分でした。	専門学校（教員）
昨年度と同じ内容ではあったが、事前の打ち合わせの中で、質問事項の話も出るなど、打ち合わせについては、十分であった。	専門学校

④昨年度と比較してどうだったか	
昨年よりも時間を延長して設定していただいたこともあり、1回の講座で伝えるべきことはお話できました。事前アンケートの効果もあり、学生さんの向き合い方もより良くなったと思いました。	企業
昨年の講話内容を踏襲した話で、時間的にも余裕があり、最後には学生からの質問もいくつかあったので、よかった。	専門学校（教員）
講話の時間を長めに設定していただけた点がよかったです。	専門学校（教員）
基本的に昨年度と同じ内容であったが、学生から事前に質問事項を出したもらったほか、当日も数人質問があり、20分程度は事前質問への回答や質疑応答にあてられたため、よかったと思う。 １年生の前半が終わったくらいだからかもしれないが、受講後アンケートの中で、具体的な仕事のことやインフラ系のエンジニアのこと、要件定義のことなども聞いてみたいという意見があったため、もっと実際の現場に近い話というのも学生にとって興味がありそうである。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
就業することが楽しみになって欲しいと切に願います。できるだけ県内企業へ就業していただきたい。そのために協力できることはできる限りやりたいと思います。	企業
学生の聞く態度に積極性が欲しい。	専門学校（教員）
可能であれば次年度も１年生に対して同じ話をしていただきたいです。	専門学校（教員）
同じ内容で十分だと思います。社長の熱意も素晴らしかったです。	専門学校（教員）
昨年度は、今回同様の実証講座を受けたことをきっかけとして、学生がスパークジャパン株式会社の採用試験を受けたなどの効果もあったため、継続できるとよい。	専門学校
今後の実施にあたっては、企業講話の前段階として、事前アンケート等を活用し、本実証講座やキャリア教育の目的・位置づけを学生に共有することで、取組全体を一つの枠組みとして整理でき、より高い教育効果が期待できると考えます。 また、企業との連携については、学生・学校・企業の三者にとってWin-Winとなる仕組みづくりが重要であり、就職先企業の担当者や、就職後数年を経た卒業生による講話等を取り入れることで、学生にとってより身近で現実的なキャリア形成につながる可能性があると考えられます。 さらに、修業年限が2年間であることを踏まえると、入学時または入学前のオリエンテーション段階で実施することも有効であり、早期からの意識醸成や学習への主体的な取り組みにつながることが期待されます。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
講座のあとのアンケートを見させていただき、学生さんにとって少しでもお役に立てたなら良かったと率直に思いました。若い人たちが将来に希望をもって、それに向けて学業に取り組んでくれるとありがたいです。また、講座で自分自身の考え方（や自分の会社の方向性）を披露するにあたって、今一度それらを振り返る機会としてもとてもありがたく思います。ありがとうございました。	企業
次年度も就活前の１年生に聞かせてほしい。 エンジニア系だけでなくクリエイター系も聞く価値がある	専門学校（教員）
ほとんどの学生が熱心に話を聞いていたので、学生のアンケート結果が楽しみです。	専門学校（教員）
学生が仕事や人生といった大きなテーマについて、話を伺う機会はあまりないため、学生にとっても貴重な機会になっているのではないかと考える。	専門学校

ご多忙の中、資料作成ならびに講話に際し、貴重なお時間を頂戴し、誠にありがとうございました。 また、岡田社長のお話をきっかけとして学生がどのような変化を遂げたのかについて、行動や意識の変化を目に見える形、あるいは数値として可視化できる仕組みがあれば、講師の方にとっても講話の成果を実感しやすく、今後の取組に対するやりがいにつながるのではないかと考えます。 いつもご協力いただき、心より感謝申し上げます。	専門学校

(9)　実証講座⑤：実施報告

○期日　令和７年10月29日（水）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校8号館　5F　501教室

○時間　２コマ　10:00～11:40

○対象　情報システム科　ITエンジニアコース１年42名、
ゲームプログラムコース１年6名、
IT高度専門士コース１年6名　　計５４名

○授業形態　講義

○講師　株式会社共立ソリューションズ
相山 陽子 様（取締役）
松木 宏樹 様（IT事業本部 営業統括二部 副部長）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）
木田 達士、前田 賀子

○事前打ち合わせでの協議内容

＜要望（専門学校）＞

これから就職活動に入る学生たちではあるが、まだピンと来ていない学生がほとんどのため、就職に対する意識をこのタイミングでしっかりと持ってほしいため。一次面接で聞かれることを教えてほしい。卒業生や若手社員の方の声など入れていただけるとありがたい。

＜提案（企業）＞

「社会人になるということ」「働くということ」「就職活動」について、不安な気持ちが大きい学生が多いので、少しでも　具体的に話してあげることで、就職活動の一歩目を踏み出せるような内容にしたい。
事前に学校様から　具体的な学生からの質問や不安な気持ちをヒアリングさせていただき、講座の中に盛り込みました。

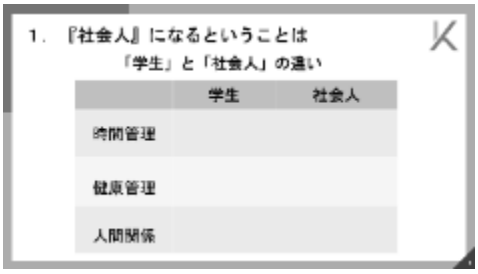
○内容：企業講話

「これからの社会人に求められるものとは」

・『社会人』になるということは
・『企業の求める人材』とは
・これからの学生生活をどう過ごすのか



ワーク課題　▶

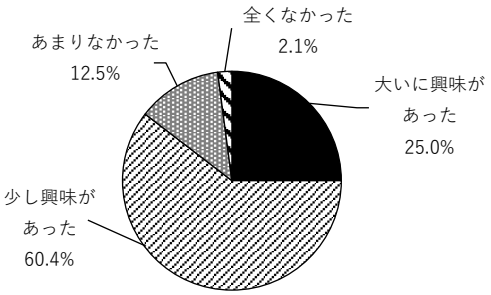




（10） 実証講座⑤：学生アンケート及び意見の概要

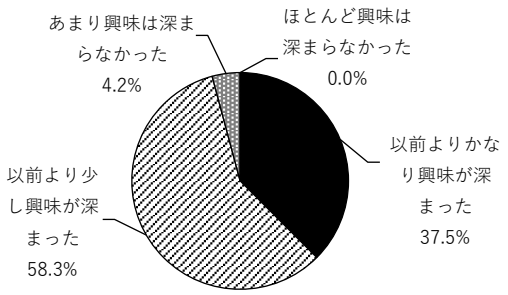
ア 学生アンケート結果（単純集計）

問１ 講座を受ける前、企業が求める人材や就職活動に対してどの程度、興味がありましたか。



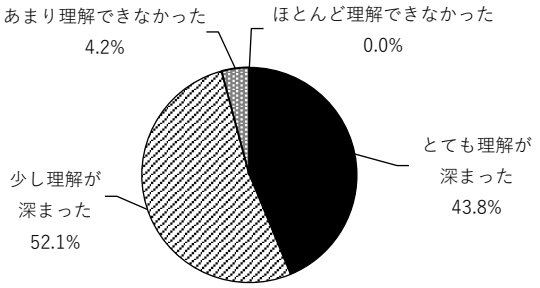
(n=48)

問２ 講座全体を通して、企業が求める人材や就職活動に対する興味は深まりましたか。



(n=48)

問３ 講座全体を通して、企業が求める人材や就職活動について理解できましたか。



(n=48)

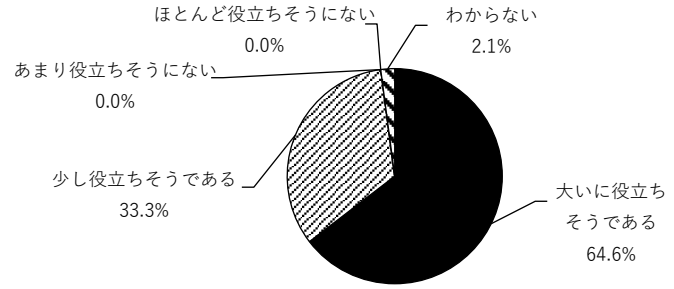
問４ 問３で具体的に理解が深まったところ、または理解できなかったところがありましたらお教えください。

（一部抜粋）

とても理解が深まった
企業が求めている人材について細かく説明があり、わかりやすかった。
日頃、当たり前なことはやっぱり大事なんだと思った。
社会人として何が当たり前か、理解が深まった
自分の強み・弱みを正しく理解し伝える必要性について理解が深まった。
自分自身の長所や短所についてどのくらい理解が深まっているか改めて感じました。
将来どのような人生を歩むかはこれからの自分次第ということを改めて感じました。
社会人と学生の違いについて理解が深まりました。
企業の求める人物像やインターンシップの参加手順や、インターンシップに参加しておいたほうがいい理由など。
社会人になった時の仕事に向き合う上で必要な姿勢を学ぶことができた。
さまざまな分野（時間管理、健康管理、人間関係など）の学生と社会人の違いや、面接で聞かれやすい質問、これからの学生生活でやっておくべきことの理解を深めることができました。

社会人と学生の時間や意識の違いのお話が印象に残っています。また、選考時に私たちのどのようなところを見ているのかについても理解が深まりました。
少し理解が深まった
いろんなことにチャレンジしてみる大切さがわかった。
面接の問題。
企業が求める人材や就職活動についての見る側の着眼点が理解できた。
企業に求められている人物像がどんなものか知ることができました。
面接の際は事前準備が大切であること。
企業が何を採用などの判断基準にしているのかが少しわかりました。
学生と社会人の違いについて。
自分の経験を自分の言葉で話すことができ、小さなことでも困ったことがあったときはすぐに相談できるといいんだなと思いました。

問５　講座全体を通して、今後の授業や就職活動において、役立ちそうですか。



(n=48)

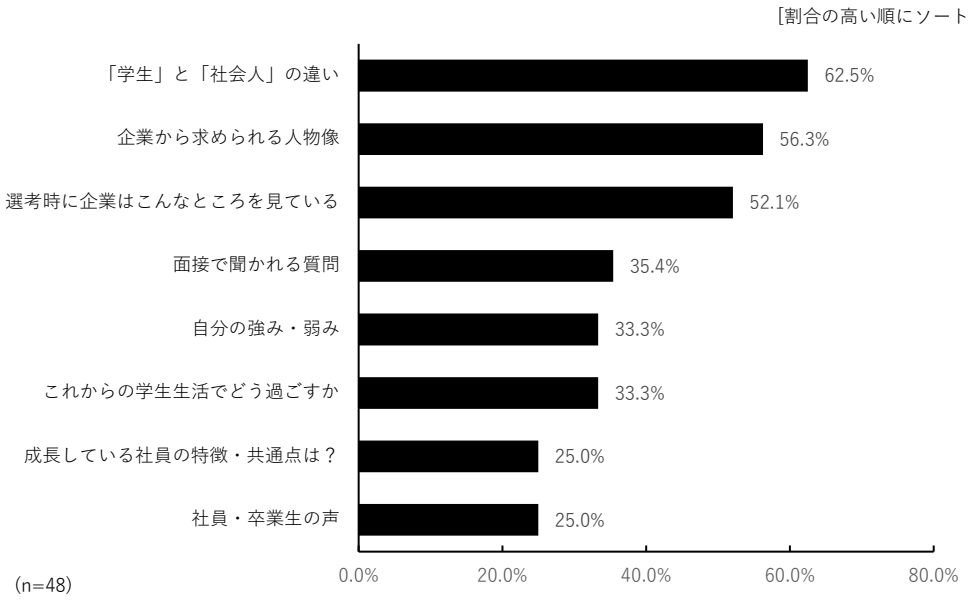
問６　講座全体を通して、今後の授業や就職活動に関連して、新たな気づきや生かしたいことがありましたら、お教えください。

（一部抜粋）

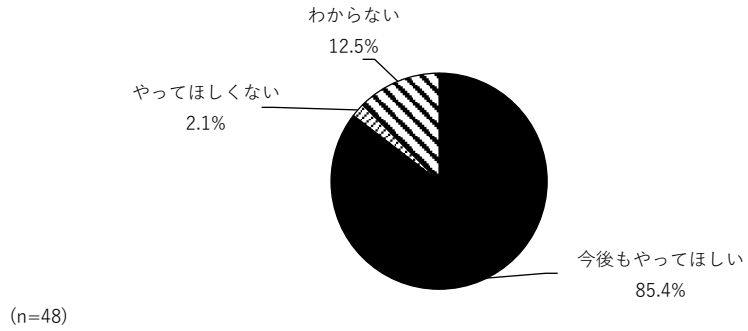
今からでも自己分析をし、自分の魅力を存分に発揮できるよう準備をしていきたい。
自分の強みと弱みを、経験を交えながら話せるようにすること。
自分から就職先にアピールすることはとても大切。
人とのコミュニケーションを増やそうと思います。
自分についてもっと知ろうと思った。
自分が生活していく中で挨拶などの当たり前のことを当たり前にこなさないといけないなと思った。
学生としての生活と社会人としての生活には大きな差があること。
より積極的に、業界や企業について調べる必要があると感じた。
自分から動いていけるようにしたい。
これからの生活を見直して就職に向けてできることに精一杯取り組みます。
早めの行動と質の高い学習を試みたいと思いました。
今後からは面接の準備に力を入れてみようと思いました。
まだインターンシップに参加したことがないので積極的に参加してみて自分の進路を決めたい。

自分の性格等だけでなく、自分の今の普段の過ごし方も自己分析する必要があるなと感じた。
実績を積極的に作りたい。
就職活動の難しさがわかった。
学生と社会人では責任や意識など、やっぱり違うんだなと思いました。
まずはどんなに嫌なことでもチャレンジすること、自分の長所や短所を見つけること、自分の興味がある職種がある企業のインターンシップや説明会があったら、参加することで自分の将来の夢が明確になると思いました。
自己PRにおいて自分の強みを前面に出そうと思いました
企業のことを調べて、就職活動に取り組みたいと感じました。
就活が「怖い・不安だから行動しない」ではなく、「知らないから怖い」のだから、自分から行動して、避けずにどんどん足を踏み入れてみようと思いました。

問７　講座全体の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数選択可】



問８　企業など外部の方による講座に対する要望について

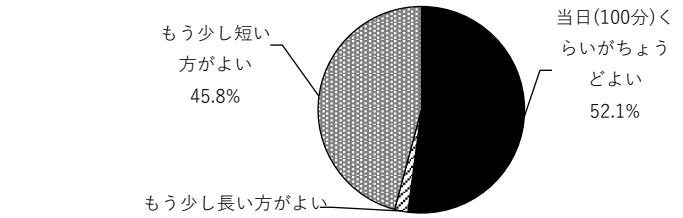


問９　企業が求める人材や就職活動について、企業の方やITエンジニアの方に、今後、話を聞いてみたいことがありましたら、お教えください。

（一部抜粋）

一日の平均労働時間やはどれくらいか。労働環境について。
会社に入る前と入った後での心情の違い。
社会人の一日の生活の流れを知りたい。
開発や運用、保守などそれぞれの一日のスケジュールについて。

問10　今回の講座の時間について



(n=48)

問11　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

(一部抜粋)

午後からは眠気がだいぶきつかったので、午前にしてもらえるとありがたいと思った。
今回の講座を通して学生と社会人の違いや自分の強みや弱みを改めて深く掘り下げて考えることができたのでとてもいい機会になったのでよかったです。
これから社会人になるに向けて生活を見直そうと思いました。
いろんな情報を取り入れて、ほかの人とは比べずに自分のペースで頑張りたいと思います。
企業の求める人物像を具体的に学べてとても勉強になりました。
会社が求める人物像や人材、選考時に企業はどんなところを見ているのかがわかってよかったです。それらを踏まえて今後行動していきたいと思いました。また自分の弱みや強みについて理解していなかったので考える機会をいただけて良かったです。今のうちからしっかりと自己理解を深めていきたいなと思いました。
内容が分かりやすく理解しやすかったけど、個人的にもう少し時間が短いと集中して理解しやすくなる。
就職活動が本格的に始まる前に現場の方々や、面接をする側の意見を聞けるのがとてもありがたいと感じました。
今回の企業説明会では企業はどういう人材を求めているか、いろいろな気づきを得られました、大変貴重なお話とてもよかったです。
現在、自分がなりたい職種はITエンジニアだけどさらに細かいエンジニアの種類までは決まっていないので、たくさんの企業を拝見し、だらだら動かずにすぐに就職活動にとりかかって自分が就職したい企業を決めたいです。
最後にこの学校のOBの方々のアドバイスを聞いて、説得力があって生かそうと思いました。
自分が経験してきた成功や失敗のことや、それらの経験を通して自分が成長できたことなどを具体的に話せるようになっておきたいと思いました。また、自分のことだけでなく、企業のことも時間をかけて調べておこうと思いました。
学生と社会人の違いから話してくださったことによって、このままではだめだな、意識を改めなければならないな、と思いました。面接のときにどこを見ているのか、求められている人物像など、企業の方から聞くことができて、理解が深まりました。
企業の方の話が聞けて大変良かった。

ウ　意見の概要（企業、専門学校）

設問①については、企業（講師）、専門学校（教員・事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（生徒に伝えたかったこと等）[企]	
企業側の採用活動および学生たちの就職活動が早まってきている中で、学生たちが早くから就職活動の準備にとりかかれることが重要。だが、学生たちは就職活動という未知のものに対して、不安が大きく、どのようにスタートを切ったらよいか分からない。 今回の講座の一番の目的は「不安を少しでも取り除き、いいスタートをきる」ということです。 「社会人になるということは学生とどのように違うのか」「就職面接でどのようなことを聞かれるのか」「企業はどんなところを見ているのか」など、一番知りたいであろうことを具体的に話をしました。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[企]	
特段難しさは感じませんでしたが、学生たちの不安度合いや本音を事前に知っておくと、寄り添い方の調整ができたかもしれません。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[専]	
専門学生の１年生の後期は学生にとっては企業研究が終わった後で、社会にはどういったIT企業があるか知りたい時期だと推測されるので、こういった先輩たちの入ったIT企業からの具体的な講話はとても良い経験になっていると感じた。	専門学校（教員）
社会人と学生の違いについて、責任の重さや意識の違いを可視化しながら、「社会人になっても学び続ける姿勢」の重要性などを、分かりやすくご説明いただきました。 また、学生時代と社会人とでは、ルールや人間関係、言葉遣いや態度など、基本的でありながら重要な点が異なることについて、企業の採用担当としての視点から改めてお話しいただけたものと感じます。 9月に実施された岡田社長の講話が、学生にとって将来を考えるきっかけとなる内容であったとすれば、共立ソリューションズ様のご講話は、より現実に即した内容として受け止められたように思われます。 加えて、社員の方々の声を取りまとめてご紹介いただいた点も、学生にとって具体的なイメージを持ちやすく、結果として訴求効果が一層高まったのではないかと考えます。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか　[専]	
ちょうどよいレベル感であった。どのように就活を進めていくべきかのきっかけとなった学生が多いと感じた。	専門学校（教員）
内容としては、比較的基本的な事項が中心であり、学生にとっては「既に聞いたことがある」と感じる部分もあった可能性があります。高校時代や中学時代の入試面接等で学んだ内容と重なる点も含まれていたのではないかと思われます。 一方で、全体として理解しやすく、学生にとって取り組みやすい内容であり、難易度としても適切で、ちょうど良いレベルであったと考えられます。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
講座の内容に対する時間としては、妥当だと思います。 講座内で紹介したワークをやる（自分で考えて書く→グループで発表→もう一度練り直す）のであれば、もう一コマ追加しても良いように思います。	企業

キャリア教育に関する内容＋グループ企業・業種紹介・若手社員の方の声の紹介などで、2コマでちょうど良い内容だったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　［企］	
進行中は、宮崎情報ビジネス専門学校様の採用担当者も一緒に参加しており、様子をみてもらっており、学校の先生も学生の様子に目配りしてくださっていました。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　非常に良かった点、工夫したほうがよかったと思う点　［専］	
先輩たちの声を頂いたが、とても専門学生にとっては参考になると感じた。	専門学校（教員）
また、遅刻の理由については把握できていませんが、途中から参加する学生も数名見受けられました。その際、講師の方の話が一時的に中断される場面もありました。 座席配置の運用については不明ですが、遅れて入室した学生が出入口付近ではなく、講師側まで移動するケースも見られ、今後の運営上の配慮事項として検討の余地があるように感じられました。	専門学校

②学生の様子や反応に関する意見	
企業が求めていることは具体的に話をすることで、学生と社会人が違うということについて、よく聞いていたように思います。全体として、真剣に聞いている学生が多かったです。	企業
全体的に集中して取り組めていた。	専門学校（教員）
当初は真剣に講話を聞き、メモを取っている学生の姿も見受けられましたが、時間の経過とともに集中力が低下する学生もおり、一部には居眠りをしてしまう様子も見られました。 一方で、講師の方が途中で隣同士で意見を交わす時間を設けてくださったことで、学生が再び参加しやすくなる場面もあり、全体の進行としては良かったものと感じられます。 ワークの場面では、周囲の学生と協力しながら取り組む様子が確認でき、前向きに活動できていた点は評価できると考えられます。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
事前に講座の資料を見ていただき、内容やメッセージの方向性が間違っていないか確認しました。また、具体的な例を盛り込んでほしいとの要望をいただきましたので、意識して追加いたしました。学校の卒業生の事例も入れることで、学生にとっては身近で納得感があったように思います。	企業
しっかり時間を確保して打合せ出来ましたので、十分であったと思います。	専門学校（教員）

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
学生たちに、就職活動をするにあたって不安に思っていることや聞きたいことを、事前アンケート等をとって、それに対して答えていくということも講義の中に盛り込むと、より自分事として参加できるかもしれません。	企業
受け入れる専門学校側は特にありません。企業様のご都合次第かと思います。	専門学校（企業）
専門学校内におけるキャリア教育の実施状況について十分に把握できていないため、詳細なコメントは難しい部分もございますが、2年後に社会人となる学生のキャリア形成を考えると、段階ごとの目標や内容が整理され、学生自身がルーブリックを持ち、それを意識しながら取り組める形になることで、より分かりやすく、取り組みやすい構成になるのではないかと感じました。 また、講話のタイトルから受ける印象としては、岡田社長のお話の内容と重なる部分もあるように思われましたが、教員による指導と企業による指導にはそれぞれ異なる価値や視点があることから、2年間の学びをより充実したものとするためにも、事前の導入的な授業等を通じて、企業や業界への関	専門学校

心を高める機会が、もう少し設けられるとさらに効果的ではないかと考えます。 加えて、企業に踏み込んだ内容のお話をしていただく中で、専門学校における就職支援や意識醸成、心構えといった観点から、学生の声をどのように受け止め、今後に活かしていくかという視点もあわせて検討されることで、より一層効果的な取組につながるのではないかと感じました。	

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
共立ソリューションズ様においては、社員教育やサポート体制が十分に整備されており、学生が将来について前向きに考えやすい環境が整っていることがうかがえました。 また、学生アンケートの内容からも、講話をより現実的なものとして受け止めている様子が見られ、本講話は学生にとって大変有意義な機会であったと考えます。 このたびは、資料のご準備から講話の実施に至るまで、多大なるご尽力を賜り、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。	専門学校

（11）　実証講座⑥：実施報告

○期日　令和８年１月23日（金）

○場所　GMO hinataオフィス（宮崎市老松2丁目2-1）

○時間　約３コマ　10:00～12:50（当初予定12:30まで）

○対象　情報システム科　Webクリエイターコース　１年生５名

動画・映像クリエイターコース　１年生７名　　計12名

○授業形態　企業講話・体験授業

○講師　GMOインターネット株式会社

◦経営本部　総務部　拠点運営チーム　採用担当　中村 莉子 様

◦ドメイン・クラウド事業本部 クリエイティブ部　お名前.comデザインチーム

リーダー　藤本 雄介 様

◦NS本部　クリエイティブ部　リーダー　福田 礼夏 様

◦ドメイン・クラウド事業本部 クリエイティブ部　お名前.comデザインチーム

小林 剛 様

◦ドメイン・クラウド事業本部 クリエイティブ部　ConoHaデザインチーム

米元 朋華 様

◦NS本部　クリエイティブ部　森 友香里 様

◦ドメイン・クラウド事業本部 クリエイティブ部　映像チーム　加世田 蓮 様

◦ドメイン・クラウド事業本部 クリエイティブ部　映像チーム　宮本 鷹実 様

○視察見学　宮崎県教育庁高校教育課 主幹　原田 昭洋 様

宮崎県教育庁高校教育課 指導主事　藤岡 裕巳 様

宮崎県総合政策部産業政策課　柴田 一仁 様

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

教員（学生引率）：谷山 珠之、岡本 伸吾

飯干 賢、尾崎 勝一

○事前打ち合わせでの協議内容

＜専門学校より＞

・高校と専門学校を接続する文部科学省委託事業に取り組んでいるが、専門学校においては、就職に対する目的意識が明確でないまま入学する学生もみられ、1年生の早い段階での就職に対する意識付けが課題となっている。
特にクリエイティブ分野においては、就職に対する意識の遅れがポートフォリオ制作の遅れにもつながってしまうという課題もある。

・学生が就職活動に向けてなかなかスタートを切れないため、企業での職場体験などを通じて就職に向けての意識付けをしたい。

・また、クリエイティブ分野のポートフォリオについて、企業目線でのアドバイスをいただくことでレベルアップしたい。

・実際の企業の現場のことについて、教員で教えることに限界もあるため、職場体験やポートフォリオ指導について、ご協力をお願いしたい。

＜企業より＞

・当社としては、投資対効果がどうかということが、講座実施の判断材料の1つとなる。当社による学生への指導等が学生のレベルアップ、ひいては宮崎の人材の底上げにつながり、優秀な人材の確保につながる可能性があるかどうか。

・執務エリアでの職場体験については、業務上の機密情報等に触れる可能性もあるため受け入れは難しいが、企業見学的なかたちであれば可能かもしれない。

・ポートフォリオ指導については、学生の作品に対するレビューの実績やノウハウはあるため対応可能。

・講座を実施するかどうかについては社内で検討の上、結論を出したい。

→文部科学省委託事業が目的とする「ミスマッチの改善と地域企業への若手人材の定着」は地域に根差す企業として、最も貢献したい課題であるため、協力することとしたい。

※ルーブリックについて

・学校・企業・学生で講座の目的について、共通認識を持つことを目指して、ルーブリックを作成した。（175ページ参照）

○内容

10:00～10:25　会社説明（25分）

・業務内容、福利厚生、宮崎オフィス等の説明

10:25～10:40　オフィスツアー（15分）

・宮崎オフィス内の見学

10:40～11:15　職種説明・交流会（35分）

※以降、Web・デザインと映像の2つに分かれて実施

・クリエイターの業務紹介

・学生とクリエイターとの交流（質疑応答など）

11:15～11:50　作品添削（35分）

・学生の作品に対するクリエイターからの講評・アドバイス

Web・デザイン：学生5人が3人と2人に分かれてそれぞれ複数のクリエイターが指導

映像：学生7人に対して2人のクリエイターが指導

11:50～12:50　ワーク（60分）

・Web・デザイン

Web用のバナー広告の制作体験

学生1人に対して1人のクリエイターが指導する一対一のかたちで実施

・映像

前半は映像制作で企画段階の重要性についての説明とサンプル動画と同じように撮影してみるワーク

後半は生成AIを活用した台本作成



会社説明



Web・デザイン（作品添削）



Web・デザイン（ワーク）



映像（作品添削）



映像（ワーク）

令和8年1月23日（金）実証講座　ルーブリック

この表は評価シートではなく、今日の目標を企業、学校、学生で共有して、
学生の皆さんのこれからの学びに生かしてもらうためのものです。

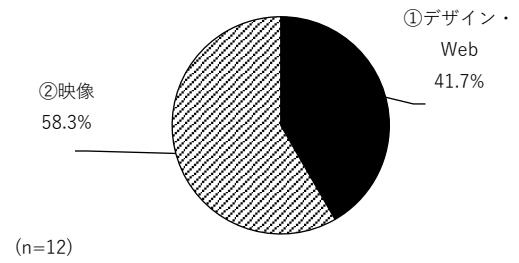
内容	観点	整理番号	到達目標（終了後の学生の状態）	A　到達目標の状態に達した	B　一部できていないところがある	C　多くの点でできていない
⓪取組姿勢・態度 **（①～⑤全体に共通**	取組姿勢・態度	⓪-ア	○わからないことや疑問点について質問することができた			
		⓪-イ	○講座全体を通して、自分事として真剣に取り組むことができた（話者を見る／要点をメモするなど）			
①会社説明 （30分）	職業理解（会社）	①-ア	○会社全体についての説明内容（企業理念、事業内容など）を説明できる			
		①-イ	○宮崎オフィスについての説明内容（役割、業務内容など）を説明できる			
②職種説明 （20～30分）	職業理解（職種）	②-ア	○クリエイティブ職（デザイン・Web／映像）についての説明内容（仕事内容、必要なスキルなど）を説明できる			
③交流会 （20分）	職業理解（職種）	③-ア	○クリエイターの方と交流することで　クリエイティブ職（デザイン・Web／映像）について新たな気づきがあった			
	コミュニケーション	③-イ	○自分から発言したり、クリエイターの方の質問に答えたりして会話のやりとりに参加できた			
④作品添削・ フィードバック （40分）	作品制作	④-ア	○自分の作品について、意図や工夫した点などを具体例をあげて説明できた			
		④-イ	○フィードバックで指摘された改善点を整理して 説明できる			
⑤ワーク （40分）	作品制作（実践）	⑤-ア	○ワークの制作課題の内容や条件を把握することができた			
		⑤-イ	○ワークの時間内に、制作課題に沿って制作を進めることができた			
	コミュニケーション	⑤-ウ	○ワークの中で、必要に応じて講師に相談・確認することができた			

各行どれか1つに○を付ける

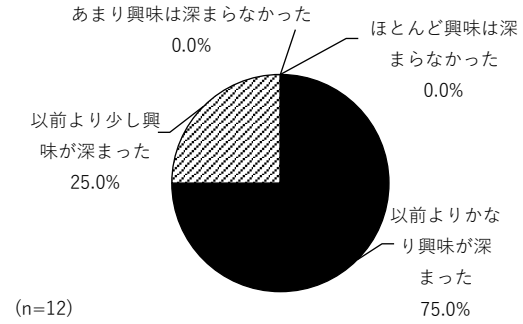
（12）　実証講座⑥：学生アンケート及び意見の概要

ア　学生アンケート結果（単純集計）

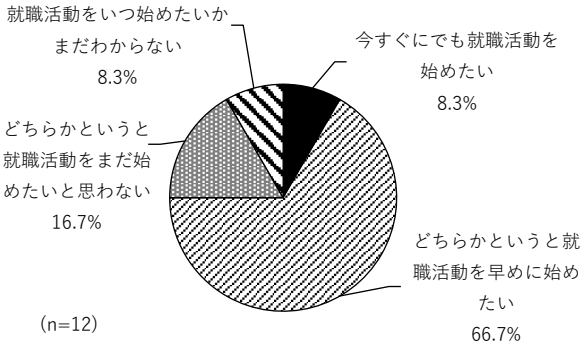
問１　コース（専攻）をお教えください。



問２　講座全体を通して、クリエイターやクリエイティブな仕事に対する興味は深まりましたか。



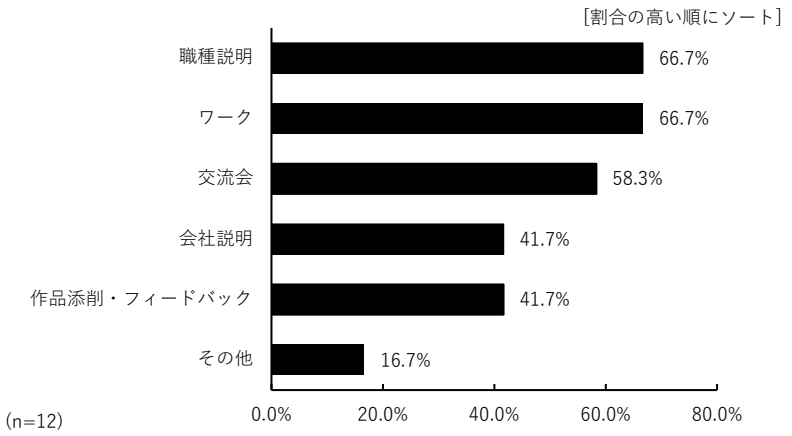
問３　企業での実証講座を受けて、就職活動に対する現在の意識はどうですか。



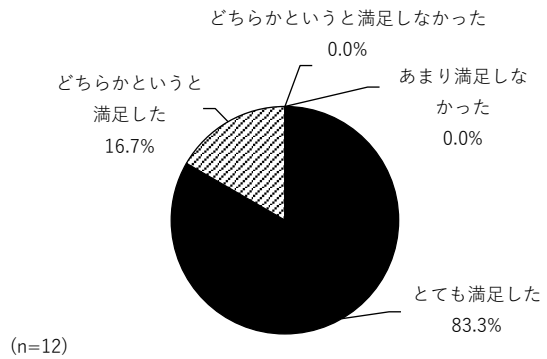
問４　問３をふまえて、就職について、今、一番考えていることは何ですか。

働きやすさ
環境
目指してる職業で本当にそこで続けられるのか
不採用になることへの不安
あまりクリエイターに向いてないなと実感してしまった
自分がやりたいことをしっかりと考えてからしたい
正直凄く悩んでるところがあります。
就職活動がうまく進むか
会社の雰囲気

問５　講座全体の中で特に印象に残ったパートはどれですか。 【複数選択可】



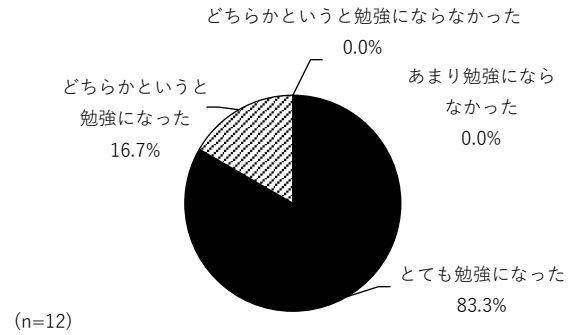
問６　講座全体を通しての満足度はどうですか。



問７　問６で「満足した／満足しなかった」具体的な点をお教えください。

たくさん話すことができて嬉しかったから
社員の方が丁寧に教えてくれた
ワークでプロから色々なアイデアを貰ったかは
添削はかなり参考になった。(カメラの撮る位置やストーリー構成など)
優しい方ばかりで本当に有難かったです
分からないことを聞けて良かった
終わった後にも聞きたかった事を聞けてはっきり分かって良かったです
全体を通しても社内の雰囲気も良くすごくいいところだなって思ったしその後の個人で聞くのもすごく聞いてくれてアドバイスしてくれて色々参考になりました

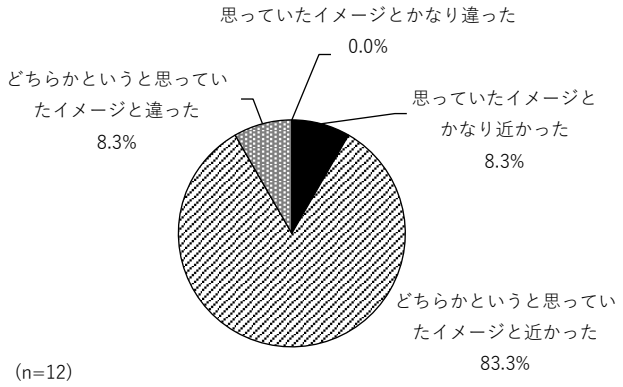
問８　作品に対するフィードバックは勉強になりましたか。



問９　問８で「勉強になった／勉強にならなかった」具体的な点をお教えください。

余白など
細かなところを改善するように話をしてもらえた
テキストを短くしたり配置を変え方に様々な視点が生まれた
相手の方からの意見もとても参考になったし、見る側の見方を考えさせられる話だった。
自分でも気付けなかったところを気づけてよかったです
自分が想像してなかった事をいろいろ教えてくれたので勉強になった
それぞれのもので言われたことが確かにと思うものが多かった

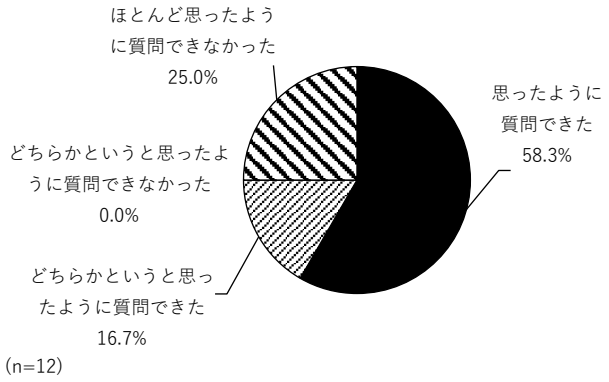
問10　クリエイターの仕事について、思っていたイメージと違いがありましたか。



問11　問10で「イメージと近かった／イメージと違った」と感じたところを具体的にお教えください。

チームで動く
毎週20分のデザイン時間がありその時間で日々成長出来ること
職場見学をした時みんな色んな映像にかかわることをしていてすごいと思いました
想像をはるかに大変なんだな〜って思った
作品を作っていく中での流れや環境などは違うところもあったしあってるいるところもあった。パートナーへのサービス精神が凄かった

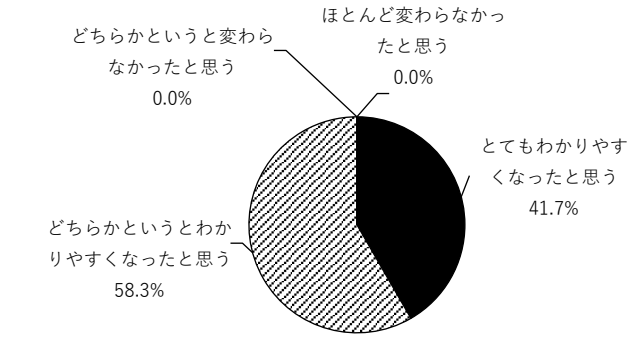
問12　質問したいと思ったことを質問できましたか。



問13　問12で「思ったように質問できた／できなかった」具体的な点をお教えください。

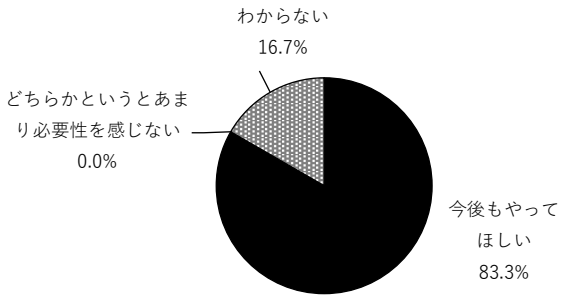
事前に準備していた
自分なりに仮説を立てて質問できた
事前に調べ上げた
聞きたいことはほとんど話されていた。タイミングと、時間が少なめだった。
時間が足りなかったです
わからなかったことを聞くことができた
全て終わったあとに自分が聞きたかったことが何個か聞けて良かったです
言おうと思ってたこと全部言われたけどためになることだった

問14　ルーブリックがあることで当日の目標がわかりやすくなったと思いますか。



(n=12)

問15　クリエイターや企業など外部の方による講座に対する要望について



(n=12)

問16　講座全体を通して、感想、意見、要望などについて、自由に記入してください。

楽しかった
またGMO見学に行ってみたいと感じた
とても勉強になる時間で、楽しく将来のことについて考えれていい体験になりました
もう少しだけ時間が欲しかった。
質問の受け答えがとても丁寧で分かりやすく学ぶことが沢山ありました ありがとうございました
もっといろんな事を知りたい
ほんとに貴重な体験をありがとうございました！色々今後にもいかせる内容だったし参考になりました！ 思っていた会社のところもあればすごく驚いたこともあって勉強になりました

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、専門学校（受講者）、行政、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、専＝専門学校、高校教育課・産業政策課＝行政、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（学生に伝えたかったこと等）[企]	
▼【WEB】 ・実務レベルの制作に触れながら、フィードバックを通して、今後の制作に活かせる考え方や判断軸を持ち帰ってほしい。 ・早期にGMOの存在認知と宮崎IT業界への興味関心を持ってもらいたい。 ▼【映像】 ・映像制作はセンスではなく「イメージの積み重ね」であることを、座学、撮影体験、AI制作体験を通して伝える。 ・GMOを知ってもらい、「面白そう」「働いてみたい」と思ってもらえるきっかけを作るため。将来の採用や接点づくりにもつなげたい。 ▼【人事】 ・早い段階から「働くこと」や「インハウスクリエイターとして企業で活躍する人材像」を具体的にイメージしてもらい、今後の学びや進路選択の軸づくりにつなげてほしいと考えた。 ・宮崎という地域にいながらも、IT・インターネット業界や都会と同じスピード感で変化に対応している企業で働く選択肢があることを知ってもらい、将来的な（低学年からの）接点づくり・採用につなげることを目的とした。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や課題を設定する上で難しかった点や改善したい点［企］	
▼【WEB】 ・学生さんの経験に合わせつつ、実務で求められるレベル感や考え方もある程度伝えられるようなお題設定のバランスが若干難しかった。また、時間の都合もあり、デザインが表層的なものだけではないという部分まで十分に伝えられなかった点は、今後の改善ポイントだと感じた。 ・今回制作して頂いた広告バナーだけでなく、そのバナーを押した先にどういうフローになり、売上に繋がって事業が回っているのか、自分たちクリエイティブは全体のどこを担うお仕事なのかまで見せれるとなお良かった ▼【映像】 ・1年次のため未経験者から習熟者まで全員に「納得感」を与える難易度調整が難しかった。 ▼【人事】 ・1年次の学生さんが中心ということもあり、専門的になりすぎず、かつ表面的な企業紹介に終わらない内容設計のバランスが難しかった。 ・人事として伝えたいメッセージ（価値観・考え方・キャリア観）と、学生さんが今知りたいこととのギャップをもう少し丁寧にすり合わせられる余地があったと感じている。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか	
企画当初の想定を上回るボリュームで実施していただき、大変充実した内容であった。	専門学校（教員）
内容が幅広く非常に充実しており、とても素晴らしい講座でした。私の方も勉強になりました。	専門学校（教員）
講師企業が想像以上の準備されていたように感じます。学生・職員ともに期待以上の研修になったのではと感じました。	行政
作品添削は、学生の反応も良く、非常に良い取組だったと感じました メンターの皆さんも、若手の方や県出身の方が多かったため、添削やワークとあわせて、学生が「働くこと」をイメージしやすい、素晴らしい内容だったと感じました。	行政
会社説明・職種説明：規模の大きい会社であるためか、それだけの聴きごたえがあった。プレゼンの資料も洗練されていて、内容の良くわかるものであった 作品添削・交流・ワーク：学生にとって一番関心の高い内容であったことと、とても丁寧であり事前に学生の作品を審査しており、いいところや改善点をしっかり講評してくれていた。また、交流、ワー	専門学校（事務局）

クについても、１対１のような授業を展開してくれて、学生にとっては大変満足のいくものだったのではないか。講師企業のこのような研修に対するプログラムの在り方がとても評価できると感じた。	
会社説明については、スライドを使いながらの説明であった。会社の概要だけでなく、戦略なども説明され、その中で社内にクリエイターがいるメリットの説明などもあり、クリエイターの役割にもつながる内容であった。社内を見学するオフィスツアー時間も10分ほどあり、さらにイメージが深まったと思う。 職種説明以降は、Web・デザインと映像の2つに分かれての実施であった。 職種説明は社員の方と学生との交流を兼ねるような感じで行われていた。仕事内容や仕事の流れの説明も一般論というより、実際の社内での内容や流れとしてリアルに説明されてた。例えば、デザイン業務では、日頃からどういう課題があるのか考えて、クリエイターからもデザインを通して、改善提案ができることが大事といった話もあった。 作品添削については、Web・デザインでは、学生2～3人ずつ2つに分かれて、指導していただいたが、例えば、チラシでも文字情報の内容や重要度と見せ方を関連づけて実践的に指導されていたのが印象的だった。 映像では、1つのモニターを囲んで、クリエイターの方と学生7人が一緒に作品を観ながら指導で、クリエイターの方が、学生にそういう撮り方をした意図などを問いかけながら、指導されていて、例えば、同じ風景でも時間帯で見え方が変わるとか、背景に不要なものが映らないほうがよいなどプロならではのこだわりを指導していただいてよかった。 ワークについては、Web・デザインでは、Web用のバナー広告の制作体験であったが、学生1人にクリエイターの方が1人つく一対一のかたちで、非常にありがたかった。限られた広告サイズの中で、どの情報をもっと強調するのか、どういう色を使うと効果的かなど本当に実践的な指導をしていただいて、学生にとって有意義な時間であったと思う。 映像では、映像制作で企画や絵コンテなど前半の段階が重要という説明をされ、前半では実際にGMO様でつくられて公開されている映像と同じように撮影してみようというカメラを使った撮影体験があった。後半は生成AIを使って台本をつくってみようと体験であった。どちらも実際の業務に即した非常に実践的な内容で、これからの映像制作に役立つ貴重な体験だったと思う。	専門学校 （事務局）

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、生徒にとってどうだったか	
適切な難易度であった。	専門学校 （教員）
学生に合ったレベルだったと思います。非常に分かりやすいアドバイスをいただき、ありがとうございました。	専門学校 （教員）
妥当	行政
ちょうど良かったのではないかと感じました。というよりも、メンターの方についていただいたので、うまく調整していただいた、という印象を受けました。	行政
現在学生が学習している一番興味のある内容を、丁寧に１対１のように教授してくれていた。学生にとっても、とても勉強になった時間だったのではないかと感じた。	専門学校 （事務局）
ワークについては、実際の業務にもつながるような内容を30分～40分程度でできるかたちに大変よく練られていたと思う。 おそらく日頃の授業よりは実践的な内容だったと思うので、大変よかったと考える。 作品添削もプロのクリエイターとしての視点で指導いただいており、実践的で非常によかったと思う。	専門学校 （事務局）

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
▼【WEB】 ・本来であれば、ワークについてはもう少しじっくり制作・フィードバックを行いたかったが、導入の時間と考えると妥当な時間数だと感じた。 ・全体感で言うと違和感はなしです、次回があるならフェーズを分けて取り組んでも良さそう。 →①バナー制作 ②HTMLメール・印刷物制作 ③WEB課題解決制作など ▼【映像】 ・妥当だが個別の講評（フィードバック）時間をさらに確保できれば教育効果はより高まったかも。 ・企業理解の入口としてはちょうどよい長さだと思います。もっと深く知りたい学生さんには短い可能性があるので、希望者向けに追加の時間やフォローの機会があってもいいかもと感じました。 ▼【人事】 ・企業理解やキャリアの入口としては妥当な時間数だったと感じる。	企業

・一方で、「時間が足りなかった」、「もう少し質問したかった」という学生の生の声もいただいたため、質問や対話の時間をもう少し確保できると、学生さん一人ひとりの理解や納得感はさらに高まったのではないかと感じた。 ・設定した時間より長引いてしまったため、時間に余裕を持ったコンテンツの再設計は必要。	
会社説明（オフィスツアー含む）、職種説明・作品添削・交流・ワークとボリュームが多かったこともあり、学生も満足していたが、映像チームの方では時間内にうまく質問をできていない学生も見られた。実証講座後に質問できる時間があったのは学生にとってよかった。	専門学校（教員）
時間数は十分でした。内容がとても素晴らしかったので、時間が過ぎるのが早く感じました。	専門学校（教員）
妥当	行政
短いようにも感じましたが、グループの人数を考えると妥当だったかと思います。	行政
少なくはないが、充実や満足度が高いという点で、妥当だったという感想を持った。	専門学校（事務局）
全体の時間としては2時間30分で十分であったと考える。特に30分～40分程度で内容が切り替わるように計画されており、学生も集中しやすかったと考える。 今回は丁寧にご指導いただいた結果、20分ほど時間が超過して、終了後も希望する学生はクリエイターの方と話してもよいとのことだったので、さらに20～30分ほど話をしていた学生もいたようであった。 当方としては、時間が超過しても丁寧なご指導のおかげとしてありがたかったが、クリエイターの皆様にご負担がなかったか心配な部分もあった。	専門学校（事務局）

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　［企］	
▼【WEB】 ・短い時間の中で、今後の制作にも活かせるレベルのフィードバックが十分にできていたか心配。また、バナー制作経験がほぼない生徒さんもいらっしゃったため、フィードバックできる大枠を作り切るところまでのサポートが難しかった。 ・ツールの操作面で躓く学生様も見受けられたので、個々のレベル感の差は若干感じた →デザインについてよりもツール操作レクチャーに時間をとられたのは勿体ない印象 ▼【映像】 ・答えを教えず本人の意見を引き出すサポートのバランスが難しかった。 ・学生さんの積極性に差があり、控えめな方の関心を引き出すのが難しかった。次回は声かけや質問を増やし、参加しやすい雰囲気づくりを意識したい。 ▼【人事】 ・映像の方は特に積極性にばらつきがあったため、より少人数のワークの方がよさそう。	企業

②生徒の様子や反応に関する意見	
▼【WEB】 ・緊張している様子はあったが、質問も交えながら真剣に参加されていた。 ・業界についてもイメージが追いついてない学生様もいた印象 →質問はこれまでと比較すると多めで◎な印象 ▼【映像】 ・企画が即座に映像化される体験に強い関心とポジティブな反応があった。また、ワークショップ後も質問にきたり熱心な生徒さんが多かったのも良かった。 ▼【人事】 ・時間が進むにつれて頷いたりメモを取ったりする姿が増え、真剣に話を聞いている様子が印象的だった。 ・終了後に質問や相談に来てくれる学生さんもおり、キャリアや働くことに対する関心を高めるきっかけにはなったと感じている。	企業
当初の想定以上に、学生によい影響がみられた。 就職意識に関しては、まだこれからの学生でも考えるきっかけになっていたようで、この点も当初の目的に沿った結果となった。	専門学校（教員）
普段そんなに意欲的ではない学生がすごく積極的に参加をしていて、とても良い反応でした。自分の進路を考える際の、参考になったと思います。	専門学校（教員）
よい反応だったと感じます。講師企業のファシリテートもよかったと思います。	行政

自発的に質問する様子が見られ、非常に良かったのではないかと感じました。	行政
学生は真剣に取り組んでいて、得るものが多かったのではないか。	専門学校 （事務局）
実質的には3時間近くになったが、学生が全体を通して、熱心に集中して受けている感じがした。 クリエイターの方との言葉のやりとりについては、学生の声が小さめで少し聞き取りにくいところもあったような感じがした。 アンケート結果で就職活動に対する意識が早めに始めたいという意見のほうが多かったが、まだ悩んでいるような意見もあった。目標とする職業や就職に対する意識が固まっていくにはある程度の時間が必要だとあらためて思った。 アンケート結果で「時間が足りなかった」という意見が複数あり、学生にとって有意義な時間だったということがうかがえた。	専門学校 （事務局）

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
▼【WEB】 ・最終的には目線や足並みが揃った印象です。学生様にもそれが伝わった状態で当日を迎えられたと感じました。業界自体への興味関心は学生様も持って頂けている印象なので、そこをどうブーストしつつ継続するかが重要と感じました。 ▼【映像】 ・しっかり先生と事前打ち合わせできたので内容のクオリティを正しい方向に高められた。 ・課題としては生成AIの「Whisk」の使用準備をお願いしていたがセキュリティの問題で入れられなかったらしく、使う時間になって生徒さんから言われて判明した。事前に使えないという共有があるとこちらとしても準備ができたので次回があればお願いしたい。 ・事前に打ち合わせし、作品共有もできたことで、当日の進行やフィードバックがスムーズだった。 ▼【人事】 ・1/9のお打ち合わせ以前は、学校側と企業側の認識や関与度に差がある部分も見受けられたが、打ち合わせを重ねる中で相互理解が進み、建設的な連携体制を築くことができたと感じている。1/9のお打ち合わせ以降、MTGのアジェンダ準備やルーブリック作成など、より良い実証講座の実施に向けてご尽力いただき、事前に先生方と目的や学生さんの状況を共有できていたため、当日は大きなズレなくスムーズに進行することができた。 ・今後は、学生さんの事前理解度や関心テーマについて、もう一段階踏み込んだ情報共有ができると、内容をさらに最適化できると感じた。	企業
企業様へかなり負担を強いていたこともあり、様々な共有がうまく出来ずギリギリになってしまった。これは学校としての大きな課題であるため、次年度以降こちら側で事前に決めておくことを学校内で共有しておく。	専門学校 （教員）
時間を作って打ち合わせをして下さり、とてもありがたかったです。おかげさまで、当日はスムーズに講座を実施していただきました。	専門学校 （教員）
今回の実証講座ではGMOインターネット株式会社様の実証講座に取り組まれる姿勢に多くのことを学んだ。 実証講座へのご協力をいただけることとなったあと、12月にオンラインで2回、1月に対面で1回打ち合わせを行ったが、12月の打ち合わせについては、当方の学生指導に対する消極的な取組姿勢などについてご指摘をいただいた。（例えば、当日に学生からの質問が出ないかもというのをそのままにするのではなく、当日に学生から質問が出るように事前の指導をしっかりすべきではないかなど） そうしたご指摘をいただいたこともあり、学生に対する事前指導を行ったほか、受講後の学生の到達目標を整理したルーブリックを専門学校・企業・学生で共有するなど改善を図った。 当方に対して、改善すべき点をご指摘いただいたおかげで、今回の実証講座が素晴らしい講座となったと考える。	専門学校 （事務局）

④継続していくための要望や課題に関する意見	
▼【WEB】 ・学校側（運営）との目的、ゴールの設定をした上で今後も継続が重要 逆にバナー制作を経て学生に次に知りたい業界のことや制作についてヒアリングしテーマ設定も良さそう。 ▼【映像】 ・「センス」をさらに分解し、構図・光・音の選択をどう撮影画角やAIの指示等へ変換するかという「言語化能力」に特化したワークショップを深掘りしたい。 ▼【人事】 ・単発で終わらせず、継続的に企業や社会と接点を持てる仕組みがあると、学生さんのキャリア意識の醸成につながると感じた。 ・ポートフォリオの作成講座や添削会など、段階的な関わり方も今後検討できると良い。 ・弊社では新卒採用の早期化が進んでおり、専門学校1年次の12月（大学3年生の12月）に内定をお出	企業

しするケースもあるため、学校側のカリキュラムについても、低学年次からより一段階踏み込んだ内容をご検討いただけるとありがたい。	
内容的にどうしても企業様側に負担が大きく出てしまうので、ここを片付けないことには継続は難しいと思われる。	専門学校（教員）
講座当日の運営をスムーズにするため、学生へ事前指導にも力を入れたいと思う。	専門学校（教員）
講師企業の学校訪問や専門学校での出前授業、講師企業への長期インターンシップなどあると継続すると思います。	行政
講師企業・学校の先生方のご負担は大きかったものと推察しています。 拡大にあたっては、プログラム化による負担軽減はもちろん必要ですが、メンター人材の確保も重要だと感じました。	行政
学生にとっては、内容が充実していたので、今回の学生に次のステップの学習内容を学ばせたほうがいいのか、次年度の新しい１年生に同じプログラムを学ばせたほうがいいのか検討したい。	専門学校（事務局）
今回の内容は当方としては、学生にとって理想的な内容であったと考えるが、一方でGMOインターネット株式会社様のご負担になったことも確かだと考える。 他の実証講座にもあてはまることではあるが、企業の負担軽減と企業へのメリット、学生への効果の企業と学校の両方のバランスに配慮しながら、取り組むことが必要である。	専門学校（事務局）

⑤その他、感想や意見（上記①～④以外について）	
▼【WEB】 ・個人的には、宮崎でクリエイターを目指して頑張っている生徒さんを応援したいと考えているため、今後も機会があれば継続や別の形などでお力になれればと思っている。 ▼【映像】 ・モチベーションの高い学生さんも多く、こちらとしても刺激を受けました。またぜひ次回もお会いしたいです。 ・皆さんたくさんの可能性を秘めていると感じたので、才能を爆発させるヒントに少しでもなれたらいいな！と思いました！ぜひ頑張って欲しいです！ ▼【人事】 ・宮崎で学ぶ学生さんが、自分の可能性を働く場所に限定せず広く考えるきっかけになれば嬉しい。 ・今後も、学生の成長や将来の選択肢を広げる取り組みに継続して関わっていきたいと感じた。	企業
今回はとても学生のためになる内容がたくさんあり、教員としても学びになる内容でした。また、学生にとっても授業で受けた内容の良い復習（再確認）になっているようでした。実施していただいたGMOインターネット株式会社様に深くお礼申し上げます。	専門学校（教員）
期待を上回るほど充実した講座でした。本当にありがとうございました。	専門学校（教員）
企画、運営等お疲れ様でした。 働く現場を見て、学生側もモチベーションが上がったのではないでしょうか。	行政
プログラム構成も非常に良かったのですが、何より社員の皆様の、学生への接し方が、非常に素晴らしかったと感じました。 業務ご多用の中でのご協力、ありがとうございました。	行政
今回の実証講座を通して、企業との認識の共有や熱意の共有、事前の準備、振り返りの重要性をあらためて実感した。 実証講座のような取組を通して、企業との共通理解を深め、信頼関係を構築していくことが、連携を継続していくために重要と考える。	専門学校（事務局）

第７　高校教員向け研修会等について

１　クリエイティブ系研修会（高等学校教諭対象）

ア　実施概要（1 日目）

○日時　令和７年８月４日（月）10:00～16:00（昼食休憩含む）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校　Mac Room

○対象　宮崎県商業教育研究会 加盟22校（私立学校含む）

○参加者　6名　都城商業高等学校　1名、富島高等学校　3名

高城高等学校　1名、鵬翔高等学校　1名

○講師　テレビ宮崎商事株式会社　藤並 秀行 様（統括部長）

西田 博文 様（プロダクション事業部 部長）

○ＴＡ　宮崎情報ビジネス専門学校　谷山 珠之（教務部 教員）

○見学　宮崎県高校教育課　藤岡 裕巳 様（指導主事）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）前田 賀子

○内容　動画の企画と撮影（企画・ロケハン・撮影・発表）

午前：①映像制作の業務の流れ説明（実例紹介含む）

②あみーろーどの15秒ＣＭ作成のための企画（ラフ含む）作成体験

・企画の作り方（説明）

・題材の「あみーろーど」でロケーション・ハンティング（ロケハン）

・動画の企画（ラフ）作成

※あみーろーど：宮崎駅前商店街の名称です。



◀業務説明の様子



◀動画撮影企画書作成の様子

午後：・基本の撮影方法・照明の当て方・応用
（照明等がない場合の代用方法など含む）
・「あみーろーど」にて、企画に沿った撮影（スマホ）
・撮影した動画を発表（動画は編集は行わず、カット割りで発表）
・講師より講評



◀基本の撮影体験の様子



◀照明を使った撮影体験の様子



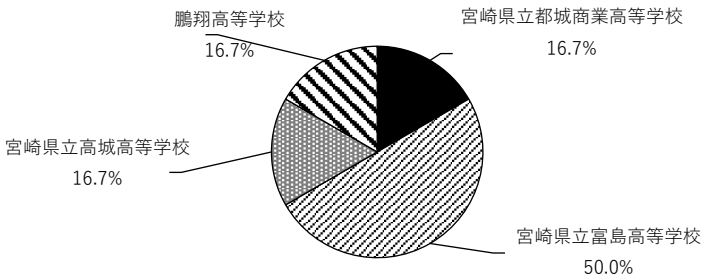
◀制作した動画発表の様子



◀講師による講評の様子

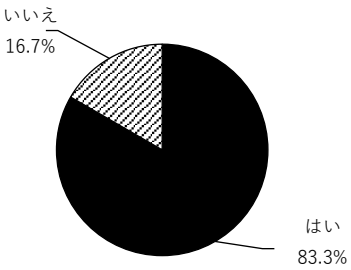
イ　参加者アンケート結果（単純集計）（１日目）

問１　所属されている学校名をお教えください。



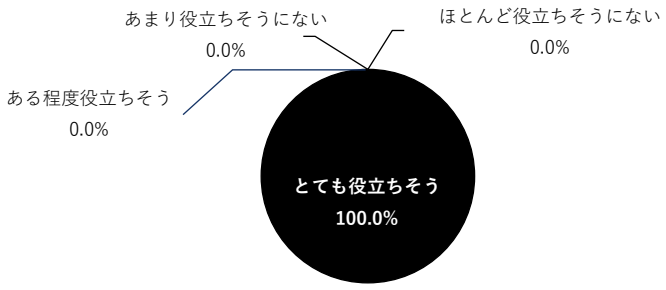
(n=6)

問２　情報系の科目を担当していますか。



(n=6)

問３　今日の研修は授業を行う上で役立ちそうですか。



(n=6)

問4　今日の研修を受講して、理解できた内容をお教えください。

光の当て方など専門的なことが知れて良かった。
しっかり企画をすることで、生徒が長引く撮影や編集をスムーズにできることや、撮影する時の基本を知ることができました。
光の入れ方で印象を変えることができること。今後の撮影で取り入れたいと思います。
カメラの位置や光の当て方で印象が変わることや、カメラのマニュアル操作にハマる意味が少しわかりました。
お話も、現場での実際のエピソードが盛り沢山で、分かりやすく、講師のお二人の親しみやすい雰囲気づくりのおかげで、楽しく学ぶことができました。
サイズ、イマジナリーライン、照明。
動画撮影時の知識や技術、理論について多くのことが学べました。 今まで疑問に思っていたことや気になっていたことに対して、解決方法を見い出すことができました。

問5　今日の研修内容で難しかった内容、分かりにくかった内容をお教えください。

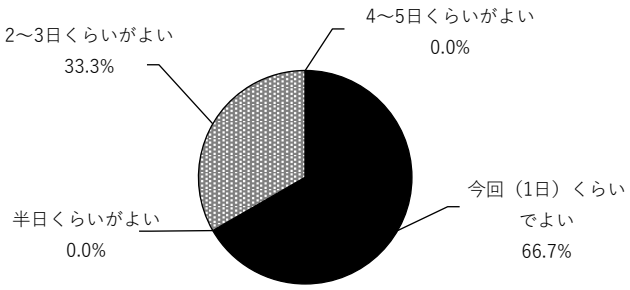
（一部抜粋）

自分の伝えたいことやターゲットを意識して動画を撮影すること。 企画の段階でかなり細かく決めておく必要があることがわかった。
被写界深度。

問6　今日の研修会で学んだことを、授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

授業の中で動画を作らせたい。
高校３年生の授業や卒業制作に活用したいです。
公式Instagramの運用に活用したい。
企画の大切さを身に沁みて体験しました。 企画書の内容を、組立やすくするための、項目づくりや時間配分などの視覚化など、授業では工夫していきたいと思います。 また、技術を「真似」することで学ぶこともあると教えていただいたので、時間が足りない場合は、その手段を使ってみたいとも思いました。
いつか、Instagramで動画の作品作成の授業や、学校PR動画作成などで今回の研修会で学んだことを活用したいです。
生徒が動画の作品を作成する前に、知識として教えていくことや導入の話をしていくとき、実際に撮影をするときや、作品の講評のしかたに生かしたいです。

問７　今日の研修内容に対して、研修時間はどのくらいが妥当だと思いましたか。



(n=6)

問８　教員向け研修会において、取り上げてほしい研修内容がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

Instagram作成初心者実践研修会。
撮影の時間と画像編集までの時間があれば、さらに深まったと思います。

問９　教員向け研修会について、ご意見・ご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

企画、準備ありがとうございます。
本日は宮崎情報ビジネス専門学校の本格的な教室で快適な研修会をありがとうございます。まさかUMKのプロの社員様から実際に教えていただけるなんて驚き、とても嬉しかったです。専門学校の先生も、質問に優しく答えてくださいましてありがとうございます。 最初の座学で、企画から出力・締切までの活動内容の講義も分かりやすく、面白く、番組制作の大変さが分かりました。午後の撮影方法の説明の講義も、ポイントごとに実際の機材を使いながらわかりやすく、楽しく教えて頂けて理解できました。 CM制作はたった15秒を作るのが難しくてできなくて、制作者さんの凄さや大変さがわかりました。 あみーろーどを実際歩き、素材を撮影するのもあっという間に30分が過ぎ、皆さまを待たせてしまいました。企画をしっかりしないと撮影が長引くのがよくわかりました。イマジナリーラインを今日さっそくテレビをみながら意識しました。今後の仕事にも活用したい内容を楽しく学べました。ありがとうございます。
今回は撮影がメインとなったため、教科書の内容には直接的に関わりが少なかったので、参加者が少なかったのかなと感じました。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、教育委員会（高校教育課）、専門学校（事務局）の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、教＝教育委員会、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（受講者に伝えたかったこと等）[企]	
映像作成の実務では大概において初期段階を深く考え丁寧に進めることによって後々の進み具合に大きく影響します。 学校の授業でも初期（一回目の授業）から生徒さんたちが興味深くノリノリになってくれるような環境整備が進められれば、良い結果につながる可能性が高いのでは、ということがお伝えしたかったところです。	企業
撮影の基本がいかに大切かを学んでいただき、生徒たちに伝えて欲しいところです。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や実習課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[企]	
各学校さんでの授業レベルや普段の授業の進捗が理解できていなかったので、こちらの思った内容を一方的に授業したことになってしまったのではと思います。果たして実際の各学校さんの授業レベルと合致していたのかに不安がありました。 事前（1週間程度前）に参加各先生の悩み事が把握できれば、それに則った何らかの授業もできたのかもと思いました。	企業
放送用機材で教えても、学校には同じ機材がないので、いかに高校生の持っている機材に合わせて講義内容を考えるが難しかったです。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[教・専]	
文科省でも産業教育PRの一貫で全国から産業を学ぶ高校生が制作するInstagram動画を募集している。その制作指導に非常に役に立つ内容であった。 講師の先生方の教え方が非常に分かりやすかった。	教育委員会
見学した時間帯は撮影の基本のうち、人物撮影のサイズ、イマジナリーライン、照明、被写界深度についての説明と絵コンテに基づいた屋外での撮影の部分であった。 実習や体験中心であったため、分かりやすかったと思う。	専門学校
今回は、普段学校の先生方が指導されている手順とは異なる部分が多かったのではないかと思います。 映像を作る際には、「企画（5W1H）・ロケハン・撮影・編集・完成」といった、さまざまな作業があります。その作業工数をある種可視化し、全体の作業工数に対して企画が最も大きな割合を占め、そこで作品の善し悪しが決まるといっても過言ではないこと、また企画する際には5W1Hに気を付けながら作ることなどについて、テレビ宮崎商事様が制作された企画書やCMなどの具体例を基にご説明いただきました。また、2班に分かれて「あみーろーど」へロケハンに行き、ロケハンで得たイメージを基に「15秒CMの企画を作成」しました。さらに、撮影時のポイントや照明の当て方、照明を太陽に見立てた場合の考え方など、撮影方法についてもご指導いただきました。実際に映像機器を操作し、ピントを合わせてみるなど、撮影の基礎を学んだうえで、企画（絵コンテ・文字でも可）を基に実際に撮影に行き、編集時間がないためカット割りで発表する、という流れでした。 講師の方の教え方が非常に分かりやすく、少人数ということもあり、目の行き届いた研修会になったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、受講者にとってどうだったか　[教・専]	
適当である。	教育委員会
イマジナリーラインや被写界深度など初めて聞かれた先生も多かったと思うが、講師の方が実際の映像の違いを見せながら、非常にわかりやすく説明されていたので、理解しやすかったのではないかと思う。	専門学校

研修会の前に、撮影体験については、同様の内容で専門学校生向けに実証講座を実施していただいていました。内容自体は同じでも、今回は「撮影する生徒を指導する側」という先生の立場に立ったうえで、プロの視点から指導をしていただきました。そのため、学生に教えた内容に加えて、各作業の意味や時間管理なども含めた指導をしていただきました。 時間管理は作品のクオリティにも直結しますが、企画段階でどれだけイメージを固めておくかによって、その後の作業工数が減り、より効率的に高いクオリティの作品を制作できるといった利点を、実際に体感できるプログラムだったと思います。 編集の凝った作品づくりというよりも、基本に忠実な画（画面イメージ）をしっかり撮ることで、凝った編集をしなくても十分作品として成立する、という点も体験できたのではないかと思います。 また、さまざまな細かいポイントについても、プロの方が得た知識やノウハウをその都度惜しみなく教えていただきました。撮影における被写界深度やイマジナリーライン、照明の当て方、照明がない場合の代用方法など、学校現場を想定したアドバイスもありました。レベルとしては初級編かもしれませんが、内容は非常に濃いものだったと思います。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
事前段階で設定時間（AM2時間　PM3時間）が大きいと感じ、構えて準備をしました。普段他人様に指導することがめったにない環境にいる者にとりましては、正直に申しますと5時間という授業時間は未知の世界であり多少脅威でもありました。 企画書部門・撮影方法部門・実技（作成・撮影）でなんとか埋め合わせることができたのかな…と思います。	企業
トータル５時間はやや長いと感じました。	企業
後半の少ししか見学できていないので分かりません。	教育委員会
今回は、動画の企画、撮影に重点を置いたため、編集に関する時間はとらなかったが、絵コンテをしっかりつくって、絵コンテどおりに撮影することで、編集なしでも一本の動画にできるような構成であったため、一日でできる内容としては妥当であったと思う。	専門学校
今回、受講者の技術や知識の習得レベルが分からない中ではありましたが、編集に時間をかけずに作品を講評する内容だったことを踏まえると、全体としては1日で妥当だったと思います。 一方で、アンケート結果を見ると、受講生からは「もう少しゆっくり習いたい」という意見もありました。おそらく企画に慣れていないこともあり、5W1Hを念頭に置いた絵コンテ作成の時間が、もう少し必要だったのではないかという感想です。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[企]	
先生方みなさんが協力していただきスムーズに進められました。	企業
受講人数が少なかったので、順調に進められました。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　今回の研修内容を授業に生かす場合に意識してほしい点　[企]	
私たちの講義が先生たちの普段の授業に何か生かせるものが少しでもあれば良いが…と思うことしきりです。	企業
理屈で覚えるのではなく、感覚で覚えて欲しいです。また評価するときも悪いところを指摘するのでなく、良いところを伸ばすイメージで指導してほしいです。	企業

②受講者の様子や反応に関する意見	
概ね興味を持っていただけたかと思います。 みなさん協力的で、こちらの投げかけや笑い話にも敏感に反応いただき、素人講師でも非常にやりやすく感じました。拙い講義に耳を傾けていただき大変ありがとうございました。	企業
非常に興味を持ってもらい、やり易かったです。	企業
懸命に受講していた。丁寧な説明であったので、普段から映像制作に携わることのない先生方にも分かりやすく伝わっていた。	教育委員会

講師の方の話し方も親しみやすい感じで、参加者も6人と少なかったので、1人ずつカメラを触りながらの実習もスムーズで、全体的に和気あいあいとした雰囲気で楽しそうであった。 アンケート結果をみると、今後の授業に「とても役立ちそう」という回答が100％で、かなり参考になったことがうかがえる。	専門学校
受講者の皆さんは、教諭・実習助手など職種は異なりますが、プロの方、しかも身近なテレビ番組を制作されている方から学べる機会ということもあり、非常に積極的かつ熱心に研修に臨まれていました。 講師の方々が、緊張気味の受講生の皆さんに対して、ユーモアを交えつつとても優しい語り口で懇切丁寧に教えてくださったため、受講生の皆さんも次第に緊張が解け、熱心に耳を傾けながら、多くのメモを取られていました。吸収しようという意欲は、さすが教師だと感心しました。 また、メリハリのあるプログラムとなっており、「プロの方は、教えることについてもやはりプロなのだな」と感じました。おそらく受講生の皆さんも同様に感じられたのではないかと思います。終始、和やかで楽しい雰囲気の中で研修を受けられており、映像作品を作る楽しさも十分に伝わったように感じました。	専門学校

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
打合せ等、いつも丁寧に時間を取っていただきありがとうございます。 今回は情報ビジネス専門学校さんで作成された動画や、前回の講義の動画を参考で拝見させていただくことができましたので大変助かりました。 今回の講義内で、情報ビジネス専門学校さんで作成された「動画作成の基本的な流れ」のVTRが分かりやすく、全面的に使用させていただきました。大変ありがとうございました。	企業
十分でした。	企業
打合せ内容以上のものをご提供いただきありがとうございました。 また、昨年度作成した動画教材もご利用いただくなど、プログラム構成においても、毎回、見倣うところばかりで、非常に心強く感じました。 お忙しい中、１日というお時間を割いて講師を務めていただき、大変光栄でした。ありがとうございました。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
座学だけでなく何かを体験して各学校さんに持ち帰っていただくのが必須かと思います。	企業
毎回人数を８名以内にしていただけると、ワークショップ的なことがやり易いので助かります。	企業
例えば作品を作るのであれば、事前に課題を与え動画や静止画を持参するのもよい。 テーマを学校PRや学科のPR等にすれば学校にも持ち帰れる。	教育委員会
今回は専門学校の映像の教員もサポートに入ったことと、受講者が6人だったため、比較的スムーズに進んでいたように思う。 実習中心の内容であれば、今回くらいの受講者数が望ましいのではないか。	専門学校
文字で覚えること、また体で覚えること（感覚で覚えること）を通して、特にクリエイティブ分野では、イメージを形にするための経験や感覚を多く積み重ね、引き出しを増やし、必要なときにいつでも取り出せるようにしておくことが、プロとして求められるのだと感じました。 そのため、継続して取り組むのであれば、構造化・カリキュラム化することで、段階的かつ継続した学びにつながると思います。おそらく子どもも大人も基本は変わらず、そこにプラスαを積み重ねていくことで成長していくため、「何に時間をかけるか」「どこに重点を置くか」が重要になってくると考えます。 また、研修においてはサポート体制が充実しているほど、より効果的な学びにつながると思います。プロから高校の先生が学び、それを高校生たちに教えていく。その際、専門学校の先生や学生、また高校の生徒（他学年・クラブ等）がサポートに入ることで、学びは縦にも横にも広がっていくように感じました。 さらに地域を巻き込むことで、継続性は一層高まるのではないかと思います。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
数名の先生と立ち話程度で伺い感じたことですが、映像作成作業は、グループ活動・担当割が必須の活動となりがちで、学生さんたちが同じ熱さで一つのカリキュラムに取り組めるか、ということが普段の授業の悩み事の一つであったのではないかと感じました。 取り残しを避ける工夫とは何だろう？と自問自答しましたが、答えが出せませんでした。 谷山先生にサポートいただき時短に努めることができました。大変ありがとうございました！	企業

今回、谷山先生にお手伝いいただいたので非常に助かりました。本当にありがとうございました。	企業
プロの方々からの指導が直接受けられることが非常にありがたい。 お忙しい中、時間を空けていただいたことに感謝したい。 先生方にはここでの学びを生徒に120%還元していただきたい。	教育委員会
受講人数が少なかったからかもしれないが、企業の講師の方、受講者である高校の先生、サポートの専門学校の教員が一体となって、講座に参加しているという感じで、とても楽しそうでした。高校に戻られてから、高校生にも映像制作の楽しさやポイントを伝えていただけるとうれしく思います。	専門学校
毎年研修会を実施しており、クリエイティブ系、特に映像編集の受講希望は非常に多い状況です。 今回は編集ではなく、「企画・撮影」に重点を置いた内容としました。授業の中で先生方が直接指導する機会が少ない分野だと考え、受講者数を制限して実施しました。また、システム系の講座が「宮崎県警察本部サイバーセキュリティ」の方による内容だったこともあり、希望者は初めて一桁となりました。結果的には受講者一人ひとりに講師の目が行き届き、非常に充実した研修になったと感じています。このくらいの少人数の方が、講師・受講者ともにベストな形ではないかと思いました。 一方で、講師のサポート要員については、最低でも1名以上は必要だと感じました。 教員向け研修では、受講生の先生方が熱心で意欲も高いため、進行上大きな支障はありませんでした。しかし、生徒を対象とした場合、熱意が表に出る生徒もいれば、そうでない生徒もいます。それは、本コンソーシアムの会議や運営でも同様です。継続には意欲や熱意がなくては続きません。それをどのように引き出すのかという課題を感じており、引き続き検討していきたいと思います。 受講生の皆さんが楽しそうに研修に取り組まれていたこと、プロの仕事を目の当たりにできたことが、今後生徒たちへの学びに還元されることを願っています。 ご尽力・ご参加いただきました、みなさま、ありがとうございました。	専門学校

ア　実施概要（２日目）

○日時　令和７年８月５日（火）10:00～15:00（昼食休憩含む）

○場所　午前　宮崎情報ビジネス専門学校　Mac Room

午後　UMKテレビ宮崎（宮崎市祇園2丁目78番地）

○対象　宮崎県商業教育研究会 加盟22校（私立学校含む）

○参加者　6名　都城商業高等学校　1名、富島高等学校　3名

高城高等学校　1名、鵬翔高等学校　1名

○講師　午前：宮崎情報ビジネス専門学校　谷山 珠之（教務部 教員）

午後：テレビ宮崎商事株式会社　藤並 秀行 様（統括部長）

西田 博文 様（プロダクション事業部 部長）

○見学　午後：宮崎県高校教育課　長友 美紀 様（課長）

原田 昭洋 様（主幹）

藤岡 裕巳 様（指導主事）

○事務局（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）

尾崎 勝一（午後）、前田 賀子（終日）

○内容　午前　スマホでできる動画撮影

午後　テレビ局見学

午前：スマホでできる動画撮影





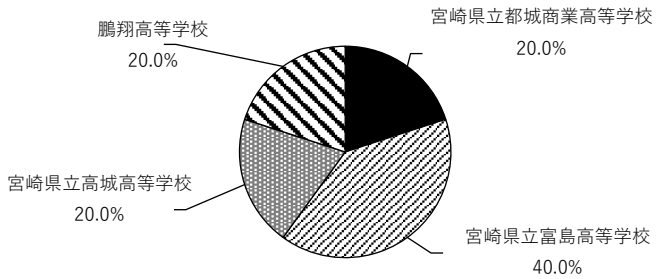
午後：テレビ局（UMKテレビ宮崎）見学





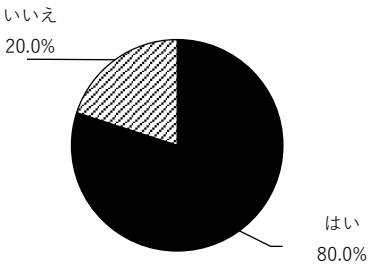
イ　参加者アンケート結果（単純集計）（２日目）

問１　所属されている学校名をお教えください。



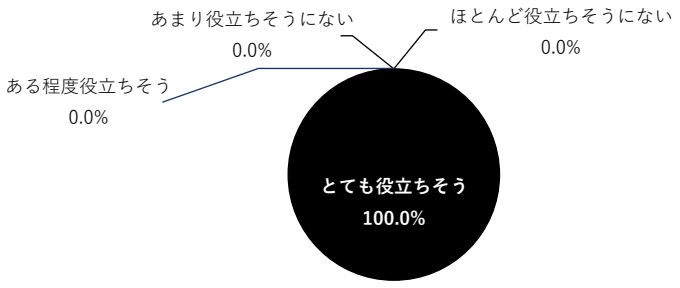
（n=5）

問２　情報系の科目を担当していますか。



（n=5）

問３　午前のスマホを使った動画撮影は授業を行う上で役立ちそうですか。



（n=5）

問４　午前のスマホを使った動画撮影を受講して、理解できた内容をお教えください。

光の当て方など専門的なことが知れて良かった。
ガンマイクやピンマイク、イヤホンのようなマイクの種類について理解することができました。また、映像がぶれないようにするための工夫には、三脚の使い方だけでなく、持ち方や歩き方までさまざまな方法があることを知り、カメラワークについてとても勉強になりました。 パンとティルトの動きの違いや、それぞれの目的など、カメラワークにはきちんとした基本があることを初めて知りました。さらに、スマホのカメラワークを実践を交えながら教えていただき、楽しく学ぶことができました。 作品を作る際には、役者さんと撮影者のコミュニケーションがとても大切だということもわかりました。今回教わった内容を、今後は現場で活用できるよう頑張りたいと思います。 さまざまな専門的な技術を、丁寧でわかりやすく、そして楽しく教えていただき、時間があっという間に感じられました。２日間、本当にありがとうございました。
映像で観るのと撮るのとでは、意味を知っていても再現することの難しさを実感しました。
編集だけでなく撮影方法を工夫することで凝った動画を作れること。 基本の持ち方や機材のことを知れて良かった。
撮影の仕方や工夫について
スマホで、固定した動画を撮るコツを知ることができたので、授業や卒業制作に活かしたいと思います。

問５　午前のスマホを使った動画撮影で難しかった内容、わかりにくかった内容をお教えください。（特にない場合は「なし」とご記入ください。）

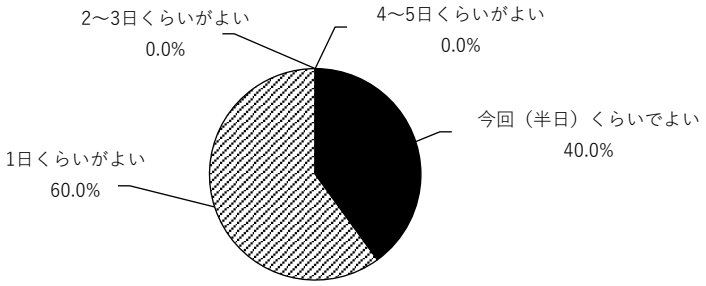
（一部抜粋）

スマホならではのカメラワークでトラックキングが難しかったです。
なし　（スライドの資料等があれば、助かります。）
時間がない中だったので練習が必要だと思いました。

問６　午前のスマホを使った動画撮影で学んだことを授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

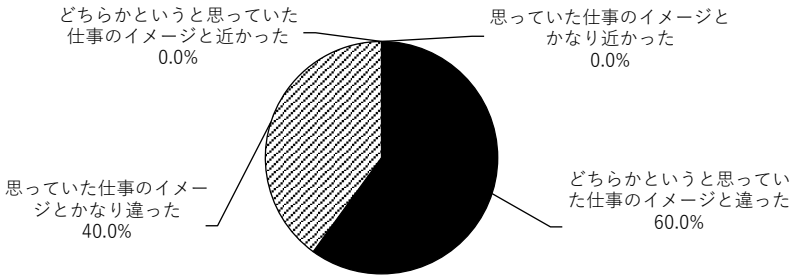
生徒と学校紹介や地域のPR動画の作成などに使えたらいいなと思います。
カメラの持ち方や、それに関わる機材の種類や扱い方など、即実践できそうな内容ばかりだった。 備品購入には、金額がある程度するのばかりだったので、継続的な利用をするための授業等の計画も、合わせて必要だと感じた。
公式Instagramの運用。
生徒に撮影の仕方について説明したいと思います。
授業や卒業制作で、学校や学科紹介の動画を作りたいと思っています。

問７　午前のスマホを使った動画撮影に対して、研修時間はどのくらいが妥当だと思いましたか。



（n=5）

問８　午後のテレビ局での仕事等の見学を通して、思っていた仕事のイメージと違いがありましたか？

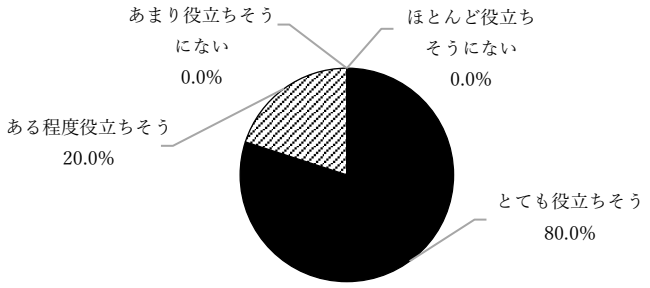


（n=5）

問９　問８で「イメージと近かった」または「イメージと違った」と感じたところを具体的にお教えください。（自由記述）

アナウンサーさん以外に、たくさんのスタッフがいらっしゃった。 生放送の番組も全てリハーサルを行っていました。
何気なく毎日観ていた番組は、綿密な台本や企画書があり、丁寧な編集とリハーサルが積み重なって、毎日放送していたのだと、改めて知ることができました。 また、毎日情報は変わるのでそれに柔軟に対応できる余白や穴埋めの材料をも日々アップデートされているのを、目の当たりにして、テレビ局のスタッフさんは、頭の回転や機転が効く人の集団なのだと、尊敬しかありません。 私自身も、日々アップデートしなくてはと、刺激をいただきました。
仕事がかなり細分化されていてそれぞれの力が合わさって番組が作られている点。
男性が多い職場だと思ってました。
生放送のリハーサルや仕事の雰囲気など、和気あいあいで、とても好印象でした。

問 10　午後のテレビ局見学は授業や進路指導を行う上で役立ちそうですか。



(n=5)

問11　午後のテレビ局見学での経験を授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

生徒たちに、職場としてのテレビ局のお仕事について話す際に、今までより具体的に説明できるようになりました。
テーマに沿った目的を明確にしているからこそ、絵コンテや時間配分などの細かな設定が決まり、その計画を持って撮影や編集などのそれぞれの役割がしっかり機能することを、伝えたいです。 番組制作には、取材される人、取材する人をはじめ、制作、放送などたくさんの人が関わることを、実際の写真等を見せることで、放送では見えない仕事を知ってもらい、たくさんの人の協力があるからこそ、一つの作品が生まれるのだと伝えたいです。
進路学習。
進路学習に使いたいと思いました。
テレビ局という仕事の選択肢を、生徒の視野にまた入れてみたいと思います。

問12　午後のテレビ局見学を通して、特に参考になったことや印象に残ったことがありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

番組づくりのために、画面の切り替えや音声、カメラ、アナウンサーさん、みなさん常に声を出して、体を動かしてコミュニケーションをしっかりとりながら進められました。 コミュニケーションの力をつけることの大切さを改めて実感しました。 いつもテレビで拝見しているアナウンサーさんが画面越しよりもはるかに素敵で声も綺麗で、生で拝見できて感激しました。これから番組を見る時に今日のことを思い出しながらより楽しく拝見させていただきます。 普段見られないような施設内をゆっくり滞在して説明を受けながら見ることができ、テレビ局の番組編成についてなど大変興味深いお話もたくさんしていただけて、あっという間の時間になりました。 ２日間ご丁寧で、親切で、楽しい研修をありがとうございます。
ニュース等の番組は限られた時間内に、秒単位で何を伝えるのかが明確に決まっており、誰もが柔軟にいつでも対応できるよう日々訓練されているのだと、感じました。 また、放送作品は、「何を伝えるのか」緻密な計画があってこそ、それぞれの技術者の力が発揮されるのだと、CM作成を体験してみて、より深く実感しました。 この研修の計画も、相当な準備が必要だったと思います。ありがとうございます。
思っていたより、女性が多く働いていらっしゃり、明るい職場で楽しそうに笑顔で仕事をしている人ばかりという印象が強かったです。

問13　教員向け研修会において、取り上げてほしい研修内容がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

アフターエフェクトの研修が受けたいです。

問14　教員向け研修会について、ご意見・ご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

計画、準備等、いつもありがとうございます。

ウ　意見の概要（企業、高等学校、専門学校）

設問①については、企業（講師）、教育委員会（高校教育課）専門学校（教員・事務局）、の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

企＝企業、教＝教育委員会、専＝専門学校、共通＝4者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（受講者に伝えたかったこと等）[専・企]	
（午前） 目的 スマートフォンでの撮影方法（各種設定を含む）について知ってもらうことを目的としました。なお、本講座は技術の習得を目的とするものではなく、撮影の基本を理解してもらうことに重点を置いています。 意図 映像作品は編集だけで成り立っているのではなく、その土台となる映像を撮影する「撮影の工程」が非常に重要であることを伝えたかったためです。また、良い撮影を行うためには、事前の準備や撮影時の工夫、さらには演者とのコミュニケーションが欠かせないという点についても理解してもらうことを意図しました。	専門学校 （教員）
（午後）実際のテレビ局内の雰囲気を感じて頂ければ良いかと思います。	企業
（午後）テレビ局のお仕事を理解して、授業で生徒さんたちに伝えてほしい。	企業

①実証講座に関する意見	
イ　内容や実習課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[専・企]	
（午前）１日目に行われたテレビ宮崎商事様の内容に結びつくように、資料の修正や内容を色々変更した点が少々難しかった。	専門学校 （教員）
（午後）特にございません。	企業

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[教・専]	
（午前）高校という教育現場において、生徒が最も容易に使用できる撮影機材は、スマートフォンやタブレットであると考えられる。今回の講座は重さの観点からスマートフォンを主な想定機材として設計されており、「軽量で扱いやすい」という利点を活かしながら、さまざまな撮影方法があることを知ってもらえる内容となっていた。 また、編集によって仕上げることを主とするのではなく、撮影時の小さな注意点（例：カメラの固定、姿勢、構え方など）を意識するだけでも、安定した映像が撮影できることが理解できる構成となっていた。 一方で、高校によってはスマートフォンの持ち込みが禁止されている場合もあり、タブレットを使用するケースもある。その点についても、タブレットでの撮影方法を一部紹介するなど、受講者の疑問に柔軟に対応した内容となっていた。	専門学校
（午後）普段見られない場所を見ることができて非常によい経験ができた。 就職指導の参考にもなる内容であった。 高校現場でどのような力を身につけさせるべきかを考えさせる見学内容であった。	教育委員会
（午後）番組のリハーサルの様子や報道スタジオ、編集室などテレビ局の仕事の現場を見学する内容であった。番組のリハーサル見学ではインカムでスタジオと副調整室（サブ）との間のやりとりを聞かせてもらったり、報道スタジオではアナウンサーの方から説明してもらったり、テレビ局での仕事の内容を知る貴重な体験だったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、受講生にとってどうだったか　[教・専]	
（午前）基本的な撮影方法を中心とした内容であり、動画に限らず、一眼レフやスマートフォンで静止画を撮影する際にも応用できる動作・姿勢などが含まれていたため、参加者にとっては比較的取り組みやすい内容だったと思われる。	専門学校

一方で、スマートフォンを使用したSNS向けの特殊な撮影方法については、やや難しく感じる参加者もいたように見受けられた。また、ペアワークで互いに撮影し合う場面では、「撮ること」には慣れていても、改めて「撮られる側」になることで勝手が異なり、少し戸惑いが見られる場面もあった。	
（午後）適当である。	教育委員会
（午後）案内していただいた講師の方からも見学している途中でその都度、仕事内容や機材等の詳しい説明があったので、非常にわかりやすかったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）［共通］	
（午前）前日に撮影の基本（構図）や照明の講習があったのでちょうどよかった。 ただ、習得を目的とするなら実践も交える必要がある為、その場合は少ない。	専門学校 （教員）
（午前）比較的、意欲的な受講者で、撮影に関する知識や業務に携わっているということもあり、「知る」という点において、コマ数的には妥当だったかと思います。	専門学校
（午後）多少時間を余らせましたが見ている方々にとりましてはちょうど良かったのではないでしょうか。	企業
（午後）丁度良かったと思います。	企業
（午後）妥当である。	教育委員会
（午後）1時間15分程度で概要が十分わかる内容であったため、ちょうどよかった。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　［専・企］	
（午前）時間が２時間ということもあり、かなり早足になってしまった。 時間配分は残り５分残したため、もう少し演習の時間に割り当てても良かったかもしれない。	専門学校 （教員）
（午後）特にございません。	企業
（午後）受講人数もちょうど良く、やり易かったです。	企業

①実証講座に関する意見	
キ　今回の研修内容を授業に生かす場合に意識してほしい点　［専・企］	
（午前）今回はカメラワークの基本や意味合い（演出）、また撮影を行う際コミュニケーションを取ることを意識するように内容を組んでおります。ぜひ、その重要性を生徒さんへ伝えていただきたいです。	専門学校 （教員）
（午後）テレビ局にはたくさんの職種があるということを学生さんたちに広めていただければと思います。	企業
（午後）放送局の仕事について具体的に生徒さんたちに伝えて欲しいです。	企業

②受講者の様子や反応に関する意見	
（午前）皆さんかなり熱心に聞かれていたかと思います。反応も良く「難しいですね」と言いながらも楽しそうに受講されていたので、良い研修になったのではと思います。	専門学校 （教員）
（午前）皆さんの熱意は非常に高く、学んだことを吸収して持ち帰ろうとする強い意欲を感じました。また、研修に慣れていらっしゃる先生方ならではの落ち着いた姿勢が、緊張していた専門学校教員の気持ちを和らげ、全体に温かい雰囲気を生み出していた点も印象的でした。さらに、難しいことや慣れないことにも前向きに挑戦し、楽しそうに取り組まれている姿が特に心に残りました	専門学校
（午後）興味を持って見ていただけたのではと感じました。	企業
（午後）非常に楽しそうでした。	企業
（午後）高い興味関心をもって臨んでいるように見えたし、先生方の反応も非常によかった。	教育委員会

（午後）非常に興味深そうに、終始楽しみながら見学されている様子がうかがえ、専門学校の学生以上に楽しそうにされていたように感じました。アンケート結果からは、スタッフ同士が緊密にコミュニケーションを取りながら業務を進めている様子や、生番組であっても事前に台本に基づいたリハーサルを重ねている現場を見学したことで、テレビ局の仕事の実際を具体的に実感できたことが読み取れました。	専門学校

③研修の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
テレビ宮崎商事様とも十分に打ち合わせができ、1日目のフォローや2日目の研修は良いものになったと思います。	専門学校（教員）
（午後）特にございません。	企業
十分だったように思います。	専門学校

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
（午前）内容的には今後生徒さんに必要になってくるものだと思います。 ただ内容が内容なだけに、映像・動画に興味のある先生向けかもしれません。	専門学校（教員）
（午後）特にございません。	企業
（午後）とにかく人数を少なく設定してほしい。５～６名が丁度いいです。	企業
（午後）今回の講話等について、先生方が達成感や満足感で終えるのではなく、本時の学びを生徒にどう生かすべきか、どの授業でどのように活用するのかを考えさせるのも必要。	教育委員会
（午後）当初、15人程度までを想定して募集したところ、実際の参加者は6人であったが、6人程度だったことで結果的にスムーズに見学できたようである。 特に企業見学は基本的に多くの人数の受け入れが難しい場合が多いため、募集人数にも配慮が必要である。	専門学校
今回の午後のテレビ局見学は、「受講者・視察者・事務局」が同時に参加したことで人数が多くなり、大人数での見学となりました。これまでの実施経験からも、見学は全体で５～６名程度の少人数が望ましいと考えます。 また、視察者についても一定の人数制限が必要であり、事務局については状況に応じて外で待機するなど、参加人数を抑える運用の検討が必要だと感じました。 午前の撮影体験、午後のテレビ局見学のいずれにおいても、参加人数は多くても６名程度が適切であると考えられるため、次年度以降は人数制限を設ける必要があると考えます。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
（午前）専門学生に向けて同じ研修（講習）を行っても良いのではと思います。	専門学校（教員）
（午後）特にございません。	企業
（午後）スタジオ見学が楽しすぎて、前日の撮影の基本などの授業を忘れているのではないかが心配でした。	企業
（午後）勤務中に見学をすることで、社員の皆様には大変ご迷惑をおかけしたのではないかと感じているが、社員の皆様には暖かく対応していただき、貴重なお話や職場の様子を丁寧に説明いただいたことに心より感謝申し上げます。 貴社の仕事に対する真摯な姿勢や職場の雰囲気を肌で感じることができ、大変学びの多い時間となりました。ありがとうございました。	教育委員会
（午後）テレビ宮崎商事様のおかげで、1日目とあわせて、体験型の非常に充実した研修になったと存じます。感謝申し上げます。	専門学校
地元メディアへの関心が高く、テレビ局見学を目的として２日間の研修に参加された先生もいらっしゃいました。日頃からニュースや週末番組を視聴されている方も多く、画面の向こう側にある現場を実際に見学できたことに感動され、終始楽しそうな様子が印象的でした。見学中には多くの気づきや質問も見られ、学びの深い時間となりました。 テレビ局は「オールドメディア」と言われることもありますが、地域を深く知り、幅広い年齢層に情報を届け、共通の話題を共有できるメディアとして、今なお非常に貴重な存在であると改めて感じました。長年培われてきた経験と、テレビ局という特性から導き出された基礎に忠実な動画づくりに加え、現場で働かれている皆様が明るく親切に対応してくださったことも強く印象に残っています。	専門学校

業務中にもかかわらず、丁寧にご対応いただき誠にありがとうございました。受講者の中には「イメージと違った」と感じた方も多く、実際に体験したことを今後生徒へ伝えていただければ大変ありがたく思います。講師ならびに受け入れ企業の皆様に、心より感謝申し上げます。 また、本研修を通じて、映像分野を志す方が少しでも増えるよう、専門学校として何ができるのかを改めて考える機会ともなりました。誠にありがとうございました。	

2　システム系研修会（高等学校教諭対象）

ア　実施概要（1 日目）

○日時　令和７年８月４日（月）10:00～16:00（昼食休憩含む）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校８号館　5F　501教室

○対象　宮崎県商業教育研究会 加盟22校（私立学校含む）

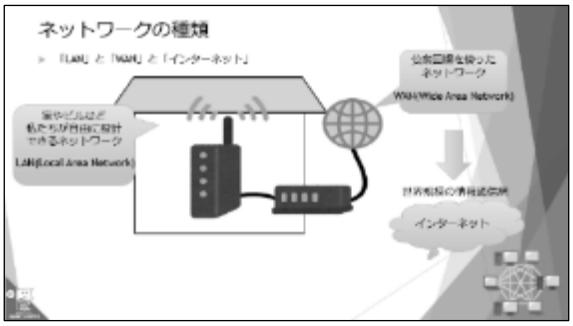
○参加者　17名　宮崎商業高等学校　3名、富島高等学校 3名､日南振徳高等学校　４名
本庄高等学校　3名、小林秀峰高等学校　2名、妻高等学校　１名
高城高等学校　１名

○講師　午前：宮崎県警察本部生活安全部 サイバー戦略局 サイバー企画課
課長補佐 警部 岩浦 奈津子 様
警部補 福岡 達也 様
午後：宮崎情報ビジネス専門学校　黒澤 伸也（教務部 教員）

○見学　午前：宮崎県高校教育課　藤岡 裕巳 様（指導主事）

○事務局　（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）
午前：川越 詩子、飯干 賢、岩村 聡志、尾崎 勝一

○内容　午前：宮崎県警によるサイバーセキュリティ講座
午後　専門学校によるネットワーク基礎講座

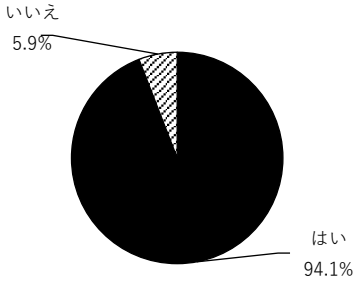






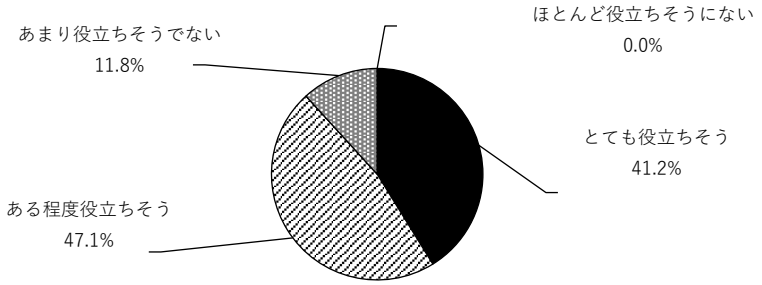
イ　参加者アンケート結果（単純集計）（1 日目）

問１　情報系の科目を担当していますか。



（n=17）

問２　午前のサイバーセキュリティ講座は授業を行う上で役立ちそうですか。



（n=17）

問3　午前のサイバーセキュリティ講座を受講して、理解できた内容をお教えください。（自由記述）

（一部抜粋）

CTF大会というものがあり、高校生にとっても良い経験ができるのではないかと思った。
高校生向けの大会があることを知りました。
ひなたCTF大会の内容がよく理解できました。
県内のサイバーに関する事件が増加していること。
宮崎県の被害状況。
県内の犯罪被害の状況やサイバー攻撃について、想像していたよりも多くの被害があることに驚きました。
写真による位置情報の取得方法、ファイルプロパティの情報閲覧。
画像に含まれる位置情報や映り込みの情報など勉強になりました。
近年の問題を理解することができた。
セキュリティの重要性を実際の事例を交えてお話ししていただいたので、セキュリティの内容を指導する際に参考になりました。
サイバーセキュリティは決して特別なことではなくて、交通教室のように身近なものとして取り組んでいくべきものだということ。
実際のサイバー対策で行っていることをクイズ形式で取り組ませる大会の取り組みを体験できたのが非常に良かった。

問4　午前のサイバーセキュリティ講座で難しかった内容、わかりにくかった内容をお教えください。（自由記述）

（一部抜粋）

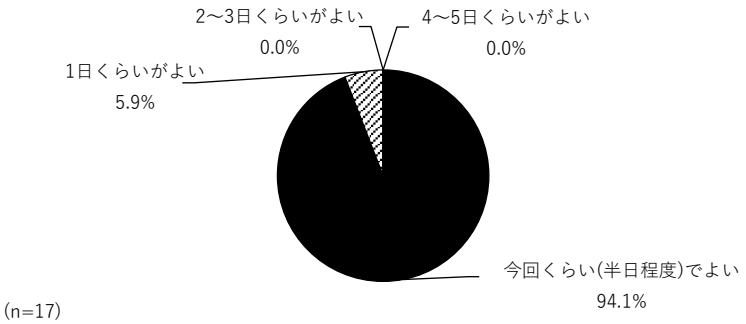
もう少し具体的な事例が知りたいと思いました。どんな事件があってどのように解決したのかなど。
ひなたCTF問題の解き方を全問知りたかった。
わかりやすかったです。
ひなたCTF大会の問題が想像していたよりも難しかったですが、とても勉強になりました。
CTFの問題に取り組んだこと（難しかったですが、楽しかったです）

問5　午前のサイバーセキュリティ講座で学んだことを、授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

（一部抜粋）

情報セキュリティ等の授業で、今回学んだことを活かしていきたい。
CTFで問われるようなレベルの内容を、ネットワーク系の科目に取り入れたい。
授業で教える場合があるので、講義内容や配付資料等活用したい。
授業やホームルーム等で活用したい。
「ネットワーク活用」の授業のときに、組んでいる教諭の先生や生徒たちに紹介したいと思います。
ひなたCTF大会を生徒たちに勧めたい。
大会への参加に向けて進めることができると思います。
授業の中で宮崎でも事件は起きていて、身近なことなので自分達も気をつけないといけないなど啓発につなげていきたい。
生徒に犯罪に巻き込まれないよう指導するのに活用させていただきます。
ネット詐欺の現状と被害は、セキュリティの単元で指導できると感じた。
ひなたCTFの問題でもあったように、写真等の位置情報はネットですぐに調べられることを伝え、情報モラル等の育成に繋げていきたいです。
写真から位置が特定できるような授業。
検討中。
すぐに必要な知識となるので、シンポジウムなどに積極的に参加していきたいと思います。
国家試験対策時の知識補充として。

問6　午前のサイバーセキュリティ講座に対して、研修時間はどのくらいが妥当だと思いましたか。

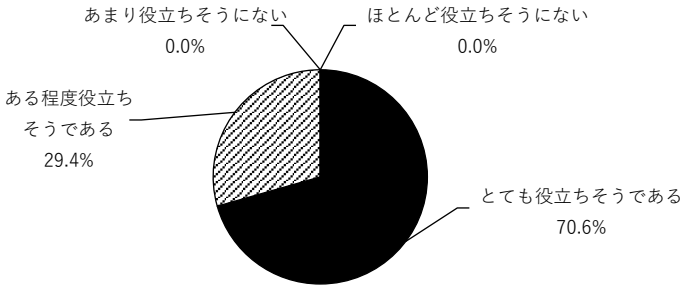


問７　午前のサイバーセキュリティ講座を通して、特に参考になったことや印象に残ったことがありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

コマンドの活用基礎などを学んだ。
大会に次年度進めていこうと思います。
ネット犯罪の多さに驚きました。また、ひなたCTFに生徒を参加させたいと思いました。
ひなたCTFの問題が面白かったです。
県内の犯罪被害の多さに驚きました。また、ひなたCTF大会の問題を通じて、様々な方法があることを知ることができました。写真の位置情報がネットで調べられることは知らなかったので、生徒にも伝えていきたいと思いました。
ひなたシンポジウムやひなたCTF大会が開催されていることを知って、もっと周りの先生方や生徒たちに紹介したいと思いました。
生徒たちにも大会前に実際に大会で取り組ませているような、クイズに取り組むような講座を夏休みとかに企画していただけると生徒たちにも大会への参加を促しやすい。

問８　午後のネットワーク基礎は授業を行う上で役立ちそうですか。



（n=17）

問９　午後のネットワーク基礎を受講して、理解できた内容をお教えください。（自由記述）

（一部抜粋）

基礎的な知識とはいえ、今まで表面上でしか理解していなかった内容を深掘りすることができてよかった。
ネットワークについて基礎内容を学べた。
今まで理解できなかった点がわかりやすい講義で理解できました。
まずはネット接続の仕組みがわかって良かったです。
ネットのつながり方について詳しく理解できました。
普段生徒に教えている内容でしたが、IPアドレスの部分など改めて理解を深めることができました。また、知らないこともあり大変勉強になりました。
IPアドレスの仕組みやサブネットマスクの考え方がすごくわかりやすかった。
用語など。
ネットワークにおける各プロトコルの役割　コマンドプロンプトの利用方法。
OSI参照モデル。
各層の役割。
ネットワークモデル表の意味。各ネットワーク用語の、生徒への説明方法。
ゲートウェイやルーターの役割。
面白かった。

問10　午後のネットワーク基礎で難しかった内容、わかりにくかった内容をお教えください。
（自由記述）

（一部抜粋）

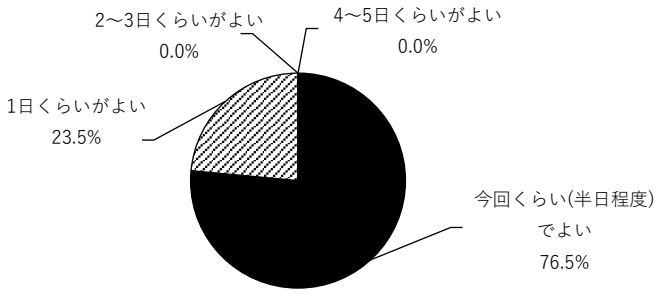
全般に自分が勉強不足だと思いました。
ホスト部に使える値。

問11　午後のネットワーク基礎で学んだことを、授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。
（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

（一部抜粋）

今後検討。
生徒とアドレスを検索したりなど、見える形で学んでいきたいと思った。
商業科目のネットワーク管理やネットワーク活用等で、こういった内容ができたらいいなと思った。
授業の一環として生徒たちに伝えていきたい。
IPアドレスの部分とサブネットマスクは生徒が混乱するところで、非常にわかりやすかった。
生徒に教える時の教材にします。
用語等を説明するときに参考にしていきたい。
情報処理技術者試験の受験指導に活用したい。
ネットワークのつながりのイメージが湧きました。
生徒にも体験させたいと思います。
検定指導に役立てたい。
国家試験対策時の用語イメージの理解補助及び定着。
ネットワークのしくみを教える場面があるため資料等を活用して教えたい。
きちんと勉強して生徒に指導していきたい。
今回、一つ一つわかりやすく解説をしていただいたので、授業や部活で生徒に向けて解説をするときに、今回の解説を参考にしていきたいと思います。
校内LANを利用するときに、IPアドレス等のことも意識して使いたいと思います。私が担当している授業では、直接生徒に教えることはないのですが、情報処理検定試験の筆記問題等に関わる機会があれば、今日の経験が役立つと思いました。

問12　午後のネットワーク基礎に対して、研修時間はどのくらいが妥当だと思いましたか。



(n=17)

問13　教員向け研修会において、取り上げてほしい研修内容がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

セキュリティに関する知識。
アイパスなどに出てくる用語解説。
ネット犯罪のやり取りを架空でいいので、体験してみたい。
今回のような内容でよい。
来年度も今研修を受講したい。
生成AIの活用事例や注意点など。
県警の方の話を一日聞いても良かったです。

問14　教員向け研修会について、ご意見・ご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

知識をどのように授業に繋げるかが大切だと感じました。ありがとうございました。
わかりやすく丁寧に教えていただき、大変勉強になりました。来年も違う分野で実施して欲しいです。
もっと研修を開いて欲しい。
大変勉強になりました。予備知識として押さえておく必要のある内容がもしあれば、事前課題のようなものがあっても良いのではと思いました。
商研の先生方にもお世話になりました。
サイバーセキュリティやネットワーク基礎など、改めて詳しく勉強することができ、とても良かったです。ありがとうございました。
毎年、お忙しい中、企画・運営してくださり、大変感謝しています。ありがとうございます。

ウ　意見の概要（行政、専門学校、教育委員会）

設問①については、行政（宮崎県警察本部）、教育委員会（高校教育課）専門学校（教員・事務局）、の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

行政＝宮崎県警、教＝教育委員会、専＝専門学校、共通＝３者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（受講者に伝えたかったこと等）[行・専]	
（午前）社会において必要不可欠となったインターネットにおける犯罪および当課が実施している対策や活動について、参加者（教員）に周知するとともに、参加者が勤務する学校の生徒に対して、還元教育をしてもらうことを目的として実施したもの。 また、学生に一番身近に接する立場の教員に対して、CTFを体験してもらい、参加メリットやIT技術の難しさを知る機会を提供したいと考えたため。	宮崎県警
（午後）今から情報処理の授業を担当する先生方向けとして構築する予定だったが、参加者名簿を見る限り、応用編まで受講する先生方が多かったため、少し踏み込んだ内容に変更した。 高校生に向けて、発信してほしい情報などを盛り込みつつ、高校でも使えそうな資料として作成した。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や実習課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[行・専]	
（午前）当課が平素から実施している生徒を対象とする情報モラル教室とは違い、商業系高校の教員に対しての講義であったことから、学生対象よりは踏み込んだ内容を伝えたり、教員から学生に教育するうえで、必要事項を伝えるなど、講義難易度の設定が難しかった。	宮崎県警
（午後）基礎編・応用編の両方を受講する先生が多かったため、どのレベルでカリキュラムを作るべきなのかが難しかった。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[教・専]	
（午前）・犯罪データ等知ることができて危機感を感じる内容であった。 ・ロマンス詐欺や闇バイトなどの疑似体験ができるとよかった。 ・ひなたCTFの取組は非常に素晴らしい。商業高校生に参加して欲しい内容であった。 ・問題内容も専門的なものから謎解き感覚のものもありチーム戦で取り組むのに最適。	教育委員会
（午前）実際の犯罪件数などリアルな数字を見ることができ、よい情報をいただけたのではないかと思う。ただ、もう少し高校生に着目した内容だと、高校の先生方の今後の指導に役に立つのではないかとも思う。	専門学校（教員）
（午前）県警サイバー企画課３名によるプレゼンであったが、高校教員向けをもう少し意識して話を構成してもらえると、先生方が現場に戻って生徒に指導しやすいと思われる また、サイバーセキュリティについて、具体的事例を掘り下げて説明してもらうと理解が深まるのでは。 後半のCTF競技の取り組みは、先生方のスキルによって差が出るため、最後にすべての課題についての回答（解法の仕方）を聞きたかったのではないか。	専門学校（教員）
（午前）前半の講義については、見学者としての所感ではあるが、内容と受け止めとの間に、ややギャップを感じる場面があった。 県警の取組紹介に重点が置かれていた一方で、授業や生徒指導の場面で直接活用できる具体的な情報については、十分とは言えないと感じられた。 例えば、高校生が日常的に利用しているSNSやWebサイトに潜む具体的な危険性や、被害を防ぐための対策について、実例を交えた説明があれば、より理解が深まったのではないかと考えられる。 また、生徒に伝える際に活用できる実践的な情報については、参加者の立場から見ると、やや不足しているように感じられる部分もあった。 さらに、プレゼンテーションについては、説明や要点の整理の面で、改善の余地があるのではないかとの印象を受けた。 後半の試験問題についても、サイバーセキュリティそのものよりITリテラシーに近い内容が中心であったため、本講座の趣旨との関係がわかりにくいと感じられた。	専門学校
（午前）宮崎県警の高校生や先生方への取り組みや、県内の被害状況などが説明されていて、先生方	専門学校

が知ることができたので良かったのではないか。	
（午前）サイバーセキュリティ関係の事案の紹介が30分、サイバー戦略局の取組紹介が30分、CTF大会（情報セキュリティの知識やスキルを競う競技会）の体験が1時間というような構成であった。 専門性が高くないと就職できないのかもしれないが、情報分野に興味がある高校生の進路として、県警のサイバー戦略局ではどういう人材を募集しているというような話があってもよかったと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、受講者にとってどうだったか　[教・専]	
（午前）・普通である。 ・情報に長けている先生方が受講していると思うので、もう少し専門的な内容でも良かったと感じる。	教育委員会
（午前）レベルは特に問題ないが、プレゼン能力をもう少し高めてもらうと、聞く方は理解度が増すのではないか。CTF大会の宣伝にも感じた	専門学校（教員）
（午前）CTFについては、実際に学生がどのような問題を解くのかを実感できたのではないかと思う。CTFの問題レベルは難しいとは思うが、実体験を優先すれば、内容としては十分だと思う。	専門学校（教員）
（午前）レベルというより、要点のわかりづらい内容だったと思います。	専門学校
（午前）先生方が期待していた授業で使えるような講義だったのかどうか疑問である。（よくわからないが。）	専門学校
（午前）CTF大会の問題は、なかなか難しかったようであるが、高校の先生がレベル感を実感できたのは、先生から高校生に参加を勧める場合に参考になると思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
（午前）妥当だった（教養とCTF体験の二部構成の配分がちょうどよかったため）	宮崎県警
（午前）ひなたCTFの問題を解く時間とその解説にもう少し時間をかけてもよい。	教育委員会
（午前）CTFなどに時間がかかるため、内容から考えれば妥当なのだと思う。	専門学校（教員）
（午前）2時間で丁度良い。	専門学校（教員）
（午前）あの内容であれば、1時間で十分だったと思います。	専門学校
（午前）妥当だったと思うが、演習の時間が長かったのではないか。	専門学校
（午前）前半のセキュリティ事案やサイバー戦略局の取組の紹介といった講義形式の部分の時間は妥当であったと考えるが、後半のCTF大会の体験については、答え合わせと解説の時間が十分になかったように感じたので、①時間の枠であれば、もう少し質問を絞ってもよかったかもしれない。	専門学校
（午後）網羅しようとすれば足りないのだが、3時間で収まる内容として内容を吟味したので、妥当だといえば、妥当であった。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[行・専]	
（午前）なし。	宮崎県警
（午後）講義中の先生方の反応を見ながら内容を変化させつつ進行した。 もっと机間巡視すべきだったと思う。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見

キ　今回の研修内容を授業に生かす場合に意識してほしい点　［行・専］	
（午前）本講義でもしていただいたが、引き続きパソコン使用時の環境設定をお願いしたい。	宮崎県警
（午後）学生に伝えてほしい事は、今回の講義の中で伝えた。 先生方が自信を持って授業に当たっていただけるように、わかりやすいと思われる例えで説明したつもりでいる。	専門学校 （教員）

②受講者の様子や反応に関する意見	
（午前）相槌など反応を適宜示してくださり、講義がしやすかった。	宮崎県警
（午前）懸命に取り組んでいた。	教育委員会
（午前）アンケートでも記載があったが、ネット犯罪の深刻さを再認識したと思われるがサイバー企画課の担当者が、各高校を訪問して講習会を開催する方が早いかもしれない。	専門学校 （教員）
（午前）CTFは結構熱心に取り組まれていた印象。	専門学校 （教員）
（午前）後ろから見ているだけではわかりませんが、微妙な反応だったように（特に前半）思います。	専門学校
（午前）期待して真剣に聞いていたし、演習にも取り組んでいた・	専門学校
（午前）CTF大会の体験では、もう少し先生方で相談しながら取り組む場面もあるかと考えていたが、それぞれの先生が黙々と個別に回答するというような感じになっていた。 アンケート結果をみると、情報セキュリティに関する授業での活用やCTF大会に参加を勧めるほか、サイバー犯罪に巻き込まれないようにするといった生徒指導面での活用も考えられているようである。	専門学校
（午後）「基礎講座」なので質問しにくいのだろうかといった印象。それでも反応してくれる先生もいらっしゃったので、こちらとしてはやりやすかった。また、知識としては知っていても原理や実際にPCで確認できたことに感心していただいている様子だった。	専門学校 （教員）

③実証講座の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
（午前）直接の打ち合せに加え、何度もメールのやりとりをしていただいたため、より完成度の高い講義と体験会を実施することができた。	宮崎県警
（午後）特に問題はなく、現状などもご連絡いただいたので、それに合わせて内容を検討した。	専門学校 （教員）

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
（午前）参加率が向上すると、より多くの学校に向けて発信できると感じた。 また、午後も含め、商業系高校以外に対しても有益な研修会と感じた。	宮崎県警
（午前）ケース事例からその対応策や未然に防ぐ方策などを取り入れてもよいと感じた。	教育委員会
（午前）サイバー企画課に次回もお願いして、今回の受講者アンケートを参考にレベルアップした内容をお願いしたい。	専門学校 （教員）
（午前）生徒に注目した内容で毎年の状況を情報として提供していただけると、継続する価値が上がるのではないかと思う。またCTFについて、例題などが提示できると先生方も生徒に案内しやすいのではないかと思う。	専門学校 （教員）
（午前）こちらがやって欲しい内容を正確に伝えることが重要だと思います。 警察の啓もう活動の宣伝もしていただいて構わないのですが、サイバーセキュリティ講座と言っている以上、役にたつ情報を十分提供していただかないと、先生方の貴重な時間がもったいないと思います。	専門学校
（午前）先生方が、授業での取り組みに参考になる内容を増やしていければいいと思う。	専門学校
（午前）情報セキュリティについては、これからも知識や情報のアップデートが必要だと思うので、県警から継続的に事例に関するこういう研修会による情報提供があるのもいいと思う。	専門学校
（午後）高校の先生方のスキルアップの場にしていきたいが、今回来ることができなかった先生方のために同じ内容で進めるのか、さらなるスキルアップのために別の内容にするのか非常に悩ましい	専門学校 （教員）

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
（午前）講師が３名いたので飽きずに講話に集中することができた。お忙しい中、講話を担当していただき感謝している。目が悪いのでプレゼン資料が見にくかったため、共有できるのであれば、生徒側のPCに同じものが映るとわかりやすかった。	教育委員会
（午前）プレゼンスキルは重要。	専門学校（教員）
（午前）これを機に大会参加者が増え、IT技術に興味を持ってくれる学生が増える事を願っている。また面白がってセキュリティをもっと学んでくれる学生が増えてほしい。	専門学校（教員）
（午前）今回は先生向けであったが、高校の希望があれば、高校生向けにアレンジして実証講座に組み込んでもいいのではないか。	専門学校
（午後）諸事情により３時間程度で作った研修だったが、少しでも先生方のお力に慣れたのであれば幸い。もっと余裕をもって準備できればよかった。	専門学校（教員）

ア　実施概要（2 日目）

○日時　令和 7 年 8 月 5 日（火）10:00～16:00（昼食休憩含む）

○場所　宮崎情報ビジネス専門学校 8 号館　5F　501教室

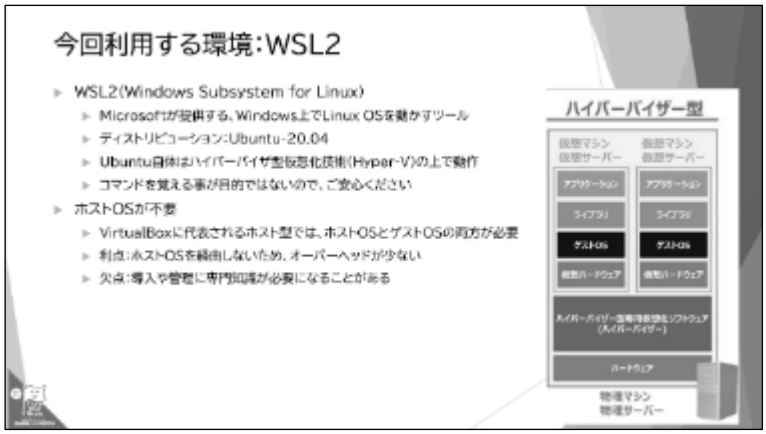
○対象　宮崎県商業教育研究会 加盟22校（私立学校含む）

○参加者　14名　宮崎商業高等学校　2名、富島高等学校 2名、日南振徳高校　3名、妻高等学校　1名、本庄高等学校　3 名、小林秀峰高等学校　2名、高城高校　1 名

○講師　宮崎情報ビジネス専門学校　黒澤 伸也（教務部 教員）

○事務局　（学校法人宮崎総合学院・宮崎情報ビジネス専門学校）尾崎 勝一

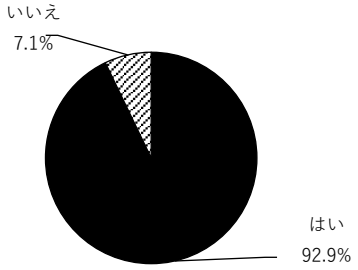
○内　容　ネットワーク・セキュリティ応用





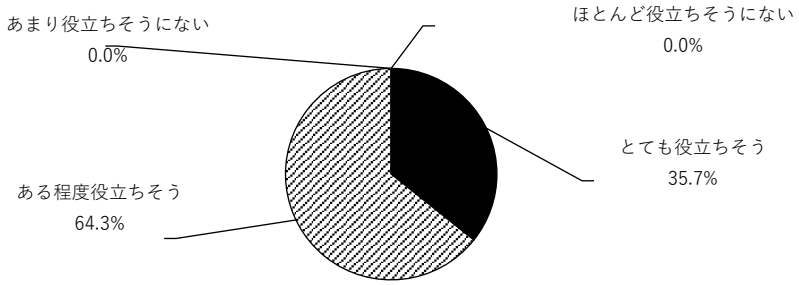
イ　参加者アンケート結果（単純集計）（2 日目）

問１　情報系の科目を担当していますか。



（n=14）

問２　今日の研修は授業を行う上で役立ちそうですか。



（n=14）

問３　今日の研修を受講して、理解できた内容をお教えください。（自由記述）

（一部抜粋）

コマンドの必要性。
コマンドの使い方を学べました。
ネットワークの仕組みがわかりました。ありがとうございました。
ネットワークの設定方法について具体的に理解できました。
ネットワーク環境の作り方。
NATとNAPTの違いについて理解することができた。
今までイメージでしか覚えていなかったデフォルトゲートウェイ、パケットキャプチャ、NAT、NAPTなど、用語の意味がしっかり理解できた。
セキュリティ対策に関する指導方法。
セキュリティに関する知識を知ることができた。 パスワード解析ツールについて便利なようで怖い機能もあることを知った。
セキュリティに対しての意識付けを改めて指導することが大事であることがわかりました。
高校生も取り組んだグループワークを通して、価値観の違いを体験できました。 また、実習を通して問題集ではわからない実践的な部分を知ることができました。
セキュリティ応用講座。

問４　今日の研修内容で難しかった内容、わかりにくかった内容をお教えください。（自由記述）

（一部抜粋）

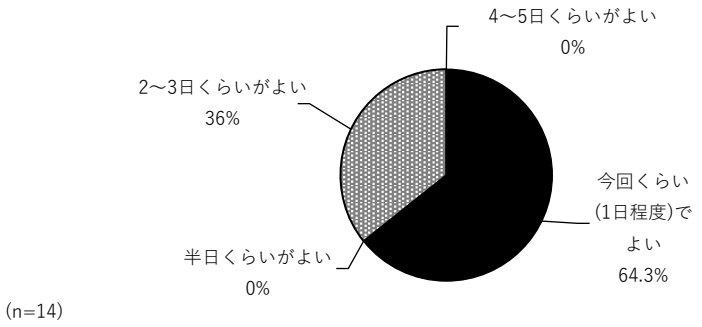
システムの構築。
実際のプログラムを打っていくものが不慣れで苦戦しました。
午後の実習。
ネットワークでデータの送信を具体的に学ぶのに仮想環境の設定がハードルが少し高いように思いました。
コマンドの意味
午後の実習で作業的に取り組んでしまった部分があったので、もう少し一つ一つの仕組みや深い部分まで理解できたら良かったと思いました。
丁寧に教えてくださいました。自分自身の勉強不足や力不足を感じました。また頑張ります。
ネットワーク講座（応用編）

問５　今日の研修会で学んだことを、授業をはじめ、どのように活用されるご予定ですか。（可能な範囲でできるだけ詳しくご記入いただけると幸いです。）

（一部抜粋）

受講した内容の授業を本年度は持っていないので、次年度以降の授業の参考にしていきたい。
通信について理解できた。その中でどのように設定すれば良いかも併せて理解できた。
ネットワークの構築について、生徒と一緒に活動していきたい。
今後検討します。
今後課題研究などで試してみたい。
仮想環境の構築に挑戦したいです。
生徒にもさせてみたいと思います。
生徒と一緒にパスワードの重要性などをやっていきたい。
セキュリティはわかりやすい例えを用いて指導したいです。
サーバ構築に興味のある生徒への演習。
データ通信が流れている過程を見せたり、体験させたりできると思います。
午前中のグループワークは情報モラル等を教える際などに実際にやってみたいと思いました。 また、午後の実習等の説明等でわかりやすい部分は是非、参考にさせていただきます。
授業のセキュリティ等の内容で指導に活用できればと思う。
一人ひとり考え方や感じ方が違うことを体験する問題などは、生徒にも体験してもらいたい内容でした。 また、情報の信憑性やフィッシング詐欺の手口などについても、機会があれば生徒に伝えたいです。

問６　今日の研修内容に対して、研修時間はどのくらいが妥当だと思いましたか。



(n=14)

問７　教員向け研修会において、取り上げてほしい研修内容がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

今日の内容を他の商業職員にも教えて欲しいと思いました。
生徒各自が作成したホームページを公開する体験ができるような、仮想のサーバの構築。
都会・都市部と地方の小売りや決済、会計方法など企業や業種によっての違いや、これからの予想される変化や対応について

問８　教員向け研修会について、ご意見・ご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

２日間大変勉強になりました。ありがとうございました。
非常にわかりやすく、勉強になりました。ありがとうございました。
セキュリティ対策の講義をして欲しい。
大変勉強になりました。生徒に還元できるように色々と配慮もしてくださるので、今後の指導につなげていきやすいものとなっていました。
丁寧にご指導いただきありがとうございました。 ネットワーク環境の構築をこのような形で行なっていることはわかり勉強になりました
今回も商研事務局の皆さんにお世話になりました。ありがとうございました。

ウ　意見の概要（専門学校）

設問①については、専門学校（教員・事務局）、の立場に応じて、質問内容を個別に設定している。

専＝専門学校、共通＝２者共通設問

①実証講座に関する意見	
ア　内容を設定した目的や意図（受講者に伝えたかったこと等）[専]	
高校でも活用できるような内容によせて構成した。ネットリテラシーについても話ばかりでは学生も寝てしまうので、ゲームを通して「個人差」を学べるようなものにしたり、手を動かしてネットワークの仕組みがわかるようなものにしてみた。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
イ　内容や実習課題を設定する上で難しかった点や改善したい点　[専]	
どこまで先生方に実習していただくのか、またそれに伴って実習環境を構築することに時間を使った。オープンソースソフトウェアを利用したため、直前で環境構築の方法が変わってしまい、実習環境を作るだけで3日半を要した。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
ウ　内容はどうだったか　[専]	
午前中はフィッシング詐欺の手口の例を体験するような内容など、1日目の県警によるサイバーセキュリティに関する講座内容を発展させて、具体的に体験できるような内容もあり、よかった思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
エ　内容のレベル（難易度）は、受講生にとってどうだったか　[専]	
丁寧に説明しながら、１つ１つ進めていくような感じの講座だったので、比較的わかりやすかったのではないかと思う。	専門学校

①実証講座に関する意見	
オ　時間数（コマ数）について（妥当・多い・少ない）[共通]	
セキュリティについては長くても飽きてくるし、ネットワークについてもコマンド操作等が不慣れだと難しい事はできないので、どちらも妥当だと思う。	専門学校（教員）
午前中を中心に見学したため不明な点もあるが、終日の講座で５時間は確保してあったため、仮想環境を使った実習もあったが、時間数は妥当であったのではないか。	専門学校

①実証講座に関する意見	
カ　進行や生徒をサポートする上で難しかった点や改善したい点　[専]	
個人差があるため、すぐにできる方、そうでない方を個別に対応する必要があった。サポートメンバーがいればよかったが、それもまた難しいところである。	専門学校（教員）

①実証講座に関する意見	
キ　今回の研修内容を授業に生かす場合に意識してほしい点　[専]	
コマンドの内容は知らなくても、なぜそれを設定する必要があるのか等をまずはしっかり理解していただく必要がある。 先生方もこれからさらに勉強していくと思っているため、「技術をいかにわかりやすく伝えるか」に努力していただきたい。	専門学校（教員）

②受講者の様子や反応に関する意見	
おそらく名前は聞いたことあるが、実際にどのように使われているのか、なぜそれが必要なのかまではご存じなかった項目があった印象。それでも「なるほど」と理解されたリアクションも見られたので、少しでもお力になれたのかなと思っている。	専門学校（教員）
説明を聞きながら、黙々と入力しているような感じであったが、帰り際など講師のところに質問等に来られた先生もいらっしゃったので、２日目は講師との距離も縮まって、質問しやすかったのかもしれない。 アンケートの中で「難しかった内容、分かりにくかった内容」としては、午後の仮想環境を使った実習をあげている先生が少し多い感じであった。	専門学校

③研修の準備に関する意見（事前の打ち合わせ等）	
打合せは十分。今回は本校の環境が使えたので、自由にさせていただけた。	専門学校（教員）

⑤継続していくための要望や課題に関する意見	
今後も同じ内容で実施するのか、またスキルアップのためにどこまで踏み込むのか、要検討。	専門学校（教員）
今回は商業系の学科のある高校を対象として行ったが、高校生がインターネットやSNSを使う上で情報セキュリティの知識が大事という意味では、学科はそれほど関係ないので、研修テーマによっては高校の範囲を広げることも可能と考える。	専門学校

⑥その他、感想や意見（上記①～⑤以外について）	
設定ファイルの破損により、20分ほど無駄な時間ができてしまい申し訳ないと思っている。	専門学校（教員）
高校ではネットワークの実習環境の構築が難しいという話も聞くので、今回の内容が、授業で学ぶ知識の部分と実習を通じて体験するような部分とをうまく融合できるような環境づくりにつながるといいのではと思う。	専門学校

第８　視察研修

１　視察研修の目的

10 月の関西については、コンソーシアムの継続を見据え、企業や地域等の外部との連携の取組のほか、専門学校におけるシステム系・クリエイティブ系の専門分野の教育、高校と大学との接続、企業と連携した実践的な教育、ならびにコミュニケーション力や課題解決力の向上等に資することが期待される探究学習の取組等を中心に、視察研修を行った。

12 月の茨城･山形については、コンソーシアム内の高校のカリキュラムにおいて AI･データサイエンスに力を入れていることから、高校における AI・データサイエンス分野の教育を中心に、企業や地域等の外部との連携の取組等についても併せて、視察研修を行った。

２　視察研修結果の概要

(1)　学校法人コンピュータ総合学園　神戸電子専門学校

ア　日程・訪問者等

○日時：令和 7 年 10 月 14 日（火）

○受入先：神戸電子専門学校　5 名ほか（校長、副校長、教育第 1 部 部長・次長・IT 分野リーダ ほか）

○訪問者：10 名

宮崎県立宮崎商業高等学校（校長）
宮崎県立延岡商業高等学校（校長）
宮崎県立宮崎商業高等学校（教諭）
宮崎県立都城商業高等学校（教諭）
宮崎県立延岡商業高等学校（教諭）
宮崎県立富島高等学校（教諭）
宮崎情報ビジネス専門学校（校長）
学校法人宮崎総合学院（副理事長、企画課長、企画課担当）

○内容：システム系、クリエイティブ系の人材養成や教育内容、高・専接続や企業との連携などの取組に関する意見交換

イ　事前に想定した質問事項等

○事前にお送りした主な質問項目

1　学生の状況等について

・学力、主体性、目的意識、就職に対する姿勢など

2　企業や地域との連携について

(1)連携の取組
(2)連携の効果
(3)連携の課題

3　高校との連携について

4　エンジニア系の学科（IT、プログラミング、AI 等）について
・資格試験対策について
・AI、データサイエンスに関する学習について

5　クリエイター系の学科（デザイン、映像、CG 等）について
・ポートフォリオの指導について

6　学びの環境等について

7　就職について
・大学との差別化について

○システム系、クリエイティブ系の人材養成や教育内容、高・専接続や企業との連携などの取組について、感じている課題等（個別コメント）

※各コメントの最後のかっこ書きは訪問者の所属（以下、同様）

・専門学校や企業の持つ最新技術や実務を、学校内の限られた時間内でどのように教育課程に組み込むか、またそのレベル感の調整が難しい。連携が「体験」で終わらないようにしたい。（高校）
・教育内容の課題として、情報処理・プログラミング・デザインなどの専門スキルの高度化が急速に進む中で、商業高校のカリキュラムが最新の技術や実務に追いついていない。「資格取得中心」から「課題解決型・創造型学習」への転換が必要だが、教員の指導スキルや教材開発力の強化が追いついていない。（高校）
・高・専接続の課題として、専門学校との教育連携は一部で進んでいるものの、体系的な接続カリキュラムや単位互換の仕組みが整っていない。高校段階での「課題研究」と高専・専門学校での「専門研究」とを連続性ある形で接続するモデルづくりが求められる。（高校）
・企業連携の課題として、システム・デザイン系企業は中小規模が多く、教育連携のリソースや人材提供の継続性が課題。（高校）
・現時点で商業科の教員は商学部や経営学部出身者が多く、数学はもとより情報処理の勉強をしていない。また、データサイエンスでは統計学の知識も必要となってくるが、数学科の教員ですら、統計学を専攻している教員は少なく、教科横断的な取り組みをしたくても実際には難しい。また、本校ではクリエイティブ系の授業はないが、これから導入したとしても操作の説明はできるかもしれないが、デザインの評価や説明は難しいと感じている。（高校）
・指導者がいない　→　教科「情報」の教員ではないため大学等の教員養成課程の中でデザインやデータサイエンスの勉強をしてきていない。また、データサイエンスでは数学的な知識も必要となってくるが、数学的な知識を有している教員も少ない。
指導の困難さ　→　クリエイティブ系ではツールなどの説明は出来るが、センス的な部分の指導が難しい。色のバランス・配置など（自分はデザインのセンスがないため特に）（高校）

・専門学校の場合、基本的に卒業＝就職となるため、企業と連携した実践的な学びの機会を確保したい。クリエイティブ系では教員だけでなく企業からの指導などポートフォリオの充実を図りたい。（専門学校）
・企業や高校では、担当者の交代があっても実証講座を継続できている一方で、専門学校側の実施体制には課題がある。学生を引率して実証講座を行える教員が限られており、カリキュラムの過密さ、教員の負担感の増大、モチベーションや意欲の維持、さらに教養・専門分野の知識更新など、学校および教員の自主性・向上心に関わる課題がみられる。（専門学校）
・事業の推進にあたっては、専門的な知識や技術を高めること以上に、専門的な学びを支える「目標意識」「意欲」「キャリア形成」「非認知能力」といった基礎的な力を育成することの重要性を強く感じる。（専門学校）

○今回の視察研修で明らかにしたかったことや聞いてみたかったこと等（個別コメント）

・商業高校の情報教育において、どのレベルまで学ばせるのかを神戸電子専門学校の立場で聞いてみたかった。また、実際にどのような環境で授業を行っているかを見てみたかった。（高校）
・データサイエンス、統計学を指導するための教材について（高校）
・高校との連携をどのように行っているか。（高校）
・国家試験の合格率（何人受験して何人合格したか。）（高校）
・宮崎ではできない、または宮崎でもできる取り組みについて何かアイディアになるものを聞いてみたかった。（高校）
・高校との連携について（高校）
・データサイエンスなどの教材の有無（高校生として使える副教材等）（高校）
・高校生レベルでどこまでの知識・技能があれば良いのか（特にシステム系）（高校）
・入学してきている学生の現状（高校）
・IT に特化した専門学校を複数運営されているが、出口としての就職先はどのように開拓されているのかに興味があった。伝統ある学校であるので、企業を巻き込んでのイベントなども多く、参考になる点が多くあった。（専門学校）
・特に企業や地域との連携や学生の学力差などに対する対応について。（専門学校）
・「選ばれる学校づくり実践校」に取り組まれているが、その取り組みを始めた経緯や背景、実施する中での課題や困難点、またどのように成果を教育活動に活かしているか。（専門学校）
・卒業生と企業との間に非常に強い関係性が築かれているように感じる。そのようなつながりを通じて、入学生が明確な目標を持つきっかけになっていると思われるが、この取組の企画・運営はどのような体制で行われているのか。（専門学校）
・本校ではシステム系の学生全員が「基本情報技術者試験」に必修で取り組んでいるが、神戸電子専門学校では全員必修か、もしくは希望者制か。（専門学校）
・入学者全員が同じ学力・モチベーションではないと思われるが、入学時点での学力水準は入試で選抜されているのか。また、選抜がない場合、学力の低い学生を資

格取得できるレベルまで育成するための取組はどのように行っているか。（専門学校）
・企業との連携を多く持つことで、学生にどのような効果が生まれているか。（専門学校）

ウ　結果概要（視察研修先における取組内容等）

・学校のステートメント（宣言）について、学校が何を考えどこに向いているのかについては、激しい社会変化を意識している。学校よりも社会に出ている卒業生が社会変化に一番さらされる。
レイ・カーツワイルの『ポスト・ヒューマン誕生（The Singularity Is Near）』という本が 2007 年に NHK 出版から出版され、それを読んだときに衝撃を受けた。2020 の教育改革で探究学習が叫ばれたが、先見性のある方向性だったと思っている。
学校教育にプログラミング教育が取り入れられているが、プログラマーになりなさいということではなくて、最小限の努力で最大限の成果を上げるということを若いうちに経験させるとともにロジックやデータ活用も学ぶということでプログラミングの授業が入ってきたと思っている。
そういう流れからすると大学か専門学校かではなくて、こういった学びを確立したところが、生き残っていくと考えた。
・クリエイティブエンジニアの輩出を目指している。クリエイターも幼少期からのセンスだけでなくて、エンジニアと同じようにステップを踏んだ技術教育で育てられる。エンジニアも創造性を持ったクリエイティブなエンジニアにならないといけない。
・社会変化対応教育として、AI を活用する・慣れることに取り組んでいる。AI の活用が進んでも人間に残る部分をカリキュラムのコアにしており、毎年度見直している。
・高校では教科の学びが中心だが、専門学校では違う内容の学びが始まるので、専門学校になってから伸びる場合もある。
・学科の特徴や業界の特徴にあわせて、例えば、ゲームプログラミングでは企業による作品指導、IT 系では企業と連携した開発、ビジネス系では商工会議所を窓口とした個別企業との連携、e スポーツでは業界団体を通した行政との連携や地域での e スポーツ大会の開催というような連携をしている。企業側としては求人先（就職先）としてのアピールになる。
・学生の状況について、自信のない学生が増えてきているが、企業との連携などで、企業に就職した卒業生と出会う機会があると、自分が今、学校で学んでいることが就職につながっているという実感がわくため、学生の自信につながる。業界で有名な人と会うのもいいが、学生にとっては雲の上の人と感じてしまう面もある。卒業生だと同じ先生に教えてもらっていたりするので親近感がわく。
・高校との連携では、高校の先生は基本的に大学出身なので、専門学校のことをあまりご存じない場合が多いので、高校の卒業生がどれくらい成果を出しているか

というような話をして理解を深めてもらうような努力をしたり、高校の授業の中で、専門学校が得意なIT関係などの授業を支援したりしている。その他に、高校の授業の一環としてクラス単位で来校されて、専門学校の授業を体験するという場合もある。(高校にとっては職業体験の一環のような感じ、専門学校にとっては体験入学のような感じ。)

・ポートフォリオ以外では社会人としての基本（履歴書の書き方など）やビジネスマナーを重視している。学校の試験は受験する態度が悪かったとしても点数で判断されるが、企業の採用は何で（どこで）落とされるかわからないところが難しい。
・ポートフォリオに対して企業からアドバイスをいただける機会を学校での企業説明会にあわせて行っている。(学生の希望者向け)
・大学生と競合する場合は、勉強している長さでは大学のほうが有利な面があるので、専門学校としては、人としてどうなのかという部分にも力を入れており、また、面接対策にも力を入れている。
・企業としては技術や知識は当然だが、まじめで素直な学生を求めている。
・学生が初任給の額しか見ておらず、関連する条件を見ていない場合がある。(残業代を含むのかとか、フレックスタイム制かどうかとか。初任給の額がもらえるのではなく実際には税金等が引かれて手取額になるのを知らないとか。)
・ゲーム関係の会社は東京がメイン。東京ゲームショウに出展することで、学校があることを知ってもらって、作品をみてもらうと悪くなさそうだということで、求人を出してもらった。一旦、内定者が出てくると、次の年度も求人を出してくれる。このようなサイクルをつくることが大事。まず、学校のことを知ってもらう努力が大事。
・例えば、市民イベント等へ映像や音響の学生がプロの方と一緒に参加すると学校の中では体験できないようなことを体験ができる。ただし、学校としても膨大な時間がとられるので大変な面もある。
・グラフィック分野では発表会を展示会として企業や卒業生にも見に来ていただいて行っている。1年生は企業と連携した課題（ステッカーだったり、服だったり）を発表する。企業と名刺交換などをして学生は企業にアピールする。2年生は卒業制作を展示する。
・クリエイターの逃げられないところとして、必ず批評を受けるということがある。学生のうちからそういったことに慣れておかないといけない。そういった批評を前向きにとらえる学生は伸びる。
・データサイエンスの場合、学生はプログラミングは得意だが、数学的な面は苦手な場合もあるので、例えば、微分・積分も数学として教えるのではなく、プログラミングではこうするというような教え方をすると理解しやすいようだ。
・クリエイティブ系の場合、教えることは授業時間内におさまるようにしているが、作品をつくる時間は授業時間だけでは足りないので、家でも作品をつくるかどうか。学力が低いのはそれほど心配ではないが、創作意欲が低いのは鍛えようがない。

エ　結果概要（個別コメント）

○今回の視察研修での成果（参考になったこと、印象に残ったこと、応用したいと思ったこと等）

・常時進化している情報分野において、先生方が最先端の教育内容を学生に指導するにあたって、アンテナを高くし、自己研鑽や研修を行いながら努力されている点が非常に印象に残った。また、常に先を見通しながら学校経営されている点が参考になった。（高校）

・学生の状況等について、留学生と日本人通信制の高校の学生が増えている。高校までの学力が逆転する場合がある。自信がない学生が多く失敗を恐れる傾向がある。

クリエイター、e スポーツにおいては、授業に積極的である。ビジネス系は商業科が多い。中高で習っているはずというのは通じない。数学のサイン、コサインなど必要なものは復習してから進めている。高校毎の差を生まないように配慮している。（高校）

・基本情報試験は CBT 化している。スケジュールの仕方が変わっている。4 月から免除試験のために授業を受け、12 月 1 月で準備を行い、本試験を挑戦している。１年生は科目免除を受け、２年生では基本情報をほとんど受けている。（高校）

・資格取得の合格率が高いのは、過去問題が豊富にあり、年 4 回受験している。アルゴリズムの勉強をしている。（高校）

・ビジネスマナーについての話が印象に残った。このことについては商業教育では不易なものであり、私たちが常日頃から学生達に話をしていることなので、これかもしっかりと指導してかなければならないものだと再確認できた。（高校）

・神戸という土地柄から、イベントや就職活動などに協力的な大企業が多くあることがうらやましく感じた。クリエイティブでは、アニメーションでは、日本のアニメーション産業の担い手として活躍している卒業生がいることは強みであると感じた。（高校）

・やはり、宮崎よりも都会であるにもかかわらず、学生募集には色々な取り組みをされているところが印象に残った。（高校）

・取り壊しが決まっている建物（倉庫）でイベントを地域ぐるみで実施するなど、大規模なイベントを考えられるアイディアや実践できる力があることは専門学校ならではだと感じた。学生の作品をプロの方が演出するなど、専門学校に行き学ぶことがプロの道であると実感した。（高校）

・専門学校として必要と言われていた「ビジネスマナー」という点が参考になった。商業高校ではビジネスマナーについての話をする機会が多いので、学科関係なく指導をしていくべき内容であると感じた。（高校）

・データサイエンスに関する個別の質問で回答して頂いた「身の回りの情報の整理・活用」できる人材。データを収集して終わるのではなく、データをもとに考える・見極める力が大切という点が参考になった。（高校）

・今回の研修で、特に印象に残ったことは、「好奇心を持って学ぶための仕掛けづくり」の徹底です。工場を改装し、クラブのような雰囲気の中で開催される「祭り」

を通じて、プロフェッショナルや地域社会との関わりを創出している事例は、単なる授業では得られない強烈な動機づけになると実感しました。学生が自ら「学びたい」「創りたい」という意識に変化していくプロセスを目の当たりにし、この内発的な意識を持たせることこそが、教員の使命であると強く感じました。「社会とのつながり」が「学びに生きる」ことが如何に重要であるかを再認識し、学生の学習意欲を高めるための外部との連携や体験の機会を意図的に創出する働きかけを、今後、強化していきたいと考えます。（高校）

・これまでの私は、システム系とクリエイティブ系を全く別の分野として捉えていました。しかし、今回の研修で紹介された「クリエイティブエンジニア」という概念に感銘を受けました。技術と創造性が融合したこの人材像こそが、これからの時代に求められるものだと強く感じました。

生成 AI をはじめとする技術が急速に進歩する現代において、生徒には「常識を疑う」意識を持ち、技術を単なるツールとしてではなく、社会をより良く創造する手段として活用する力を身につけさせたいと考えます。誰もが活躍できる社会を作るための基盤となる、創造性と技術力を兼ね備えた生徒の育成が、今後の大きな教育課題だと再認識しました。（高校）

・国家資格の取得に向けた指導体制：国家資格（基本情報技術者試験など）の指導において、神戸電子専門学校では午前免除を活用されていると伺いました。特に、留学生や不登校経験者など、学生の背景が多様化している中で、「学び直し」が不可欠であるというご指摘に深く同意します。「わかっているだろう」という前提を設けず、誰もが同じラインでスタートできる授業展開（初期指導の徹底）の具体的な工夫や指導法について、大変興味が湧きました。（高校）

・企業との連携における留意点：企業との連携を進める中で、「利用されすぎないように留意している」という神戸電子専門学校の考え方は、高校現場の課題と共通していると感じました。その上で、神戸電子専門学校が「教育的配慮」を意識しながら全職員で連携に対応されている点は、非常に参考になりました。連携を単なる労働力提供で終わらせず、生徒の成長を最優先にするための全校的な意識共有の重要性を改めて認識しました。（高校）

・学生が未熟な面が多いため、常識を一から教えなければいけないというのは、どの学校でも共通の課題なのだなと感じた。企業を巻き込んでの取り組みを数多くやっておられるが、学生に主体的に取り組ませることの難しさがあるというのも、同じだと感じた。（専門学校）

・資格の合格率が高いことに衝撃を受けた。試験を受ける時期や、試験への取り組みから検討しなおさなければならないと感じた。また、IT 分野の専門学校を何校も運営されており、いろいろな分野に学校を持つ当法人とは違った強みを感じた。神戸という土地柄や、経済的に恵まれている学生が多いのかもしれないが、3 年制、4 年制が多いというのは、うらやましい限りである。当法人も 3 年、4 年というもう少し長いスパンで学生を育てられると良いなと感じたが、大学との違いを明確にすることが必要だと思う。（専門学校）

・人材養成：19 学科あり、エンジニア、クリエイター、e スポーツ、デザイン、工

業（ハード）等多様な内容で教育を展開しており、各コースの責任者が的確に学生を把握して人材養成を行っている。（専門学校）
・教育内容：学習面で中学や高校で習ったことをすべての学生が理解している前提ではなく、理解度の差を踏まえて授業を展開。
また、学生は真面目だけれども社会経験が浅く、ビジネスマナーなど常識を教えることが重要。（専門学校）
・企業との連携：ゲーム業界の担当者に授業の一環で作品をみてもらい、指導を受け、ビジネス分野では商工会議所を窓口として県 e スポーツ連合に参加、工業分野（ハード）とエンジニア分野では就職先 OB と連携して、単なる労働力としてではないよう、様々な活動を実施。（専門学校）
・資格取得の高取得率の理由として、基本情報技術者では科目免除を 10 月～11 月に受験し、年明け 1 月、2 月に本試験を受験。本校のスケジュールより遅めの受験であり、学生の理解度が上がると考えられる。また、2 年制課程より 3 年制、4 年制課程のほうが在籍数が多いとの事なので、卒業までにそれ相応の資格を取得できることも想像できる。また、本校同様に通信制高校を卒業して入学してくる学生が増えている事も興味深く感じた。（専門学校）
・校長の思いや考えがそれぞれの責任者や担当者と共有され、各学科の特性を生かしながら、学校が一丸となって動いていると感じられた。（専門学校）
・企業との連携について、企業としてのメリットとしては、いい人材を獲得するための就職先としてのアピールがあるとのこと。宮崎での企業が参加した実証講座でも企業としてのメリットの 1 つとして採用面に関する話を聞いたこともあるため、企業との連携を継続していく際のポイントとして参考にしたい。（専門学校）
・専門学校生でも就職に向けての目的意識がはっきりしないような面もあることは当方とも共通する部分もあるように感じた。その対策として、卒業生と話をする機会をつくったり、企業説明会にあわせて企業の方に指導してもらう機会をつくったり、様々な機会を生かしながら、学校以外の外部との接点を積極的につくられていることは大変参考になった。（専門学校）
・ゲームプログラミングでは、東京にゲーム会社が集中する中、東京ゲームショウに出展するなど、学校のことを知ってもらう取組を工夫され、地道に取り組まれた結果、ゲーム会社との関係を構築されたような努力も高専接続の事業を継続していく上での参考にしたい。（専門学校）
・2020 年に、「創って学ぶ（Learn by Creative）」という目標を掲げ、その理念に沿っているかを毎年「計画・実装・振り返り」で確認していることに感銘を受けた。これにより「神戸電子専門学校」としてのブランディングが明確化されており、教職員が一丸となって実践されている姿勢が印象的だった。（専門学校）
・学生指導では、学生が「一般社会の常識を知らない存在である」という前提に立ち、「なぜ遅刻をしてはいけないのか」「なぜ欠席連絡が必要なのか」といった社会人基礎力の指導を学校生活全体で行い、卒業後に社会に円滑に適応できるように育成している点が参考になった。（専門学校）
・また、就職面では、e スポーツなどゲーム関連の求人が東京に集中している中で、

「来ないなら来るようにしよう」という発想で、商工会議所やｅスポーツ連盟との連携、東京ゲームショウへのブース出展など積極的な広報活動を行っている点が印象的だった。（専門学校）

・学校パンフレットに卒業生の寄稿を「学生の声」として多数掲載し、学生のモチベーション形成や目標設定の参考になる内容として構成している点が印象に残った。これらは教員主導で運営されており、在校生・入学生への良い刺激となっている。（専門学校）

・基本情報技術者試験については、単位を取得した学生全員に受験を義務付け、一度は必ずチャレンジさせている。1年次の4〜9月までに科目A免除対象の内容を学び、12月〜2月に受験する仕組みで、1年次で約半数が合格、2年次には未合格者が数名のみとのこと。2年次以降は多様な資格に対応し、資格別・習熟度別に受験対策を実施している。なお、科目A公開問題を繰り返し解説・演習するという徹底的な学習サイクルが成果につながっている点は非常に参考になった。（専門学校）

・本校と同様に、入学時の学力に差がある場合もあるが「学生は高校まで学習しているから、この知識を持っているはず」という前提ではなく、知らない学生もいるという前提で、高校までの内容の復習を取り入れながら基礎固めを行うことで、学力差を生まないよう工夫している点が印象的だった。どんな学生でも資格を取得できるよう、その知識を理解して世に送り出そうと取り組まれている姿に感銘を受けた。

また、アニメ・デザイン系では、以前は専門学校生が主流だった業界に美大や芸大といった4年制大学で数百時間・数千時間かけてきた学生と戦わないといけない狭き門であること。そのため「好きで描いていること」が前提で、「1日8時間デッサンを描き続けることができないなら入学は勧めない」という明確な姿勢を示されており、業界で通用するだけの熱意・モチベーションを求めている。課題やポートフォリオも授業外での制作が前提とされており、入学前からその現実を丁寧に伝えている点にプロ意識を感じた。（専門学校）

・企業とのコラボレーションでは、有名人では雲の上の人と思いがちなため、身近な卒業生のいる企業と連携することで、学生がより現実的に「成功のイメージ（Success Story）」を描けるようにしている点が印象的だった。また、地元の市民団体からの依頼を受け、神戸港の倉庫で開催されたサウンドイベントに学生・教員が参加し、学科を超えた協働制作をしている。こうした実践は、作品制作のみならず就職活動にも生かされているという。教員自身も趣味的な楽しさを持ちながら取り組む姿勢が継続の鍵であるとの言葉も印象的だった。（専門学校）

・専門学校として、専門分野のスキルアップには自発的に取り組みやすい環境を整えつつ、ビジネスマナーについてはオンライン講習で補っている。また、兵庫県専各連（兵庫県専修学校各種学校連合会）主催による教職員研修（年2回、90分×3コマ）を受講し、研修委員会による「認定証」を発行している点も特徴的であり、教職員のリテラシーや教養研修のあり方として参考となった。（専門学校）

・クリエイティブ分野に関して、神戸電子専門学校では、ポートフォリオの「質」や

「レベル」だけでなく、データ提出時のフォルダー名の付け方、見せ方(魅せ方)、説明資料の作法、採用側がどのような状況で作品を見るのかなどを想像し、業界での常識を学生に身につけさせることを重視していた点が特に印象的だった。これは、単なる技術教育だけではなく「業界で通用する社会人教育」としての完成度を高めている好例であり、本校においても取り入れるべき視点である。(専門学校)

・全体を通して、神戸電子専門学校の取組は「理念の一貫性」「教職員の団結力」「学生指導の現実的視点」「社会との接点づくり」が高いレベルで統合されており、非常に示唆に富んでいた。本校でも、「理念の明確化と年間 PDCA」「業界連携の強化」「学生基礎の再定義」など、具体的に応用可能なので要素が多く見られた。(専門学校)

○今回の視察研修での成果を本コンソーシアムや各校での取組に応用する場合の課題等

・情報スキルや学習意欲に個人差があるため、連携授業のレベル設定が難しい。特に実践的な内容では、基礎知識の定着が不十分であると効果が半減することから、基礎知識の定着を強化する必要を感じた。(高校)

・グラフックデザイン関係の指導について、神戸電子専門学校は作品を作った過程で、企業にアドバイスをいただいている。そのような企業が本県に少ないのと就職先のニーズが少ない。(高校)

・高校、企業、専門学校とのよりよい連携の在り方について整理すべきだと思う。高校から専門学校、専門学校から企業へどのような力を身に付けさせ送り出すかをもう少し具体的に設定する事で今回のこの研究の目標が明確になるのではないかと考える。(高校)

・地域への貢献活動やイベントへの周知について、よく考えられているものが多く、宮崎だったら何ができるのか、宮崎にしかできないものは何なのかを考えていきたい。(高校)

・専門学校のような地域を巻き込んだ大規模なイベントや、フェス形式でのアウトプットは、学生のモチベーションを高め、成果を社会に還元する上で非常に魅力的です。しかし、現状、課題研究などで地域と連携する活動は、担当職員と少数の生徒に業務が集中しがちです。専門学校のように「地域を巻き込み、全校体制でフェス形式で実行する」という取り組みは、現状の高校現場において、教員の仕事の負担が大きく、実現が難しいという課題があります。(高校)

・どのような人物を育成するかという「目標値」の設定をしっかりと決め、高校・専門学校・企業が共通理解として持っておくべきである。神戸電子専門学校は「新たな視点を持ち、常識を越え続ける」という人材を目標としており、その育成には何が必要かなどの考えをしっかりと持っていた。本組織もそのような共通目標を達成のためにそれぞれがどのように動くべきかを考える必要があると感じた。(それぞれがどのように動くべきかという点が少し弱いと感じる)(高校)

・大阪でも感じたが、大きい経済圏にあり、雇用も多くあるというのは、宮崎には当てはまらないため、そのハンデをどうやって強みに変えるかが課題だと感じた。

積極的に企業や行政に働きかける情熱が不可欠だと思った。（専門学校）
・神戸という地域性があり、地元企業の数の多さや、大阪や名古屋、さらには関東までさほど遠くない距離感も企業連携を行う際には重要。（専門学校）
・学生は「その知識を持っていない」という前提に立ち、必要に応じて高校までのレベルの内容を振り返りながら根気強く指導することができれば、本校においても資格取得率の向上が期待できると感じた。実際に、看護師・美容師・介護福祉士などのように、資格がなければ就職できない職種では、学生も教員も「スタートラインに立つため」に資格取得に本気で取り組んでいる。一方で情報系分野では「資格が取れなくても就職できる」という現実があり、その意識の違いが成果に表れているように思う。（専門学校）
・クリエイティブ分野については、ポートフォリオの質やレベル、内容が採用企業の求める世界観や熱意、作品から伝わる「好き」という感情を重視している点に対し、それらは学生自身が持つべきものであり、教員が指導すべき本質は「いかに学生を業界に送り出せるか」という支援・伴奏の部分にあると感じた。入学時点で「1 日 8 時間デッサンを描けるか」という本気度や体力を問うこと、敢えてリスクを伝えることが、誠実で現実的な学科運営として非常に印象に残った。
さらに、求人が来ないならば、「来るようにする」という発想のもと、教員自らが動き、足を運び、労をいとわずに関係を築いていく姿勢にも強く共感した。この「労をいとわない」姿勢を支えるのは、教員自身の「教えるのが好き」「学生が好き」「業界を好きになってもらい」という根源的な情熱であり、学校としてそうした自主性・熱意を発揮できる体制づくりが急務であると感じた。（専門学校）

○その他の感想や意見について

・教員の研修体制について、専門教科のスキルアップは業界の研修会に参加したり、他の専門学校のセミナーに参加したりしている。業界関係でセミナーがあるので参加している。年２回研修があり、夏に教職員教養研修などがあると伺った。高校で先端の技術を指導するのは、限界があると感じた。だからこそ、専門学校との連携が必要であると感じる。（高校）
・施設を見学したり、もっと話を聞きたかったです。（高校）
・先進的な取り組みと、教職員の皆様の情熱に触れ、非常に有意義で勉強になる一日となりました。特に、教育の根幹にある「学生の可能性を引き出す」という強い信念を感じました。この経験を無駄にせず、今後の学校教育の質の向上に繋げるべく、私自身も常に学び続ける姿勢を持って、教育活動に邁進していきたいと思います。（高校）
・校長には久しぶりにお会いでき良かった。昔と変わらず情熱をもって学校運営に携わられている姿は見習う必要を感じた。（専門学校）
・神戸電子専門学校はブランディングが非常に確立された学校であり、拝聴した内容の全てが、長年にわたる継続的な努力の積み重ねによる成果であると感じた。各専門の教員がそれぞれの専門性を活かしながらも、学校全体として「学生に選ばれる学校」を目指して取り組んでおり、学校にとって不利な情報であっても入

学時や在学中に学生へ正直に伝える姿勢から、学生を一人の社会人として育てているという強い教育理念を感じた。
資格がなくても就職できる学科であっても、教員が逃げずに真摯に教育に向き合っている点が印象的であり、これは本校としても見倣うべき姿勢であると感じた。
本校も歴史ある学校であるが、その中で「ブランディング」と「教職員の意識の標準化」は今後さらに強化すべき要素だと感じた。トップが示す方向性を教職員が共有し、同じ志を持って行動できるようにすることが重要である。
また、専門学校の課題感にばかり目が行きがちだが、オープンキャンパスにおいて在校生が参加することで、来校者の心理的ハードルが下がり、相互理解が深まる点は高校でも専門学校でも共通しており、コンソーシアムの中でも成功例として参考になると感じた。
今回の視察では、各学科の先生方が授業の合間を縫って対応してくださり、多くの具体的な意見を伺うことができた。非常に有意義な機会であった一方、本校の担当教員が同行できなかったことは残念に感じた。校長一人が話を聞くよりも、実際には教員自身が自分の耳で「リアル」を知ることの意義は大きく、IT 分野の先生がおっしゃっていた「リアルを自分で知る」という言葉がまさにその本質を表していると感じた。（専門学校）

・今回、関西で訪問した 3 校に共通していたのは、「学生にとって何が最善か」を常に基点に据え、その考えをもとに学校の強みを戦略的かつ地道に積み上げてきた点であると感じた。いずれの学校も、自校の成功事例だけでなく、課題や失敗も率直に共有してくださり、その誠実な姿勢に教育機関としての成熟を感じた。こうした姿勢の背景には、「一朝一夕には真似できない」という確かな自負と、長年積み重ねてきた実践の重みがあると感じた。強みだけでなく弱みも含めて公開できるその透明性こそが、信頼される学校づくりの根幹なのだと痛感した。本校やコンソーシアムとしても、このような誠実さや継続性を土台に据え、「学生にとって価値ある学びとは何か」を軸に教育を再構築していく必要があると強く感じさせられる視察研修であった。［3 校に共通］（専門学校）

オ　視察研修の成果を活用する方向性

○専門学校は就職に直結した学校であるが、専門分野の知識や技術だけでなく、社会人としての基本やビジネスマナーなど人物面にも力を入れて指導されているとのことであった。
本コンソーシアムにおいても、高校や専門学校向けに企業に講座等をお願いする際に、学校生活と社会人生活との違いなどについてもお話いただけると就職に向けての意識付けの一助になるのではないかと考える。

○学生の就職に向けての意識付けについては、著名な方の話を聞くのも有効であるが、より身近な卒業生との交流のほうが自分事として捉えやすく、より効果が期待できる面もあるとのことであった。

本コンソーシアムにおいても、専門学校生が高校に出向く取組や、企業の若手社員の方が話をされるような取組を実証講座として行っている。これらは効果的な取組と考えられるため引き続き実施できるよう考えたい。

○毎年度、カリキュラムのコアの部分については見直しを行っているということであった。
本コンソーシアムの取組においても、生成 AI の急速な普及などの環境変化を踏まえつつ、これまでの実証講座の成果をコンソーシアムとして議論・検証した上で、必要に応じて講座内容等を見直すことが重要であると考える。

○ほかの視察先とも共通しているが、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていると感じた。本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組による学校、企業、行政の各主体の成果と負担を整理しながら、持続可能で効果的な取組を考えたい。

(2)　大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校

ア　日程・訪問者等

○日時：令和 7 年 10 月 15 日（水）

○受入先：大阪ビジネスフロンティア高等学校　2 名（校長、教頭）

○訪問者：10 名

宮崎県立宮崎商業高等学校（校長）
宮崎県立延岡商業高等学校（校長）
宮崎県立宮崎商業高等学校（教諭）
宮崎県立都城商業高等学校（教諭）
宮崎県立延岡商業高等学校（教諭）
宮崎県立富島高等学校（教諭）
宮崎情報ビジネス専門学校（校長）
学校法人宮崎総合学院（副理事長、企画課長、企画課担当）

○内容：高大接続をはじめとした大学や企業など外部との連携、商業や情報の学びなどに関する意見交換

イ　事前に想定した質問事項等

○事前にお送りした主な質問項目

1　大学や企業との連携について
(1)連携にいたった理由や連携の概要
(2)連携の効果
(3)連携の課題
(4)連携のしくみ

2　大学や企業と連携した授業について
(1)連携授業の概要
(2)生徒のモチベーションと連携授業

3　生徒の状況等について
・学力、主体性、目的意識など

4　商業系の学びについて
・検定、資格試験対策など

5　進路について

○「高・専の接続・連携」「高・専と企業との連携」について、感じている課題等（個別コメント）

・専門学校や企業の持つ最新技術や実務を、学校内の限られた時間内でどのように教育課程に組み込むか、またそのレベル感の調整が難しい。連携が「体験」で終わらないようにしたい。（高校）

・「高・専の接続・連携」の課題として、「資格取得」「専門スキル」「進路決定」など、

各機関が重視するポイントが異なるため、連携の目的が形骸化しやすい。（高校）
・「高・企業の接続・連携」の課題として、中小企業が多い地域では、人材や時間的な制約から、継続的な教育連携や実習受け入れが難しい。（高校）
・教員と企業担当者の間で、評価の視点や成果の共有方法が明確でない。（高校）
・今後、研究終了後に研究費がない状態でどのように連携していくのかが課題である。特に高校と企業連携においては、講師費用の計上を学校側で捻出することは難しい。持続可能にするためにも、お互い連携することでメリットのある事業を考えることで高校・専門学校・企業が諸経費として計上できるものを構築していく必要性があると思う。（高校）
・高校では、企業が求めている人材を育成できていない。ＩＴ企業などで必要とされる経験や技能が身に付けられない。そこまで高度な専門性を学ばせるためには専門学校に進学させることになるが、高校では何を学ばせ、どこまでのスキルを身に付けさせるのかがハッキリとしていない。（高校）
・学校だけでは予算が計上されにくく、外部との連携に係る費用負担が厳しいため、連携などが組みにくい状況。教員個人での繋がりでお願いしている現況がある（知り合いの企業の方にお願いして無償で実施など）。特に本校は、宮崎県の中でも地理的に離れている場所であるので、交通費等も他の学校に比べ多くかかるため、依頼しにくい。（高校）
・主に大学との連携に取り組んでいる学校だったため、専門学校との接続、連携という点では参考になる部分は少なかった。ただ、大学といかにうまく連携するか、競合校と差別化していかに特色を伸ばして生徒を集めるか、という点では大変興味深かった。（専門学校）
・連携の仕組みをどう制度化、体系化するか。（専門学校）
・本事業では専門学校は企業と高校の橋渡しの立場にいることもあり、年々、連携の難しさを強く感じている。その要因の一つとして、関係者間の熱意や温度差を感じる。昨年度は専門学校と高校の連携が比較的うまく機能していたが、今年度は、専門学校側のカリキュラムの過密さの影響もあり、前期の段階では十分に回っていない印象を受ける。
高校・専門学校ともに共通している課題として、学校としてのバックアップ体制や環境整備が不可欠であり、個々の職員の努力だけで支えることには限界があると感じている。今後は、お互いの組織がより効率的に連携できる方法を具体的に模索していく必要がある。（専門学校）
・本取組は文部科学省の事業として実施されていることもあり、PDCA サイクルによる検証と改善が求められる。
しかし現状では、高校・専門学校ともに、そこに十分な時間を割くことが難しい傾向が見られる。検証が不十分であれば、効果を十分に測定できない。地域で人材を育成するという観点からは計画的・戦略的な人材養成の仕組みを整えることが重要であると感じている。（専門学校）

○今回の視察研修で明らかにしたかったことや聞いてみたかったこと等（個別コメント）

・高校・大学の 7 年間を見据えた教育内容と連携先である大学とどのような連携をしているのか。(高校)
・連携にいたった理由や連携の概要（高校）
・高大接続においてのカリキュラムのあり方。特別入学制度について。資格取得状況。入試倍率。専門学校との連携について。(高校)
・大阪府や大阪市の特色ある取り組みやカリキュラムについて聞きたかった。(高校)
・大学とどのように連携を実施しているのか。(特に進学に関しての連携大学に関して)（高校）
・企業の方との連携の際に係る費用負担。(高校)
・難関大学進学と商業の専門性を両立させるための、カリキュラム設計、日々の学習指導におけるバランスの取り方、そして生徒のモチベーションを維持する工夫について知りたいと考えていました。(高校)
・とんがった高校になれた理由、生徒募集における工夫など。(専門学校)
・高大接続の仕組みや効果（専門学校）
・高大 7 年間の教育に取り組まれているとのことだが、中学生の段階で高校入学時に将来の目標や進路意識がある程度明確になっていないと、 7 年間のモチベーションの維持は難しいように感じる。そこで、実際の入学生がどの程度の目的意識や目標感を持って入学しているのか。(専門学校)
・入学後、モチベーションを維持するための仕組みや取組の中で、大学・企業・地域などの外部機関がどの程度関わっているのか、その割合や関わり方について具体的に聞いてみたい。(専門学校)
・授業を担当される先生には高い専門知識が求められると思うが、授業設計やカリキュラム構築の段階で外部の意見（大学・企業など）がどのように取り入れられているのか。(専門学校)

ウ　結果概要（視察研修先における取組内容等）

・平成 24 年に 3 つの商業高校の合併により開校したが、設立当初からのコンセプトが高大接続。7 年間で生徒を育てようということ。高大接続の意義の 1 つが商業の専門の学びの部分を大学で、高校からの続きとして勉強できるように。もう 1 つが大学に入ったとき英語が弱い面があったので、英語も強化できるように。
・当初の連携大学が大阪市立大学（現：大阪公立大学）(商学部)、関西大学（商学部)、関西外国語大学。その後、京都産業大学と桃山学院大学が追加。例えば、関西大学では 8 クラスで 20 人の特別入学制度を創設した（現在は 6 クラスで 17 人)。

  連携大学には特別入学制度があり、在学中の成績、検定取得、大学との連携プログラムへの参加などの要件を満たせば入学が認められる。

  関西大学は特別プログラムをつくってくれた。(会計連携特別プログラム ALSP とビジネスリーダー特別プログラム BLSP)

ALSP：Accounting Linkage Special Program
BLSP：Business Leader Special Program
京都産業大学ではキャンプキャンパスとして、公認会計士事務所を見学したり、大学に行って授業を受けたりすることなどを段階的に行っている。
桃山学院大学ではマーケティング実践の授業などを行っている。(大学ごとに連携内容に違い)

・企業との連携ではお弁当屋さんと公認会計士と組んで、高校生がお弁当の商品開発をするという授業をやっている。公認会計士という職業のステータスが高いことがあまり知られていないので公認会計士のことを知るきっかけにもなる。
・大阪ビジネスフロンティア高校は人と人とのつながりでもっている学校ということは先生方にもお話している。企業や地域との連携を大事にしないといけない。
・ビジネス基礎では教科書のほかに「ビジネス・アイ」という関西大学の先生が作成されたテキストも使用している。
「ビジネス・アイ」を使ったビジネス基礎の受講も関西大学の特別入学制度の要件になっているため、2 年次からの転校生は特別入学制度の対象外となる。
・専門学校とは簿記（日商 2 級）とかの補習で連携している（放課後)。日商 1 級は大学でというスタンス。
・オープンスクールも時間帯フリーでやっている。予約については、必須でなく予約があればスムーズという感じ。最初、先生方を納得させるのが難しかった。(一度にたくさん来られたらどうするのかなど)
生徒を前面に出したいので、生徒のボランティアを募った。最近はオープンスクールで案内してくれた生徒を見てあこがれて、入学しましたという生徒が出てきている。
・出前授業は断らずに、すべて行くように言っている。年間 60 件くらい。本校は「大人も子どもも忙しい学校」と言っている。出前授業も中学校からまたあの先生にお願いしたいというリクエストも出てきている。
・大変だが、楽しみながらやりましょうという話はしている。参加している企業の方など周りの人を巻き込みながら、仕事としていやいやではなく、楽しみながら取り組むことを目指している。

エ　結果概要（個別コメント）

○今回の視察研修での成果（参考になったこと、印象に残ったこと、応用したいと思ったこと等）

・目指す生徒像がわかりやすく、目的や目標がはっきりしていた。その目的や目標を達成するための手段が、カリキュラムや科目に実践的かつ計画的に組み込まれていた。(高校)
・普通科は大阪府が設置、実業系は大阪市が設置した。府立の商業高校がない状態であった。平成 24 年に東商業、市岡商業・天王寺商業三つを再編成する。高大接続をコンセンプトとし、7 年間で学ぶプログラム。商業の学び直しをせずに学べる環境、英語にも力を入れる必要、連携大学、大阪公立大学との連携、関西大学（商

業）関西外国語大学との連携がスタートした。（高校）
・学科はグローバルビジネス科だけの単一学科がある。英語、簿記、情報に特化している。それ以外の検定は受験させてない。（選択と集中により、進学に必要な力を育てている）
高校入試は、推薦入試はなく、一般入試だけである。（高校）
・公認会計士事務所の見学を通して、将来なりたい自分を描かせ、高校から大学の７年間の学習計画を考えたカリキュラム作成が印象に残った。（高校）
・学ばせる検定を精選しているのが、あまり他校では見られない特色だと思う。（高校）
・専門学校が検定前にピンポイントで課外を実施していることが、本コンソーシアムで応用できないかと思った。（高校）
・学科やカリキュラムなどは、宮崎よりもシンプルで分かりやすく組まれていることに驚いた。資格や検定なども大学進学に必要なものに絞り合格率を上げていることに驚いた。学科やカリキュラムは、もっと細分化されているのかと思っていただけに宮崎も参考にしたいと思った。（高校）
・専門性の深化については上級学校でというスタンス。基本的な学びや興味・関心を持たせるという考え方がこのコンソーシアムにも通じる考え方であると感じた。（高校）
・検定指導の精選、３種目１級を目指すのでは無く、情報（プログラミング）・簿記の資格取得に特化しており、単純なカリキュラムが非常に参考となった。（高校）
・様々な大学と強固に連携されている取り組みは、大変素晴らしく感じました。特に、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学といった難関私立大学への安定した輩出を実現している背景には、20 年前からの継続的な取り組みと、「人と人との繋がり」を大切にする粘り強い関係構築があると感じました。この連携は、単に生徒を大学に送り出すだけでなく、進学後も生徒が活躍できるための仕組み（7 年間の学びの連続性）が組み込まれている点で、非常に参考になりました。（高校）
・入試制度から学力の高い生徒を募集し、「地域に進学するための学校」としての認知度を高めている点に、学校運営の戦略性を感じました。特に、「高校時代は基礎・基本に特化し、更に深い学びは大学で」という明確な指導方針は、指導内容を絞り込み、教員の負担を軽減しつつ、高い進学実績を出すための合理的かつ効果的な考え方だと改めて勉強になりました。次に、資格取得の絞り込みです。本校でも多くの資格に挑戦していますが、「全商簿記１級、プログラミング１級、英語１級」の３つの主要資格に絞って指導している点は、非常に合理的で参考になりました。目標を明確化し、高い実績を効率よく達成する仕組みは、本校でも応用すべき点だと感じました。（高校）
・公立高校で教職員の入れ替えが定期的にある中、モチベーションを高く持つことはやはり大変なのだなと感じた。公立高校という立場に甘んじることなく、生徒募集に積極的で、斬新なオープンスクールを開催している点などはぜひ取り入れたいと思った。（専門学校）

・「進学先での学びなおしがもったいない」との発言は納得できたが、本校に当てはめると現実問題厳しい状況だと思われる。高校から大学への進学で特別入学制度を利用し、上位の資格は大学で取得することはもっともだが、本校ではその学生用のクラスが出来る環境を作ることは厳しい。企業との連携では弁当屋さん＋公認会計士でいろいろ工夫をしている様で具体的に聞いてみたかった。（専門学校）
・高校入学時から進学目的で入学している事。（専門学校）
・専門学校との連携では簿記や IT 分野で専門学校と一部連携しているが、希望者が課外授業での対応とのこと。（専門学校）
・視察先では高校と大学との接続（高大接続）であったが、学校設立時から高大接続がコンセプトとなっており、高大接続の仕組みが最初から組み込まれていることが理想的である。高専接続の取組は後付けで仕組みをつくろうとしているところに困難はあるが、視察先の高大接続の仕組みは参考になる。（専門学校）
・専門学校の入試は、大学と比べると競争性・選抜性が高くない傾向にあるため、高専接続の場合、高大接続のような特別入学制度のようなものは難しいと考えられるが、高校生が大学の授業を体験的に受ける、あるいは大学の先生が高校で実践的な授業を行うような取組は高専接続の場合でも大変参考になる。（専門学校）
・公認会計士のステータスは高いが職業としてはあまり知られていないという話もあり、公認会計士事務所を見学したり、高校生が企業・公認会計士と組んでお弁当の商品開発をしたり、そうした取組が公認会計士の仕事を知ることにつながっており、高校生に職業の実際を知ってもらうような取組は充実させていきたい。（専門学校）
・オープンスクールで案内してくれたボランティアの生徒を見て、あこがれて入学したというような生徒も出てきているということであった。生徒や学生がオープンスクールやオープンキャンパスにかかわっている例は他の事例でもあったので、導入できるといいと思う。（専門学校）
・まず、高校・大学の 7 年間で一貫した生徒を育てるために、商業高校の生徒が商学部の大学で学ぶ際に生じる「学びの過不足」をリサーチしている点が印象的でった。高校で学んだ内容を大学でさらに発展・深化させるという明確な方針のもと、授業時間の使い方にも徹底した戦略が見られた。たとえば、高校では日商簿記 2 級・全商簿記 1 級の資格取得を重視し、それ以外の検定試験に授業時間を割かないなど、大学での学びにつながる内容に重点を置いている点が印象に残った。
また、大学での学びにおいて英語力の不足が課題であることから、高校段階で英語教育を強化しているという。英語は商業とともに、グローバルビジネス科の学びの柱と位置付けられており、英語教育にも力を入れられている。
これは、単なる語学学習ではなく、「世界で通用する専門人材」を育成する教育理念に基づいており、非常に実践的で印象深い取組であった。（専門学校）
・さらに、大学との連携においては、「入試のない進学＝特別入学生制度」を導入し、学びを途切れさせない仕組みを実現している。こうした制度設計の背景には、「7 年間の接続を単なる“連携”ではなく、“継続的な学びの流れ”として捉える」という明確な理念がある。大学での学びを支えるのは結局のところ基礎学力であり、そ

の“土台”を徹底的に育てることを高校教育の使命としている点は非常に共感できた。（専門学校）

・また、広報活動として実施している「オープンスクール」のあり方も印象的であった。このオープンスクールは、特定の時間に限定せず、「いつでも・どの時間でも見学できる」形式で実施されており、授業の様子をそのまま見せている。つまり、「飾らない学校の姿」を見せることで、保護者や生徒に対して信頼を得ているのである。

このような運営が成り立つのは、自校の教育内容に確固たる自信を持たれているからこそだと感じた。（専門学校）

・学校として、「とんがった生徒が欲しい」「リーダーシップがある生徒を育てたい」という明確な方針を掲げられており、その理念を体現するために、体験授業やオープンスクールなどさまざま場面で生徒を前面に立たせる取組を行っている点が印象的であった。これらの活動はボランティアによって運営されており、「教えて先輩」や「教えてお母さん」など、生徒や保護者が主体的に関わる企画も実施されている。

このように、生徒自信が学校を代表して発信・行動する機会を多く設けることで、リーダーシップや主体性を育てる教育文化が根付いていることを強く感じた。（専門学校）

・また、年間 60 件に及ぶ出前授業を実施し、「絶対に断らない」という方針を貫いている点も印象的であった。この姿勢は一見すると戦略的な広報活動のように見えるが、その根底には「人を大切にする」という教育理念があるという。結果として、地域や関係校との信頼関係が築かれ「この先生を派遣してほしい」というリピーター依頼が生まれていることからも、その理念が実を結んで良いることがうかがえた。（専門学校）

○今回の視察研修での成果を本コンソーシアムや各校での取組に応用する場合の課題等

・高校と専門学校の連携の 5 年間または 6 年間を見据えた教育を可視化していくことが重要であると感じた。また、この内容を企業にも見ていただき、より実用的なものにしたい。また、将来的には普通科で学ぶ生徒にも提示できるものがあると良いのではないと考える。（高校）

・特別推薦枠（指定大学への進学が可能な制度）も設けられており、大学進学を見据えた学びの道筋が明確になっている。しかし、進学の意志がない生徒には厳しい環境であろう。（高校）

・公認会計士事務所の見学を本コンソーシアムで置き換えた時、IT 業界に憧れを持てるような企業等を考えたときに、正直、宮崎県にそのような企業があるのかが分からない。県外への企業見学は持続可能ではない。（高校）

・もっと共通の目的や意思をもって、この組織で協力し合うことが必要だと感じている。例えば、学校間で使える教材などの開発など。（高校）

・連携学校をどのように増やすのか。今回は大学が連携学校としてあげられていた

が、専門学校を連携学校とした際に、どのような魅力を打ち出せるか。（高校）

・現在、多くの商業高校が進学率約６割程度まで向上しているにもかかわらず、九州などの地域では依然として「商業高校＝就職（事務や販売系）に強い」という認識が根強く残っています。この状況下で、校長先生が提言されていた「商業科＝とんがっていく（進学・専門特化）、普通科＝普通の学校」という新たなカテゴリを地域社会に浸透させることは、非常に難しい選択だと感じました。また、この取り組みは、商業高校の新たな進路モデルを提示していますが、すべての商業高校がこのモデルを真似することは難しいとも感じました。地域に根ざした各学校が、それぞれの地域性に合わせながら専門性をいかに確立するかが重要と考えました。（高校）

・大学との連携がメインの高校だったが、その関係を築いた方法や継続するための努力は参考にできる部分があると思った。高校の大学進学志向が顕著な中、どうやって専門学校の魅力を伝えていけるかが課題だと思った。（専門学校）

・一斉に同じプログラムで行うオープンスクールではなく、来たい時にやってきて体験できるオープンスクールは非常に面白いと思ったが、取り入れるには学校の教職員の意識改革と理解が課題になると感じた。（専門学校）

・この高校に入学してくる生徒さんのモチベーションが高いことが、進学に活かされているが、本校入学の学生のモチベーションも一部の学生は高いが、低い学生の割合が高い状況を感じる。（専門学校）

・今回視察を通して、「教育理念の一貫性」「生徒主体の取組」「外部との積極的連携」という点に多くの示唆を得た。しかし、これらを本コンソーシアム内や各校の取組に応用するには、いくつかの課題があると感じる。

①理念の共有と標準化の難しさ

視察先の学校では、教職員全体で学校の方向性や価値観が明確に共有されており、ブランディングの基盤となっていた。一方で、コンソーシアム内や各校では、学校ごとの教育理念・特色・優先課題が異なるため、共通の価値観をどこまで統一するかが難しい。理念の違いを尊重しながらも、「地域で育てる」「生徒を中心に置く」という共通軸を明文化する必要がある。

②生徒主体の取組を支える体制整備

生徒が主体となって運営する体験授業や広報活動は非常に効果的であるが、実現には教員の労力と継続的な支援体制が不可欠である。特に専門学校側ではカリキュラムの過密さと人員的制約もあり、どのようにして「学生を前面に出す文化」を育むかが課題となる。活動を形だけのイベントにせず、教育効果として定着させるには、担当教員の負担軽減や評価制度の見直し、人事採用時の基準、資質向上やリテラシーなどの教養の標準化もなど検討が必要である。

③外部連携の持続可能性

「高校への出前授業」や「企業・大学との協働」は、関係構築力と教員の熱意に支えられていた。しかし、これを各校で展開する場合、取り組みの属人化や連携維持のコストが課題となる。持続的な連携を実現するためには、学校

組織としての公式窓口の設置や年間スケジュール化された仕組み作りが必要である。

④活動の費用対効果と継続評価

視察先の学校は理念を軸に戦略的に活動を展開していたが、どの活動にも費用対効果の視点が明確にあった。本コンソーシアムにおいても、地域や生徒・学校に循環的な利益をもたらす仕組みとして捉える必要がある。そのために、定期的に見える化・検証・共有の仕組みを導入することが課題である。（専門学校）

・今回の視察を通して得た成果を応用するためには、理念の共有・教員体制の整備・外部連携の継続・費用対効果の意識といった多面的な課題がある。しかし、これらは「連携の質を高め、教育の持続可能性を確保する」ための重要な視点であり、今後のコンソーシアムの成果における礎になると感じた。（専門学校）

○その他の感想や意見について

・「高校で終わる学び」でなく、「高大・大学・社会へとつながる学び」が確保されている点が大きな強みである。このような環境は、一校だけでは作れない。ただ、専門知識を高めたい層には、ニーズがあるが、共通テスト一本で進学したい生徒には、一定の負荷が掛かる可能性もある。

しかし、商業高校での探究学習が「専門高校／商業高校という立ち位置」から、ビジネス・ICT・グローバル視点を含んだものとして展開されることが期待される。（高校）

・出前授業を年間 60 件ほど取り組んでいるのは驚かされたが、どのようにして職員の共通理解を図っているのかが気になった。（高校）

・連携学校や企業との連携での公認会計士に対する報酬（費用）などはどれくらいかかっているのか。また、行政からの予算がついているのか。（高校）

・関西大学の特別入学制度の確立はどのように行われたのか。（行政がどれだけ介入したのか、それとも学校独自での動きで導入できたのか）（高校）

・生徒主体の「オープンスクール」の実施には大変驚きました。体験授業だけでなく、誰でも好きな時間に好きな授業を聞けるオープンな形式を採用し、さらにその対応を生徒自ら実施している点に、生徒への深い信頼を感じました。特に、母親向けの相談会（制服の金額、その他の経費など）をオープンにする姿勢は、考えたこともなかったことで、保護者にも参考になる素晴らしい取り組みだと感じました。（高校）

・高校から大学進学が特色の商業高校との印象（専門学校）

・出前授業は断らずにすべて行くように言っているとのことで、年間 60 件くらいとのことであった。そのほか、「本校は人と人とのつながりでもっている学校」「大人も子どもも忙しい学校」「大変だが、楽しみながらやりましょう」といったお話もあり、成果を出すためにはある程度の手間と時間をかける工夫も重要であることを実感した。（専門学校）

・今回の視察を通して、改めて「学校づくりは理念づくりである」ということを強く

感じた。制度やカリキュラムの工夫だけでなく、教員一人ひとりが学校の目標や方向性を共有し、学生に誠実に向き合う姿勢が根底にあった。それが、結果として生徒・保護者・地域から信頼される学校を作っているのだと実感した。
また、教員が「労を厭わない」「逃げない」「学生に本気で向き合う」姿勢は、教員の本質そのものだと感じた。この姿勢は短期的な成果を求めるものではなく、時間をかけて人を育てるという教育本来の営みに通じている。
同時に、こうした教員の多いや熱意や継続できるにように、学校組織として支える仕組みの重要性も改めて認識した。
さらに、印象的だったのは「人を大切にする」という理念が、すべての取組の中心にあることだ。出前授業や留学制度、ボランティア活動など、どの活動にも共通して“人とのつながり”を大事にしている姿勢があり、それが自然にブランディングにつながっていた。この「理念と行動の一貫性」は自校の今後の教育活動においても大きな示唆となる。そして、視察を通して自分自身が本学院の理念である「人を育てる」という原点を見つめ直すきっかけにもなった。
私の立場では学生にどう寄り添うか、どう成長を支えるかもあるが、本学院の理念をどれだけ学校は体現できているのか、その理念をこのコンソーシアムで生かせるのか、今後どうしていくか更に考えさせられる視察研修であった。(専門学校)

・今回、関西で訪問した３校に共通していたのは、「学生にとって何が最善か」を常に基点に据え、その考えをもとに学校の強みを戦略的かつ地道に積み上げてきた点であると感じた。いずれの学校も、自校の成功事例だけでなく、課題や失敗も率直に共有してくださり、その誠実な姿勢に教育機関としての成熟を感じた。こうした姿勢の背景には、「一朝一夕には真似できない」という確かな自負と、長年積み重ねてきた実践の重みがあると感じた。強みだけでなく弱みも含めて公開できるその透明性こそが、信頼される学校づくりの根幹なのだと痛感した。本校やコンソーシアムとしても、このような誠実さや継続性を土台に据え、「学生にとって価値ある学びとは何か」を軸に教育を再構築していく必要があると強く感じさせられる視察研修であった。[3 校に共通](専門学校)

オ　視察研修の成果を活用する方向性

○オープンスクールに在校生も参加されており、在校生の様子を見て入学する生徒も出てきているということであった。本コンソーシアムの取組でいうと、高校での実証講座に専門学校生が参加する、あるいは企業による実証講座に若手社員が参加するなど年齢が近い先輩と接することが刺激になると考えられるので、このような実証講座の形式が継続できるよう考えたい。

○公認会計士のことがあまり知られていないという話があったが、IT の仕事でもプログラマーのイメージしか思い浮かばない傾向もあるので、クリエイティブな仕事も含めて、多様な職種について知ってもらえるような取組を考えたい。

○高校と大学７年間の接続については、大学ごとに多様性をもった接続のかたちであった。高校と専門学校との接続はどういうかたちがいいのか、最終的に企業への就職

に向かうこともふまえて、効果的な接続のかたちをさらに考えていきたい。

○ほかの視察先とも共通しているが、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていると感じた。本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組による学校、企業、行政の各主体の成果と負担を整理しながら、持続可能で効果的な取組を考えたい。

(3)　京都市立堀川高等学校

ア　日程・訪問者等

○日時：令和 7 年 10 月 15 日（水）

○受入先：堀川高等学校　2 名（校長、副校長［副校長中心にて対応］）

○訪問者：10 名

宮崎県立宮崎商業高等学校（校長）
宮崎県立延岡商業高等学校（校長）
宮崎県立宮崎商業高等学校（教諭）
宮崎県立都城商業高等学校（教諭）
宮崎県立延岡商業高等学校（教諭）
宮崎県立富島高等学校（教諭）
宮崎情報ビジネス専門学校（校長）
学校法人宮崎総合学院（副理事長、企画課長、企画課担当）

○内容：企業や大学など外部との連携、探究の取組などに関する意見交換

イ　事前に想定した質問事項等

○事前にお送りした主な質問項目

1　探究について
(1)探究授業について
(2)探究における外部との連携
(3)外部との連携の課題
(4)探究による意識の変化等

2　探究以外での大学・専門学校、企業等との連携について

3　生徒の変化等について
・学力、主体性、目的意識など

4　情報系の学びについて

5　進路について

○「高・専の接続・連携」「高・専と企業との連携」について、感じている課題等（個別コメント）

・生徒がやらされ感ではなく、自分ごととして探究に取り組めるように導くことが課題である。また、「問い」の質がまだまだ低い。また、教員の指導技術において、ファシリテーターとしての役割が求められることから、生徒の思考を引き出すスキルが必要であり、そのための研修が必要である。（高校）
・教員側に「時間的余裕」や「指導スキル」の課題があり、探究型の授業展開が属人的になりがちである。（高校）
・全教員が共通理解をもって指導できる体制がまだまだ未整備（高校）
・形式的に「探究」として扱っていても、「問い」が浅く、調べ学習にとどまるケー

スも見られる。(高校)
・探究的な学びを主体的に取り組む生徒の育成が課題。そもそも仮説を立てるまでのプロセスを理解してくれない、というよりも理解しようとしない。また、生徒がそのような状況の中で、本校の探究の時間は毎年試行錯誤を繰り返しており、組織としての方向性が定まっていない。(高校)
・探究的な学習については、他の学校がどのような取り組みをしているのか非常に気になっているところでした。年間の取り組み内容、最初の導入などどう進めていけばよいのか分からないことが多く、専門的に知識を持った教員が少ないことが課題である。(高校)
・生徒の意欲をどのように引き出すか。探究学習ではなく、単に調べ学習に終始してしまっていると感じる部分がある。(高校)
・高校生については、専門分野への興味・関心のきっかけをどうつくるか、専門学校生については、就職に向けた意識付けをどうするか。(専門学校)
・専門学校は本来、学生が自らの興味や関心のある分野を専門的に追求する場であるはずだが、現場では資格取得に関する説明や支援が中心となり、探究的・追求的な学びに触れる機会が少ないと感じる。また、学生の私生活(アルバイトなど)を重視するあまり、授業時間内以外での学びに対して教員が積極的に働きかける姿勢が弱まっているように見える。その結果、学生の主体的な学びを促す仕組みが弱いのではないかと感じる。こうした状況は外部から見ると、学校としての方向性や教育姿勢が不明瞭に映る可能性があり、「どう見せるか」「どう伝える」という点でも課題である。学校として他にも強みになる要素があるはずであり、それをどう発信し、どう教育活動に落とし込むかが問われている。(専門学校)

○今回の視察研修で明らかにしたかったことや聞いてみたかったこと等(個別コメント)

・堀川高校の探究活動の取り組みや学校経営について聞いてみたかった。(高校)
・探究活動をする上で、それを指導・サポートするティーチング・コーチングが重要になってくるが、どういったことに重きを置いて指導されているか。(高校)
・探究学習に対して意欲を持って主体的に取り組む生徒をどのように育てているのか。(高校)
・インプット期の内容。(高校)
・数理探究をしている生徒の研究テーマなど。(高校)
・どのような探究活動をしているのか。(高校)
・どのような形式で探究学習を行っているのか。(一斉教授型・個別学習型・クラス横断型など)(高校)
・探究学習を行う上での注意すべき点・気をつけなければならない点(高校)
・探究学習に対しての興味関心をどのように醸成させるか。(高校)
・探究に特化した理由、またそれが成功に結び付いた背景が知りたかった。やはり京都市教育委員会が中心となって、校長をはじめ教員をある程度長く赴任させ、プログラムを確立したことが成功の理由なのかなと思った。(高校)

・探究に取り組む体系的な仕組み、非認知能力への効果、外部連携の状況（専門学校）
・探究活動を進めるうえでは、生徒の主体性を引き出すティーチングやコーチングの在り方が重要になると考えます。先生方は指導やサポートを行う際に、どのような点を重視されているのでしょうか。（専門学校）
・探究活動を通して、生徒が「物事に興味・関心を持ち、自ら調べ、考え、気づきを得る」ことや、「自分の言葉で説明する力」を育成していると思います。入学時点からそうした力をある程度持っている生徒と、そうでない生徒がいると思いますが、探究活動を経て、入学時と卒業時でどのような変化や成長の割合の違いが見られるかをお伺いしたいです。（専門学校）

ウ　結果概要（視察研修先における取組内容等）

・生徒に主体的に勉強してもらうために教科の授業時間を少し減らして、1 年生では週 1 コマ、学びのアセスメントの時間（生徒が自分たちで、生徒同士で学びあう時間）を設けている。中学に比べて高校では学びが高度化するのでついていけなくなる生徒が最近多いので、学び方をもう 1 回自分の中で整理して力をつけてほしいため。
・探究については「探究=答えが用意されていない『問い』に対し、正しいと思える『答え』を導き出す営み」と定義づけしている。
・探究の授業は非認知能力には非常に高い効果がある。単なる調べ学習ではなく、生徒自身が思った「知りたい」をもとに、自分の納得する答え、論理的に説明可能な答えを導き出す体験をしっかりさせることで、非認知能力の力がつくように思っている。
・入学してから半年間くらいで丁寧に知りたいことの掘り下げ方を生徒と一緒に話し合ったり、先生が自分の大学時代の研究経験を紹介したりして、工夫しながら指導している。
・入学したてのころは楽しみながら興味関心を広げて、1 年後期では少人数講座に分かれてゼミ活動をしている。2 年前期に論文を書いて発表して、2 年後期になると、個人探究、グループ探究、下級生のゼミに加わるファシリテート探究から生徒に選ばせている。2 年生後期の探究は自由な参加スタイルで、活動した分、先生にハンコをもらうかたち。
・大学院生（TA）との対話により探究が充実するとキャリア発達につながるのがポイントのひとつ。将来、自分がどうやって生きていくかなどをかんがえるきっかけが得られる。探究を 2 年間真剣に取り組む中で、将来社会とどのように関わって生きていきたいか（＝自己実現。遠い未来）を想定できるようになり、そのために必要な環境である大学（学部・学科・専攻・研究室等）を近い未来として目標設定できることで受験勉強にも力が入るという仕掛けがある。
・探究の他の教科への効果としては、学習意欲と主体性の向上。例えば、1 年生の物理ゼミの生徒は、物理は 2 年生からなので授業では勉強していないが、 2 年生の教科書を借りて勉強している。こういうこと（主体的な学び）を一例に、教科・科

目・履修順（学年）などの枠組みにとらわれず、学びに取り組んでいくことは探究的に取り組む力を育てる上での一つの重要な考え方と思う。

・生徒主体の活動は盛んで、オープンスクールのキックオフミーティングには、1年生が160人くらい集まった。その生徒が学校説明会を1か月後にやってくれる。

・非認知能力については、あらゆる取組で身につくと考えている。委員会活動も探究活動とほぼ同じで、目的をもって、そのためにはどういったことを解決したら目的に近づけるかというのを定めて、そのために必要なステップを考えて、それを1つ1つ試行錯誤しながら解決していって、仲間と助け合うとスピードアップできるとかを体験して、その結果を考察することで自分ができたこと、できなかったことがわかる。

・外部連携の課題としては継続性と予算。大学院生（TA）が集まるかどうか。また、学校は単独で予算をあまり持っていないので、うまく研究開発費等を獲得できるよう工夫する必要がある。卒業生がいる省庁や研究機関などが生徒の訪問を受け入れてくれたりするので、卒業生は外部連携にも役立っている。

・進路実現について、なにより生徒がやる気にならないと難関大学の合格などおぼつかない。「二兎を追え」（教養を獲得する学びやそれを活用する探究活動に取り組むことと、受験勉強に取り組むこと）というのが学校をつくったときから。受験勉強と探究を別物に感じないよう、生徒に常にこのことを意識させている。両方とも同じフィールドで自分の教養を獲得する取組というようになってきたら、おそらく行きたい環境が見いだせる。探究をやっているから進学実績が上がったとも言えますし、もう少し具体的に言えば、探究を通して「知りたい」という生徒の気持ちが高まったり、課題解決に取り組むことを通じて学びへのハードルが下がったり、自身の「知りたい」をもっと深めていきたいと挑戦する気持ちが高まる中で、妥協せず第一志望を目指す生徒が多く生まれるというのはあると思う。

エ　結果概要（個別コメント）

○今回の視察研修での成果（参考になったこと、印象に残ったこと、応用したいと思ったこと等）

・学校が「探究」について、「探究基礎」や「探究五箇条」等を整理し、生徒と教員が「探究」とは何かをしっかりと共有するシステムが参考になった。また、堀川高校が難関大学合格者を大幅に伸ばした背景には、この独自の「探究」活動が深く関わっていると思った。（高校）

・「探究」とは同校で「『用意された答え』がない『問い』に対して、『正しいと思える答え』を導き出す営み」と定義されており、問いの立て方・調べ方・記述・筋道を立てる方法・答えを検証する方法などの“探究の作法”を学ぶことを目指していている。活動は段階的に構成されており、1年次には「HOP／STEP」で興味を発見・ゼミ形式（生徒10名に教員2名、TA1名［ティーチングアシスタント大学院生限定］でサポート）に取り組み、2年次には「JUMP／Academic Project」で個人研究・グループ研究・論文作成へ、と展開されており、大学院生がロールモデルになっている。（高校）

・外部との連携課題について、一番は予算も含め継続性である。TA(大学院生)は、基本、募集してきてくれるか。企業の方は、「教育」に興味を持ってくれるかどうか。生徒をよりよく刺激する「ホンモノ」に出会わせてくれる仕掛けが必要。最近は、卒業生を活用しての学びの機会を模索することも。(高校)
・探究活動が「自分の好き・興味」から始まるため、生徒にとって“自分ごと化”しやすく、学びに対して内発的な動機づけが生まれやすい。また、こうした姿勢が学年を通じて継続されることで、「学び続ける力」「自ら進んで知を拡げる姿勢」が育まれる基盤となっていると考えられる。(高校)
・研究テーマを掲示板に掲げ、メンバーを集める方法が協調性や主体的な学びの育成につながるのではないかと思った。(高校)
・大学院生を活用した探究活動の充実化。(高校)
・大学院生が TA として、ゼミ形式で高校にかかわりを持っていることが印象的であった。環境が良いのはもちろんであるが、ここまで取り組みを続けていくことは大変だったと思う。これと同じことはできないと思うが、いくつか参考にしたいと思うことがあった。(高校)
・学年統一の授業コマ数ではなく、段階的に授業コマ数が少なくなり 3 年生は時間的余裕ができるようなカリキュラム(進路に向けた動きをできる)。(高校)
・コンクール等に自分たちで掲示板に募集をかけ、仲間を集める方法。(主体的に行動する力の育成)(高校)
・分野ごとの探究学習の実施。部分的な教員だけではなく、学校全体で取り組んでいる点が魅力的であり、1 つの探究学習に 2 名の教員がついている点も非常に良かった。(高校)
・「探究」に特化した高校として、全国的にも有名であるにも関わらず、定員の充足には苦労があると聞き、少子化や私立高校無償化の影響は少なくないのだなと感じた、また、京都市では探究学習が他の高校でも積極的に行われているため、差別化が今後の課題になるのかなとも思った。(専門学校)
・「探究」科目を中心に生徒のやる気が非常に高く、進学実績に繋がっている。専門学校では「探究」の時間は無いが、一部でも真似ができるところがあればと感じた。(専門学校)
・いわゆる受験勉強と、探究学習を両立させているところが素晴らしいと感じた。学科の改編で、すべてを探究に特化したクラスにされるとのことだったが、とんがった特色ある学校として、中学生にアピールするには良いのかと思った。教職員の方の情熱が不可欠だと思った。(専門学校)
・印象に残ったのは進学実績(専門学校)
・生徒同士で学びあう「学びのアセスメント」の時間や 2 年後期の自由な参加スタイルの探究などは、専門学校でも学習レベルに差がある学生の学びをどうするかというときの 1 つの学習スタイルとして参考になると思う。(専門学校)
・TA として参加した大学院生にもフィードバックすることで、力をつけてもらうという話があったが、専門学校生や若手社員自身のためにもなるということが、専門学校生や若手社員の継続的な参加の 1 つの解決策として考えられる。(専門学校)

・外部連携には卒業生を活用することも身近なロールモデルとして、有効だと考えられる。（専門学校）
・堀川高校では、「自立する 18 歳の育成」という理念のもと、27 年ほど前から探究活動に取り組んでおり、その体系的な仕組みと継続力に強い印象を受けた。探究の定義が明確に示されており、生徒は何を学び取るのかを理解した上で主体的に取り組めるようになっている。入学後半年間は教員がファシリテーターとして関わり、生徒の意欲を丁寧に引き出していく。また、大学院生を TA として配置し、教員だけでは補いきれない部分を支援しているのも特徴的だった。探究活動を支えるためのカリキュラムの組み方に工夫もなされており、より手厚いサポートができるように探究の時間を学年ごとに曜日を分けているというのも印象的だった。（専門学校）
・探究活動は教科ごとのゼミ形式で行われ、ベテランと若手の教員がペアで担当することで、教育の質を高く保っている。さらに、外部有識者会議を設けて定期的な振り返りを行い、改善と継続の仕組みを確立している。こうした取り組みの結果、生徒自身がオープンキャンパスの企画や運営を自主的に行うなど、主体的な学びの姿勢が自然と根付いていることが印象的であった。（専門学校）
・探究の成果を発表し、さらに上級生が後輩を指導するという循環的な学びも効果的であり、大学教育へのスムーズな接続が図られている。大学のゼミ運営の「予行練習」としての意義を実感した。（専門学校）
・また、探究メンバーの募集を掲示板で行い、生徒自らが参加を表明する仕組みは、主体性を育む工夫として参考になった。スーパーサイエンスハイスクールとして大学院生と関わることで、自らの課題を認識し、成長につなげる構成も印象に残った。（専門学校）
・最後に、理念を大切にしながら 27 年目を迎えた堀川高校の探究の取り組みに深い感銘をうけた。教職員の異動など困難な状況の中でも一貫した理念のもとに教育改革を継続してきたことは、組織運営の面からも大いに参考になった。（専門学校）

○今回の視察研修での成果を本コンソーシアムや各校での取組に応用する場合の課題等

・高校・専門学校・企業の連携の情報分野における、「探究」活動を行う場合、どのような形で行うかを協議する時間がないことは課題である。（高校）
・堀川高校は大学連携や院生 TA など、専門的支援が豊富であったが、商業高校では、探究を指導できる教員が限られることが多く、どうしても属人的になりやすい。
課題として、「教員の探究指導スキルや時間の差が大きい。」「特定教員の力量に依存し、継続性が担保されない。」「探究に時間を割くと、資格・検定・実習が疎かになる恐れ。」といったことがある。（高校）
・探究の発祥の地とも言われている堀川高校を視察できたことで、専門高校として普通科高校と違った特色ある探究活動を目指さなければならないと再認識できた。生徒のアチーブやアドミッションポリシの違いで同じような探究は実施できない

が、現在一部の３年生が課題研究で専門学校の先生に来て頂いているが、高専連携事業として高校ではできない、より専門的な探究における学びが構築できるのではないかと考える。そのためには、高専連携の研究が終了してもこの取り組みができるための費用面や専門学校の先生の持ち授業数など、いろいろと課題も多くはあると思う。（高校）

・堀川高校で取り組んでいることを応用する場面はなかなかないと思うが、いくつか参考にしたいと思ったことはありました。（高校）

・学校のカリキュラムの変更をどのように行うか。また、教員全体を巻き込んでどのように探究学習を実施するかというシステム構築。（高校）

・受け入れている生徒、学生の基礎学力が違うが、プログラムを常に最適化する努力や、狙っている生徒層への訴求力、また教職員のやる気を引き出す努力は、うちにもできるのではないかと思った。（高校）

・外部との連携の効果を強調されていた。大学院生が TA として参加することが、探究の質の向上だけでなく、大学院生がロールモデルとなることによる生徒のキャリア発達にもつながっているとのことであった。このような取組は専門学校生や企業の若手社員が高校（あるいは専門学校）に出向いて授業を行うことにも近く、高校生や専門学校生に年齢が近くロールモデルとなるような専門学校生や若手社員の参加について、継続できるような仕組みづくりが課題と考える。（専門学校）

・堀川高校のような探究的な学びを各校で応用するには、まず「理念の共有」と「教職員の意識改革」が最大の課題になると考えられる。探究活動は一部の教員の熱意や個別の授業工夫では成立せず、学校全体が共通の目的意識を持つことが前提となる。高校では探究活動に取り組んでいるが、専門学校では資格取得や就職支援が中心となっており、「探究的学び」を教育の核として捉える意識が十分に浸透していない。（専門学校）

・また、堀川高校のように教員がファシリテーターとして関わり、大学院生や外部有識者を巻き込んだ協働体制を構築するには、時間的・人的な余裕、そして運営面での支援体制が必要である。限られた授業時間の中で、どのように探究の時間を確保し、教員負担を分散させるかは大きな課題となる。（専門学校）

・さらに、学生の主体性を引き出すためには、評価の仕組みの見直しも必要である。知識・技能中心の評価ではなく、思考過程や発表力、協働的姿勢などを重視する評価体系への転換が求められる。そのためには、教員自身が探究的な授業設計や対話型指導に慣れ、経験を積む機会を組織的に設けることが欠かせない。（専門学校）

・最後に、学校としての取り組みを社会や地域にどう発信し、外部との連携を築くかも課題である。堀川高校のように理念と実践を一貫して示し続けることで信頼と共感を得ていくことが重要であり、コンソーシアムとしても「探究的学びを軸としたブランディング」をどう確立するかが今後の鍵になるだろう。（専門学校）

○その他の感想や意見について

・堀川高校の探究活動は、「自ら問い、探り、表現し、振り返る」という一連の学び

のサイクルを高校段階から意識的に構築しており、そのことが生徒の学びに対する姿勢・自立性・進路意識・学力向上といった多面的な影響をもたらしていると考えられる。「探究を経験したことで、答えが明確な受験勉強がむしろシンプルに感じられた」という卒業生の声も紹介されており、探究活動が生徒にとって学びの“核”となることを目指していることが読み取れた。（高校）

・探究ノートがどのような中身で作られているか非常に気になった。（高校）
・自分が中学生だったら、通ってみたいような高校でした。（高校）
・探究の科目についてはヒントとなる事があったと思われる。（専門学校）
・探究がカリキュラムの中で独立しているのではなくて、教科の学習や生徒参加の学校行事、非認知能力への効果など学校全体の軸として機能していた。専門学校の場合は、探究の代わりに職業教育が軸になるのかもしれないが、一本の軸を通して、学校全体の取組がまとまるというような考え方は大変参考になった。（専門学校）
・大学院生の TA を集めることなど、限られた予算の中でご苦労されているが、現在 TA である大学院生から後輩の大学院生への口コミやこれまでの大学の先生とのつながりなども活用しながら、努力されていることが取組姿勢として非常に参考になった。（専門学校）
・今回の視察研修を通して、改めて「教育の本質は人の意欲をどう引き出すか」にあると感じた。堀川高校の取組を見て、制度やカリキュラムの整備も重要だが、それ以上に一人ひとりの教員が理念を理解し、生徒と誠実に向き合う姿勢こそが学校文化を形づくるのだと実感した。

また、探究活動の根底にある「問いを立てる力」や「失敗を恐れず試行錯誤する姿勢」は、専門学校教育にも欠かせない視点であると感じた。今後は、資格取得や就職支援といった短期的成果に加え、学生が“自ら考え、行動できる力”を育てる教育の在り方を、組織全体で再考する必要がある。

さらに、こうした学びの仕組みを一過性の取り組みで終わらせないためには、理念を共有し合う場や、他校・地域との情報交換を継続的に行うネットワークづくりも大切だと感じた。今回の視察をきっかけに、本校の強みを再確認しながら、学生の主体性をより引き出せる教育体制づくりを模索していきたい。（専門学校）
・今回、関西で訪問した 3 校に共通していたのは、「学生にとって何が最善か」を常に基点に据え、その考えをもとに学校の強みを戦略的かつ地道に積み上げてきた点であると感じた。いずれの学校も、自校の成功事例だけでなく、課題や失敗も率直に共有してくださり、その誠実な姿勢に教育機関としての成熟を感じた。こうした姿勢の背景には、「一朝一夕には真似できない」という確かな自負と、長年積み重ねてきた実践の重みがあると感じた。強みだけでなく弱みも含めて公開できるその透明性こそが、信頼される学校づくりの根幹なのだと痛感した。本校やコンソーシアムとしても、このような誠実さや継続性を土台に据え、「学生にとって価値ある学びとは何か」を軸に教育を再構築していく必要があると強く感じさせられる視察研修であった。［3 校に共通］（専門学校）

オ　視察研修の成果を活用する方向性

○探究において、大学院生の TA の存在が大きいとのことであった。また、大学院生に TA の経験をフィードバックすることで、大学院生自体の学びにもつながるという話もあった。本コンソーシアムの実証講座においても専門学校生や企業の若手社員の方が指導に参加する場合があるが、学ぶ側だけでなく、教える側の専門学校生や若手社員にも効果があることをあらためて意識して、実証講座を計画したい。

○TA の大学院生や卒業生など、身近に感じられる存在がロールモデルにつながっている面もあるため、本コンソーシアムの実証講座においても高校・専門学校の卒業生に協力してもらうことも考えたい。

○専門学校では本来、専門分野へ就職する目的をもって入学するのが本来であるが、就職に対する目的意識が明確でない学生もいるのが実情である。
堀川高等学校では、探究について「答えが用意されていない『問い』に対し、正しいと思える『答え』を導き出す営み」と定義づけされていたが、自分が就きたい仕事あるいは自分がやりたいことを見つけることも突き詰めて考えると探究に近いのではないかと考える。就きたい仕事あるいはやりたいことが見つかると主体的な学びにつながっていくのではないか。
こうしたことから、実証講座においても、探究的な要素を盛り込むことも考えていきたい。

○ほかの視察先とも共通しているが、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていると感じた。本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組による学校、企業、行政の各主体の成果と負担を整理しながら、持続可能で効果的な取組を考えたい。

(4)　茨城県立 IT 未来高等学校

ア　日程・訪問者等

○日時：令和 7 年 12 月 18 日（木）

○受入先：IT 未来高等学校　3 名（校長、教頭、IT 科長）

○訪問者：9 名

宮崎県教育庁高校教育課（主幹）
宮崎県立宮崎商業高等学校（教諭）
宮崎県立都城商業高等学校（教諭 2 名）
宮崎県立延岡商業高等学校（教諭）
宮崎県立富島高等学校（教諭）
宮崎情報ビジネス専門学校（教員）
学校法人宮崎総合学院（企画課長、企画課担当）

○内容：AI・データサイエンスを中心としたシステム系の教育及びクリエイティブ系の教育に関する意見交換

イ　事前に想定した質問事項等

○事前にお送りした主な質問項目

1　学校の特徴
・設立経緯や学科の特徴、卒業後の進路など

2　情報系の学びについて
(1)AI、データサイエンスについて
(2)プログラミングについて
(3)ネットワーク、セキュリティについて
(4)クリエイティブ的な学び［映像、デザイン、Web など］(情報デザインコース)
(5)デジタル学園祭 2025 について

3　外部との連携について
(1)企業、大学、専門学校、行政等との連携状況
(2)いばらき P-TECH について

4　生徒の状況等について
・学力、主体性、目的意識など

5　その他
・推奨している資格試験ほか

○「高・専の接続・連携」「高・専と企業との連携」について、感じている課題等（個別コメント）

・IT 未来高等学校は LLM などの高度な IT 教育を実践しているが、このような IT 教育を実践できる教員がいないのが現状で、外部講師に頼らなければならない現状にある。クリエイティブ系のデザイン指導においても芸術科の教員が授業横断的に指導するなどの取り組みがあるが、連携するための調整等が難しく、このような点はどこの学校も課題ではないだろうか。（高校）

・システム系の課題としては、高校卒業後にシステムエンジニアやプログラマーとして活躍できるような技術や知識の習得までは行きついていないことである。クリエイティブ系としては、高校卒業までにある程度の技術は習得できるものの、デザイン性や美術に関する感性などを育てるまでに到達できていない。（高校）

・現在、AdobeCreativeCloud が導入されているが、その期限がもうすぐ迫っている。契約の問題ならびに今後どのように実施されていくのか？（高校）

・指導者がいない　→　教科「情報」の教員ではないため大学等の教員養成課程の中でデザインやデータサイエンスの勉強をしてきていない。また、データサイエンスでは数学的な知識も必要となってくるが、数学的な知識を有している教員も少ない。

指導の困難さ　→　クリエイティブ系ではツールなどの説明は出来るが、センス的な部分の指導が難しい。色のバランス・配置など（自分はデザインのセンスがないため特に）（高校）

・専門性が高くなればなるほど要求されるスキルが高くなり、実績を求めようとすると学生にもそのスキルを要求することになる。教員側も学生側も負担が大きくなる。（専門学校）

・高校における AI・データサイエンスの指導やレベル設定、クリエイティブ系の指導体制（専門学校）

・システム系では、宮崎県内の商業高校においては学科改編により、情報ソリューション科が設置されたが、AI・データサイエンス分野については、内容設定や指導方法など試行錯誤されているところもあるようである。（専門学校）

・クリエイティブ系では、デザイン分野においても、現在は IT の活用が不可欠であり、デジタルツールやソフトウェアを前提とした教育が求められている。しかし、県内では専門的なデザイン指導が可能な教員の確保が難しい。（専門学校）

○今回の視察研修で明らかにしたかったことや聞いてみたかったこと等（個別コメント）

・宮崎県の定時制単位制高校との違いについて。（高校）

・外部講師の選定や依頼の流れ。（高校）

・探究活動について。（高校）

・実践的なプログラミング力をどのように付けさせているか。（高校）

・進路実績。特に情報系のある学部。（高校）

・県立学校としてのメリットとデメリット。ハードとソフト面からの学習環境。進

学率と就職率について。特に、ＩＴ企業への就職がどのくらいあるのか、求人数も含めて聞きたかった。（高校）
・AI を商業がどの程度教えていけば良いか。（高校）
・カリキュラムについて（高校）
・定時制課程としてどのようなカリキュラムで行っているか。（高校）
・どのようにして国公立大学などの進学者を輩出しているのか。（指定校 or 総合型）（高校）
・教育内容と進路の関連性：IT（AI、プログラミング等）の学習内容が、具体的にどのような進学先や就職先に結びついているのか、その実態の把握。（高校）
・最先端技術の教育実践：AI エンジニア育成に向けた LLM（大規模言語モデル）や RAG（検索拡張生成）などの最新技術を、どのように授業に落とし込んでいるかの確認。（高校）
・外部連携の仕組み：大手 IT 企業や外部人材を年間 13 人も招聘する、高度な産学連携体制の具体的な運用方法。（高校）
・授業内容やレベル感（専門学校）
・情報系に力を入れている高校では AI・データサイエンスの指導やレベル設定がどうなっているか、クリエイティブ系の指導体制がどうなっているか。（専門学校）
・教育内容の難易度設定と生徒の理解段階との調整、生徒に苦手意識を持たせないための工夫（専門学校）
・理論偏重にならず、「使いながら理解する」形で先端技術を高校教育に落とし込む方法（専門学校）
・システム系教育、クリエイティブ系教育における外部講師等の外部人材の確保と活用（専門学校）
・専門学校・企業・大学がどのようなかたちで関与しているのか（専門学校）
・専門学校が関わる場合の具体的な連携内容（専門学校）
・連携先拡大に伴う課題や、負担を抑えるための工夫（専門学校）

ウ　結果概要（視察研修先における取組内容等）

・3 年前の開校。IT の単科高校。
・県としては学校開設にあたり、探究プロジェクト学習を実践的に行って、「豊かな人間性と起業家精神を兼ね備えた、次世代を担う IT 人財を育成する。」ということを教育目標に設定した。
・授業はエビデンスに基づく教育活動に則って行っている。教育目標としてはトップレベルの IT 人財の育成ということになるが、授業の中だけでは難しいため、トップレベルの育成については課外活動を中心に取り組んでいる。家庭では自律的な学習活動を促していただく。この 3 つ（授業・課外活動・家庭）を組み合わせることで地域に支えられて学校教育を行っている。
・エビデンスに基づく教育活動については、根底に学習意欲があって、ベースとしては高校生に求められる基礎学力の確実な習得。その上に 4 つの柱、論理力、プログラミング力、情報活用力、英語力、その上にプレゼンテーション力があって、

資格取得やコンテスト応募、その上でトップレベルの IT 人財の育成を目指す。

・プログラミング力については、プログラミング能力検定で能力を測る。普段の授業では paiza ラーニングを活用しており、その他、ZEN Study やスタディサプリなどのオンライン教材を積極的に活用している。

・コンセプトとしては、「創りたいものを思いのままに」ということで、Adobe の Creative Cloud の個人アカウントを配付するなど生徒が自由に創れる環境を目指している。

・探究的プロジェクト学習として、1 年生のときに IT セミナーという総合的な探究の時間を使って、菊の潅水装置をつくったり、外部講師を呼んで講演をしたりしている。その他、情報実習などで知識・スキルを学んで、3 年次の課題研究につなげるというかたちで、探究活動を中心にした学校教育を行っている。

・1 年次にラズベリーパイを活用して、菊の潅水装置を半年で仕上げる課題に取り組んでいる。もともと、菊まつりで使う菊を市内の高校で育てているということがあり、IT の高校ならではの取組として、潅水装置をつくって、菊を育てて、展示するというのをやっている。

・課外活動を充実させ、トップレベルの IT 人財を育てるということで、多くのコンテストに応募している。コンテストで成果を出すことで、総合型選抜など大学進学にもつながっている。

・部活動も特徴的で e スポーツ部に 50 名くらい入っている。

・IT 科があるのは県内で本校だけなので、県内各地から通学できるよう定時制の仕組みを活用している。

・1 年次の IT セミナーで、年間延べ 13 人くらい企業からの外部講師として話を聞いている。校長が民間出身の校長で、外部講師には校長のこれまでの民間でのつながり（人脈）も活用している。

・情報デザイン分野や資格取得などでは外部講師の方に協力していただいている。特にクリエイター関係は外部講師の確保に苦労する面がある。

・地域に愛されないと生徒が集まらないということで、地域連携を重視しており、生徒が小学生に教えに行ったりしている。

・いばらき P-TECH にも参加しており、IT 企業や地元企業との連携を行っている。

※茨城県ホームページより

「いばらき P-TECH」とは、茨城県、一般社団法人茨城県経営者協会及び日本アイ・ビー・エム株式会社（日本 IBM）の三者の連携と協力により、IT に関する知識・技術を身につけ、生涯にわたって社会で活躍する IT 人財の育成を目指す取組みで、取組を推進するために高校、茨城県立産業技術短期大学校（IT 短大）、県内企業等からなるコンソーシアムを設置している。

（https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/shokorodo/sanjin/ibarakiptech.html）

・IT 短大（茨城県立産業技術短期大学校）との連携も模索している。例えば、教員に対してのラズベリーパイの指導や基本情報技術者試験の外部講師など。また、IT 短大での短大生向けの IT 企業の紹介に IT 未来高校の生徒も参加することで、企業に IT 未来高校を知ってもらうきっかけにもなっている。

・外部のコンテストに多数応募しているが、外部と生徒をいかにかかわらせるか。生徒を外部に出すことが生徒の成長につながるということは確実に言えると思う。
・コンテストの指導でも、生徒が取り組んでいる内容に応じて、協力いただける企業にご協力いただくこともある。
・コンテストはデジ連（一般社団法人デジタル人材共創連盟）のホームページなどを参考に探している。
・基本的には就職よりも進学を目指しているが、IT セミナーをきっかけに学校の教育環境を知って、IT 企業から求人があったり、生徒がインターンシップをきっかけに就職を希望したりすることもある。
・プログラミング言語は Python に絞っている（扱いやすいため）。授業では Python しか扱っていないが生徒は課外活動では他の言語も使っている。
・LLM（大規模言語モデル）とか RAG（検索拡張生成）とかについては、理論的なことからというより、こういうプロンプトを入れたらこうなるとか、RAG はこういう仕組みだよとか実践ベースで基礎的なところを使えるようにという感じでお願いしている。教材は企業と学校とで作成した。
・課題研究のうち優秀なものは外部の方（中学校の先生や一般の方など）も含めた発表会で発表してもらう。

エ　結果概要（個別コメント）

○今回の視察研修での成果（参考になったこと、印象に残ったこと、応用したいと思ったこと等）

・募集定員 80 名（朝から登校する F 組、11 時くらいから登校する M 組）（高校教育課）
・情報システム、情報デザインの 2 コース制、修学年数は 3 年もしくは 4 年を選択可能（高校教育課）
・3 年目でありながら、国公立大学に 5 名合格（長野大学他）9 割が進学（高校教育課）
・多くの IT 関係のコンテストに参加し受賞している。（高校教育課）
・paiza ラーニング等のオンライン教材を活用したプログラミングの基礎教育が実施されており、単位数の差や遅れ気味の生徒が自宅からでも学習できる点が印象に残った。実際に本校でも paiza ラーニングを導入していたが、教育効果があまり実感できないでいたので、今回の視察訪問でメリットを聞くことで、今一度 paiza ラーニングの利活用を検討してみようと思った。（高校）
・地域から信頼されないと、定員が充足できないため、なるべく外部との関わり合いを持たせることで信頼される生徒をアピールし、その中で生徒個人が大きく成長できるといった考え方が印象に残った。（高校）
・情報理工学部や芸術工学部などへの進学率や IT 企業への就職ができているということ。3D プリンターや本格的な配信機材、ドローンなどを備えた実習室が充実していること。 e スポーツを教育に取り入れていることなどがとても本県より進んでいると感じた。

・情報系科目に特化させたことで、基礎科目の単位数が少ない。そのため、大学を一般受験できないなどの課題がある。（高校）
・ラズベリーパイを使った自動潅水装置の開発は、プログラムを作り、実際に稼働させるという楽しみがあり、上手く内容を変えることができれば商業高校でも応用ができる取り組みではないかと感じた。（高校）
・コンテストへの積極的な参加。昨年度、本校では「Youtube 甲子園」に参加して、入賞することができ、生徒達が前向きに取り組んでいたように感じる。こちらでコンテストを調べる手間はかかるがシステム系・クリエイティブ系関係なく取り組めそうであった。（高校）
・オンライン教材を多く活用していたこと paiza ラーニングや ZEN Study などが使われており、費用面の対応は必要だが外部の資源を活用する形は今後検討していかなければならない点だと思う。（高校）
・共通テストへの対応：現在のカリキュラムでは、数学、英語、情報の「大学入学共通テスト」に十分に対応しきれない点が課題として挙げられていた。（高校）
・基礎学力との両立：英語教育については、2 年次で英検 2 級取得を目指すなど、外部試験を活用して補完する形をとられていた。（高校）
・指導の外部活用：Adobe 等のデザイン系資格取得や、高度な専門スキルの習得については外部委託や外部人材を活用されていた。（高校）
・実践的な AI 教育の展開：実際の授業でも LLM の実習や RAG についての深い学びが実践ベースで展開されていた。（高校）
・戦略的なコンテスト活用：単に応募を促すだけでなく、戦略的にチームを組ませ、勝てる体制を整えることで生徒の主体的な成長と実績に繋げられていた。（高校）
・充実した学習環境とツール：ハイスペック PC の完備に加え、paiza ラーニングのフル活用、県から支給される Adobe アカウントなど、自宅でも継続して学習できる環境が整備されていた。（高校）
・産学官の連携：大手 IT 企業の講義による進路意識の向上や、市役所からの採用ニーズなど、地域や産業界と密接になっていた。（高校）
・コンテストへの積極的な参加。および企業との連携。また、学生を小学校や中学校へ派遣（専門学校）
・IT 未来高校では外部コンテストに積極的に参加されており、また、外部コンテストに参加することを通して、教員以外の外部の方に教えてもらうなど外部とのつながりを通して、生徒の成長につながっているということであった。
また、企業の方に講師をお願いしている 1 年次の IT セミナーもキャリア教育の上で成果があるということであった。本コンソーシアムでも企業に協力をいただきながら、通常の高校の授業では提供できないような学びの機会を考えていきたい。（専門学校）
・地域に愛されないと生徒が集まらないということで、地域との連携を大事にされており、学校と地域との関係の大切さをあらためて認識した。本コンソーシアムのつながりも活用しながら、生徒・学生の学びにもつながるような地域との連携が充実できるとよいと思う。（専門学校）

・IT 未来高等学校では、e スポーツを地域活動の一環として位置付け、ケアホーム等を訪問しゲームを活用した交流イベントを実施している。この取組は、単なるゲーム体験にとどまらず、高校生と共に活動することで世代間交流が生まれ、参加者にとって「リハビリ的な活動」という受動的なイメージではなく、「イベント」として前向きに捉えられる取組となっている点が特に印象的であった。（専門学校）
・e スポーツ部の活動内容も工夫されており、部内にはゲームをプレイするグループと、ゲームを制作・開発するグループが存在している。中には、両方のグループに参加している生徒もおり、「プレイする側」と「作る側」の双方の視点を持つ学びが実現されている点も特徴的であった。このように、e スポーツを競技や娯楽にとどめず、社会や地域との接点として再定義している点は、e スポーツが持つ教育的・社会的価値を大きく広げる実践例であり、本法人およびコンソーシアムにおいても、取り入れたい取組であると感じた。（専門学校）
・先生方がコンテストの情報を意欲的に収集し、探究活動や課外活動などを通じて、生徒の積極的な取り組みにつながっている。多くのコンテストに挑戦することで、自らの作品が他者に評価される経験を重ねることで、生徒の自己肯定感を高めることにもつながる。さらに、こうした評価や実績が可視化されることで、学習意欲の継続につながり、最終的には就職や進学における経歴・実績として蓄積されていく点に、大きな意義を感じた。
これらの取組を支えている背景として、先生方が常に外部へアンテナを張り続けている姿勢が挙げられる。先生方はコンテスト情報や社会動向に日頃から関心を持ち、生徒一人ひとりの特性や興味関心を踏まえながら、「このテーマであれば挑戦できるのではないか」といった具体的な投げかけを行っており、その関わり方が非常に印象的であった。（専門学校）

○今回の視察研修での成果を本コンソーシアムや各校での取組に応用する場合の課題等

・LLM やラズベリーパイ等を学生向けに指導ができる企業の選定が課題。また、ラズベリーパイの購入費用等をどこで捻出するか。（高校）
・環境（設備・予算など）の問題（高校）
・カリキュラムなどの問題（高校）
・茨城県のように、県からの補助を充実させるためにも、課題を県の方に各学校から課題を挙げていくことが必要だと感じた。（高校）
・地域との連携。IT 未来高校は地域の人たちに期待されており、地域との連携が密に行われ、ただプログラムを作るのではなく、電子機器の組み立てなどの学習が行われていたが、地域人材をどのように確保して、それぞれの学校でどのような取り組みを行うかを計画しなければならないと感じた。（高校）
・コンテストの参加も授業時数も限られており、かつ商業高校でもあるので情報の活動のみ出来るわけではないので、どのように折り合いをつけてやっていくかを考える必要がある。（高校）
・外部人材の確保と予算：専門性の高い指導を外部委託したり、企業人を頻繁に招

いたりするための予算確保やネットワーク構築が各校で必要となる。(高校)
・教員の役割の変化：教員が「教える」ことよりも、探究学習や課題研究の「サポート役・伴走者」に徹するマインドセットの転換が求められる。(高校)
・教材・ライセンスの公的支援：茨城県のように県単位で Adobe アカウントを支給するような、広域的な予算措置・インフラ整備が導入の鍵となる。(高校)
・人事異動がないため各先生方が自分の授業に集中できるのは非常にありがたい事だろう。また各企業が授業をやってくれることも実践的で学生にとってもよい経験になる。ただし、仕組みづくりや、企業側の手間などを考えると、なかなか難しいと思われる。(専門学校)
・企業との連携においては、場合によっては企業の負担感との兼ね合いも課題になると感じた。本コンソーシアムでも同じような事情はあるため、企業への負担へも配慮しながら、どのように連携の効果を上げていくかということも考えていく必要がある。(専門学校)

○その他の感想や意見について

・e スポーツ部が 50 名ほど入部しているとお聞きしたが、全員が活動できる通信環境が整っているのかを聞いてみたかった。(高校)
・授業を実施するに当たって、外部人材をフルで活用している。授業、放課後活動で協力していただくことで、教職員の負担軽減にも繋げている。(高校)
・１年次より Python を学習している。(高校)
・定期考査は紙ベースで実施している。一方で評価などを考えたときに、実施回数などについて検討を行っている。(高校)
・情報の単元に工業系の内容があるため、工業科の職員が配置されている。(高校)
・前任校が定時制高校であったため、どちらかというとセーフティネットとしての学校として宮崎の定時制高校は存在しているように感じていたが、カリキュラムや目指す理想像などがしっかりと明確化されており、宮崎県の定時制高校とは一線を画していると感じた。宮崎県にもそのような高度な力をつけるための定時制高校があっても良いと感じた。(高校)
・高い実績と意欲：設立 3 年目にして、国公立大学 5 名、私立大学 9 名の合格者や、防衛省などの公務員採用、AI エンジニアとしての採用など、確かな実績が出ている。(高校)
・部活動の活性化：e スポーツ部に 50 名が在籍するなど、IT 系学校ならではの特色が部活動にも現れ、生徒の居場所と学習意欲に繋がっている。(高校)
・自立的な学習文化：家庭での学習を主軸としつつ、エビデンスに基づいた論理的思考力やプログラミング力を柱とする教育方針が、生徒の主体性を育んでいると感じられた。(高校)
・県自体が IT 人材育成に非常に力を入れている事がはっきりとわかる。(専門学校)
・開校後、まだ 3 年目ということであるが、学校のコンセプトを明確にされ、定員充足など当初の目標の達成に向けて努力されており、熱意をもって学校を運営されていることを感じた。(専門学校)

・今回の視察研修を通じて強く感じたのは、IT 未来高等学校における取組が先生方の並々ならぬ熱意と高い行動力によって支えられているという点である。校長の民間企業出身であるという経歴を生かし、多様な企業との関係を丁寧に築き上げてこられた結果が、現在の厚みのある連携体制につながっていると感じた。
また、
- 学校を知ってもらう
- 生徒を知ってもらう
- 企業・地域・自治体に学校の教育方針や取組を理解してもらう

といった相互理解を積み重ねられている点は、大変意義深いと感じた。(専門学校)
・今回の視察を通じて、先進的な教育内容や充実した設備以上に、人と人とのつながりを丁寧に育て、相手を知る・学校や生徒を知ってもらうという営みを粘り強く続けておられる姿勢は、IT 未来高等学校の大きな強みであり、本法人およびコンソーシアムにとっても、今後の取組を考える上で非常に参考となる。(専門学校)

オ　視察研修の成果を活用する方向性

○企業や IT 短大など外部と連携することで、質の高い学びや価値のある体験を生徒に提供されていると感じた。
本コンソーシアムにはすでに学校、企業、行政が含まれており、連携先を一から探す必要はないが、委託事業終了後の連携のあり方をどうするかは大きな課題である。
これまでの連携の効果を検証しながら、委託事業終了後のコンソーシアムのあり方を考えていく必要がある。

○基本的には進学を目指しているとのことであったが、企業との連携の中で、IT 未来高等学校の学びの内容や生徒の様子が企業にも共有されることで、企業側の関心も高まり、企業への就職の機会も広がっているとのことであった。
まずは、本コンソーシアム内の企業が採用したくなるような人材の養成につながるよう、実証講座をブラッシュアップしていきたい。
また、コンソーシアム外の企業との連携拡大なども図っていきたい。

○地域に愛されないと生徒が集まらないとのことで、地域との連携を重視されていた。
本コンソーシアムの取組としては、今のところ、高校・専門学校と企業、高校と専門学校といった参加主体間の連携が中心となっている。現在、行政との連携は県レベルとなっているが、市町村レベルの自治体との連携を図るほか、地域の身近な困りごとの解決などを実証講座のテーマとするなど、地域を意識した取組についても考えていきたい。

○ほかの視察先とも共通しているが、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていると感じた。本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組による学校、企業、行政の各主体の成果と負担を整理しながら、持続可能で効果的な取組を考えたい。

(5)　山形県立酒田光陵高等学校

ア　日程・訪問者等

○日時：令和 7 年 12 月 19 日（金）

○受入先：酒田光陵高等学校　5 名（校長、教頭 2 名、情報科教諭、商業科教諭）

○訪問者：9 名

宮崎県教育庁高校教育課（主幹）
宮崎県立宮崎商業高等学校（教諭）
宮崎県立都城商業高等学校（教諭 2 名）
宮崎県立延岡商業高等学校（教諭）
宮崎県立富島高等学校（教諭）
宮崎情報ビジネス専門学校（教員）
学校法人宮崎総合学院（企画課長、企画課担当）

○内容：AI・データサイエンスを中心としたシステム系の教育及びクリエイティブ系の教育に関する意見交換

イ　事前に想定した質問事項等

○事前にお送りした主な質問項目

1　学校の特徴
・設立経緯や学科の特徴、卒業後の進路など

2　情報系の学びについて
(1)AI、データサイエンスについて
(2)プログラミングについて
(3)ネットワーク、セキュリティについて
(4)クリエイティブ的な学び［映像、デザイン、Web など］
(5)教科（学科）横断的な取組ついて

3　外部との連携について
・企業、大学、専門学校、行政等との連携状況

4　生徒の状況等について
・学力、主体性、目的意識など

5　その他
・推奨している資格試験（情報系）ほか

○「高・専の接続・連携」「高・専と企業との連携」について、感じている課題等（個別コメント）

・酒田光陵高校は普通、工業、商業、情報が設置されているため、学科を横断した授業や探究といった取り組みができるが、本校のような独立商業高校は難しい。令和 7 年に宮崎県産業教育審議会から「新たな時代を切り拓く産業教育の在り方についての答申で、学科間連携の重要性が示されているが、同一高校であれば可能

であろうが、なかなか他校との連携は難しい。課題研究の単位数の問題や、評価の問題など課題が多くある。（高校）

・システム系の課題としては、高校卒業後にシステムエンジニアやプログラマーとして活躍できるような技術や知識の習得までは行きついていないことである。クリエイティブ系としては、高校卒業までにある程度の技術は習得できるものの、デザイン性や美術に関する完成などを育てるまでに到達できていない。（高校）

・現在、AdobeCreativeCloud が導入されているが、その期限がもうすぐ迫っている。契約の問題ならびに今後どのように実施されていくのか？（高校）

・指導者がいない　→　教科「情報」の教員ではないため大学等の教員養成課程の中でデザインやデータサイエンスの勉強をしてきていない。また、データサイエンスでは数学的な知識も必要となってくるが、数学的な知識を有している教員も少ない。

指導の困難さ　→　クリエイティブ系ではツールなどの説明は出来るが、センス的な部分の指導が難しい。色のバランス・配置など（自分はデザインのセンスがないため特に）（高校）

・学科間の境界の形骸化：従来の「工業（情報技術）」と「商業（情報処理）」という区分けが、近年の高度なシステム発達により実態と乖離し始めており、線引きを維持することの妥当性が課題となっている。（高校）

・専門教員の確保と育成：AI やデータサイエンスといった急速に進化する分野において、高度な指導力を備えた教員をどのように継続的に確保・育成していくかが、教育の質を維持する上での大きな懸念点である。（高校）

・理論と実践の乖離：数学的な理論理解に偏り、実際のプログラム動作や社会課題解決への応用（AI モデルの実装など）まで至らないケースが多い。（高校）

・多くの技術が登場する中で、学生が覚えなければならない知識が非常に増えた。身近に IT がある割に学生は無頓着で、知識があまりない状態で入学してくるため、教えきれない。もしくは覚えきれない。（専門学校）

・高校における AI・データサイエンスの指導やレベル設定、クリエイティブ系の指導体制（専門学校）

・システム系では、宮崎県内の商業高校においては学科改編により、情報ソリューション科が設置されたが、AI・データサイエンス分野については、内容設定や指導方法など試行錯誤されているところもあるようである。（専門学校）

・クリエイティブ系では、デザイン分野においても、現在は IT の活用が不可欠であり、デジタルツールやソフトウェアを前提とした教育が求められている。しかし、県内では専門的なデザイン指導が可能な教員の確保が難しい。（専門学校）

○今回の視察研修で明らかにしたかったことや聞いてみたかったこと等（個別コメント）

・総合選択制について。（高校）

・学校設定科目 AI とデータサイエンスのシラバスや学習教材。（高校）

・生成 AI パイロット校について。（高校）

・プログラミング教育をどの言語で行っているか。（高校）
・全国屈指の設備と先進的なカリキュラム、情報科と商業科（情報ソリューション科・商業マネジメント科）との違い、県や地域からの期待度にどれほど応えられているのかなどを聞いてみたかった。（高校）
・AI を商業がどの程度教えていけば良いか。（高校）
・カリキュラムについて（高校）
・情報系授業で取り組まれている内容及び教材や教具（高校）
・地域での連携や高大・高専連携などがどのように行われているか。（高校）
・先進的な DX 施策の具体例：県の施策に先んじて取り組まれているクラウド活用や有料契約による独自の ICT インフラ整備の実態。（高校）
・生成 AI の教育課程への組み込み：文部科学省のガイドラインを遵守しつつ、プロンプトエンジニアリングや AI 開発をどのように授業計画に落とし込んでいるか。（高校）
・生徒の主体性を引き出す仕組み：1 名からでも開講する選択授業の運用体制。（高校）
・授業内容や学生のレベル（専門学校）
・情報系に力を入れている高校では AI・データサイエンスの指導やレベル設定がどうなっているか、クリエイティブ系の指導体制がどうなっているか（専門学校）
・教育内容の難易度設定と生徒の理解段階との調整、生徒に苦手意識を持たせないための工夫（専門学校）
・理論偏重にならず、「使いながら理解する」形で先端技術を高校教育に落とし込む方法（専門学校）
・システム系教育、クリエイティブ系教育における外部講師等の外部人材の確保と活用（専門学校）
・専門学校・企業・大学がどのようなかたちで関与しているのか（専門学校）
・専門学校が関わる場合の具体的な連携内容（専門学校）
・連携先拡大に伴う課題や、負担を抑えるための工夫（専門学校）

ウ　結果概要（視察研修先における取組内容等）

・情報の授業で有名な学校は他にもあるが、本校の特徴として、情報科だけでなく、普通科、工業科、商業科もあるところ。平成 24 年に 4 校が合併して 1 校になった際に新たに情報科ができた。
・情報科で取り組んだ Google アカウントを先生や生徒に付与する取組が、他の学科に広がって、現場の先生が教育委員会に異動になったことを通じて、県の取組として県内の高校に広がっていった。
・（校長先生より）情報科の授業を見ていて、プロジェクターを使って、プレゼン資料で授業をしていて、生徒がチャットを使ってわからないところをその場で質問する。1 人の生徒が質問すると、他のわからない生徒も「自分も」というような感じでリアクションがある。そうするとテストをしなくてもリアルタイムで、みんなここでつまずいているんだなということがわかって、もう一度、戻って説明を

していた。そういう授業の目新しさがあった。理解度を評価するときに、小テストをして集めて採点してではなくて、ルーブリックシートを生徒に送って、生徒自身の自己評価を書き込む。それに対して、教員がここまでできたらAだよとか、ここまでだったらBだよとか、その場で評価のやりとりをしていた。持ち帰って空き時間にテスト採点することがないんだと思ったのが、印象的だった。

・もっと便利にならないかなと言うと、生徒が努力してくれたりする。生徒が教員も気づかないような仕組みを考えてくれたりする。情報科の研究発表会では、昨年度は冷蔵庫の残り物から AI を使ってレシピを提案してくれるなど情報技術を使って課題を解決するような取組を毎年行っている。

・AI・データサイエンス教育の経緯としては、新学習指導要領を見た時に専門科目「情報」の中にAIの項目がなかったので、学校設定科目として設定した。数学的理解というよりも、どうやってこれができているのか、どうしてこういう分析になるのかというところを中心に指導している。実際にプログラムを組んでみて動かしてみてというところで、課題解決型の実証を中心に行っている。

目標としては、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度のリテラシーレベルは超えて、応用基礎くらいの知識はつけたいなと考えて、カリキュラムを設定している。ただし、数学の数式で難しいところに関しては、ほとんどパスをしている。なんでこうなったのか、なんでAIはこういう答えを出してきたのかというところは知識をつけるようにしている。

・テキストについては、『Pythonで学ぶはじめてのデータサイエンス』(吉田雅裕　著／技術評論社) を使っている。情報科の生徒なので、大学のリテラシーレベルのテキスト（Excelでできるレベル）ではすぐできてしまう。もっと上の工学部などのテキストだと数式ばかりで生徒には厳しい。プログラムを書きながら、かつ動かしながらできるちょうどいいテキストを探していたときにこのテキストを見つけた。このテキストを使いながら独自の課題を出したりとか、別のデータセットを使ったりとか、生徒にデータをとらせたりとかしている。

現実の課題解決を大切にしている。テキストの課題を実行してもモデルの精度が上がった、あくまで数字上よくなったという状態なので、生徒が実感できない。最後何に使うのというところに力を入れてやっている。データセットやテキストに書いてあることではなくて、一連の流れを自分で実際に 1 回つくってみる。そうすると最初は精度がとても低い。なぜ精度が低いのか、何が足りなかったのかということを生徒にトライアンドエラーを繰り返しながら、粘り強く取り組ませていきたい。参考にするのは何を使ってもいい。テキストを見てもWebで検索しても生成AIを使っても他のグループに聞いてもよいと言っている。課題も途中3回くらい作らせて、毎回報告会をさせることで、他のグループの報告も参考にしながら改善している。

・AI・データサイエンスを教えている先生は 1 人。外部講師の活用まではいたっていないが、地元や東京の AI エンジニアの方からアドバイスをいただくことはある。

・全校の授業での生成AIの使用については、1年生のときに「公益と産業社会」と

いう授業の中で生成 AI のガイドライン的な話をする。実際の活用は各教科の先生で行っている。情報科の生徒にはプロンプトエンジニアリングの指導なども行っている。

・プログラミングも生成 AI を使いながら書かせている。情報科では 1 年生で Java をやっているが、データサイエンスでは Python を使う。Python の指導はほとんどしておらず、生成 AI を活用させながら授業をしている。
Java をさせているのは、山形県立産業技術短期大学校庄内校との連携の関係で 5 年一貫教育というかたちで、情報科を卒業した生徒のためのコースがあるためで、山形県立産業技術短期大学校庄内校ではプログラミング言語が Java をベースにしているため、そこにスムーズには入れるように Java をやっている。生徒には Java ができるからほかの言語も大丈夫だよねという感じで話しており、生徒は他のプログラム言語も使っている。

・山形県に山形 AI 部という民間の企業が中心の活動がある。その中で高校生に AI 教育をしようという動きがあり、そこに顧問として参加している関係で AI に関する知識を深めていった。

・課題解決に関連しては、2 年生の実習で岩手県立大学と連携してプロジェクト演習をやっている。企業の課題に対してどのように解決していくのかという授業。その中で指導していきながら、あるいは生徒と一対一で対話しながらやっている。

・AI・データサイエンスは 2 単位。回帰、クラスタリング、分類、画像判別などをやっている。

・情報科の学習研究発表会で発表する内容は基本的には生徒が自分たちで進めている。生徒が発表会でやりたいことについて、教員もあまり知識がない場合もあるので、そういうときはそれができる人を探してきて、その人と連携しながら生徒を指導している。その中で教員のほうも知識が身につく。レポートを書く寸前までは生徒のほうがわかっている。生徒がわかっているがうまくまとめられないので、教員と生徒でお互いに話し合いながら、さらに連携相手の話も聞きながら、最終的にレポートにまとめていく。大学の先生や AI エンジニアの方などは基本的に教員で探してくる。謝金はなるべくかからないかたちでお願いしている。

・課題研究の評価については、生徒に毎学期ルーブリックを書かせている。ルーブリックをもとに担当教員と生徒との面談により、評価のすりあわせをして評価している。

・商業科では地域に出て、市民の方と協働しながら学んでいこうという取組を行っている。行政と連携した取組が多い。

・体験して→やってみて→失敗して→試行錯誤しながら→解決するというような流れで行っている。

エ　結果概要（個別コメント）

○今回の視察研修での成果（参考になったこと、印象に残ったこと、応用したいと思ったこと等）

・1 学年 8 クラス（普通科 2 クラス、工業科 3 クラス：機械制御科 1 、電気電子科

１、環境技術科１、商業科 2 クラス：ビジネス流通科１、ビジネス会計科１、情報科 1 クラス）（高校教育課）
・総合選択制により、他学科の科目を選択できる（合計 50 科目から選択可能）（高校教育課）
・全ての学科で進学、就職の進路選択が可能であり、普通科の生徒が簿記に興味を示し、会計分野を選択し会計士・税理士を目指して商学系大学に進学するケースもある。（高校教育課）
・情報科の学校設定科目のＡＩとデータサイエンスでカジノチップ（AI ゲーム）を作成（高校教育課）
・情報科研究発表会（IT－ACE 発表会）を年 1 回開催している。（高校教育課）
・岩手県立大学と連携した地域課題解決の実践（高校教育課）
・公益の授業で全学科の生徒が簿記を受講している（社会人として必要な知識）（高校教育課）
・受講者１名でも開講するといった生徒 1 人ひとりのニーズに合わせたカリキュラムを設定する事がとても印象に残ったが、教員の授業数や指導者の問題など、どのように対策しているのか、もう少し詳しく知りたかった。（高校）
・カジノチップの教材が本校でも応用してみたい。（高校）
・情報科には専用のインターネット回線が１本準備されている。（高校）
・県内に山形 AI 部という民間企業が中心となって形成されている団体があり、そこの協力を得ている。（高校）
・応用情報技術者試験の合格率、短大との連携、出前授業や、生成ＡＩ・ネットワーク構築などの共同研究など、大学レベルの教育内容など、また、クリエイティブ系の機材が充実していること。（高校）
・学校設定科目「AI とデータサイエンス」の授業で使用されている教材を教えていただいたこと。目標設定をリテラシーレベルではなく、応用基礎分野レベルと明確に定めており、その目標に向けて取り組まれていた。教員間の共通理解の重要性を感じた。（高校）
・山形 AI 部という山形の高校生に AI を教えようという外部の団体が存在していることを教えていただいた。そのような団体や会があると外部資源として活用しやすい。（高校）
・課題研究における評価について、生徒達にまずはルーブリックを考えさせて作成させる。その後、担当者との面談を行い、評価の摺り合わせをしていくという手法を説明していただき、課題研究の評価として今までしたことがなかったため、参考にさせていただきたい。（高校）
・リアルタイム・フィードバックの実現：授業中に Google チャットを活用し、生徒が「分からないこと」をその場で質問・解決できる仕組みは、学習の取りこぼしを防ぐ極めて有効な手法であると感じた。（高校）
・実学重視のデータサイエンス：Python 等を用い、「なぜこのようになるのか」をプログラムの挙動から考えさせる応用基礎分野の指導法は非常に参考になった。（高校）

・IT-ACE（課題研究）の質：生成 AI の構築、VR/AR 活用など、生徒が現実の課題解決に向けてトライアンドエラーを繰り返す姿勢が印象的であった。（高校）
・外部連携の活用：「やまがた AI 部」のようなコミュニティを通じて生徒が学外と交流し、刺激を受け続ける環境の重要性を再認識した。（高校）
・課題解決手法を学生自身が考え、実行に移す。現状の学生が全てお膳立てしないと何もやらないため、どうすれば自主的に動く学生が育つのか非常に関心がある。（専門学校）
○情報科では授業自体、IT を駆使して効率的に実施されているというような話があった。企業や行政の協力などで、IT や AI が実際に活用されている場面を生徒・学生にもっと体験できるようにできると自分たちが学んでいることがどのように役に立っていくのかを実感しやすくなるのではないかと考えた。（専門学校）
○単に知識や技術を身につけるだけでなく、IT を使って課題を解決するという取組自体が生徒の学びの中に取り込まれていて、さらに生徒も日頃から困っていることを解決するというような姿勢が身についているように感じた。本コンソーシアムでも例えば、12 月 4 日のセミナーで取り上げたデザイン（より良くすること）の考え方を取り入れたりするといいのではないかと感じた。（専門学校）
○生徒が取り組んでいる研究課題などで先生だけでは教えることが難しい部分は、積極的に外部の企業や専門家と連携しているということであった。酒田光陵高校のように例えば、やりたいこと・知りたいことが明確なほうが企業等と連携しやすいという面があるかもしれない。（専門学校）
・授業に関する取組として、以下のような点が印象に残った。（専門学校）
  - 授業中に Google チャットを活用し、質問しやすい環境を整備
  - チャットでの質問内容から、生徒の理解度を把握
  - 1 年次に生成 AI の使い方を必修化し、プロンプトエンジニアリングを指導
  - プログラミング言語は Java を中心に指導（Python は未使用）
  - 数学は既習内容を前提として授業を進行
  - ルーブリック評価を用いた学習評価を実施
  - 生成 AI を活用したプログラミング課題に取り組んでいる
  - 実習課題では「作る→試す→中間報告」を繰り返す指導により、トライ＆エラーを重視
・専門分野については、AI・データサイエンスの専門分野については、外部の専門家から必要に応じて助言を受けている。（専門学校）

○今回の視察研修での成果を本コンソーシアムや各校での取組に応用する場合の課題等

・酒田光陵高校のＡＩデータサイエンスの教育は独自教材を作成されている先生のマンパワーによるものが大きいように感じた。本コンソーシアムでの課題というよりも、逆に組織的にやれる意味ではこの本コンソーシアムにより持続可能な取り組みを作りだすことができる可能性があると感じた。（高校）
・環境（設備・予算など）の問題（高校）

・カリキュラムなどの問題（高校）
・山形県のように、県からの補助を充実させるためにも、課題を県の方に各学校から課題を挙げていくことが必要だと感じた。（高校）
・教員のマンパワーで持っているところがあると感じている。学科長の影響が多大にあるが、異動した際に継続的に成立できるのかという疑問が残った。誰もが指導できるシステムや教具などを組織だって宮崎県も作っていかなければならないと思う。（高校）
・インフラ環境の格差：Google の有料契約等による高度なクラウド環境を、各校やコンソーシアム全体でどのように等しく整備し、維持していくかというコスト面・技術面の課題。（高校）
・指導ノウハウの平準化：情報科だけでなく、他教科の教員も生成 AI や ICT を活用した指導（初任者研修での活用等）ができるよう、組織的なスキルアップをどう図るか。（高校）
・学科横断的カリキュラムの構築：「全ては情報である」という視点に立ち、学科の枠を超えた柔軟な教育課程を編成するための制度的・組織的な調整。（高校）
・設備が大幅に違いすぎる。学生がやってみたいと思った事を行える環境がそれなりに整っていると感じている。総合選択についても 1 人でも希望者がいれば開講するとのことで、人的リソースに余裕がないとそこまでは対応できない。（専門学校）
・高校、専門学校、企業等が連携し、意見交換を深めていく必要がある。（専門学校）
・企業など外部の視点を取り入れながら、学びの内容を柔軟に検討する必要がある。（専門学校）

○その他の感想や意見について

・生成ＡＩパイロット校の取り組みについて、校務での利用や教育での利用について詳細を聞きたかった。（高校）
・商業の情報と工業の情報という線引きは必要ないという言葉が印象的であった。平成 24 年に 4 校が 1 つに統合された学校であった。（高校）
・すべてを教師が行う必要はない。分からないことは外部の方々に協力を仰ぎ、生徒だけでなく職員も勉強させてもらう。（高校）
・1 年生から Java を学習しており、授業の中で Python を教えることはしていない。（高校）
・先進性と柔軟性の両立：統廃合を経て新設された情報科が、時代の流れ（AI・DX 化）を止めることなく、常に「新しい取り組み」を模索し続けている姿勢に感銘を受けた。（高校）
・学習環境の余裕が生む教育的効果：施設に余裕を持たせることで空き教室を有効活用し、生徒の多様なニーズ（少人数の選択授業等）に応える体制は、今後の学校づくりのモデルケースになると確信した。（高校）
・先生も学生と共に学んでいる体制は非常にうらやましい。何もかも自分で勉強して理解したうえで授業をやるわけではないので、学生と同じペースで勉強できる

のは先生にも余裕ができるのではないかと思う。（専門学校）
・AI・データサイエンスも単に数字がどう変わるかというようなことだけでなく、実際に生徒が分析用のデータを収集したり、実際の課題を解決するために AI やデータサイエンスを使ったり、実践的な学びをされているのが印象的だった。（専門学校）
・工業系・情報系学科を有する高校らしく、実習設備や ICT 環境が非常に整っているという印象を受けた。（専門学校）
・AI 活用や高性能 PC の使用にあたっては、県の共通ネットワークでは制約があるため、学校独自に通信環境を整備しているとのことで、生徒の学習環境を第一に考えた取組であると感じた。（専門学校）
・工業系・情報系学科が校内にあることで、普通科や商業科の生徒が刺激を受け、「やってみたい」と思うきっかけが生まれており、その逆の動きも含めて、学科を超えた学びにつながっているように感じられた。（専門学校）
・学科を越えて学ぶことで、これまで別々に学んできた知識や技能が実はつながっていることに気付き、生徒一人ひとりの視野や世界観が広がっているように思われた。こうした経験は、社会に出た後も学び続ける姿勢を育てる上で、大切な素地になっているのではないかと感じた。（専門学校）
・宮崎のコンソーシアムにおいても、商業高校に限らず、普通科高校なども含めた形で取組を広げていくことが、今後の一つの可能性になるのではないかと考えられる。学科を超えた交流や協働の機会を意識的に設けることで、より大きな相乗効果が生まれるのではないかと感じた。（専門学校）

オ　視察研修の成果を活用する方向性

○AI・データサイエンスについて、単に高度な内容を教えるのではなく、生徒の身近な課題を解決するために AI・データサイエンスを活用したり、生徒が実際にデータを収集するところから試行錯誤をしたり、非常に実践的・体験的に取り組まれていた。

本コンソーシアムにおいても企業と連携しながら、実際の課題解決につながるような実証講座に取り組むことができるのではないかと考える。

ただし、授業時間との関係で実証講座は単発のかたちが中心であり、実証講座の中で課題解決までいくのは難しい面もある。課題研究や課題解決型の授業の中で企業等が外部講師として協力するなどの工夫も必要と考えられる。

○生徒が研究発表の課題を自分たちで見つけて、主体的に取り組む一方で、研究過程の要所においては、先生や企業など外部の方から、生徒への適切なサポートが提供されているように見受けられた。

本コンソーシアムにおいても、生徒・学生の学びが企業や専門学校など外部の協力で深まるような取組ができるとよいと考えられる。

○学校で対応できないような専門性の高い内容については、積極的に外部の企業や専門家の協力を得ているとのことであった。

本コンソーシアムにおいても、AI・データサイエンスをはじめとしたデジタル分野の技術が社会でどのように活用されているかについて、企業等の協力を得て生徒・学生に見せる・体験させることで、学校での学びと現実社会との関連や職業理解の促進を図ることができるのではないかと考えられる。

○ほかの視察先とも共通しているが、学校全体で理念と熱意をもって、学校運営に取り組まれていると感じた。本コンソーシアムの取組自体が、現状では通常業務に上乗せされているような感じもあり、学校単体の取組と違って難しい面はあるが、本コンソーシアムの取組による学校、企業、行政の各主体の成果と負担を整理しながら、持続可能で効果的な取組を考えたい。

第９　セミナーについて

１　実施概要

○テーマ：クリエイティブな学びの可能性　―「デザイン」でひろがる未来

○日時：令和７年 12 月４日（木）　13：30～16：30

○場所：シーガイアコンベンションセンター　２階「オーチャード」

○第１部：基調講演（60 分）

・「14 歳からはじめるデザイン」

講師：HAKUHODO　DESIGN　代表取締役社長

多摩美術大学教授／東京科学大学特任教授　永井　一史　氏

○第２部：パネルディスカッション（90 分）

・コーディネーター

福岡大学人文学部　教授　植上　一希　氏

・パネリスト

多摩美術大学　統合デザイン学科　教授　永井　一史　氏

宮崎県立延岡商業高等学校　校長　中村　恵子　氏

株式会社デンサン　代表取締役社長　興梠　公司　氏

株式会社ウェブサイト　代表取締役社長　柳本　明子　氏

・助言者

ベネッセ教育総合研究所　学習科学研究室　室長　佐藤　昭宏　氏

○参加者：講師等含めて約 130 人（うちコンソーシアム委員　約 20 人）

専門学校生等　約 40 人

○オンライン配信：高校２校　約 195 人

・宮崎県立富島高等学校　情報ソリューション科　１年生　約 80 人

３年生　約 75 人

・宮崎県立佐土原高等学校　産業デザイン科　３年生　約 40 人



2　第１部　基調講演

(1)　基調講演の主なポイント

基調講演：「14 歳からはじめるデザイン」

講師：HAKUHODO　DESIGN　代表取締役社長
　　多摩美術大学教授／東京科学大学特任教授　　永井　一史　氏

■デザインは身近なもの



○まず、この会場の中で、デザインされているものは何だと思われますか。少し想像してみてください。何となく想像できましたか。
結論から言うと、実は「全部」です。このシャンデリアの照明から、プロジェクター、スクリーン、服、そしてこのマイクに至るまで、この空間にあるものはすべてデザインされています。
つまり、皆さんが目にしているもの、日々の生活の中で目に入るものは、すべて誰かがデザインしているということです。

○デザインというのは、実は職業としての「デザイナー」のように何か特殊な人たちがやっているものではありません。実は誰もが関係のあることであり、なおかつ誰もができることなのだという点を皆さんにご理解いただけると嬉しいと思っています。

○「デザイン」と聞くと、例えばファッションデザインで服を作っている人や、素敵なホテルをデザインしている人のことを思い浮かべがちだと思います。しかし、実はすべてのものは、誰かがデザインしています。
デザインの対義語は「ネイチャー」、自然だと考えています。自然ではないもの、つまり人の手が加えられたものは、デザインなのではないかということです。何万年も前に誕生した人類が、自分たちの暮らしを良くしたいと思って、さまざまな努力の積み重ねによって、今の生活があるわけです。そういうことの一つ一つの行為の結果が、デザインなのではないかと思います。

■デザインの定義

○デザインの語源は、14 世紀のラテン語である「designare（デジナーレ）」です。「計画に基づき作ること」「考案すること」「意図すること」という意味です。
デザインというと色や形といった具体的な見た目を想像しやすいですが、実は、その色や形の手前にある、「計画に基づき作ること」「考案すること」「意図すること」といった“考える部分”、つまり設計の部分も、デザインという概念の中に入っています。

○デザインの最も適切で、かつ一般な定義として挙げたいのが、ハーバート・サイモンというノーベル経済学賞を受賞した学者による定義で、それは「現状をより良くする計画的な行動」ということです。この定義を聞くと、皆さんがこれまで「デザインとは服や見た目のことではないか」と思っていたイメージとは、だい

ぶ違って感じるのではないでしょうか。
むしろ、先ほどお話しした「ネイチャー（自然)」の対義語として、人が「何かいい」と思って行うような行動が、実はデザインなんだということです。
私自身、「デザイン＝より良くすること」だと考えています。非常に端的ですが、本質は「より良くすること」です。そう考えると、デザインというのは、もっと身近なものではないかと思います。

■デザインの概念

○実はデザインという概念自体も広がっていて、簡単に言うと「もののデザイン」と「ことのデザイン」という 2 つがあります。

○「もののデザイン」というのはプロダクトだったり、建物であれば建築だったりと、皆さんもよくご存じのものだと思います。
一方で、「ことのデザイン」ということで言うと、例えば電車やバスの運行計画のようなものも挙げられます。これらは形としては目に見えるものではありませんが、それをどのように組み立てていくか、どうすればより良くなるかという点では、「より良くすること」としてのデザイン、「ことのデザイン」と言えるのではないかなと思います。

■デザインとアートの違い

○アートは「自分を表現する」ということです。それに対して、デザインは「より良くすること」です。例えば「描いてみよう」とか、「好きに絵を描いてみよう」というのは、アート的な行為であって、実はデザイン的ではありません。
アートは自分起点で、自分の気持ちや考えから始めるということです。

○デザインは他者起点で「誰のために、何をするか」ということです。自分のために何をするかということがアートだとすると、デザインは「誰のために、何をするか」ということで、対象者と目的が決まっている、というのもデザインの大きな特徴です。

■デザインの 4 つの可能性

○1 つ目は「気づきが日常を変えていく」ということです。「何かここを変えたいな」という気づき、その発火点がないと、実はデザインは生まれないわけです。発火点というものが、デザインにとってとても大事です。
デザインというと、一見、色や形をどう磨いていくかとか、色彩の感覚やフォルムに対するリテラシーが大事だ、と思いがちですが、実はとても素朴に、この「気づき」ということがすべての出発点になります。

○2 つ目は「思いやりが人と人をつなぐ」ということです。
これは、デザインは「他者から出発する」という点に関わってきます。「この人たち、つまりユーザーがどれだけ便利になったらいいか」とか、「この状況の中で、多くの人たちがより幸せになるにはどうしたらいいか」といったことから出発するということです。そういう意味では、デザインはある種の「思いやり」とも言え

るものです。

○3 つ目は「発想が新しい価値になる」ということです。

「改善したい」「もっと良くしたい」という思いがあり、それが具体的になった場合に、新しい価値が生まれます。場合によっては、それをイノベーションと呼ぶこともあるかもしれませんが、そうやって新しい価値が次々と追加されているということだと思います。

○4 つ目は「理想が未来を開く」ということです。

身の回りが少しずつ良くなるということは、世の中が少しずつ良くなっていくということでもあります。その起点になるのが「気づき」だということです。それが社会に対して非常に大きな影響力を持つこともあれば、とても小さなこともあると思いますが、そうしたことの集積によって、世の中が少しずつ進んでいくということではないかと思います。

■デザインと教育

○私自身が大学で教えるようになって、そのときに教育についてきちんと知らないといけないと思い、今から 12〜13 年前に北欧に 1 週間ほどさまざまな教育機関を訪問してリサーチする機会がありました。その時に「21 世紀型スキル」という考え方を知りました。当時、世界中の産業界や教育界の人たちが集まって、「これから本当に必要なスキルって何だろう」ということで考えたものです。

「21 世紀型スキル」では、思考の方法として、想像力とイノベーション、批判的思考、問題解決力。仕事の方法としては、コミュニケーションやコラボレーション。社会生活の領域では、人生やキャリア設計、地域や国際社会における市民性といったことが挙げられていました。

これを見たときに、私は「これはまさしくデザインがやっていることそのものだ」と強く感じました。つまり、これから必要とされる人材像や教育において重要なことのエッセンスは、すでにデザインの中にすべてあるというふうに思ったわけです。

文部科学省が掲げてきた「生きる力」という考え方もまさに重なるものだと思いました。

○そうしたことから、教育の中にデザインを取り入れることは、単にデザイン科目を設けることも重要ではありますが、むしろある種のリベラルアーツ的な、基本的な素養としてのデザインを、もっと教育の中に取り入れるべきではないかなと思っています。

■デザインの手順

○1 つ目は「疑問や違和感に気づく」ことです。

「何かこれ、変だな」とか、「こうしたいな」といった欲求や疑問がなければ、デザインは発火しません。だからこそ、まず「気づく」ということが起点になります。日常生活の中で「これ、おかしいな」と感じることもありますが、逆に、観察のようなことを通じて発見するという場合もあると思います。

デザインの基本というのは「気づき」であり、ある種「観察」と言ってもいいのではないかと思います。

○2 つ目は「共感する」ということです。

周りの困りごとの当事者に対して共感するということです。その対象となるユーザーの立場に立って考えることがデザイン的なアプローチです。

○3 つ目は「理想を考える」ということです。

これは、先ほどの「気づき」とある種、対をなすようなことだと思います。

「こうなったらいいのにな」という理想の描き方で、どこをゴールに目指すかということは、実はたくさんある中で、ある意味、正確に「こうなったらいいのにな」ということをきちんと描き切ることが大事だと思います。

○4 つ目は「かたちにする」ということです。

デザインの特徴として具体的にかたちにしてみるということがありますが、実は具体的にかたちにしないと分かりません。より具体的なかたちにして検証し、フィードバックを得て、そのフィードバックのループを回していくことによって、質を引き上げていくことができます。

○5 つ目はかたちになったものを「みんなと共有する」わけですが、そのときには、きちんとコミュニケーションを取ることや、その価値をどのように広げていくか、ということも同時に考えていくことが大事だと思います。

■もしデザインを教育に取り入れたら

○いわゆる探究の時間というものはすでにありますので、まったく新しく「デザイン」という科目を作るのは少し難しいと思いますが、探究の授業の中に、デザインの考え方をもう少し織り込むことはできるのではないかと思います。

探究の授業のプロセスにデザインの手順のプロセスを応用することで、探究の授業自体がもっと変わりうるのではないかなと思っています。

○創造性や美意識といったことは、デザインに取り組もうとなったときに、少し意識に浮かぶものだと思いますが、創造性は必ずしも特別な才能がなければできないものでもなければ、先生に才能がなければできないということではなく、誰もが育てることができるものが、創造性なのではないかなと思います。

○美意識についても、単に見た目がきれいかということ以上に、むしろ「ふさわしさ」を見極める判断力、つまり総合的な判断力が重要なのではないかと思います。この目的に対して、これは手段として、とても合理的なのではないか、あるいはふさわしいのではないか、そういったことを見極める力が、デザインにおける美意識に近いのかなと思います。

○あとは「問う」ということです。つまり、そのゴール設定をどうするかということ、「こうありたい」という状態をどうするかということが、教育的には非常に本質的で重要なことなのではないかなと思います。

何か作ったものを評価するということよりも、生徒の思考そのものを引き出すような「問い」をどう設定できるかということが、教育にとってとても重要なのではないかと思っています。

○また、「チャレンジ精神の促進」ということで、デザインは目標設定や手段の取り方によって、とても大胆なものもできますし、堅実なもの、あるいは少しだけ変える、といったように、段階を細かく設定することができるので、チャレンジ精神を促進することにもつながるのではないかなと思います。

○「共感力の育成」という点も重要です。他者の立場にどれだけなれるか、ということが、デザインにおいては非常に重要で、共感する力を養うことにつながるのではないかと思います。

○さらに、「創造的な問題解決力」ということで、これはまさしく 21 世紀型スキルが示している、これからの社会において必要とされる人材そのものなのではないかなと思います。

■まとめ

○デザインは「かたち」をつくることだけではなくて、私たちの生活や社会をより良くするための「考え方」であり「力」なんだということを理解いただけたら幸いです。

「あなたは、今日からデザインすることは何ですか」と、皆さんに問いかけて終わりたいと思います。

3　第２部　パネルディスカッション

(1)　パネルディスカッションでの主な意見



○AI 時代だからこそ必要になるのが「問い続ける力」だと思います。AI に質問を投げかければさまざまな答えが返ってくる時代ですが、その答えが本当に誰かの幸せにつながるのかを判断する力が、これからの学びの中で重要になってくるのではないか感じています。

○仕事の中では生成 AI をかなり使っています。ただ、感触としては、自動的にインプットして、そのまま答えが出てくるという性質のものではないだろうと感じています。ショートカットとして使う、あるいは検証のために使うという意味では、非常に有効だと思っています。壁打ちの相手として使うという感覚です。
「気づき」について言うと、その主導権は、今のところまだ人間側にあるのではないかという気がしています。いわば前さばきの部分を AI に任せておいて、本質的に重要なことを見定めるところ、問いを突き詰めるところで人が考え、そこをきっかけに AI を使う、という使い方が、現時点では一番良いのではないかなと思っています。

○「デザイン思考」という考え方は、IT 業界では十数年前から耳にしてきたものです。私たちの仕事も、お客様の要望をそのまま形にするのではなく、ユーザー視点で本質的な課題を見つけるところからスタートします。
以前は、計算を速く、正確に行うことが IT の中心でしたが、今はスマートフォンやタブレットが主流となり、「何をしたいのか」「それが社会課題の解決にどうつながるのか」が出発点になっています。その意味で、デザイン思考は私たちの仕事と非常に相性が良いと感じています。

○生成 AI に対してどのような問いを投げるのか、その問いをどう立てるのかという点が非常に重要だと思います。今日のお話で言えば、「観察すること」「丁寧にものを見ること」と、この問いの立て方は深くつながっているのではないかと感じました。
問いの立て方次第で、掘り下げ方は大きく変わります。「自分はどこに本当に関心があるのか」を探っていくプロセスこそ、生成 AI を壁打ち相手として使うことが有効に機能する場面ではないかと思います。問いを練り、絞り込んでいく過程を支援するという意味で、生成 AI は可能性を持っていると感じています。

○現在、小・中学校と関わりながら、「思考力」をテーマに、探究的な学びをどう進めるかという取組みを行っています。学校現場で先生方のお話を伺うと、「(文科省が公開している探究のステップで) 授業を一巡させるだけでも大変だ」という声が多くあります。そうした話を伺う中で、「我々大人は子どもたちに探究することを求めているが、どの場面で、どのように考えればよいか、“考え方”をきちんと共有できているか」という疑問に至りました。「探究」と言うのであれば、そのための“武器”を、教科指導の中でしっかりと渡していく必要があると感じます。 現在、中央教育審議会でも「言語活動」や「情報活用能力」などが議論されていますが、そうした文脈と重ねて考えると、今日のお話にあった「デザイン」はある種の“考え方”であり、思考力を育てていくうえで、非常に重要なスキルとして位置づけられるのではないかと思いました。

○私たちの仕事、特にホームページ制作の仕事の観点で言うと、まずお客様からご依頼をいただきますが、その先には必ず「お客様のお客様」がいらっしゃいます。お金をかけてご依頼いただくということは、必ずそこに何らかの課題があって、事業の PR をしたい、売上を上げたい、求人をしたいといった目的があります。ですから、とにかく意識しているのは、第三者視点、つまり「お客様のお客様の視点」に立って考えるということです。
日常生活の中で、皆さんも検索したりホームページを見たりする中で、「これは分かりづらいな」「どこで申し込めばいいのか分からないな」と感じることは、たくさんあると思います。そのときに、「この文字、もう少しこうだったら分かりやすいのに」「ここはこうした方が伝わるのではないか」と、少し立ち止まって感じる。そうした小さな気づきの積み重ねが、仕事につながっていると思います。

○まず「気づき」についてですが、これは出発点として、まさに今日お話ししたとおり、日常の中で自分が感じた違和感や引っかかりに対して、一度立ち止まって考えてみることだと思います。多くの場合、私たちはそれをそのまま流してしまいがちです。
ビジネスパーソンを中心にデザインを教えるプログラムを行っている中で強く感じるのは、仕事の経験を積む中で、思考が非常に「業務最適化」されてしまっている方が多いということです。そうなると、実は日常の中で生まれているはずの「気づき」を、無意識のうちにスルーしてしまいます。
気づきは誰でも自然にできているように思われがちですが、実はそこには、意識的な努力が必要なのではないかと感じています。

○AI について、「問い」を壁打ちしながら精度を高めていくという使い方は、非常に有効だと思います。同時に AI の可能性として考えると、「気づき」から「問い」、そして「理想を考え」「具体的に形にする」というプロセスの中で、特に「形にする」部分については、画像生成などを含め、今後かなりのスピードで AI に代替されていく領域だと感じています。
だからこそ、これから人間が本質的に担うべき役割は、「気づくこと」と「問いを立てること」なのではないかと思います。そこが最後まで人間に残る重要な役割であり、価値なのではないかというのが実感です。

○この事業に関わってきて、非常に面白く、また大事だと感じているのは、「共有できる言葉」をつくってきた点ではないかと思っています。今日のパネルディスカッションを通して、特に印象的だったのは、「デザイン」という言葉や枠組みを軸に、私たちが共通の土台の上で議論できているという点でした。まさに、そのデザインの考え方が、共有言語として機能しているのではないかと思います。

○個人的には、世の中にはさまざまな思考法や事業の進め方がありますが、「デザインしていく」という言葉を使うだけで、物事が少し前向きに捉えられるような印象も持っています。車にしても、IT システムにしても、見た目や色合い、使い勝手を含めてデザインが良いものは、使っていて心地よく、気持ちも前向きになります。そうした体験を通して、デザインには人の気分や行動をポジティブに変える力があるのだと感じています。
デザイン思考には、もちろん難しい側面もありますが、これをうまく取り入れていくことで、社会課題の解決や、日本社会全体の見直しにもつながっていくのではないかと考えています。
課題は、こうした「デザイン」という考え方を、いかに社会の中に根づかせていくかという点だと思います。その点で、今日のお話の中にもあった「習慣化」というキーワードは非常に重要だと感じました。気づいたこと、良いと思った考え方を可視化し、それを継続的に実践していく。
慣れで終わらせるのではなく、気づき、考え、改善し、それを応援し合うという姿勢を習慣として根づかせていくことが、社会を良くしていく上で大切なのだと思います。

○さまざまな企業・学校・関係機関の皆様と連携しながら、この事業に関わらせていただいて、もう 5 年目になります。
当初は、企業側から見ても、商業高校や専門学校の皆様と継続的に連携し、企業同士も含めて関係を築いていくことは、なかなか難しい状況でした。しかし、この事業を通じて、年々連携が密になり、内容も少しずつレベルアップしてきていると感じています。
学生の皆さんがどのような考えを持っているのか、先生方がどのような思いで教育に取り組んでおられるのかを知ることは、企業として人材を預かる立場にとっても、大きな気づきとなっています。こうした取り組みを粘り強く繰り返していくことで、世の中は少しずつでも確実に変えていけるのではないかと、改めて感じました。

○本日このような場において、登壇されている先生方、企業の皆様、そして関係者の方々が一堂に会し、永井先生のお話を「一緒に聞くことができた」ということの大きさです。私は他の自治体やさまざまな事業にも関わっておりますが、宮崎に来るたびに感じるのは、これほど多くの関係者が集まり、同じ時間・同じ文脈を共有できる地域は、そう多くないということです。
高校と専門学校、企業が連携して事業を進めていく中で、「一緒につくっていく人たち」が同じ話を聞き、「なるほど、そういうことか」と同時に考えられる。この“共通の理解と言葉を持てる状態”そのものが、最終年度に向けて非常に大きな価値を持つ時間だったと感じています。

○長く専門学校教育の研究に関わる中で、忘れられないエピソードがあります。パティシエを目指して専門学校に進学した学生が、「ようやく数学を学ぶ意味が分かった」と話してくれたことがありました。それまでは、数学はただつまらない教科だと感じていたけれど、在庫管理のため、レシピを正確に再現するため、砂糖や小麦粉を数グラム単位で量ることが、味を大きく左右することを知り、「学び」が初めて自分の人生や仕事と結びついたという話でした。
専門学校が持っている職業と社会との接点、そして教科の学びを結びつける力は、本来もっと前倒しで、高校段階から活かせるのではないかと感じました。
今回の高専接続事業は、高校までの教科の学びと、社会・職業との接点に、今回、「デザイン」という横串を通していただいた大きな勉強の場だったと思います。

【会場からの質問】

○1つ目の質問として、「着火点」「気づき」が重要だという点はよく理解できるのですが、世界的・社会的な課題への着眼と、身近で個人的な課題への着眼とでは、「こちらの方が良い」「これはOKで、これは違う」といった評価の軸はあるのでしょうか。あるいは、どちらも等しく価値があると考えるべきなのでしょうか。

○２つ目の質問として、デザイン思考のプロセスで言うと、「共感」「課題提起」「概念化」「試作」「テスト」といった段階がありますが、着眼・着火の後、特に重要視すべきポイントはどこだとお考えでしょうか。共感なのか、課題提起なのか、それとも別の段階なのか、そのあたりをお伺いしたいです。

【基調講演講師　永井氏からの回答】

○まず１つ目のご質問ですが、「着眼点について、どちらが良い・悪いのか」という点については、少なくとも教育の文脈においては、そこに優劣はないと考えています。
重要なのは、どこから始めるかではなく、どう深めていくかだと思っています。その意味で、「問い直し」を繰り返していくことが非常に重要で、深めていけば、結果的に多くの人が共感できる大きな問題へとつながっていく。その過程で、「ここで一度止めるか」「もう一段深めるか」という判断を、周囲がフィードバックしながら調整していくことが大切なのだと思います。

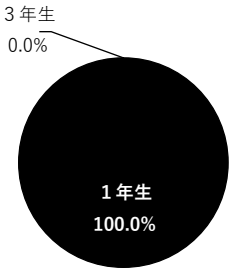
あまりに手前の段階で止まっている場合には、「もう少し問い直してみたらどうか」と促すことで、気づきがより大きな、普遍的な課題へとつながっていく、という感覚を持っています。

○次に２つ目のご質問ですが、デザインのプロセスの中で「どこが一番大事か」という点については、正直に言うと、特定の一点を重要視するべきだとは思っていません。
デザインというのは、いわゆるロジカルシンキングのように、データを分析して、これとこれを組み合わせれば三段論法的に答えが出る、というものではありません。むしろ、モヤモヤした状態を大切にしながら進めていくものだと思っています。リニアに解決していくのではなく、それぞれの段階を行き来しながら、抱え続けているうちに、ある瞬間ふっと光が差すように見えてくる。それがデザインの実感です。
もちろん、課題によって「ここで詰まりやすい」「ここが難しい」というポイントは異なりますが、山が一つ決まっているわけではなく、すべてのプロセスが等しく大切なのではないかと思っています。

4　参加者アンケート結果

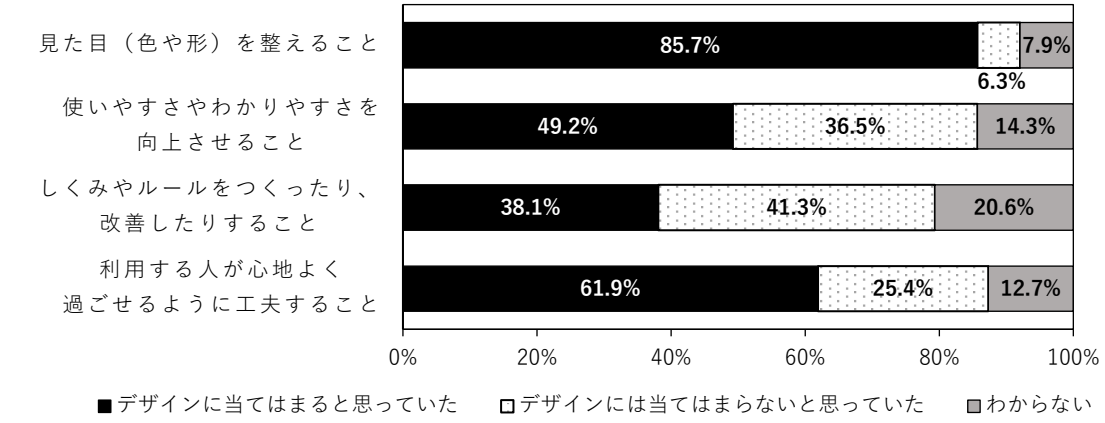
(1)　オンライン配信(高校生)アンケート結果（単純集計）（富島高校）

問１　学年を教えてください。



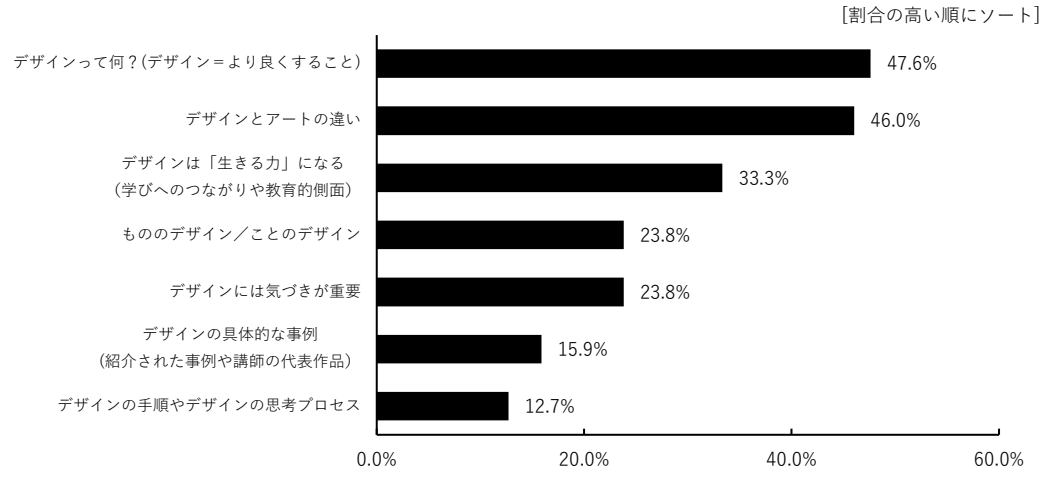
(n=63)

問２　【Before(回想)】講演を聞く前の時点で、次の内容はデザインに当てはまると思っていましたか。



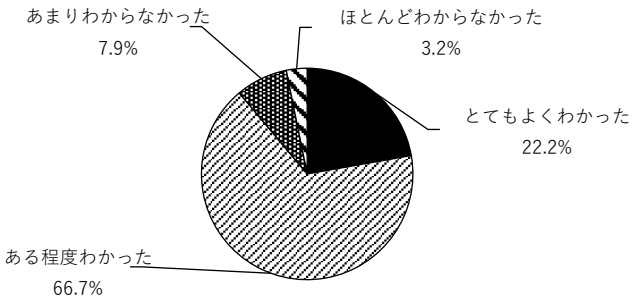
(n=63)

問３　講演の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数回答】



(n=63)

問４　講演の内容はどの程度理解できましたか。



(n=63)

問５　問４の理解度に関連して、具体的にわかった点がありましたら教えてください。

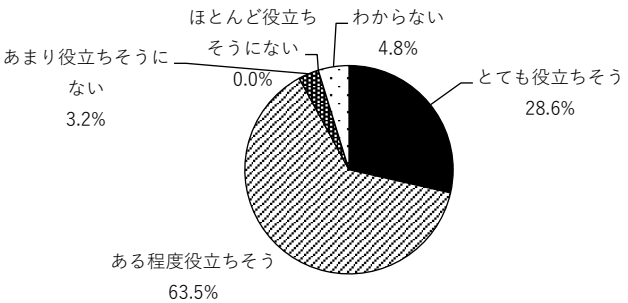
（一部抜粋）

デザインとアートの違い
デザインは才能ではない
デザインは人を感動させることや、わかりやすくすることが大切だとわかりました
デザインということをもっと深く広く知れた
デザインとはどういうものなのか
デザインはものの形だけでなく想いも大切だとわかりました
デザインは人生に関係あり

問６　問４の理解度に関連して、具体的にわからなかった点がありましたら教えてください。

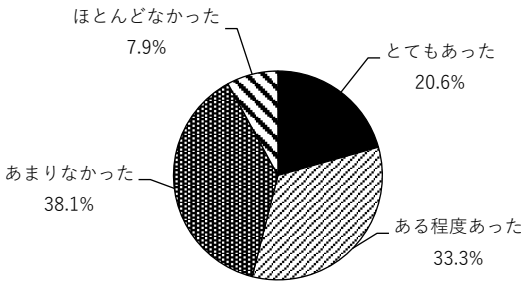
デザインについて深く考えたらよくわからなくなってくる

問７　講演の内容は今後の学校での学びや将来に役に立ちそうですか。



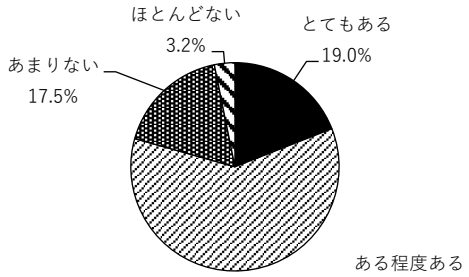
(n=63)

問8　もともと（講演を聞く前から）デザインに興味がありましたか。



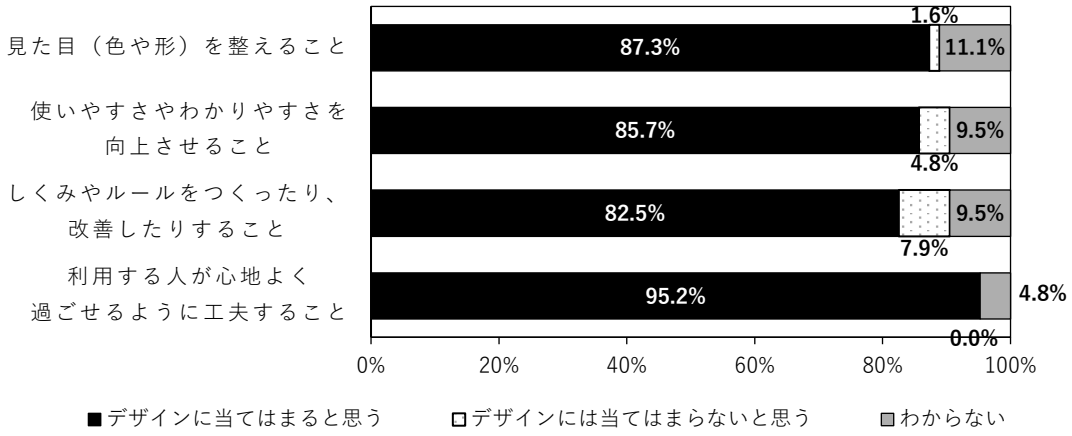
（n=63）

問9　講演を聞いた後、現在のデザインへの興味はどの程度ありますか。



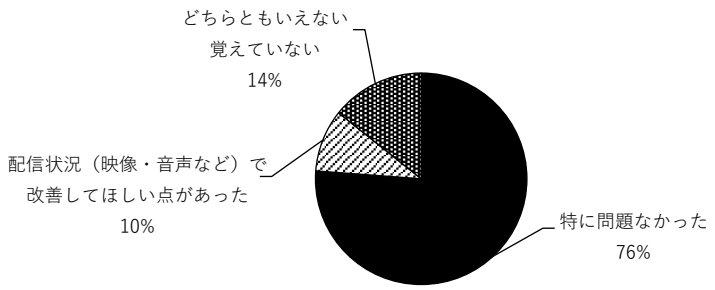
（n=63）

問10　【After】講演を聞いた後、次の内容はデザインに当てはまると思いますか。



（n=63）

問11　オンライン配信の状況について教えてください。（見やすさや聞き取りやすさなど）



（n=63）

問12　オンライン配信の状況について教えてください。（見やすさや聞き取りやすさなど）

（一部抜粋）

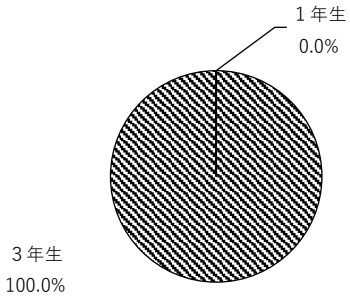
一部に通信の遅延が生じ、音声が聞き取りにくい状況があった
映像が断続的に途切れる（ガクガクする）場面が見受けられた。

問13　講演を聞いての意見・感想、気づいたことなど自由に記入してください。

デザインについて新しい視点や見解を得られ、今後の考え方が少し変わった
今までの自分の中でのデザインの定義やイメージが変わった
デザインは思っていたよりも意味が多く、奥が深いと感じた
デザインについてあまり考えたことがなかったが、理解が深まった
デザインに対する考え方や価値観が変わった
デザインの深さがわかった
デザインとアートの違いについて理解することができた
デザインは才能ではないという点が印象に残った
デザインは才能ではなく、学ぶものだとわかった
年齢は関係ないと感じた
デザインに少し興味を持つようになった
もっとデザインについて知りたいと思った
普段の暮らしの中でもデザインに目を向けてみようと思った
今まで興味がなかったが、講演を聞いて詳しく知ることができた
小さな気づきや些細な疑問がデザインにつながることがわかった
人によってデザインを考えるきっかけや考え方が違うことがわかった
印象に残ったキーワードは「観察する・調べる・試す」
具体的に説明されていてわかりやすかった
少し難しく感じたが、デザインについて知ることができた
とても良い講演だった

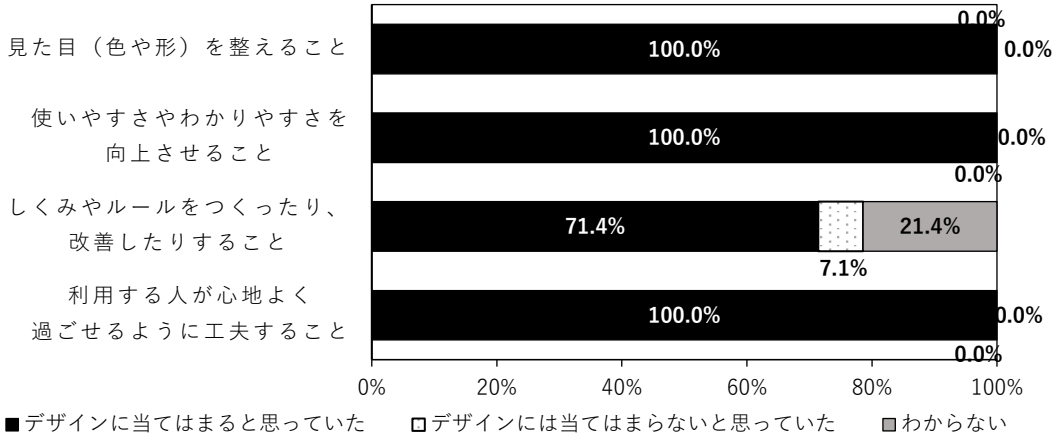
(2) オンライン配信(高校生)アンケート結果（単純集計）（佐土原高校）

問１　学校と学年を教えてください。



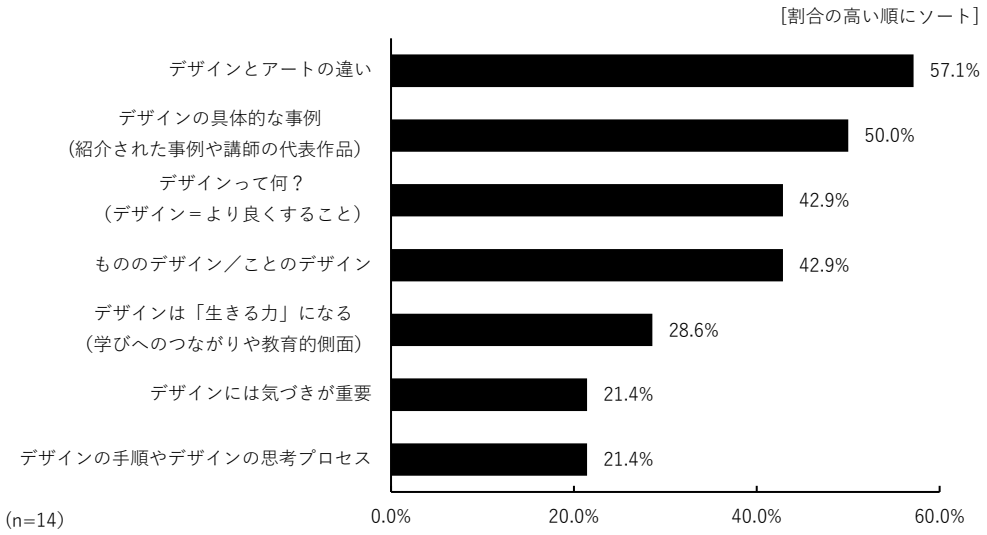
(n=14)

問２　【Before(回想)】講演を聞く前の時点で、次の内容はデザインに当てはまると思っていましたか。



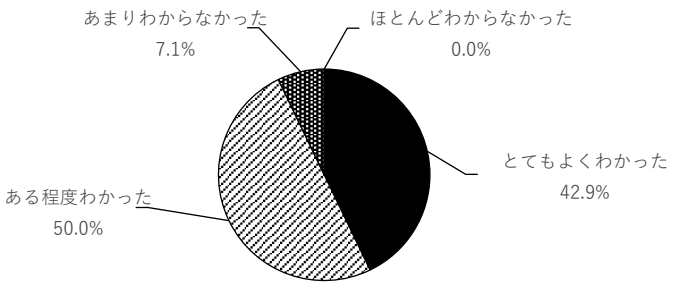
(n=14)

問３　講演の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数回答】



(n=14)

問４　講演の内容はどの程度理解できましたか。



（n＝14）

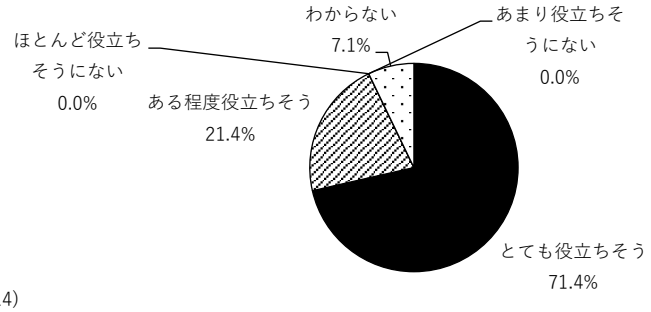
問５　問４の理解度に関連して、具体的にわかった点がありましたら教えてください。

デザインとアートの違いがよくわかった。
デザインをするうえで、仕組みやルールを作ったり改善したりすることもデザインに含まれるということを知ることができました。

問６　問４の理解度に関連して、具体的にわからなかった点がありましたら教えてください。

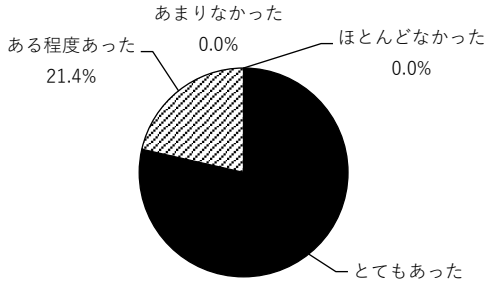
なし

問７　講演の内容は今後の学校での学びや将来に役に立ちそうですか。



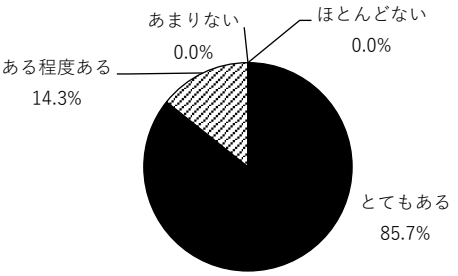
（n=14）

問8　もともと（講演を聞く前から）デザインに興味がありましたか。



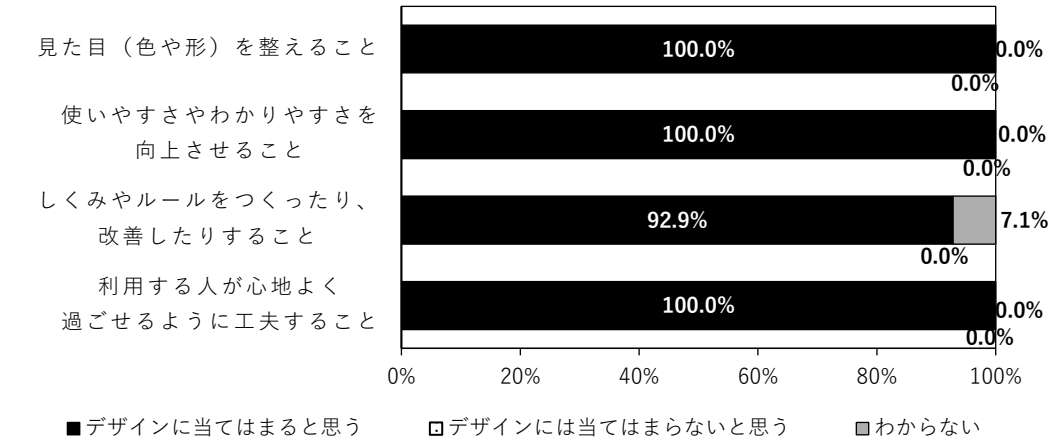
(n=14)

問9　講演を聞いた後、現在のデザインへの興味はどの程度ありますか。



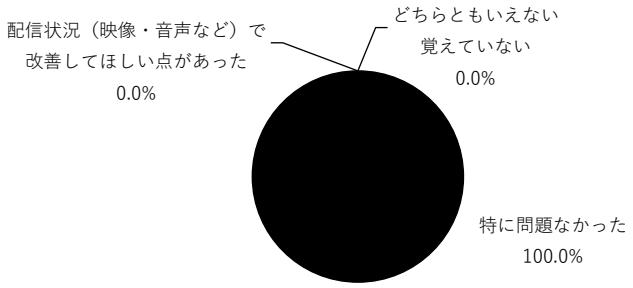
(n=14)

問10　【After】講演を聞いた後、次の内容はデザインに当てはまると思いますか。



(n=14)

問11　オンライン配信の状況について教えてください。（見やすさや聞き取りやすさなど）



（n=14）

問12　オンライン配信の状況について教えてください。（見やすさや聞き取りやすさなど）

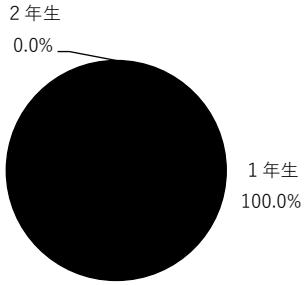
回答なし

問13　講演を聞いての意見・感想、気づいたことなど自由に記入してください。

デザインの仕組みがわかった
自分のデザインに対する考えが一歩前進した
デザインについての考え方や、その考え方が人によって異なった感性があると学んだ
AI化が進む中で、人の作るデザインは必要かどうかもっと知りたかった
デザインについてより詳しく深く理解するいい機会だったなと思う。これからも身の回りのデザインなどのいい点や参考にできる点を探して、自分の作品に落とし込めるように頑張ろうと思った。
お茶のブランドデザインを何年も担当し、今のイメージを確立しているのがすごいと思いました。
デザインと生活の関連の奥深さを感じた
私たちの周りのほとんどがデザインされているものがあると改めて感じました。 デザインは私たちの生活の中で、切っても切り離せない存在だなと思いました。
高校ではデザインなどを中心に学んでいるため、デザインに関する内容が聞けたのはとても有難いことだと実感しています。
身近なデザインほどこだわるべきだと思った。劇的な変化や激しいものより、何度も何度も人の目に触れて、生活に溶け込んでいくデザインが一番の理想だと感じた。

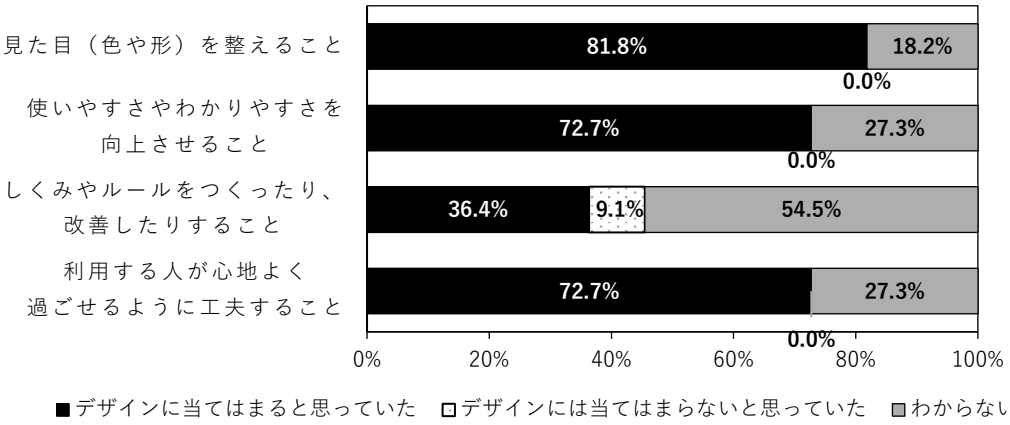
(3) 来場(専門学校生)アンケート結果（単純集計）（宮崎情報ビジネス専門学校）

問１　学年を教えてください。



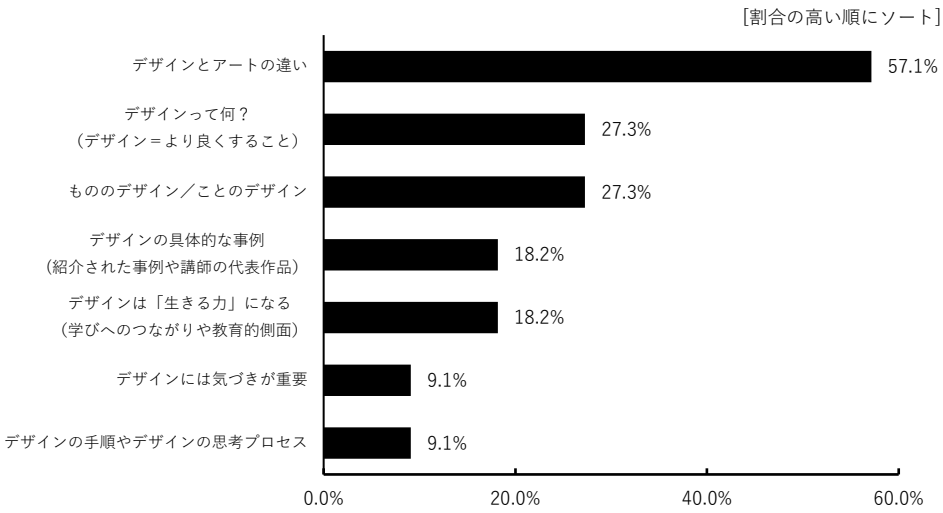
(n=11)

問２　【Before(回想)】講演を聞く前の時点で、次の内容はデザインに当てはまると思っていましたか。



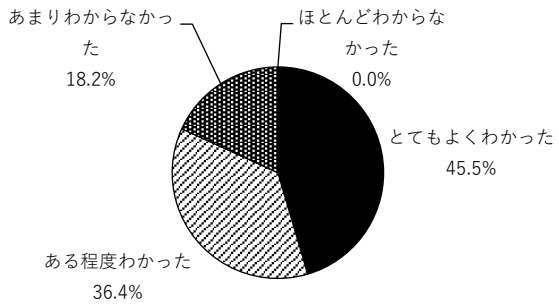
(n=11)

問３　講演の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数回答】



(n=11)

問４　講演の内容はどの程度理解できましたか。



（n=11）

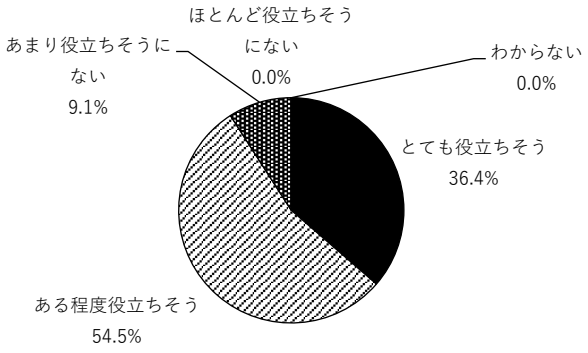
問５　問４の理解度に関連して、具体的にわかった点がありましたら教えてください。

デザインについて全然詳しくなかったので色々知ることができてよかったです。

問６　問４の理解度に関連して、具体的にわからなかった点がありましたら教えてください。

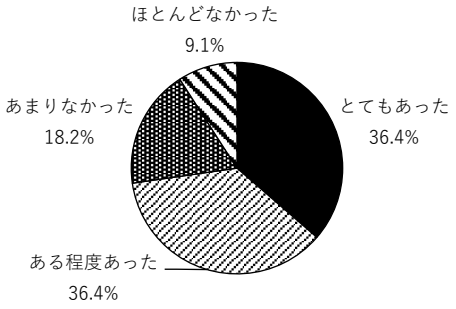
なし

問７　講演の内容は今後の学校での学びや将来に役に立ちそうですか。



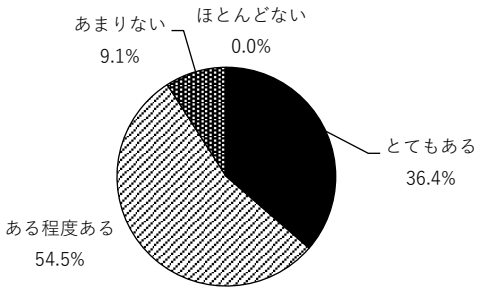
（n=11）

問８　もともと（講演を聞く前から）デザインに興味がありましたか。



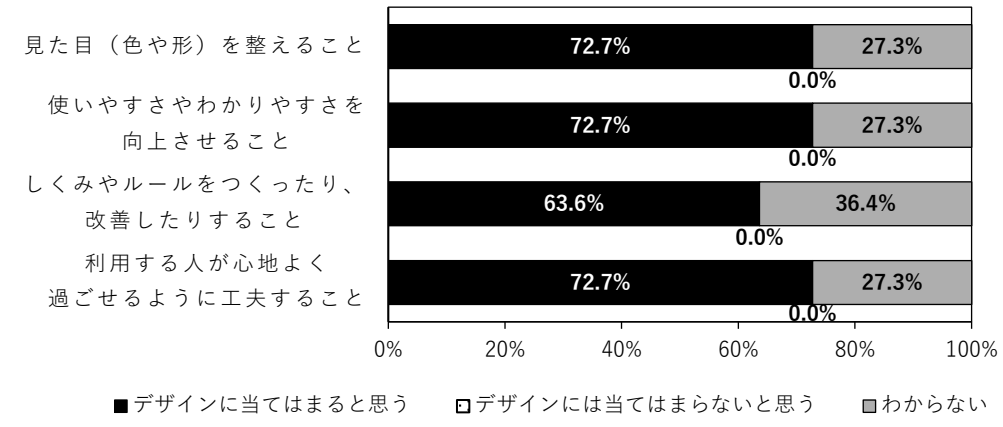
（n=11）

問９　講演を聞いた後、現在のデザインへの興味はどの程度ありますか。



（n=11）

問10　【After】講演を聞いた後、次の内容はデザインに当てはまると思いますか。



（n=11）

問11　講演を聞いての意見・感想、気づいたことなど自由に記入してください。

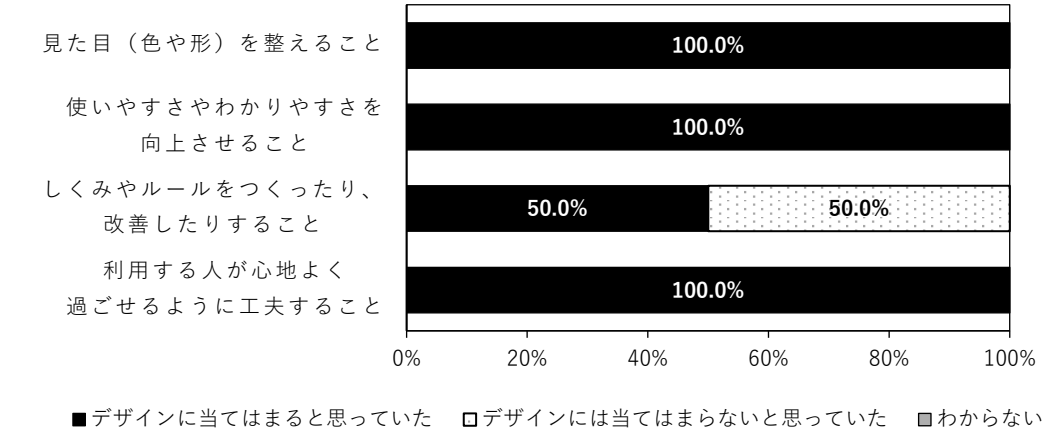
自分にとってデザインとは何か考えようと思った
デザインというものが思っていたよりも広いものと感じた
デザインが具体的にどのようなことがデザインに当てはまるのかなどがわかって良かったです
デザインはあまり深く学んだことがないのでとてもいい機会になりました
デザインは思ったより深い
デザインは、見た目や形・色だけではなく、使いやすさやわかりやすさ、利用する人のためにたくさんのこと考えながら作ることをよく知れました
楽しかったです

(4) オンライン配信(教員)アンケート結果（単純集計）

問１　学校名を教えてください。

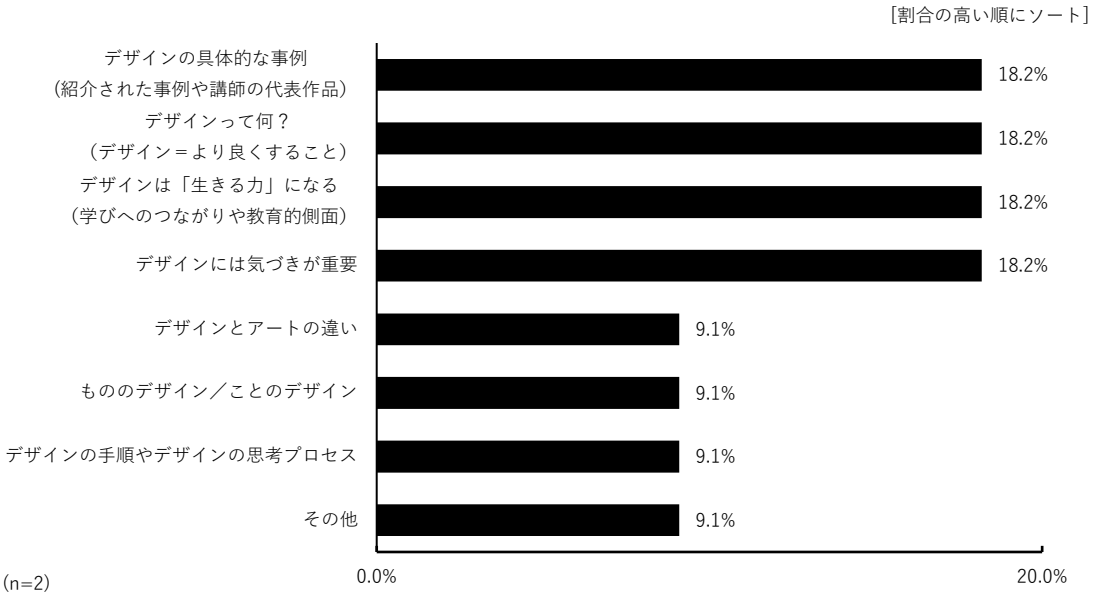
宮崎県立佐土原高等学校
宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校

問２　【Before(回想)】講演を聞く前の時点で、次の内容はデザインに当てはまると思っていましたか。



(n=2)

問３　講演の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数回答】

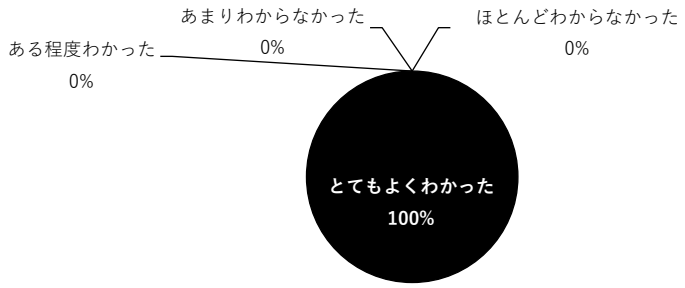


(n=2)

その他の具体的回答

「これからの時代を生きる子ども達に「武器」となる」「デザイン思考を教育に取り入れていくこと」

問４　講演の内容はどの程度理解できましたか。

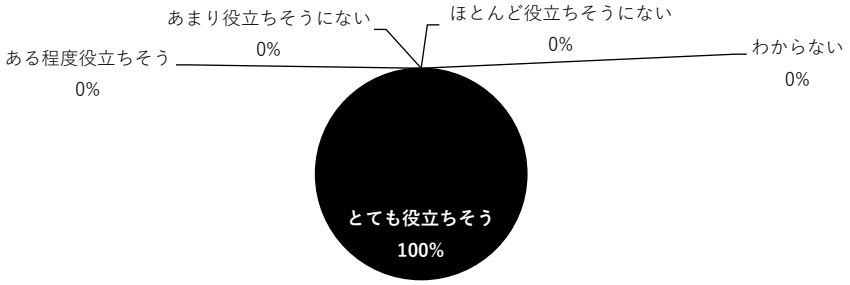


（n=2）

問５　問４の理解度に関連して、具体的にわかった点がありましたら教えてください。

本校では２年生と３年生で合計４単位を、工業デザインの教科で「デザイン実践」という教科を座学で教えています。永井先生の著書『１４歳からはじめるデザイン』の１ページ目に紹介されている「デザインとは」のお話しから、未来へ繋がるお話を、本校３年生の「デザイン実践」の授業時間にオンラインで視聴させていただいたところです。
デザインとアートの違いを改めて知ることができ、アートは自分起点で、デザインは他者視点というところが探究と似ていると感じた。

問６　講演の内容は今後の学校での学びや将来に役に立ちそうですか。

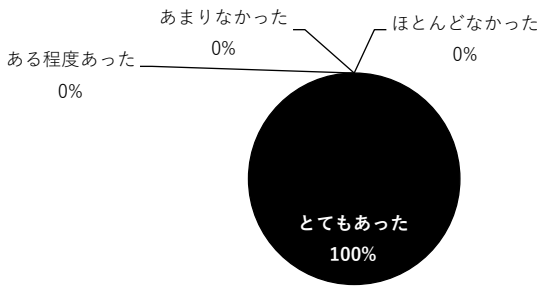


（n=2）

問７　問６のように回答された理由をお教えください。
（役立ちそうな場面／役立ちそうだと思った点／難しいと感じた点など）。

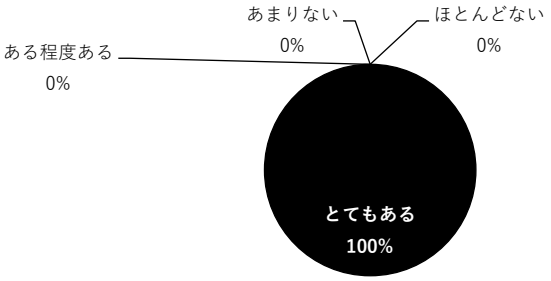
宮崎のブランディングの話。デザインは「形」だけでなく「仕組み」であることなど、教科書に記載されていることをプロのデザイナーの方がお話しくださったので、普遍性のある内容として、再認識できた。
もの・ことをそれぞれ、デザインの視点から考えさせる仕組みを作ることで、考え方の軸をもののデザインとことのデザインに落とし込むことができると感じた。

問8　もともと（講演を聞く前から）デザインに興味がありましたか。



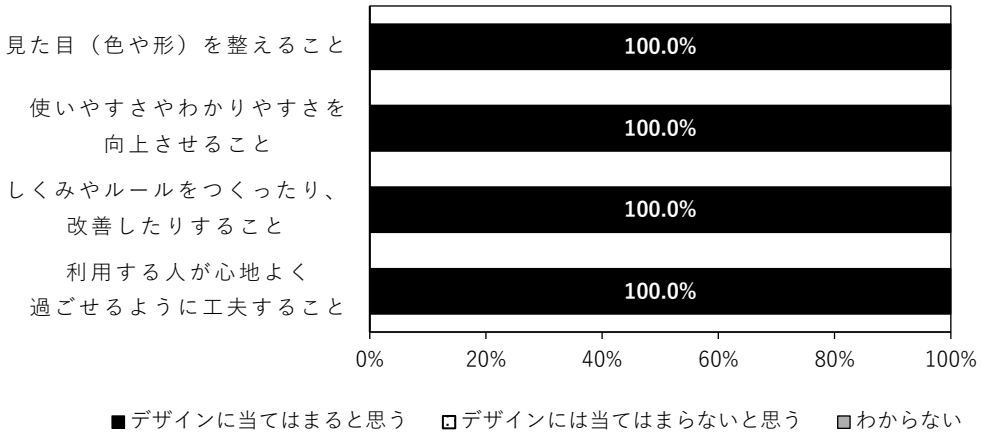
（n=2）

問9　講演を聞いた後、現在のデザインへの興味はどの程度ありますか。



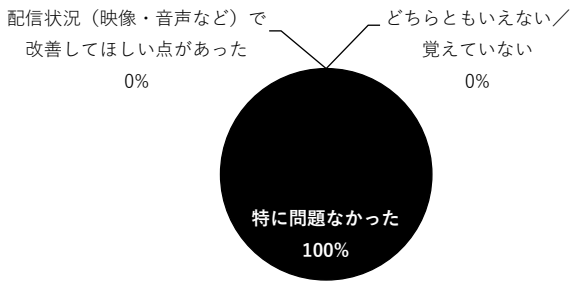
（n=2）

問10　【After】講演を聞いた後、次の内容はデザインに当てはまると思いますか。



（n=2）

問11　オンライン配信の状況について教えてください。（見やすさや聞き取りやすさなど）



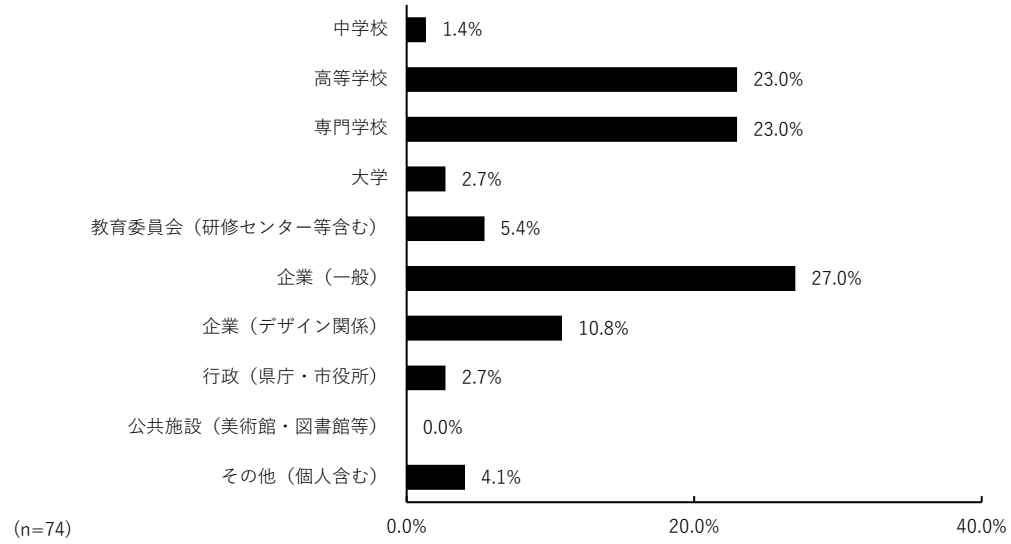
（n=2）

問12　講演を聞いての意見・感想、気づいたことなど自由に記入してください。

今回は、大変、参加者の年代層も幅広く、講演内容をしぼりこむのも大変だったのではないかと思います。 第一線でご活躍されている先生ですので、コーディネーターの植上先生やベネッセの方などから、Q&A方式でポイントを引き出す方式で進めるのも面白いかと思いましたし、若者からの質問を受けながら進めるのも面白いか（話のレベルが易しくなるので）参加者全体で共有しやすくなるかとも思いました。 宮崎にかかわるブランディングの経験なども聞きたいとも思いました。 商業やデザイン、美術など幅広く展開する話で、またいい機会があればうかがいたいです。
講演で提示したスライドがいただけるとありがたいです。

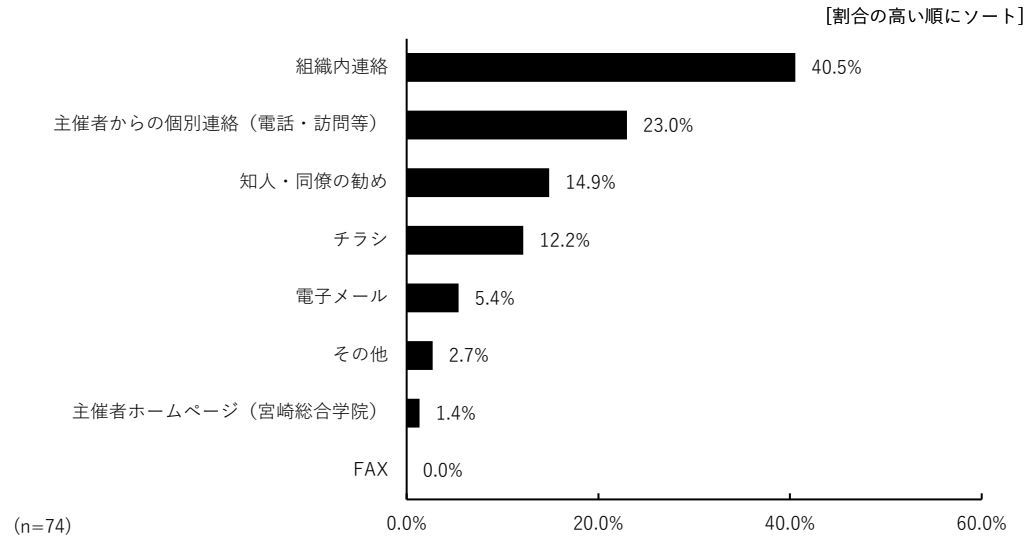
(5) 来場者アンケート結果（単純集計）

問１　所属を教えてください。



注）専門学校に関するアンケートには、アンケート案内時の不備により、対象外となる専門学校2年生の回答が一部含まれている。

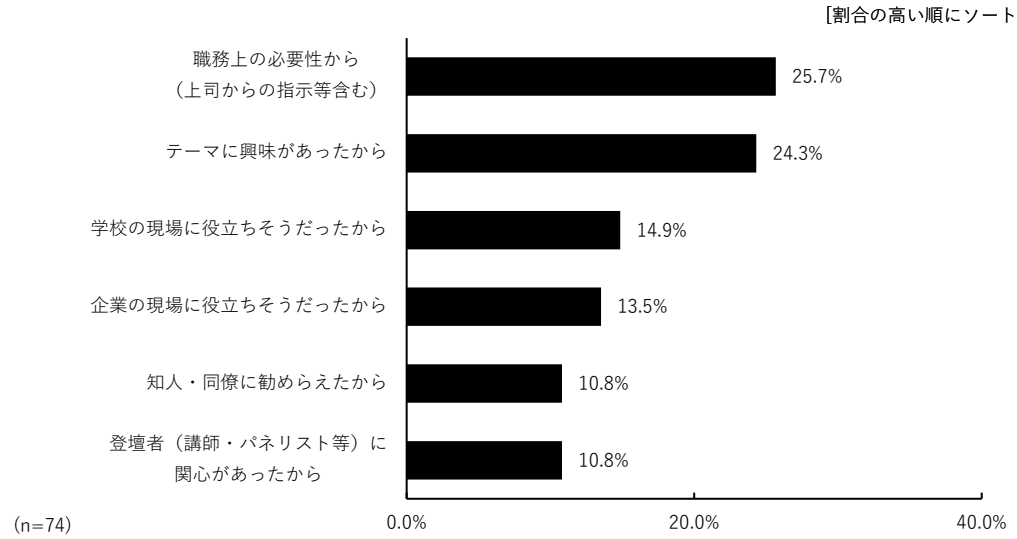
問２　セミナーのことを最初にどこでお知りになりましたか。



その他の具体的回答

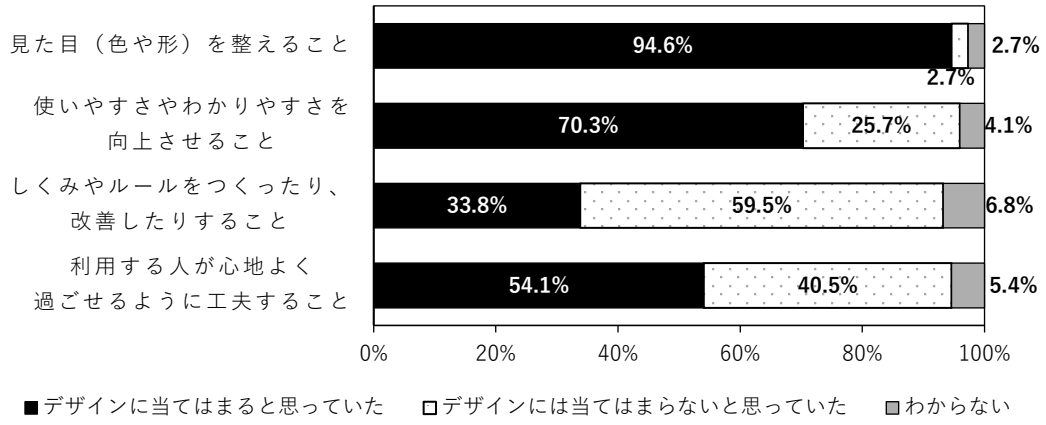
高校教育課産業教育担当からの推薦
宮崎県情報産業協会（MISA）からの紹介

問３　セミナーに参加された理由として、もっとも近いものを1つお選びください。



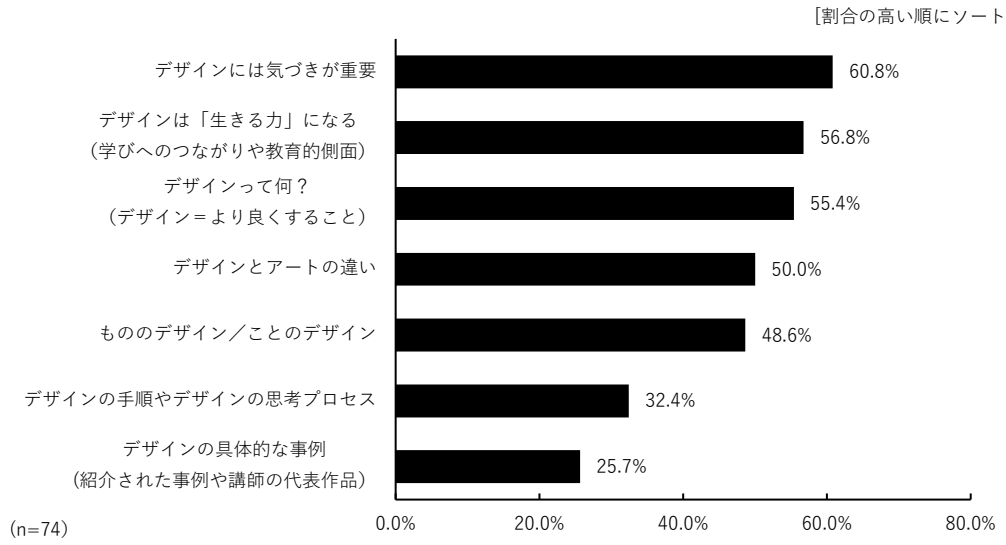
(n=74)

問４　【Before(回想)】講演を聞く前の時点で、次の内容はデザインに当てはまると思っていましたか。

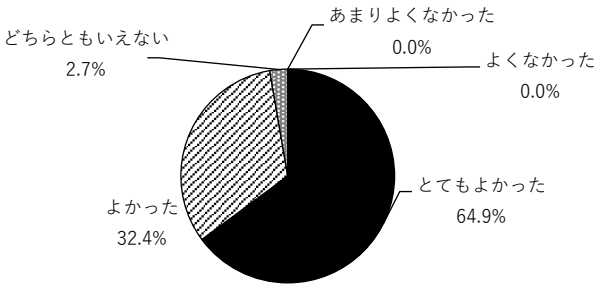


(n=74)

問５　基調講演の中で印象に残ったポイントは何ですか。【複数回答】



問６　第1部の基調講演はどうでしたか。



（n=74）

問７　問６のように回答された理由をお教えください。

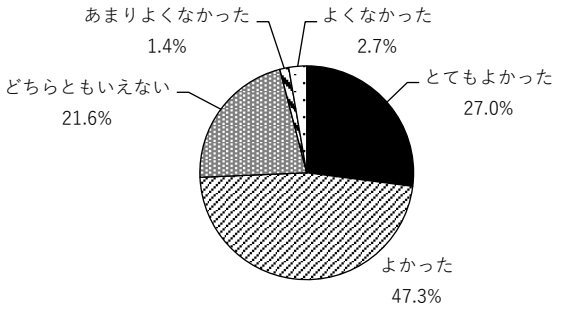
（一部抜粋）

デザインとアートの違いが明確になった。
普段の生活、仕事は常にデザインと密接に関係があることに気づけた。
具体的かつ実践例をともなう、腹落ち感満載のアカデミックな内容であった。
デザインはアートのイメージが強かったが、日頃の「発想」や「困ったこと」、「気づき」、「問題提起」がデザインとして実生活に繋がっていることがわかり、デザインとの距離が近くなったように感じた。 あらためてデザインについて考えるきっかけとなった。
永井先生の本も読みました。内容が探究の考え方に近く非常に勉強になりました。 これからの教育に必要な力だと感じました。
知らないことを知ることができました。
デザインは才能がある限られた人たちに纏わることで、自分とは遠いものだと思っていました。今回の講演を聞いてからは、努力や訓練によって鍛えられること、普段から実はデザインを行っていることがわかり、身近に感じることができました。弊社ではアプリの提案や、様々なツールの提案を行うので、使いやすさや改善をより意識して工夫を行いたいと思います。
デザインとアートの違いが明確になった。 また、普段の生活、仕事は常にデザインと密接に関係があることに気づけた。

具体的かつ実践例をともなう、腹落ち感満載のアカデミックな内容でした。
デザインはアートのイメージが強かったが、日頃の「発想」や「困ったこと」、「気づき」、「問題提起」がデザインとして実生活に繋がっていることがわかり、デザインとの距離が近くなったように感じた。
あらためてデザインについて考えるきっかけとなった。
永井先生の本も読みました。内容が探究の考え方に近く非常に勉強になりました。
これからの教育に必要な力だと感じた。
知らないことを知ることができたから。
デザインは才能がある限られた人たちに纏わることで、自分とは遠いものだと思っていました。今回の講演を聞いてからは、努力や訓練によって鍛えられること、普段から実はデザインを行っていることがわかり、身近に感じることができました。弊社ではアプリの提案や、様々なツールの提案を行うので、使いやすさや改善をより意識して工夫を行いたいと思います。
現役で活躍されているデザイナーの方のお話は、なかなか聞くことができないので、興味深かった。
講師が宮崎にもゆかりのあるフェニックスリゾートのロゴも手掛けられた有名なデザインの方であった点。デザインの広義な意味を理解できた点。
これまで考えたことのない視点からデザインを考えることができた。
興味を持って聞くことができた。
デザインとアートの違いなど、知らなかったことが知れたため。
デザインについての新たな視点を学び、今後の教育に生かせると思った。
本校では、２年生、３年生合計４単位、工業デザインの教科で「デザイン実践」という教科を座学で教えています。１ページ目から出てくる「デザインとは」のお話しから、未来へ繋がるお話しでした。当日、本校３年生は、その「デザイン実践」の授業時間にオンラインで視聴させていただいたところです。 宮崎のブランディングの話。デザインは「形」だけでなく「仕組み」であることなど、教科書に記載されていることをプロのデザイナーの方がお話しくださったので、普遍性のある内容として、再認識できた。 日本を代表するデザイナー永井氏のお話しを聞く機会を得られて大変有意義であったし、今回のお話しではまだまだそのご経験の一部のお話し（著書に関わる部分）であったので、話を引き出す相手によっては、もっと面白いお話しがうかがえただろうと期待がもてました。クリエイティブな方であることが話の端々に感じられ、素晴らしい方が日本にはいるのだと改めて実感いたしました。
デザインがまさに生きる力になることを、深く理解することができた。とても興味深い講演であった。
もう少し長めに時間を取って、更に詳しくお話を聞きたかったです。
デザインについて、新たな気づきを与えてくれたため。
話がわかりやすく聞きやすかった。
永井氏のお名前は知っていたため、是非とも講演を聞きたいと思っていました。 「人生をデザインする」などの言葉は聞いたことがありましたが、永井氏のお話を聞き、どういう意味かがよく理解できました。
語り口調や作成されたパワーポイントも参考になった。
デザインとは、「計画にもとづいてつくるもの、現状をより良くする計画的な行動や考え方」というご説明自体がとても本質的で万事に通じると実感しました。 もともと持っている自分の考えとお話の内容とを確かめながら聞くことができました。
先生はデザインとは哲学的に人間の生き方に置き換えているのだと感じました。
広くデザインは、計画や手順も含まれることは認知していたが、アートのイメージが強かった。しかし、アートとデザインの違いを知ることで、考え方の切り替えがしやすくなった。
デザイン自体、感性や能力を持った人しかできないものと思っていたので概念が変わりました。特にデザインとアートの違いなど自分の子供に聞いてほしい内容でした。
「デザイン」という言葉の意味やその重要性を改めて見つめ直す良い機会となった。また、今回のテーマを通してこれまであまり意識してこなかった「教育」という分野の現状や課題に触れ、とても新鮮に感じた。
デザインは特別なものではなく、身の回りにあふれていて、誰でもできるということを教えられた。
今までに認識していたデザインの概念が変わった。 業務をこなす中でも生かせるような内容でとても興味深く、仕事にとても役立つと感じた。
日々を過ごす中で今まで意識していなかった気づきを大事にすべきと感じたから。

基調講演を聞いたことで自身の持つデザインの概念がかなり更新されました。 色や形を考えることこそがデザインだと思っていたため、今後は気づきを大切にしながら仕組みやルールを作る側としての意識をしっかり持とうと感じました。
デザインの本来の意味を理解することができた。
デザインの概念が大きく変わった。
デザインを学ぶ上で勉強になる点があった。
物事を考える上で気づきの大切さを再認識できました。
授業でデザインを取り上げることが多く、生徒たちもデザインは世の中をよりよくするもの、と捉えているから。
デザインという印象が自分の中でかなり変わった。
総合的な探究の時間の生徒指導が課題となっているのですが、 「並べる」「比べる」「気づく」だけで、生徒への指示がシンプルにフレーム化できるのではないかと思いました。気づいた課題について、課題解決をしていく。 全科目で使える素晴らしい内容でした。
デザインについて、さらに学びたいと思いました。
デザインという言葉の意味をしっかりと理解することができた。理解してから第２部の話を聞くことができたのでとても良かったと思う。
デザインという境界のあいまいな領域を明確に定めていたから。
気づきと問いが人生の深みを増すと感じました。
「デザイン」の概念が上書きされたから。
聞き応えがあった
デザインの定義を改めて確認することができた。また、デザインするという行為が学習や日常生活にリンクすることを実感しました。
感性が広がった気がします。

問８　第２部のパネルディスカッションの内容はどうでしたか。



(n=74)

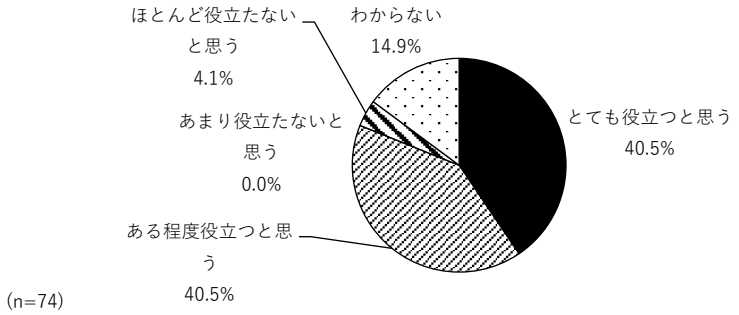
問９　問８のように回答された理由をお教えください。

（一部抜粋）

様々な意見が聞けました。
異業種の方々のデザイン、教育に関する意見を聞けた。
デザインを共通テーマに、代表者それぞれが感じていらっしゃる「日頃の気づき」がとても参考になった。気づきや違和感を大切にしたいと思った。
それぞれの立場の意見を聞くことができて参考になりました。
色々な職種の方の考えを聞くことができた。
途中からよくわからない状況になった。
教育的な効果や社会でも生きることを知ることができたから。
どんな業界でもデザインは関係するのだと感じました。
司会進行が非常にうまく、パネルディスカッションが円滑になされていた。
各パネリストの意見を興味を持って聞けた。
いろいろな分野からのデザインについて聞くことができ、良かった。
多様な視点から経験に基づいた意見があり、第１部の基調講演からより理解が深まった。
日本を代表するデザイナー永井氏のお話しを聞く機会を得られて大変有意義であったし、今回のお話しではまだまだそのご経験の一部のお話し（著書に関わる部分）であったので、話しを引き出す相手によっては、もっと面白いお話しがうかがえただろうと期待がもてました。クリエイティブな方であることが話の端々に感じられ、素晴らしい方が日本にはいるのだと改めて実感いたしました。 また、パネリストの方々も実に多彩で、それぞれのご活躍の分野が興味深く聴きごたえがありました。
パネラー皆さんの取組が魅力的であった。
内容は良かったですが、時間的にもう少し短くても良かったかもしれません。
様々な視点からの意見を聞くことができた。
教育にデザイン思考が取り入れられそうと感じることができた。
お互いのお話の、どこが気になり、どこをどのようにふくらませたり焦点化させたりするのか、そのプロセスを見ることができたため。
もう少し、自分たちとの交流が欲しかった。
企業の取り組みや考え方を聞けたので良かった。
昨今の探究学習について個人的に疑問を持っていましたが、デザインという視点で考えるとまた違った見方ができました。ディスカッションでも教育について様々な意見があり大変興味深く感じました。
植上教授のファシリテーション力、特に登壇者の発言を瞬時に整理して要約するスキルには本当に驚かされた。まさにAI並みの処理速度だった。また佐藤先生の問題提起も視点が鋭く、とても学びの多い内容だった。
様々な企業の、さまざまな視点から繰り出される回答が、自分にはない考えでとてもおもしろかった。
パネリストの皆様の、他業種の様々な意見が聞けたことが参考になりました。
IT企業の代表の方が生成AI利用に関しても話をしてくれた
パネリスト間の意見交換があるとさらに良かった。
それぞれの視点の意見が聞けて良かった。
私自身教育的な立場でのデザインについては全く知識がなく、新しい視点でデザインについて考える良い機会となった。
それぞれの立場でそれぞれの人が何らかのデザインを行っていることが理解できた。
地元の企業の方々の活躍を頼もしく思いました。
学校と企業と両方の立場からの意見を聞けて良かった。
様々な分野で活躍している方々の意見を聞くことができ、自分の考えを深めることができたから。
話す時間にばらつきがあり、もったいないと思った。

今後、是非デザイン思考を探究の時間に取り入れていきたいと思いました。
各々の専門分野からの角度での質問や回答を聞くことができたので、良い経験になった。
デザインの具体的な改善事例があるとよかった。
それぞれの分野の方達の視点での話しが聞けて、とてもためになりました。
第１部で聞いた内容の理解が更に深まったから。
話が難しかった。

問10　今回のセミナー（基調講演及びパネルディスカッション）の内容は学校現場での教育に役立つと思いますか。



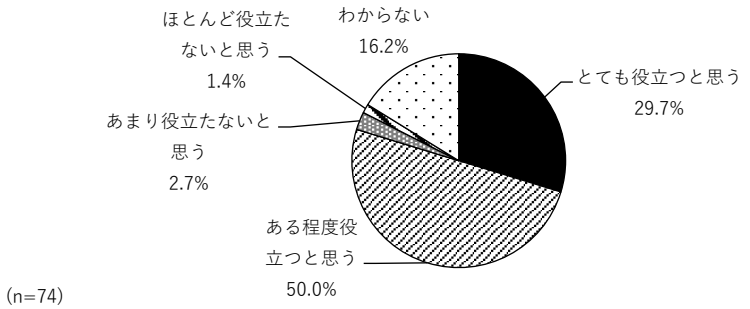
問11　問10のように回答された理由をお教えください。
（役立ちそうな場面／役立ちそうだと思った点／難しいと感じた点など）

（一部抜粋）

自身の所属・業務の範囲では判断がつかないです。
直接、間接的に関わりのある部署への共有中です。
専門家として関わる方が、デザインについての知識を持つことは、人材育成の一つとして「良質な生きる力」の成長を促すことに繋がるのではと感じた。
教員以外の方からの情報（講話を含む）は、教科指導や学校運営において必ず役に立つと思っています。
生徒においてこれから必要な考え方であると感じた。
総合的な探究の時間に必要だと感じた。
読書感想文の話のところで、教師の主観が子どもの価値観（良い悪い）を変えてしまうと感じました。 どんな作品にもいいところがあると思うので、個性や積極性を壊さずに、認めながら学習させるという意識が教師には必要なのだと感じました。
デザインについての認識の変化。
ユーザーの視点を考えてモノづくりを行うこと。
教育に役立つと思うが、生徒の立場に立った際に抽象的でわかりにくい部分があるようにも感じた。
今回は、大変、参加者の年代層も幅広く、講演内容を絞りこむのも大変だったのではないかと思います。 第一線でご活躍されている先生ですので、コーディネーターの植上先生やベネッセの方などから、Q&A方式でポイントを引き出す方式で進めるのも面白いかと思いました。
生きる力を育むうえで、とても大切な考え方であるので、先生方と共有していきたい。 学校で、図書の購入を進めたい。
デザインの仕事の汎用性を学べた。
生徒会活動や学級活動、特別活動で「よりよくする」という視点で考えさせると、生徒からアイデアが出てくるように考えたから。

教育を内容でとらえている点が惜しいなと思います。
たくさんある考え方の一つとして役立つと思います。
実際に仕事は現場に出ないとわからないと思う。
探究の時間を組み立てる(計画する)とき。
デザインの概念が変わることで、将来についての可能性や職業選択の幅が広がると思います。
教育に携わる立場ではないが「デザイン」の必要性は強く感じた。 中村校長の言う「ものごとを完遂する力」とは、まさに「最初から最後まで責任を持って何かを形にする」デザインの営みそのものだと思う。
デザインに関して、仕組みやルールを作り問題を解決することという話があったが、実際の現場では大切な考えだと思った。
企業に就職する生徒・学生の意識や認識が高くなり、企業にとって即戦力になると感じました。
一般的な学校教育にはデザインこそ必要だと思っている。ただ判断・評価する先生自身が凝り固まった思考だと、むしろ子ども達に悪影響ではとも思っています。
答えのない課題解決の資質能力育成に役立つと思う。
幼稚園の現場では、様々な工夫が日々必要です。職員との共有をします。
気づきについて、主体的に学ぶヒントとなると思った。
「並べる」「比べる」「気づく」だけで、全てがシンプルにフレーム化できるのではないかと思いました。 全科目で使える素晴らしい内容でした。
学習指導はじめ、進路指導、学校行事、ありとあらゆる場面でデザインの手順や思考プロセスを活かせると思いました。
自分で人のために考える力がつくことや気づきを大切にする力がつくことはとても望ましいが、各々の考えを評価する基準がどうしても教育の現場では必要になると思うので、全てを正当に評価することは難しいと思う。
もののデザイン／ことのデザイン、見えないことをデザインするという領域は、何においても重要だから。
生徒支援や教材研究で役立つと感じました。
「デザイン」のイメージが変わると思うので、広く周知されてほしい、と思いました。
学生の私たちは現場で働いている人の意見を聞けることがとても貴重なのでありがたいです。 ありがとうございました。
難しかった。

問12　今回のセミナー（基調講演及びパネルディスカッション）の内容は企業の人材研修などに役立つと思いますか。



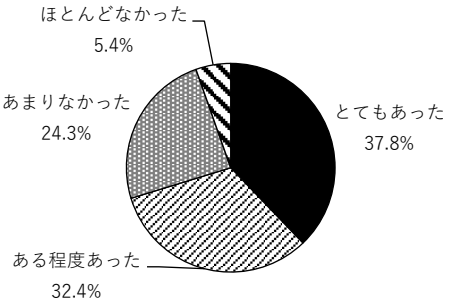
(n=74)

問13　問12のように回答された理由をお教えください。
（役立ちそうな場面／役立ちそうだと思った点／難しいと感じた点など）

（一部抜粋）

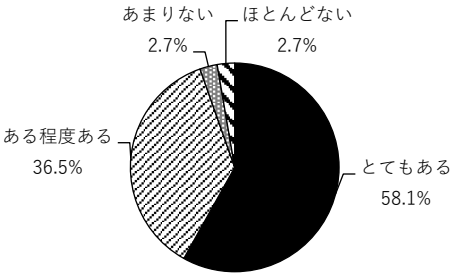
どのような企業の業務でも「気づき」は非常に重要なことであると感じたから。
最近のデザイン系の新設学部について、社会実装の点からも求められているジャンルであるため。
「発想」や「気づき」「違和感」は「幸せ」をつくる「新しい価値」と捉え、「デザインは人から出発」という人を育てる視点を大切にしたい。
コミュニケーション能力や人材育成に役立つ。
デザインとはその側面も持っているから。
ひとつのものの見方や考え方、多様な意見を耳にすることは、業種問わず、業務の展開に役立つと思いました。
デザインについての認識の変化。
いろいろなものの改善など、企業に向けても良いかと思いました。
業界団体がこのような事業をもつ予算をもっていること自体、未来が明るい。 関係団体と実践的な流れを組めるなら尚よい。 本校学科生徒と関係美大の出前授業の在り方や連携など、模索してみたいと感じた。
基礎的な内容だったこともあり、人材研修には向いていると思う。
たくさんある考え方の一つとして役立つと思います。
その人にあった指導をすれば良いと思う。
経営者の方の取組みや考え方などのお話が大変参考になりました。 学び直しによるキャリアアップや個人の意識改革につながる内容と感じました。
デザインが特定の分野だけに当てはまるものではなく、何事にも適用できることを学ぶことができました。
人材研修を受講することにより顧客に対しての提案力（デザイン）であったり、企業内部の組織力も強化されると感じました。
聞いただけでは実践できないから。
ありたい姿を想定してPDCAを回していくことが、自分自身をデザインすることと共通していると感じた。
デザインをする力は日々業務に携わる中でも発揮できる力だと感じた。
気づきを大切にしたいと改めて感じた。
デザインは客観性を育て、実益を産むものだから。
企業脳になってしまって、気づけない脳になっている、という話が目から鱗でした。
見過ごしてきた気づきを、大切にすることから始めようと思えたので、考え方自体を模索するきっかけになった。あまりない機会を頂けたので、よい経験になった。
具体的な改善事例や成功事例、失敗事例があるとさらに良かった。
どの現場でもとても役に立つ大切なことだと感じました。
業種によると思います。

問14　もともと（基調講演を聞く前から）デザインに興味がありましたか。



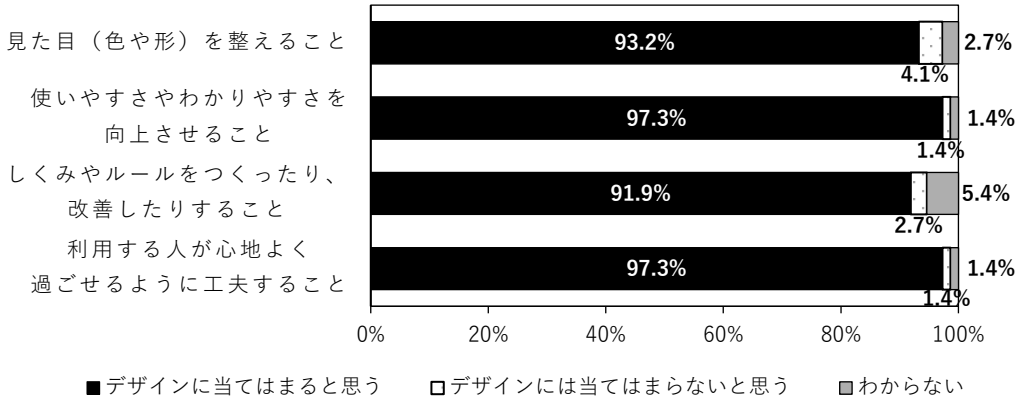
（n=74）

問15　基調講演を聞いた後、現在のデザインへの興味はどの程度ありますか。



（n=74）

問16　【After】基調講演を聞いた後、次の内容はデザインに当てはまると思われますか。



（n=74）

問17　セミナー（基調講演・パネルディスカッション）を通してのご意見・ご感想、お気づきの点などご自由にご記入ください。

（一部抜粋）

県外で宮崎に貢献している方を呼んでいただくのは、本当に良かったと思います。
「デザイン」の見方が変わるきっかけとなった。人生をデザインすることの「楽しさ」、「生きる力」などたくさんのヒントをいただいたような気がしている。紹介された書籍を読んで理解を深めたい。
改めてデザインについて考えるきっかけとなり、日ごろの業務に役立てたいと思いました。 ありがとうございました。
勉強になりました。ありがとうございました。
本を読んで講演に参加したこともあり、考え方や感じ方に深みがありました。 生徒たちにも聞かせたい内容である。
これまでにない素晴らしいセミナーであった。書籍も購入し、今後研究を深めていきたい。 ありがとうございました。
机がなくて、メモも取りにくく、近くで人が密集していて窮屈感があり、話しに集中できなかった。
貴重な講演を聞かせていただきありがとうございました。 今後に活かせることを活かしていきたいと思います。
様々な業界の方がパネルディスカッションに参加されており、女性視点もあって興味深かったです。 自分はデザインは苦手だと先入観を持たずに、挑戦できるような社会になっていくとよいと思いました。
基調講演はクリエイター系だけでなく、すべての人々に役に立つ講演だと思う。
デザインとは・・・今まであまり考えたことがなかったため、学校や企業、いろいろな場面で気づきが大切ということを考えさせられました。
今回は、大変、参加者の年代層も幅広く、講演内容をしぼりこむのも大変だったのではないかと思います。 第一線でご活躍されている先生ですので、コーディネーターの植上先生やベネッセの方などから、Q&A方式でポイントを引き出す方式で進めるのも面白いかと思いました。 また、若者からの質問を受けながら進めるのも面白いか（話のレベルが易しくなるので）参加者全体で共有しやすくなるかとも思いました。 宮崎にかかわるブランディングの経験なども聞きたいとも思いました。 商業やデザイン、美術など幅広く展開する話で、またいい機会があればうかがいたいです。
デザイン思考の講演を、本校の職員研修や生徒対象の講演会でもお願いしたいと思うものでした。
未来をつくる子どもたちの可能性を広げる、武器になる考え方や視点でした。 私は働きながら別枠でアート活動も続けていますが、芸事（アート）もデザインも「気づき」がとても重要だと思っています。観ることは目が肥えることにもつながると思います。自他問わず何かに「気づく」感覚を磨き、とにかくやってみるというお考えにとても共感しました。ありがとうございました。
自分の仕事に役に立つと思います。
デザインを身近に感じることができた貴重な講演でした。デザインが誰かや社会のためにあること、デザイン＝生きる力というのはどの世代の人間にも共通するものだと認識を新たにすることができました。 デザイン教育を早期から取り入れることがよりよい社会づくりにつながると思ったのでぜひ実現させてほしいです。
次回が最後とのことなので、これまでの集大成となるような特別な企画があると良いと思いました。どのような内容になるのか、今からとても楽しみにしています。
今回のセミナーなど積極的に参加したいと思います。
セミナー参加後、デザインについてもっと深掘りが必要だと感じました。忘れないうちに社内会議で話し合いたいと思います。
今まさしくいろんな意味でデザインしているところですが、やっていることが＝デザインだったのだなと気づきました、同時にこの考えが教育現場ではまだまだ浸透していないことにもびっくりでした。
「教育にデザインを」という考え方に対し、基本理念を統一しすぎることで、考え方や表現が画一化し、デザインではなくアートに近づいてしまうのではないかという懸念を感じました。
セミナー開催に関わったすべての方に感謝したい。
それぞれのパネリストがしっかりと意見をもち、有意義なディスカッションでした。
とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

とても有意義なセミナーでした。 企画運営、ご指導方本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。
大変勉強になりました。
「不便益」という言葉を初めて聞いたが、自分では思いもしない視点だったので、考え方の幅が広がった。 大人になって固まっていた考え方を解すきっかけになるセミナーだった。
撮影をしたものがあれば、全職員に見て欲しい内容であったため、アーカイブにしてほしいと思いました。 私自身も、もう一度聞き直したいと思う講演でしたので、また是非機会があれば聞きに行きたいと思います。貴重な講演をありがとうございました。
とても勉強になりました。
基調講演は大変興味深く拝聴させていただきました。

第 10　KPI（成果指標）について

1　KPI について

次ページ以降の KPI（成果指標）について、本年度の実績は基本的に令和 7 年 11 月末時点までの数値を記入した（一部、年度内の見込みで記入）。

次ページの KPI 一覧表のうち、以下の指標は昨年度と比べて、低下している例である。

・指標①　第 1 希望の会社から内定をもらった学生数（割合）
・指標⑮⑯　専門学校生アンケートにおけるクリエイティブ系ソフトを「ある程度使える」の割合
・指標⑱　専門学校からシステム系分野へ就職した割合

現在、システム系分野の生徒・学生とクリエイティブ系分野の生徒・学生を区別せず、まとめて集計した結果を KPI として採用しているため、システム系・クリエイティブ系の分野ごとの生徒・学生の割合の変化などの影響もあると考えられる。

プログラミングに対する意識やクリエイティブ系ソフトの習熟度など指標によっては、生徒・学生がシステム系、クリエイティブ系のどちらに所属しているかの違いによって、数値が変動する可能性もあるため、分野ごとの違いについて精査検討したい。

KPI 一覧表

KGI 案（Key Goal Indicator）（重要目標到達指標）

	ゴールの姿	指標		令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(実績)
専門学校	企業が求める人材の輩出	第1希望の会社から内定をもらった学生数（割合）	①	52%	60%	26%

KPI 案（Key Performance Indicator）（重要業績評価指標）

	評価の視点	指標		令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(実績)
共通	高等学校、企業、行政、専門学校のコンソーシアムによる連携の効果	高校における企業又は専門学校による出前授業回数(年間4校平均)	②	3回	8回	3.75回
		専門学校における企業による出前授業回数	③	27回	24回	18回
		高校における企業体験の回数(年間4校平均)	④	0.25回	0回	1回
		高校における専門学校体験の回数(年間4校平均)	⑤	0回	0回	0.25回
高等学校	授業の理解度の向上	主要資格の受験者数・合格者数(合格率)				
		・ITパスポート(3年生4校計)	⑥	受験7人・合格1人・合格率14.3%	受験9人・合格5人・合格率55.6%	受験5人・合格4人・合格率80%
		高校生アンケートにおけるプログラミングが「難しくて楽しくない」の割合(3年生)	⑦	13.1%	16.8%	22.1%
	進路の明確化	高校生アンケートにおける将来、IT関係またはクリエイティブ関係の職業に就職したい生徒の割合(3年生)				
		IT関係の職業(プログラマ、SE等)	⑧	14.4%	13.0%	16.0%
		クリエイティブ関係の職業(Webデザイナー等)	⑨	5.0%	8.7%	6.7%
	関連分野への進路実績	高校からシステム系分野へ進学・就職した割合(4校)	⑩	12.2%（令和4年度）	11.4%（令和5年度）	8.7%（令和6年度）
		高校からクリエイティブ系分野へ進学・就職した割合(4校)	⑪	4.1%（令和4年度）	4.0%（令和5年度）	6.8%（令和6年度）
専門学校	授業の理解度の向上	主要資格の受験者数・合格者数(合格率)				
		・基本情報技術者(1年生)	⑫	受験22人・合格6人・合格率27.3%	受験36人・合格6人・合格率16.7%	受験4人・合格4人・合格率100%
		・G検定(日本ディープラーニング協会)	⑬	受験41人・合格4人・合格率9.8%	受験25人・合格4人・合格率8.0%	受験0
		専門学校生アンケートにおけるプログラミングが「難しくて楽しくない」の割合(2年生)	⑭	22.4%	35.3%	21.3%
		専門学校生アンケートにおけるクリエイティブ系ソフトを「ある程度使える」の割合(2年生)				
		・動画編集ソフト	⑮	22.4%	26.5%	10.6%
		・グラフィックデザインソフト	⑯	27.6%	58.8%	25.5%
		クリエイティブ系の学生1人当たり作品制作数（在校中）	⑰	5作品	6作品	6作品
	関連分野への進路実績	専門学校からシステム系分野へ就職した割合	⑱	50.0%	52.5%	33.3%
		専門学校からクリエイティブ系分野へ就職した割合	⑲	12.5%	6.8%	16.7%
	退学者数の減	退学者数(ミスマッチ等を理由とするもの)	⑳	2人	1人	1人
企業	企業からの評価の向上	システム系・クリエイティブ系企業から専門学校(本校)への県内求人数	㉑	13人（R4年度卒）	15人（R5年度卒）	19人（R6年度卒）
		専門学校(本校)からのインターンシップの受け入れ企業数	㉒	4社	7社	5社

※前年度＝令和 6 年度、今年度＝令和 7 年度、最終年度＝令和 8 年度

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
専門学校(本校)における第 1 希望の会社から内定をもらった学生の割合	目標値	%	ー	60	63	65
	実績値	%	45	60	26	ー
	達成度	%	69.2	100.0	41.3	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の 2 年生 50 人程度の内定実績による

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校における企業または専門学校による出前授業回数(年間 4 校平均)	目標値	回	ー	4	4	4
	実績値	回	0.25	8	3.75	ー
	達成度	%	6.3	200.0	93.8	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
専門学校における企業による出前授業回数	目標値	回	ー	4	5	5
	実績値	回	3	24	18	ー
	達成度	%	60.0	600.0	360.0	ー

(上記 KPI の測定手法)
前年度の実績値が 24 回と多いのは 1 社による企業講座が 22 回のため
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)における実績による

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校における企業体験の回数(年間 4 校平均)	目標値	回	ー	0.5	1	1
	実績値	回	0.25	0	1	ー
	達成度	%	25.0	0.0	100.0	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による
(学校行事または授業の一環として行うもの)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校における専門学校体験の回数(年間 4 校平均)	目標値	回	ー	0.5	1	1
	実績値	回	0.5	0.0	0.25	ー
	達成度	%	50.0	0.0	25.0	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による
(学校行事または授業の一環として行うもの)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校段階における主要資格(IT パスポート)の受験者数/合格者数/合格率(3 年生 4 校計)	目標値	%	ー	45	47.5	50 程度
	実績値	人	受験 10	受験 9	受験 5	ー
		人	合格 4	合格 5	合格 4	ー
		% (合格率)	40	55.6	80	ー
	達成度	%	80.0	123.6	168.4	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校生アンケートにおけるプログラミングが「難しくて楽しくない」生徒の割合(3 年生)	目標値	%	ー	18 以下	15 以下	10 以下
	実績値	%	25.7	16.8	22.1	ー
	達成度	%	38.9	107.1	67.9	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科対象のアンケート調査による(1～3 年生 960 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校生アンケートにおける将来 IT 関係の職業に就職したい生徒の割合(3 年生)	目標値	%	ー	14	15	15
	実績値	%	16.8	13.0	16.0	ー
	達成度	%	112.0	92.9	106.7	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科対象のアンケート調査による(1～3 年生 960 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
高校生アンケートにおける将来クリエイティブ関係の職業に就職したい生徒の割合(3 年生)	目標値	%	ー	9	10	10
	実績値	%	3.9	8.7	6.7	ー
	達成度	%	39.0	96.7	67.0	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科対象のアンケート調査による(1～3 年生 960 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度 (R5 年度卒)	今年度 (R6 年度卒)	最終年度
高校からシステム系分野へ進学・就職した割合	目標値	%	ー	13	14	15
	実績値	%	9.3	11.4	8.7	ー
	達成度	%	62.0	87.7	62.1	ー

(上記 KPI の測定手法)
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による(3 年生 320 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度 （R5 年度卒）	今年度 （R6 年度卒）	最終 年度
高校からクリエイティブ系分野へ進学・就職した割合	目標値	%	ー	7	8.5	10
	実績値	%	4.1	4.0	6.8	ー
	達成度	%	41.0	57.1	80.0	ー

（上記 KPI の測定手法）
コンソーシアム参加の 4 高校(情報ソリューション科)からの実績データ提供による(3 年生 320 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
専門学校段階における主要資格（基本情報技術者）の受験者数/合格者数/合格率（1 年生） （基本情報技術者令和 6 年度 4 月～11 月までの全国合格率 41.9%）	目標値	ポイント （合格率）	ー	全国 合格率 +5	全国 合格率 +10	全国 合格率 +10
	実績値	人	受験 22	受験 36	受験 4	ー
		人	合格 6	合格 6	合格 4	ー
		% （合格率）	27.3	16.7	100.0	ー
	達成度	%	52.5	35.5	192.3	ー

（上記 KPI の測定手法）　前年度目標値 47%、今年度・最終年度目標値 52%と設定
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(1 年生 50 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
専門学校段階における主要資格（日本ディープラーニング協会のＧ検定）の受験者数/合格者数/合格率 （G 検定令和 6 年第 6 回[11 月]の全国合格率 73.39%）	目標値	ポイント （合格率）	ー	全国 合格率 +5	全国 合格率 +5	全国 合格率 +10
	実績値	人	受験 －	受験 25	受験 －	ー
		人	合格 －	合格 4	合格 －	ー
		% （合格率）	ー	8.0	ー	ー
	達成度	%	ー	10.3	ー	ー

（上記 KPI の測定手法）　前年度・今年度目標値 78%、最終年度目標値 83%と設定
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(1～2 年生 100 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
専門学校生アンケートにおけるプログラミングが「難しくて楽しくない」学生の割合（2 年生）	目標値	%	ー	15 以下	15 以下	15 以下
	実績値	%	36.0	35.3	21.3	ー
	達成度	%	41.7	42.5	70.4	ー

（上記 KPI の測定手法）
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)対象のアンケート調査による(1～2 年生 100 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
専門学校生アンケートにおけるクリエイティブ系ソフト（動画編集ソフト）を「ある程度使える」学生の割合(2 年生)	目標値	%	ー	60	80	100
	実績値	%	40.0	26.5	10.6	ー
	達成度	%	40.0	44.2	13.3	ー

（上記 KPI の測定手法）
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)対象のアンケート調査による(1～2 年生 100 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
専門学校生アンケートにおけるクリエイティブ系ソフト(グラフィックデザインソフト)を「ある程度使える」学生の割合(2 年生)	目標値	%	ー	60	80	100
	実績値	%	24.0	58.8	25.5	ー
	達成度	%	24.0	98.0	31.9	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)対象のアンケート調査による(1～2 年生 100 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
専門学校段階におけるクリエイティブ系の学生 1 人当たり作品制作数(在校中)	目標値	点	ー	6	7	7
	実績値	点	1	6	6	ー
	達成度	%	14.3	100.0	85.7	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度(R5 年度卒)	今年度(R6 年度卒)	最終年度
専門学校からシステム系分野へ就職した割合	目標値	%	ー	40	50	60
	実績値	%	47.1	52.5	33.3	ー
	達成度	%	78.5	131.3	66.6	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(2 年生 50 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度(R5 年度卒)	今年度(R6 年度卒)	最終年度
専門学校からクリエイティブ系分野へ就職した割合	目標値	%	ー	15	18	20
	実績値	%	5.9	6.8	16.7	ー
	達成度	%	29.5	45.3	92.8	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(2 年生 50 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度	今年度	最終年度
専門学校におけるミスマッチ等を理由とする退学者数	目標値	人	ー	0	0	0
	実績値	人	1	1	1	ー
	達成度	%	ー	ー	ー	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(1～2 年生 100 人程度)

KPI(成果測定指標)		単位	事業開始前	前年度(R5 年度卒)	今年度(R6 年度卒)	最終年度
システム系・クリエイティブ系企業から専門学校(本校)への県内求人数	目標値	人	ー	14	17	20
	実績値	人	9	15	19	ー
	達成度	%	45.0	107.1	111.8	ー

(上記 KPI の測定手法)
宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による(2 年生 50 人程度)

KPI（成果測定指標）		単位	事　業 開始前	前年度	今年度	最終 年度
専門学校（本校）からのインターンシップの受け入れ企業数	目標値	社	ー	5	5	5
	実績値	社	2	7	5	ー
	達成度	%	40.0	140.0	100.0	ー
（上記 KPI の測定手法） 宮崎情報ビジネス専門学校　情報システム科(2 年制)の実績による（5 日間未満の職場体験等も含む）						

令和７年度　文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
（専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証）

地域産業のデジタル化を担う中核的人材養成プログラム開発事業　報告書

【発　行】令和８年２月
【発行者】学校法人　宮崎総合学院　　宮崎情報ビジネス専門学校